平成 25 年第 3 回定例会会議録

平成２５年　第３回菊池市議会定例会会期日程表（会期２１日間）

月　　日	曜日	区　分	日　　程
８月３０日	金	本会議	開会宣告・開議・会議録署名議員の指名・会期の決定・議案上程・提案理由説明
８月３１日	土	休　　会	（市の休日）
９月　１日	日	休　　会	（市の休日）
９月　２日	月	休　　会	議案調査
９月　３日	火	休　　会	議案調査
９月　４日	水	休　　会	議案調査
９月　５日	木	休　　会	議案調査
９月　６日	金	本会議	質疑・委員会付託・一般質問
９月　７日	土	休　　会	（市の休日）
９月　８日	日	休　　会	（市の休日）
９月　９日	月	本会議	一般質問
９月１０日	火	本会議	一般質問
９月１１日	水	本会議	一般質問
９月１２日	木	委員会	常任委員会　（総務文教　第１委員会室） （福祉厚生　第２委員会室） （経済建設　第４委員会室）
９月１３日	金	委員会	常任委員会　（総務文教　第１委員会室） （福祉厚生　第２委員会室） （経済建設　第４委員会室）
９月１４日	土	休　　会	（市の休日）
９月１５日	日	休　　会	（市の休日）
９月１６日	月	休　　会	（市の休日）
９月１７日	火	休　　会	議事整理
９月１８日	水	休　　会	議事整理
９月１９日	木	本会議	委員長報告・質疑・討論・採決・閉会宣告

平成２５年　第３回菊池市議会定例会会議録（目次）

８月３０日（金曜日）　本会議　　頁

１．議事日程第１号…… 43
２．本日の会議に付した事件…… 44
３．出席議員氏名…… 46
４．欠席議員氏名…… 47
５．説明のため出席した者の職氏名…… 47
６．事務局職員出席者…… 48
７．開　会…… 49
８．開　議…… 49
９．日程第１　会議録署名議員の指名…… 49
10．日程第２　会期の決定…… 49
11．日程第３　議会改革検討特別委員会の中間報告…… 50
12．日程第４　議案第９０号から議案第１１３号まで一括上程・説明…… 52
13．日程第５　議案第１１４号から議案第１１７号まで一括上程・説明・質疑・
　　討論・採決…… 61
14．日程第６　報告第２０号上程・報告・質疑…… 63
15．日程第７　請願第３号から請願第４号まで一括上程…… 65
16．日程通告　散会…… 65

８月３１日（土曜日）　休　会
９月　１日（日曜日）　休　会
９月　２日（月曜日）　休　会
９月　３日（火曜日）　休　会
９月　４日（水曜日）　休　会
９月　５日（木曜日）　休　会

９月６日（金曜日）　本会議　　頁

１．議事日程第２号…… 69
２．本日の会議に付した事件…… 69
３．出席議員氏名…… 69
４．欠席議員氏名…… 70
５．説明のため出席した者の職氏名…… 70

６．事務局職員出席者…… 70
７．開　議…… 72
８．日程第１　質疑…… 72
９．日程第２　委員会付託…… 76
10．日程第３　議事第６号　上程・採決…… 78
11．日程第４　一般質問…… 79
（１）東　裕人君質問…… 79
「教育環境の整備について」…… 80
○教育長　倉原久義君答弁…… 80
東　裕人君質問…… 81
○教育部長　中村鉄男君答弁…… 81
東　裕人君質問…… 82
○教育部長　中村鉄男君答弁…… 82
東　裕人君質問…… 83
○教育部長　中村鉄男君答弁…… 83
東　裕人君質問…… 84
○市長　江頭　実君答弁…… 84
（２）東　裕人君質問…… 85
「庁舎整備方針について」…… 85
○市長　江頭　実君答弁…… 86
東　裕人君質問…… 86
○市長　江頭　実君答弁…… 87
東　裕人君質問…… 87
○市長　江頭　実君答弁…… 88
（３）東　裕人君質問…… 88
「「施政方針」後の取り組みについて」…… 88
○市長　江頭　実君答弁…… 88
東　裕人君質問…… 89
○健康福祉部長　宮本誠一君答弁…… 90
東　裕人君質問…… 90
○健康福祉部長　宮本誠一君答弁…… 90
東　裕人君質問…… 91
○市民環境部長　下田俊一君答弁…… 92
東　裕人君質問…… 92

○市民環境部長　下田俊一君答弁…… 93
東　裕人君質問…… 93
○市長　江頭　実君答弁…… 94
休　憩…… 94
開　議…… 94
（１）怒留湯健蓉さん質問…… 94
「ワンストップサービスの確立について」…… 94
○総務企画部長　野口祐成君答弁…… 95
怒留湯健蓉さん質問…… 96
○総務企画部長　野口祐成君答弁…… 98
怒留湯健蓉さん質問…… 99
○総務企画部長　野口祐成君答弁…… 100
怒留湯健蓉さん質問…… 100
○総務企画部長　野口祐成君答弁…… 100
怒留湯健蓉さん質問…… 100
○総務企画部長　野口祐成君答弁…… 101
怒留湯健蓉さん質問…… 102
○市長　江頭　実君答弁…… 102
（２）怒留湯健蓉さん質問…… 103
「介護ボランティア制度の導入について」…… 103
○健康福祉部長　宮本誠一君答弁…… 104
怒留湯健蓉さん質問…… 105
○健康福祉部長　宮本誠一君答弁…… 107
怒留湯健蓉さん質問…… 107
○健康福祉部長　宮本誠一君答弁…… 108
怒留湯健蓉さん質問…… 109
○市長　江頭　実君答弁…… 110
昼食休憩…… 111
開　議…… 111
（１）荒木崇之君質問…… 111
「市議会議員の税情報の開示について」…… 111
○市民環境部長　下田俊一君答弁…… 112
荒木崇之君質問…… 113
○市民環境部長　下田俊一君答弁…… 114

荒木崇之君質問…… 114
○市長　江頭　実君答弁…… 115
（２）荒木崇之君質問…… 115
「菊池市文化会館の土地賃借料について」…… 116
○教育部長　中村鉄男君答弁…… 117
○代表監査委員　宮川貞雄君答弁…… 117
荒木崇之君質問…… 118
○教育部長　中村鉄男君答弁…… 118
荒木崇之君質問…… 119
○市長　江頭　実君答弁…… 119
荒木崇之君質問…… 121
○市長　江頭　実君答弁…… 121
休　憩…… 122
開　議…… 122
（１）境　和則君質問…… 122
「菊池市総合計画と新市建設計画の整合性について」…… 123
○市長　江頭　実君答弁…… 124
境　和則君質問…… 125
○市長　江頭　実君答弁…… 127
（２）境　和則君質問…… 128
「第三セクターの指定管理者公募について」…… 129
○経済部長　平野國臣君答弁…… 130
境　和則君質問…… 131
○市長　江頭　実君答弁…… 132
休　憩…… 133
開　議…… 133
（１）泉田栄一朗君質問…… 133
「環境及び景観について」…… 133
○建設部長　松野浩一君答弁…… 134
泉田栄一朗君質問…… 134
○建設部長　松野浩一君答弁…… 135
泉田栄一朗君質問…… 135
○市長　江頭　実君答弁…… 136
（２）泉田栄一朗君質問…… 137

「保存木の調査・活用について」…… 137
○教育部長　中村鉄男君答弁…… 137
（３）泉田栄一朗君質問…… 139
「公園の長寿命化について」…… 140
○建設部長　松野浩一君答弁…… 140
泉田栄一朗君質問…… 141
○建設部長　松野浩一君答弁…… 141
（４）泉田栄一朗君質問…… 142
「医療費の支払いについて」…… 142
○健康福祉部長　宮本誠一君答弁…… 142
泉田栄一朗君質問…… 143
○健康福祉部長　宮本誠一君答弁…… 143
（５）泉田栄一朗君質問…… 143
「介護用品購入について」…… 144
○健康福祉部長　宮本誠一君答弁…… 144
泉田栄一朗君質問…… 145
○健康福祉部長　宮本誠一君答弁…… 145
（６）泉田栄一朗君質問…… 145
「健康マイレージの取り組みについて」…… 145
○健康福祉部長　宮本誠一君答弁…… 146
泉田栄一朗君質問…… 147
○市長　江頭　実君答弁…… 147
12. 日程通告　散会…… 147

９月７日（土曜日）　休　会

９月８日（日曜日）　休　会

９月９日（月曜日）　本会議　　頁

１．議事日程第３号…… 151
２．本日の会議に付した事件…… 151
３．出席議員氏名…… 151
４．欠席議員氏名…… 152
５．説明のため出席した者の職氏名…… 152
６．事務局職員出席者…… 152

７．開　議…… 153
８．日程第１　一般質問…… 153
（１）中山繁雄君質問…… 153
「これからの菊池市の行政について」…… 153
○市長　江頭　実君答弁…… 154
中山繁雄君質問…… 156
○市長　江頭　実君答弁…… 157
中山繁雄君質問…… 157
○健康福祉部長　宮本誠一君答弁…… 158
中山繁雄君質問…… 158
○健康福祉部長　宮本誠一君答弁…… 159
中山繁雄君質問…… 159
○総務企画部長　野口祐成君答弁…… 160
（２）中山繁雄君質問…… 160
「物産館について」…… 160
○経済部長　平野國臣君答弁…… 160
中山繁雄君質問…… 161
○市長　江頭　実君答弁…… 162
（３）中山繁雄君質問…… 163
「「さくらの里」構想について」…… 163
○市長　江頭　実君答弁…… 163
中山繁雄君質問…… 164
○建設部長　松野浩一君答弁…… 165
休　憩…… 165
開　議…… 165
（１）工藤圭一郎君質問…… 165
「朝日東団地について」…… 165
○建設部長　松野浩一君答弁…… 166
工藤圭一郎君質問…… 166
○建設部長　松野浩一君答弁…… 166
（２）工藤圭一郎君質問…… 166
「行政改革について」…… 166
○市長　江頭　実君答弁…… 167
工藤圭一郎君質問…… 168

○市長　江頭　実君答弁…… 169
（３）工藤圭一郎君質問…… 169
「庁舎整備について」…… 169
○市長　江頭　実君答弁…… 171
工藤圭一郎君質問…… 171
○市長　江頭　実君答弁…… 172
工藤圭一郎君質問…… 173
○市長　江頭　実君答弁…… 173
（４）工藤圭一郎君質問…… 174
「小川基金について」…… 174
○市長　江頭　実君答弁…… 174
工藤圭一郎君質問…… 175
○市長　江頭　実君答弁…… 175
工藤圭一郎君質問…… 176
○市長　江頭　実君答弁…… 176
昼食休憩…… 177
開　議…… 177
（１）坂井正次君質問…… 177
「新市建設計画について」…… 177
○総務企画部長　野口祐成君答弁…… 178
坂井正次君質問…… 178
○市長　江頭　実君答弁…… 178
坂井正次君質問…… 179
○建設部長　松野浩一君答弁…… 179
坂井正次君質問…… 180
○建設部長　松野浩一君答弁…… 180
坂井正次君質問…… 180
○市長　江頭　実君答弁…… 180
坂井正次君質問…… 181
○市長　江頭　実君答弁…… 181
坂井正次君質問…… 181
○市長　江頭　実君答弁…… 182
坂井正次君質問…… 182
○市長　江頭　実君答弁…… 182

坂井正次君質問…… 183
○市長　江頭　実君答弁…… 183
（２）坂井正次君質問…… 184
「児童など市民の安全と利便性について」…… 184
○建設部長　松野浩一君答弁…… 184
坂井正次君質問…… 184
○建設部長　松野浩一君答弁…… 185
坂井正次君質問…… 185
○建設部長　松野浩一君答弁…… 185
坂井正次君質問…… 185
○建設部長　松野浩一君答弁…… 185
坂井正次君質問…… 186
○市長　江頭　実君答弁…… 186
（３）坂井正次君質問…… 187
「庁舎等整備計画について」…… 187
○市長　江頭　実君答弁…… 188
坂井正次君質問…… 189
○市長　江頭　実君答弁…… 189
坂井正次君質問…… 190
○市長　江頭　実君答弁…… 190
（４）坂井正次君質問…… 190
「菊池市文化会館について」…… 190
○市長　江頭　実君答弁…… 190
坂井正次君質問…… 191
○市長　江頭　実君答弁…… 191
休　憩…… 191
開　議…… 191
（１）城　典臣君質問…… 192
「安心、安全政策の進捗状況について」…… 192
○市民環境部長　下田俊一君答弁…… 193
○市長　江頭　実君答弁…… 194
城　典臣君質問…… 195
○市民環境部長　下田俊一君答弁…… 195
（２）城　典臣君質問…… 195

「限界集落の現状について」…… 195
○総務企画部長　野口祐成君答弁…… 196
（３）城　典臣君質問…… 197
「空き家対策について」…… 197
○建設部長　松野浩一君答弁…… 198
城　典臣君質問…… 199
○建設部長　松野浩一君答弁…… 199
城　典臣君質問…… 200
○建設部長　松野浩一君答弁…… 200
（４）城　典臣君質問…… 200
「環境問題について」…… 200
○市民環境部長　下田俊一君答弁…… 201
城　典臣君質問…… 201
○市民環境部長　下田俊一君答弁…… 201
城　典臣君質問…… 202
○市長　江頭　実君答弁…… 202
（５）城　典臣君質問…… 203
「施政方針の進捗状況について」…… 203
○市長　江頭　実君答弁…… 204
城　典臣君質問…… 205
○市長　江頭　実君答弁…… 205
城　典臣君質問…… 205
○市長　江頭　実君答弁…… 205
休　憩…… 206
開　議…… 206
（１）森　隆博君質問…… 206
「地域活性化の取り組みについて」…… 206
○総務企画部長　野口祐成君答弁…… 207
○経済部長　平野國臣君答弁…… 208
森　隆博君質問…… 208
○市長　江頭　実君答弁…… 211
（２）森　隆博君質問…… 212
「日向川及び松尾川の改修計画について」…… 212
○建設部長　松野浩一君答弁…… 214

森　隆博君質問…… 216
○建設部長　松野浩一君答弁…… 218
森　隆博君質問…… 218
○建設部長　松野浩一君答弁…… 219
９．日程通告　散会…… 220

９月１０日（火曜日）　本会議　　頁

１．議事日程第４号…… 223
２．本日の会議に付した事件…… 223
３．出席議員氏名…… 223
４．欠席議員氏名…… 224
５．説明のため出席した者の職氏名…… 224
６．事務局職員出席者…… 224
７．開　議…… 225
工藤圭一郎君発言の申し出…… 225
総務企画部長　野口祐成君発言の申し出…… 225
８．日程第１　一般質問…… 225
（１）森　清孝君質問…… 226
「物産館の運営について」…… 226
○経済部長　平野國臣君答弁…… 226
森　清孝君質問…… 228
○市長　江頭　実君答弁…… 229
森　清孝君質問…… 231
○市長　江頭　実君答弁…… 232
（２）森　清孝君質問…… 233
「泗水歴史民俗資料館について」…… 234
○教育部長　中村鉄男君答弁…… 234
森　清孝君質問…… 236
○教育長　倉原久義君答弁…… 237
（３）森　清孝君質問…… 238
「非正規職員について」…… 238
○総務企画部長　野口祐成君答弁…… 238
○教育部長　中村鉄男君答弁…… 239
森　清孝君質問…… 240

○教育長　倉原久義君答弁…… 240
休　憩…… 241
開　議…… 241
（１）樋口正博君質問…… 241
「稼げる農業について」…… 241
○市長　江頭　実君答弁…… 241
樋口正博君質問…… 242
○市長　江頭　実君答弁…… 244
（２）樋口正博君質問…… 245
「観光戦略について」…… 245
○経済部長　平野國臣君答弁…… 245
○市長　江頭　実君答弁…… 246
（３）樋口正博君質問…… 248
「森の中のまち事業について」…… 248
○建設部長　松野浩一君答弁…… 249
（４）樋口正博君質問…… 249
「合併特例債事業について」…… 251
○市長　江頭　実君答弁…… 251
昼食休憩…… 253
開　議…… 253
（１）水上彰澄君質問…… 253
「畜産悪臭公害について」…… 253
○経済部長　平野國臣君答弁…… 254
水上彰澄君質問…… 255
○市長　江頭　実君答弁…… 255
（２）水上彰澄君質問…… 256
「公園整備について」…… 256
○建設部長　松野浩一君答弁…… 257
水上彰澄君質問…… 257
○市長　江頭　実君答弁…… 258
（３）水上彰澄君質問…… 258
「小水力発電について」…… 258
○市民環境部長　下田俊一君答弁…… 259
（４）水上彰澄君質問…… 259

「農産物のインターネット販売について」…… 259
○経済部長　平野國臣君答弁…… 260
休　憩…… 261
開　議…… 261
（１）柁原賢一君質問…… 261
「交通網対策について」…… 262
○建設部長　松野浩一君答弁…… 262
○総務企画部長　野口祐成君答弁…… 263
柁原賢一君質問…… 264
○建設部長　松野浩一君答弁…… 265
柁原賢一君質問…… 265
○建設部長　松野浩一君答弁…… 265
柁原賢一君質問…… 265
○建設部長　松野浩一君答弁…… 265
柁原賢一君質問…… 266
○建設部長　松野浩一君答弁…… 266
柁原賢一君質問…… 267
○総務企画部長　野口祐成君答弁…… 268
柁原賢一君質問…… 269
○市長　江頭　実君答弁…… 270
（２）柁原賢一君質問…… 270
「各種審議会の運営状況について」…… 271
○総務企画部長　野口祐成君答弁…… 271
柁原賢一君質問…… 272
○総務企画部長　野口祐成君答弁…… 272
柁原賢一君質問…… 272
○市長　江頭　実君答弁…… 273
柁原賢一君質問…… 274
○教育長　倉原久義君答弁…… 274
休　憩…… 275
開　議…… 275
（１）坂本昭信君質問…… 275
「ローカルバスと交通弱者について」…… 275
○総務企画部長　野口祐成君答弁…… 275

坂本昭信君質問…… 277
○総務企画部長　野口祐成君答弁…… 277
坂本昭信君質問…… 278
○総務企画部長　野口祐成君答弁…… 280
（２）坂本昭信君質問…… 280
「第三セクターの指定管理について」…… 280
○経済部長　平野國臣君答弁…… 281
坂本昭信君質問…… 282
○経済部長　平野國臣君答弁…… 282
坂本昭信君質問…… 283
○経済部長　平野國臣君答弁…… 283
坂本昭信君質問…… 283
○経済部長　平野國臣君答弁…… 285
○市長　江頭　実君答弁…… 285
11．日程通告　散会…… 285

９月１１日（水曜日）　本会議　　頁

１．議事日程第５号…… 289
２．本日の会議に付した事件…… 289
３．出席議員氏名…… 289
４．欠席議員氏名…… 290
５．説明のため出席した者の職氏名…… 290
６．事務局職員出席者…… 290
７．開　議…… 291
８．日程第１　一般質問…… 291
（１）大賀慶一君質問…… 291
「児童生徒の健全育成について」…… 291
○教育部長　中村鉄男君答弁…… 292
大賀慶一君質問…… 293
○教育部長　中村鉄男君答弁…… 295
大賀慶一君質問…… 296
○市長　江頭　実君答弁…… 297
（２）大賀慶一君質問…… 297
「環境と観光について」…… 297

○市民環境部長　下田俊一君答弁…… 299
○経済部長　平野國臣君答弁…… 300
大賀慶一君質問…… 301
○市民環境部長　下田俊一君答弁…… 303
○経済部長　平野國臣君答弁…… 304
○市長　江頭　実君答弁…… 304
休　憩…… 306
開　議…… 306
（１）木下雄二君質問…… 306
「道路整備について」…… 306
○建設部長　松野浩一君答弁…… 307
木下雄二君質問…… 307
○市長　江頭　実君答弁…… 308
（２）木下雄二君質問…… 308
「菊池市老人福祉センター跡地の対応について」…… 308
○健康福祉部長　宮本誠一君答弁…… 308
木下雄二君質問…… 309
○総務企画部長　野口祐成君答弁…… 309
木下雄二君質問…… 310
○市長　江頭　実君答弁…… 311
（３）木下雄二君質問…… 311
「ポケットパーク足湯の対応について」…… 311
○市長　江頭　実君答弁…… 312
（４）木下雄二君質問…… 312
「地場産業育成の現状について」…… 313
○総務企画部長　野口祐成君答弁…… 313
○健康福祉部長　宮本誠一君答弁…… 314
木下雄二君質問…… 314
○市長　江頭　実君答弁…… 315
○副市長　木村利昭君答弁…… 316
（５）木下雄二君質問…… 316
「小川基金の活用について」…… 317
○市長　江頭　実君答弁…… 318
（６）木下雄二君質問…… 318

「空き店舗対策について」…… 319
○経済部長　平野國臣君答弁…… 319
木下雄二君質問…… 320
○市長　江頭　実君答弁…… 320
（７）木下雄二君質問…… 321
「学校統合後のスクールバスの対応について」…… 321
○教育部長　中村鉄男君答弁…… 322
木下雄二君質問…… 322
○教育部長　中村鉄男君答弁…… 323
昼食休憩…… 323
開　議…… 323
総務企画部長　野口祐成君発言の申し出…… 323
建設部長　松野浩一君発言の申し出…… 324
（１）隈部忠宗君質問…… 325
「「市長と語る会」について」 …… 325
○総務企画部長　野口祐成君答弁…… 327
○水道局長　原和徳君答弁…… 329
○経済部長　平野國臣君答弁…… 330
○市長　江頭　実君答弁…… 330
隈部忠宗君質問…… 332
○総務企画部長　野口祐成君答弁…… 334
○水道局長　原和徳君答弁…… 335
○市長　江頭　実君答弁…… 335
（２）隈部忠宗君質問…… 336
「新市建設計画について」…… 337
○市長　江頭　実君答弁…… 337
休　憩…… 338
開　議…… 338
（１）東　英俊君質問…… 338
「社会保障制度について（介護保険制度について）」 …… 338
○市長　江頭　実君答弁…… 339
○健康福祉部長　宮本誠一君答弁…… 340
東　英俊君質問…… 342
○健康福祉部長　宮本誠一君答弁…… 344

東　英俊君質問…… 345
○健康福祉部長　宮本誠一君答弁…… 347
東　英俊君質問…… 348
○健康福祉部長　宮本誠一君答弁…… 349
９．日程第２　議案第１１８号　上程・説明・質疑・委員会付託…… 349
10．日程通告　散会…… 354

９月１２日（木曜日）　常任委員会（総務文教・福祉厚生・経済建設）
９月１３日（金曜日）　常任委員会（総務文教・福祉厚生・経済建設）
９月１４日（土曜日）　休　会
９月１５日（日曜日）　休　会
９月１６日（月曜日）　休　会
９月１７日（火曜日）　休　会
９月１８日（水曜日）　休　会

９月１９日（木曜日）　本会議　　頁

１．議事日程第６号…… 357
２．本日の会議に付した事件…… 357
３．出席議員氏名…… 358
４．欠席議員氏名…… 359
５．説明のため出席した者の職氏名…… 359
６．事務局職員出席者…… 359
７．開　議…… 360
８．日程第１　各常任委員長報告…… 360
・総務文教常任委員長報告…… 360
・福祉厚生常任委員長報告…… 362
・経済建設常任委員長報告…… 366
委員長報告に対する質疑…… 368
討　論…… 375
（１）東　裕人君討論…… 375
（２）荒木崇之君討論…… 376
（３）怒留湯健蓉さん討論…… 376
（４）森　隆博君討論…… 377
（５）東　裕人君討論…… 379

（６）怒留湯健蓉さん討論…… 380
採　決…… 381
９．日程第２　議員の派遣について…… 381
10．日程第３　委員会の閉会中の継続審査並びに調査について…… 382
休　憩…… 383
開　議…… 383
11．追加議事日程（第６号の追加１）…… 383
日程第１　議員提出議案第３号　上程・説明・質疑・討論・採決…… 383
日程第２　意見書案第３号　上程・説明・質疑・討論・採決…… 385
日程第３　意見書案第４号　上程・説明・質疑・討論・採決…… 386
日程第４　意見書案第５号　上程・説明・質疑・討論・採決…… 387
日程第５　意見書案第６号　上程・説明・質疑・討論・採決…… 389
日程第６　決議案第１号　上程・説明・質疑・討論・採決…… 390
日程第７　議案第１１９号　上程・説明・質疑・討論・採決…… 391
12．閉　会…… 393

第　１　号

８ 月 ３０ 日

平成２５年第３回菊池市議会定例会

議事日程　第１号

平成２５年８月３０日（金曜日）午前１０時開議

第１　会議録署名議員の指名
第２　会期の決定
第３　議会改革検討特別委員会の中間報告
第４　議案第　９０号　菊池市税条例の一部を改正する条例の制定について
議案第　９１号　菊池市国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について
議案第　９２号　平成２５年度菊池市一般会計補正予算（第２号）
議案第　９３号　平成２５年度菊池市介護保険事業特別会計補正予算（第２号）
議案第　９４号　平成２５年度菊池市簡易水道事業等特別会計補正予算（第２号）
議案第　９５号　平成２５年度菊池市公共下水道事業特別会計補正予算（第２号）
議案第　９６号　平成２５年度菊池市地域生活排水処理事業特別会計補正予算（第２号）
議案第　９７号　平成２５年度菊池市農業集落排水事業特別会計補正予算（第２号）
議案第　９８号　平成２５年度菊池市特別養護老人ホーム特別会計補正予算（第２号）
議案第　９９号　平成２４年度菊池市一般会計歳入歳出決算の認定について
議案第１００号　平成２４年度菊池市国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算の認定について
議案第１０１号　平成２４年度菊池市後期高齢者医療事業特別会計歳入歳出決算の認定について
議案第１０２号　平成２４年度菊池市介護保険事業特別会計歳入歳出決算の認定について
議案第１０３号　平成２４年度菊池市簡易水道事業等特別会計歳入歳出決算の認定について
議案第１０４号　平成２４年度菊池市公共下水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について
議案第１０５号　平成２４年度菊池市特定環境保全公共下水道事業特別会計歳入

歳出決算の認定について
議案第１０６号　平成２４年度菊池市地域生活排水処理事業特別会計歳入歳出決算の認定について
議案第１０７号　平成２４年度菊池市農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算の認定について
議案第１０８号　平成２４年度菊池市特別養護老人ホーム特別会計歳入歳出決算の認定について
議案第１０９号　平成２４年度菊池市水道事業会計利益の処分及び決算の認定について
議案第１１０号　辺地総合整備計画の変更について
議案第１１１号　字の区域の変更について
議案第１１２号　市道路線の廃止について
議案第１１３号　市道路線の認定について
まで一括上程・説明

第５　議案第１１４号　人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて
議案第１１５号　人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて
議案第１１６号　人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて
議案第１１７号　人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて
まで一括上程・説明・質疑・討論・採決

第６　報告第２０号　健全化判断比率及び資金不足比率の報告について
上程・報告・質疑

第７　請願第３号　国に対し「消費税増税中止を求める意見書」の提出を求める請願書
請願第４号　「年金２．５％削減法」を廃止する意見書採択に関する請願書
まで一括上程

―――――――――――――――○―――――――――――――――

本日の会議に付した事件

日程第１　会議録署名議員の指名
日程第２　会期の決定
日程第３　議会改革検討特別委員会の中間報告
日程第４　議案第　９０号　菊池市税条例の一部を改正する条例の制定について
議案第　９１号　菊池市国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について
議案第　９２号　平成２５年度菊池市一般会計補正予算（第２号）
議案第　９３号　平成２５年度菊池市介護保険事業特別会計補正予算（第２

号）

議案第　９４号　平成２５年度菊池市簡易水道事業等特別会計補正予算（第２号）

議案第　９５号　平成２５年度菊池市公共下水道事業特別会計補正予算（第２号）

議案第　９６号　平成２５年度菊池市地域生活排水処理事業特別会計補正予算（第２号）

議案第　９７号　平成２５年度菊池市農業集落排水事業特別会計補正予算（第２号）

議案第　９８号　平成２５年度菊池市特別養護老人ホーム特別会計補正予算（第２号）

議案第　９９号　平成２４年度菊池市一般会計歳入歳出決算の認定について

議案第１００号　平成２４年度菊池市国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算の認定について

議案第１０１号　平成２４年度菊池市後期高齢者医療事業特別会計歳入歳出決算の認定について

議案第１０２号　平成２４年度菊池市介護保険事業特別会計歳入歳出決算の認定について

議案第１０３号　平成２４年度菊池市簡易水道事業等特別会計歳入歳出決算の認定について

議案第１０４号　平成２４年度菊池市公共下水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について

議案第１０５号　平成２４年度菊池市特定環境保全公共下水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について

議案第１０６号　平成２４年度菊池市地域生活排水処理事業特別会計歳入歳出決算の認定について

議案第１０７号　平成２４年度菊池市農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算の認定について

議案第１０８号　平成２４年度菊池市特別養護老人ホーム特別会計歳入歳出決算の認定について

議案第１０９号　平成２４年度菊池市水道事業会計利益の処分及び決算の認定について

議案第１１０号　辺地総合整備計画の変更について

議案第１１１号　字の区域の変更について

議案第１１２号　市道路線の廃止について
議案第１１３号　市道路線の認定について
まで一括上程・説明
日程第５　議案第１１４号　人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて
議案第１１５号　人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて
議案第１１６号　人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて
議案第１１７号　人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて
まで一括上程・説明・質疑・討論・採決
日程第６　報告第２０号　健全化判断比率及び資金不足比率の報告について
上程・報告・質疑
日程第７　請願第３号　国に対し「消費税増税中止を求める意見書」の提出を求める請願書
請願第４号　「年金２．５％削減法」を廃止する意見書採択に関する請願書
まで一括上程

―――――――――――――――○―――――――――――――――

出席議員（２３名）

１番	荒　木　崇　之	君
２番	柁　原　賢　一	君
３番	工　藤　圭一郎	君
４番	城　　典　臣	君
５番	大　賀　慶　一	君
６番	岡　﨑　俊　裕	君
７番	水　上　彰　澄	君
８番	東　　英　俊	君
９番	東　　裕　人	君
１０番	泉　田　栄一朗	君
１１番	森　　清　孝	君
１２番	中　原　　繁	君
１３番	樋　口　正　博	君
１４番	中　山　繁　雄	君

１５番	怒留湯　健　蓉　さん
１６番	坂　本　昭　信　君
１７番	隈　部　忠　宗　君
１８番	葛　原　勇次郎　君
１９番	木　下　雄　二　君
２０番	坂　井　正　次　君
２１番	森　　隆　博　君
２２番	山　瀬　義　也　君
２３番	境　　和　則　君

○

欠席議員（なし）

○

説明のため出席した者

市長	江　頭　　実　君
副市長	木　村　利　昭　君
総務企画部長	野　口　祐　成　君
市民環境部長	下　田　俊　一　君
健康福祉部長	宮　本　誠　一　君
経済部長	平　野　國　臣　君
建設部長	松　野　浩　一　君
総務企画部統括審議員	西　浦　一　義　君
七城総合支所長	岩　下　利　昭　君
旭志総合支所長	水　上　菊　也　君
泗水総合支所長	松　岡　千　利　君
財政課長	小　川　秀　臣　君
総務課長兼選挙管理委員会事務局長	伊　藤　道　俊　君
市長公室長	倉　原　良　則　君
教育長	倉　原　久　義　君
教育部長	中　村　鉄　男　君
農業委員会事務局長	松　永　隆　則　君
水道局長	原　　和　徳　君
代表監査委員	宮　川　貞　雄　君
監査事務局長	宮　村　公　男　君

○

事務局職員出席者

事務局長	城　　主一君
議事課長	宮川啓子さん
総務審議員	徳永裕治君

午前１０時００分　開会

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

○議長（山瀬義也君）　全員、起立をお願いします。

（全員起立）

おはようございます。

着席をお願いします。

ただいまの出席議員は２２名です。定足数に達していますので、ただいまから平成２５年第３回菊池市議会定例会を開会します。

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

○議長（山瀬義也君）　ここで日程に先立ちまして、諸般の報告をいたします。

８月１６日には、熊本県市議会議長会として、県庁において知事への要望活動を行いました。県北地域の共通の課題であります観光ルートの開拓のために、道路の整備などの積極的な取り組み、関西を中心とする観光ＰＲ活動、食の安全基準の維持と、安定供給に取り組むこと、昨年の九州北部豪雨災害を受け、災害時に強いまちづくりをさらに推進することなどを要望してまいりました。

８月２８日、阿蘇市において熊本県北市議会連絡協議会が開催され、熊本県選挙管理委員会の講演を受けるなど、県北６市の相互の連携強化、議会運営の円滑化を図りました。

次に、監査委員から平成２５年５月から７月分までの一般会計、特別会計並びに企業会計に関する例月出納検査の報告があっておりますので、ご報告申し上げます。なお、詳細につきましては、事務局に備え付けの書類によりご承諾いただきたいと思います。

以上で、諸般の報告を終わります。

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

午前１０時０１分　開議

○議長（山瀬義也君）　これから本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

日程第１　会議録署名議員の指名

○議長（山瀬義也君）　日程第１、会議録署名議員の指名を行います。会議録署名議員は会議規則第８１条の規定により、森清孝君及び中原繁君を指名します。

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

日程第２　会期の決定

○議長（山瀬義也君）　次に、日程第２、会期の決定についてを議題とします。

お諮りします。本定例会の会期につきましては、去る８月２３日の議会運営委員会におきまして、本日から９月１９日までの２１日間とすることに結論をみておりますが、これにご異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（山瀬義也君）　異議なしと認めます。よって、会期は本日から９月１９日までの２１日間と決定しました。

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

日程第３　議会改革検討特別委員会の中間報告

○議長（山瀬義也君）　次に、日程第３、議会改革検討特別委員会の中間報告を議題とします。

議会改革検討特別委員会から、付託中の案件ついて中間報告の申し出があっております。

お諮りします。本件は、申し出のとおり、中間報告を受けることにご異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（山瀬義也君）　異議なしと認めます。よって、議会改革検討特別委員会の中間報告を受けることに決定しました。

議会改革検討特別委員会委員長、隈部忠宗君。

［登壇］

○議会改革検討特別委員長（隈部忠宗君）　おはようございます。議会の許可をいただきましたので、議会改革検討特別委員会の中間報告をいたします。

本委員会は、平成２４年第４回定例会におきまして、地方をとりまく社会情勢が厳しい中、議会としても議員定数の検討、また開かれた議会を目指すと同時に、議会の役割を果たすため、議会機能の充実、活性化を図り、議会運営なども含めまして、議会改革について総合的に検討する必要があるため、委員１１名で構成された特別委員会として、平成２４年１２月２１日に設置されました。

これまで１０回にわたり、委員会を開催してまいりました。第１回の特別委員会では、委員から提案のあった議会改革の提案項目につきまして、審査項目をした後、今後のスケジュールを検討いたしました。第２回特別委員会から第４回特別委員会では、一般質問の運用について審議をいたしました。審議で決定した内容として、活発な議論を行うため一般質問の回数制限は設けない、執行部との打ち合わせについては質問内容を詳細かつ具体的に執行部へ伝える、一般質問の通告期間は、議会運営委員会、議案配付の翌日から開会日前日までとする、反問権については、論点整理のため質問趣旨の確認についての反問権は認める、同じ質問事項の調整は

行わない、質問に対する答弁は執行部に任せることなどを決め、執行部と調整を行い、７月の月例会で報告を行いました。９月定例会から運用をすることに決定しました。

また、委員から提案のあった庁舎３階を全て議会専用にすることについて、１月２１日に議長と特別委員長と市長に申し入れを行いました。その理由といたしまして、緊急に全員協議会を開く必要などがある場合に、執行部と会議室の使用について競合することが多々あるためのものであります。その後、数回にわたり議場、委員会室等の運用について審議を行いました。

議員定数の審議は、５月２日の第５回特別委員会と、５月２０日の第６回特別委員会で集中審議を行い、各委員より意見を聞きました。定数削減について慎重な意見として、「議員が減れば議員の活動範囲が広範囲になり、住民の意見が通りにくくなる。定数を今より減らすべきではない」という意見。「議会が小さくなると首長の独断とか、独走にもなりかねない」「減らすことは市民には受けがよいが、そもそもの議論から始めるべきである。議会の経費と定数の議論を市民にわかりやすくする。削減を前提とすべきではない」という意見や、「市民の方々の意見を聞いたらどうか。議会というものを理解していない市民も多いので、最小限の削減にとめるべき」「近隣の自治体が削減したから減らすのではなくて、市民にこういった論点でこの定数になったという協議を行うべきである」という意見等が出されました。

定数削減をするべきであるという意見からは、「今後、地方交付税が減額され、ますます市の財政も厳しくなる。議員も自ら襟を正すべきであり、議員削減は避けて通れない問題である」「人口減少や高齢化が進む中で、議員が身を切ることは避けられない」「他市の議会、議員の状況を見てみると、少し多いようである」等の意見がありました。

特別委員会で出されました意見を５月３１日の議会運営委員会で報告を行いました。６月定例会中の６月７日と６月１９日の全員協議会で、特別委員会での意見を報告し、全議員より意見を聞きました。７月１日の第７回特別委員会で、全員協議会での意見を確認し、再度審議を行いました。７月１９日の第８回特別委員会で、各委員から定数案について意見を聞き、その数を基に挙手を行いました。結果は、定数２３名が１名、２２名が３名、２０名が５名でありました。この結果を受け、定数２０名を特別委員会の結論としたものであります。８月１６日の議会運営委員会と、８月２１日の議会審議会に、特別委員会の報告を行いました。本定例会中に、議員定数議案を提出する予定で進めてまいりたいと思います。

今後の特別委員会では、議会基本条例の審議や議会費の問題、政治倫理条例につ

いて、会派、常任委員会の充実等の審議を行う予定であります。議員定数の問題につきましては、市民の皆さまのご理解が得られますように、委員を初め議員各位のご理解とご協力を引き続きお願い申し上げまして、議会改革検討特別委員会の中間報告といたします。

○議長（山瀬義也君）　これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（山瀬義也君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

日程第４　議案第９０号から議案第１１３号まで一括上程・説明

○議長（山瀬義也君）　次に、日程第４、議案第９０号から議案第１１３号までの２４議案を一括議題とします。

提出者の提案理由の説明を求めます。

市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　皆さま、おはようございます。本日、平成２５年第３回菊池市議会定例会を招集いたしましたところ、議員各位におかれましては本会議にご出席をいただき、誠にありがとうございます。本定例会の会期につきましては、先ほどご決定をいただきましたように、本日から９月１９日までの２１日間の日程でご審議をお願いするものでございます。

提案理由をご説明申し上げます前に、既にご承知のこととは存じますけれども、去る８月４日に本市を会場として行われました、第３回熊本県女性消防操法大会において、本市消防団女性消防隊が初優勝を飾りましたことをご報告させていただきたいと思います。県内から各郡市を代表する１５チームが出場しまして、本大会連続優勝の強豪チームを破っての優勝でございました。酷暑の中での毎日の厳しい訓練は、大変過酷なものであったと思います。また、この優勝には多くの方々の支えもございました。ご指導いただいた北消防署の署員の方々を初め、支援いただいた消防団関係者の方々にも敬意を表したいと思います。既に１０月１７日に、神奈川県で行われる全国大会に向け、熊本県代表としての訓練が始まりました。さらなる女性消防隊の活躍を期待したいと思います。

それでは、ただいま上程されました議案の概要につきまして、ご説明を申し上げます。

議案第９０号、菊池市税条例の一部を改正する条例の制定について、議案第９１号、菊池市国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について、これにつきましては、年金所得に係る特別徴収税額等の算定方法の見直し、及び金融所得課税

の一体化等に伴う所要の規定の整備に伴い、条例の一部改正をお願いするものでございます。

次に、議案第９２号、平成２５年度菊池市一般会計補正予算（第２号）でございます。歳入の主なものといたしましては、普通交付税の確定増、及び平成２４年度の経済対策で追加された事業に対し、事業の迅速かつ円滑な実施を図るための財源措置として創設された「地域の元気臨時交付金」の充当による財源構成を行うものでございます。歳出の主なものといたしましては、民生費の地域密着型生活介護を目的とした施設整備に伴う県介護基盤緊急整備特別対策事業補助金８，０００万円、生活保護に至る前の早期の自立支援を目的とした生活困窮者自立促進支援モデル事業委託料１，０８３万円、土木費の道路改良に伴う工事請負費４，４００万円、トンネル、のり面、付属物、舗装の点検を目的とした道路ストック総点検業務委託料２，５００万円、教育費における地域交流センター整備に係る備品購入費１，３８７万３，０００円、本年６月２６日の梅雨前線豪雨による市道班蛇口穴川線の崩落に伴う災害復旧費１，２６９万円などが一般会計補正予算案の主なものでございます。

議案第９３号から議案第９８号までの各特別会計補正予算案につきましては、介護保険事業特別会計に、介護給付費及び地域支援事業の平成２４年度実績による支払い基金への返納金３４３万９，０００円の追加、公共下水道事業特別会計に、公共ます設置の増に伴う工事請負費４４０万円の追加等が主なものでございます。

また、議案第９９号から議案第１０９号までの１１議案につきましては、平成２４年度各会計歳入歳出決算の認定について、上程させていただいたものでございます。

次に議案第１１０号、辺地総合整備計画の変更については、平成２２年度に現計画の議決をいただいておりますが、その一部に変更が生じましたので、法律の規定に基づき、龍門及び原本村辺地の計画変更について、議会の議決をお願いするものでございます。議案第１１１号、字の区域の変更については、県営菊池東部２期地区中山間地域総合整備事業の実施に伴い、本市の字の区域に変更が生じましたので、地方自治法の規定に基づき、議会の議決をお願いするものでございます。

最後に議案第１１２号及び議案第１１３号、市道路線の廃止認定については、道路法の規定に基づき、議会の議決をお願いするものでございます。

以上、内容の詳細につきましては、総務企画部長が説明をいたしますので、議員各位におかれましては、慎重審議の上、ご賛同賜りますようお願い申し上げ、提案理由の説明といたします。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　総務企画部長、野口祐成君。

［登壇］

○総務企画部長（野口祐成君）　おはようございます。

それでは、議案第９０号から議案第１１３号まで、一括してご説明をさせていただきます。

議案書の１ページをお開きください。議案第９０号、菊池市税条例の一部を改正する条例の制定についてでございます。提案理由といたしましては、地方税法施行令の一部を改正する政令及び地方税法施行規則の一部を改正する省令の施行に伴い、条例の一部を改正するものでございます。内容につきましては、議案書の２ページから４ページをご覧ください。

それでは、別冊の新旧対照表の１ページから２６ページをお願いいたします。右が改正案でございます。改正点といたしましては、下線部分でございますが、公的年金に係る個人市民税の特別徴収に係る特別徴収税額、または仮特別徴収税額の取り扱い、及び金融所得課税の一本化等に係る個人市民税の課税の取り扱いが主な改正点でございます。

議案書の４ページにお戻りください。附則にありますとおり条例の施行日は、平成２８年１月１日となっております。

以上、議案第９０号の説明とさせていただきます。

次に５ページをお願いいたします。議案第９１号、菊池市国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定についてでございます。提案理由といたしましては、地方税法施行令の一部を改正する政令及び地方税法施行規則の一部を改正する省令の施行に伴い、条例の一部を改正するものでございます。内容につきましては、議案書の６ページから７ページをご覧ください。

それでは、別冊の新旧対照表の２７ページから３１ページをお願いいたします。右側が改正案でございます。改正点といたしましては、下線部分でございますが、金融所得課税の一本化等に係る国民健康保険の課税の取り扱い、及び東日本大震災に係る被災居住用財産の敷地に係る譲渡期間の延長の特例の削除が主な改正点でございます。

議案書の７ページにお戻りください。附則にありますとおり、条例の施行日は、平成２９年１月１日となっております。

以上、議案第９１号の説明とさせていただきます。

続きまして、９ページをお願いいたします。議案第９２号、平成２５年度菊池市一般会計補正予算（第２号）についてご説明申し上げます。

１０ページをお願いいたします。今回の補正は、予算の総額に３億５，５６８万

９，０００円を追加し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ２４８億３，３８１万４，０００円とするものでございます。

まず歳入につきまして、事項別明細の主なものをご説明いたします。１８、１９ページをお開きください。款の１０地方交付税は、普通交付税が確定したことにより、６億３，８０８万５，０００円を増額するもので、普通交付税総額を８１億３，８０８万５，０００円とするものでございます。

次に款の１４国庫支出金、項の２国庫補助金、目の２総務費国庫補助金５億８，３３７万３，０００円の増額は、平成２４年度の経済対策で追加された事業に対し、事業の迅速かつ円滑な実施を図るための財源措置として創設された「地域の元気臨時交付金」として、平成２５年度地方の単独事業に充当できるものであり、防災行政無線デジタル整備事業に充当し、緊急防災減災事業債の発行を減額しております。

次に２２、２３ページをお開きください。款の１８繰入金、項の３基金繰入金、目の１財政調整基金繰入金につきましては、普通交付税の増額により、財源の確保ができたため、４億９，７４７万１，０００円を減額するものでございます。

次に歳出について、事項別明細の主なものをご説明いたします。２４、２５ページをお願いいたします。款の２総務費では、項の１総務管理費、目の９地域振興費として大学の地域活動拠点、菊池ラボの整備と地域づくり人材の育成及び文化資源、農業資源の活用を目的とした、域学連携モデル事業の委託料の３００万円を計上しております。

次に２６，２７ページをお願いいたします。款の３民生費では、項の２高齢者福祉費、目の１高齢者福祉費として、地域密着型生活介護を目的とした県介護基盤緊急整備特別対策事業の施設整備に伴う補助金８，０００万円を計上しており、財源として全額県補助金を充てております。また項の４生活保護費、目の１生活保護総務費として、生活保護に至る以前の段階における早期の自立支援を目的とした生活困窮者自立促進支援モデル事業の委託料１，６７５万円を計上しており、財源として全額国庫補助金を充てているところでございます。

次に２８、２９ページをお願いいたします。款の５農林水産業費では、項の１農業費、目の３農業振興費として、水田農業の生産性向上と安定した土地利用型農業経営の確立を目的とした、土地利用型農業緊急支援事業補助金８９３万２，０００円を計上しております。

次に３０、３１ページをお願いいたします。目の８農地費として農地整備のために暗渠排水を実施する農家への助成を目的とした農業基盤促進事業定額補助１，０８３万円を計上いたしております。款の６商工費では、項の１商工費、目の２商工

業振興費として、商店街の活性化及び商業振興を目的とした空き店舗対策事業補助金と繁盛店づくり事業補助金の追加分の合計額１８５万円２，０００円を計上しております。また目の４観光費として、菊池温泉の宿泊客の増と観光振興を目的としたコンベンション等開催支援補助金の追加分として２５０万円を計上しております。

３２、３３ページをお願いいたします。款の７土木費では、項の２道路橋りょう費として、道路橋りょうの新設改良に伴う工事請負費４，４００万円、維持補修に伴う修繕料２，８３８万円８，０００円、原材料費１，７２５万円、平成２６年度以降の国庫補助事業の補助要件になることに伴い、トンネル、法面、付属物、舗装の点検を実施することを目的とした、道路ストック総点検事業委託料２，５００万円を計上いたしております。

次に３４、３５ページをお願いいたします。款の８消防費では、項の１消防費、目の２非常備消防費として、本市の女性消防隊が１０月に横浜市で開催される全国女性消防操法大会に出場することに伴う補助金３００万円を計上しております。款の９教育費では、項の５社会教育費、目の３公民館費として、地域交流センター整備に係る備品購入費１，３８７万３，０００円を計上しております。

次に３６、３７ページをお開きください。款の１０災害復旧費では、項の３公共土木施設災害復旧費として、本年６月２６日の梅雨前線豪雨による市道班蛇口穴川線の崩落に伴う災害復旧に係る工事請負費１，２６９万円を計上いたしております。

以上が歳出の主なものでございます。

ページをお戻りいただきまして、１４ページをお願いいたします。第２表、地方債補正でございます。今回の補正に伴い合併特例事業及び緊急防災減災事業を変更し、限度額の総額を２８億１，８２０万円とするものでございます。

以上、議案第９２号の説明とさせていただきます。

次に、４１ページをお願いいたします。議案第９３号、平成２５年度菊池市介護保険事業特別会計補正予算（第２号）についてご説明申し上げます。

４２ページをお願いいたします。今回の補正は予算総額に３５２万２，０００円を追加し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ５０億４，６０５万３，０００円とするものでございます。

４８、４９ページをお願いいたします。主なものといたしましては、平成２４年度の実績として、介護給付費及び地域支援事業の支払基金への返納金３４３万９，０００円でございます。

以上、議案第９３号の説明とさせていただきます。

次に、５１ページをお願いいたします。議案第９４号、平成２５年度菊池市簡易水道事業等特別会計補正予算（第２号）についてご説明申し上げます。

次ページをお願いいたします。今回の補正は、予算総額に２６６万円を追加し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ３億５，７７１万４，０００円とするものでございます。

５８、５９ページをお願いいたします。主なものといたしましては、水道施設の経年劣化に伴う修繕料２６６万円でございます。

５４ページにお戻りください。第２表地方債補正でございます。今回の補正は、辺地対策事業債から簡易水道事業債への組み換えによる補正で、限度額の変更はございません。

以上、議案第９４号の説明とさせていただきます。

次に、６１ページをお願いいたします。議案第９５号、平成２５年度菊池市公共下水道事業特別会計補正予算（第２号）についてご説明申し上げます。

次ページお願いいたします。今回の補正は、予算の総額に６５２万３，０００円を追加し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ５億５，４０４万２，０００円とするものでございます。

６８、６９ページをお願いいたします。主なものといたしまして、公共ます設置の増に伴う工事請負費４４０万円及びポンプの修繕料１９２万３，０００円でございます。

以上、議案第９５号の説明とさせていただきます。

次に、７１ページをお開きください。議案第９６号、平成２５年度菊池市地域生活排水処理事業特別会計補正予算（第２号）についてご説明申し上げます。

次のページをお願いいたします。今回の補正は、予算の総額に２１万５，０００円を追加し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ１億２，５４０万５，０００円とするものでございます。

７８、７９ページをお願いいたします。主なものといたしまして、鳳来第２排水処理施設及び穴川第１排水処理施設の修繕料２１万５，０００円でございます。

以上、議案第９６号の説明とさせていただきます。

次に、８１ページをお願いいたします。議案第９７号平成２５年度菊池市農業集落排水事業特別会計補正予算（第２号）についてご説明申し上げます。

次のページをお開きください。今回の補正は、予算の総額に１３９万１，０００円を追加し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ３億７，７１０万４，０００円とするものでございます。

８８、８９ページをお願いいたします。主なものとしましては、平成２４年度の

事業確定に伴う消費税額の確定による消費税１３９万１，０００円でございます。

以上、議案第９７号の説明とさせていただきます。

次に、９１ページをお願いいたします。議案第９８号、平成２５年度菊池市特別養護老人ホーム特別会計補正予算（第２号）についてご説明申し上げます。

次のページをお願いいたします。今回の補正は、予算総額に１９４万２，０００円を追加し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ６億８，０１８万２，０００円とするものでございます。

９８、９９ページをお願いいたします。主なものとしましては、老人ホーム東館空調設備の老朽化による修繕料１９４万２，０００円でございます。

以上、議案第９８号の説明とさせていただきます。

次に、議案第９９号から議案第１０８号までの決算の認定についてご説明いたします。議案書は別冊の薄みどり色のものでございます。内容の詳細につきましては、決算審査に付しますので、概要についてご説明申し上げます。

議案第９９号、平成２４年度菊池市一般会計歳入歳出決算の認定についてから、議案第１０８号、平成２４年度菊池市特別養護老人ホーム特別会計歳入歳出決算の認定についてまでの１０議案については、この薄みどり色の別冊となっています。平成２４年度菊池市歳入歳出決算書となります。この１０議案につきましては、地方自治法の規定に基づきまして、各会計の平成２４年度歳入歳出決算について、認定をお願いするものでございます。

また、議案第１０９号につきましては、ただ今の平成２４年度歳入歳出決算書とは別冊となっておりますが、黒い背表紙の薄い別冊となっております。この別冊の黒い背表紙の分でございますけれども、この平成２４年度菊池市水道事業会計決算の認定について、地方公営企業法の規定に基づきまして、水道事業会計利益の処分及び決算の認定をお願いするものでございます。

以上、議案の第９９号から議案第１０９号までの各会計の決算の認定に当たりましては、本市監査委員の詳細な審査を受け、審査意見書を付してお願いするものでございます。なお資料といたしましては、別冊で各会計の決算に係る主要施策の成果及び科目別の事業費一覧表となっております。決算審査付属資料を添付いたしております。

以上、決算に係る議案の説明とさせていただきます。

次に、議案書に戻っていただきまして、１０１ページをお開きいただきたいと思います。議案第１１０号、辺地総合整備計画の変更についてでございます。提案理由といたしましては、辺地総合整備計画を変更するに当たっては、辺地に係る公共的施設の総合整備のための財政上の特別措置法に関する法律第３条第８項の規定で

準用する同条第１項の規定により、議会の議決をお願いするものでございます。開けていただきまして、１０２ページから１０９ページまでが今回計画の変更をお願いしています龍門辺地及び原本村辺地の変更理由書、総合整備計画書、公共的施設の整備計画、年次計画表の詳細でございます。

以上、議案第１１０号の説明とさせていただきます。

次に、１１１ページをお願いいたします。議案第１１１号、字の区域の変更についてでございます。提案理由といたしましては。市の区域内の字の区域を変更するには、地方自治法第２６０条第１項の規定により、議会の議決をお願いするものでございます。開けていただきまして、１１２ページから１１４ページまでが字の区域の変更をお願いします、菊池東部２期地区中山間地域総合整備事業、木庭地内の変更調書と変更位置図の詳細でございます。

以上、議案第１１１号の説明とさせていただきます。

次に、１１５ページをお願いいたします。議案第１１２号、市道路線の廃止についてでございます。提案理由といたしましては、菊池テクノパーク線及び中央自転車道線の起終点の変更に伴い、当該路線を廃止するため、道路法第１０条第３項の規定により、議会の議決をお願いするものでございます。開けていただきまして、１１６ページから１１８ページが廃止路線の一覧と位置図でございます。

以上、議案第１１２号の説明とさせていただきます。

次に、１１９ページをお願いいたします。議案第１１３号、市道路線の認定についてでございます。提案理由といたしましては、花房台の道路整備及び菊池テクノパーク線並びに中央自転車道線の起終点変更により、新たな市道路線として認定するため、道路法第８条第２項の規定により、議会の議決をお願いするものでございます。開けていただきまして、１２０ページから１２３ページが今回市道路線として認定をお願いする３路線、花房台１号線、菊池テクノパーク線、中央自転車道線の一覧と位置図でございます。

以上、議案第９０号から議案第１１３号までの説明とさせていただきます。

○議長（山瀬義也君）　以上で議案の説明を終わります。

次に、代表監査委員から監査報告の申し出があっておりますので、これを許します。

代表監査委員、宮川貞雄君。

［登壇］

○代表監査委員（宮川貞雄君）　決算審査の意見を報告させていただきます。

議会選出の坂本監査委員と共に、決算審査しました内容につきましては、誤りはなく適正に作成されているとして、決算審査報告書に詳細を掲載しているとおりで

ございます。そこで本日は、審査意見のみを報告させていただきます。

本市では、豊かな水と緑、光あふれる田園文化のまちづくりの理念のもとに、平成１７年度から平成２６年度までの新市建設計画をベースとした菊池市総合計画が設定され、本年度は菊池市総合計画、後期基本計画の３年目となり、合併の果実を求めての精力的な取り組みが進められてきました。その中で合併に伴い、有利な合併特例債の活用や、増額されてきた地方交付税により、財政面で有益でしたが、平成２７年度から減額されることもあり、計画的な財政運営に取り組み、歳入歳出面での工夫と、思い切った削減努力が欠かせない状況になります。これを受けまして本市では、平成２６年度を最終年度とする第２次行政改革大綱及び実施計画に基づき事務事情の見直しや、経費削減合理化等が取り組まれ、行政の利便性向上や透明化を初めとし、養護老人ホームや公立保育園の民営化、職員定員の見直し、学校規模の適正化による小学校の統廃合の実現、新公会計制度の整備や公有財産の見直し等が進められており、今後も財政改革への取り組みより、健全な財政への推進を一段と切望いたします。

一方、合併協議会で協議された内容で、実現した事項と、まだ課題として残されている事項もあります。市内の産業組織の一例として、財政の削減要件だけでなく、組織面での充実、会員サービス向上を目的とした市商工会等の統合は実現したものの、高齢化が進む農業者に関連が深い各土地改良区の充実のための統合が進んでいない等、当初の合併協議の合意内容の点検、新市建設計画の実現の確認作業と共に、実現の取り組みが今後も不可欠であります。

予算執行面では、前年までに要望してきました、収入の調定手続きや基金積立取り崩しでの厳格な執行を重ねてお願いしつつ、社会環境の変動等による変更を除き、補正予算の編成措置や予備費の充用、科目内での予算流用等の一連の手続きは、より慎重な取り扱いを求めます。さらには、合併当初からの固定的な形態となっている委託契約や、長年にわたる随意契約の支出は、総合的な点検を強く求めます。それらの固定的な支出形態を見直し、新たな発想のもとにより市民の目線に立った行政支出が執行されていくことを要望します。

なお、豊かな自然環境に恵まれております、本市の発展のための泗水地区公園整備や、都市再生整備計画等の各種整備計画を含め、文化的で住みたくなる社会環境の整備が一段と望まれています。県営工業団地の菊池テクノパークの完成の一方で、本市の工業団地の空きスペースが多く残っているため、一層の企業誘致への総力を挙げた取り組みを求めます。

他方、租税や使用料、住宅費の徴収や収納率が改善していることは評価できます。今後も負担の公平性を担保する観点から、収納の確保と不納欠損処分に対する

適切な対応を図り、収納率の向上を求めます。

前年に引き続いての要望ではありますが、これからの自治体は、人、物、産業、教育、文化、風土、歴史等の地域力を行政がいかにして市政発展に反映できるかが鍵であり、自治体間の競争、知恵比べの時代とも言われており、情報収集・情報発信を駆使し、その情報を活用したスピード感あふれる各種施策の実施が求められています。

他方、民間にできることは民間に任せる経営感覚が行政には問われております。そのためには、市政を支えていく熱意ある多様な職員の専門集団作りが欠かせません。既に推進されております役職に応じた研修や意識の高い職員養成のための体系的な研修制度のさらなる拡充、そして地方公務員への給与削減低減化の厳しい方向の反面、やる気のある職員のためにも、細やかで適正な人事評価制度の具体的な推進と、その評価に応じて、支給額に差が出る給与システムの採用と実施も今後は避けて通れません。また、市長を頂点として、部課長の幹部の皆さま、職員各位のご努力には敬意を表しながらも、法令にかかわる厳格な任務である通常業務に加えて、職員全体が高い視点に立ち、活力の道、発展する菊池の確立に向けて、ふだんから市民・本市にとって必要な事業の各種施策の検討と政策立案等の幅広い準備が励行され、菊池市ならではの政策が充満する役所風土の醸成を一段と求めます。

その上で、事業の効率性、必要性、優先順位の的確な選択を行いながら、行政情報の公開、市民への説明責任の向上を図り、健全な行財政運営が推進され、本市のさらなる発展と、公共の福祉向上が実現されていくことを強く期待しています。

以上、決算審査意見の報告とさせていただきます。

○議長（山瀬義也君）　以上で、代表監査委員の報告を終わります。

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

日程第５　議案第１１４号から議案第１１７号まで一括上程・説明・質疑・討論・採決

○議長（山瀬義也君）　次に、日程第５、議案第１１４号から議案第１１７号までの４議案を一括議題とします。

本案件については、地方自治法第１１７条の規定にかかわる議員は、除斥する必要がありますが、関係する議員はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

関係する議員なしと認めます。

提出者の提案理由の説明を求めます。

市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　ただいま上程されました議案第１１４号から議案第１１７号の人権擁護委員候補者の推薦につき、意見を求めることについて、ご説明申し上げます。議案書の１２５ページからになります。

現在、本市の区域におきましては、１４人の委員さんが法務大臣の委嘱を受け、人権擁護活動に従事をされております。その中で七城地域の緒方宣治委員、同じく泉喜美代委員、旭志地域の松永とし子委員、泗水地域の吉井紘正委員の４名が、本年１２月３１日をもって３年間の任期を満了いたします。今回その後任の候補者の推薦につきまして、熊本地方法務局長より依頼がありました。推薦に当たっては、人権擁護委員法の規定により、人格・識見高く、広く社会の実情に通じ、人権擁護について理解のある者とされております、十分検討いたしました結果、

議案第１１４号、菊池市七城町林原１０５５番地、牧美代志さん、昭和２６年９月７日生まれ。

議案第１１５号、菊池市七城町辺田３９０番地、徳永良子さん、昭和２３年７月１３日生まれ。

議案第１１６号、菊池市旭志麓６９６番地１、上野惠里子さん、昭和２６年８月１日生まれ。

議案第１１７号、菊池市泗水町永３２０５番地１、永田源彦さん、昭和２６年１２月２０日生まれ。

以上、４名の方々を推薦いたしたく、人権擁護委員法第６条第３項の規定に基づき、議会の意見を求めるものでございます。推薦いたします４名の方々は、これまでそれぞれの職場における様々な経験の中で、人権問題に関しての理解と認識が豊富であります。今後、積極的に人権擁護活動に取り組んでいただけるものと確信し、推薦するものでございます。よろしくお願いいたします。

○議長（山瀬義也君）　提案理由の説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（山瀬義也君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

議案第１１４号から議案第１１７号までは、会議規則第３７条第３項の規定によって委員会付託を省略したいと思います。ご異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（山瀬義也君）　異議なしと認めます。よって、委員会の付託を省略することに決定しました。

委員会の付託を省略し、引き続き審議します。

これから、討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（山瀬義也君）　討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これより採決します。採決は、一議案ごとに起立により行います。

お諮りします。議案第１１４号について、原案のとおり適任とすることに賛成の方は起立を求めます。

［賛成者起立］

○議長（山瀬義也君）　起立多数です。よって、議案第１１４号は、適任とすることに決定しました。

次にお諮りします。議案第１１５号について、原案のとおり適任とすることに賛成の方は起立を求めます。

［賛成者起立］

○議長（山瀬義也君）　起立多数です。よって、議案第１１５号は、適任とすることに決定しました。

次にお諮りします。議案第１１６号について、原案のとおり適任とすることに賛成の方は起立を求めます。

［賛成者起立］

○議長（山瀬義也君）　起立多数です。よって、議案第１１６号は、適任とすることに決定しました。

次にお諮りします。議案第１１７号について、原案のとおり適任とすることに賛成の方の起立を求めます。

［賛成者起立］

○議長（山瀬義也君）　起立多数です。よって、議案第１１７号は、適任とすることに決定しました。

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

日程第６　報告第２０号　健全化判断比率及び資金不足比率の報告について

○議長（山瀬義也君）　次に、日程第６、報告第２０号を議題とします。

提出者の報告を求めます。

総務企画部長、野口祐成君。

［登壇］

○総務企画部長（野口祐成君）　議案書の１３３ページをお願いいたします。

報告第２０号、健全化判断比率及び資金不足比率の報告についてご説明いたします。地方公共団体の財政の健全化に関する法律第３条第１項及び同法第２２条第１項の規定により、平成２４年度決算に関する健全化判断比率及び資金不足比率の算定結果につきまして、監査委員の意見を付して報告するものです。

まず、実質赤字比率につきましては、平成２４年度における普通会計の実質収支額、歳入総額から歳出総額を引き、翌年の繰越額等を考慮したものが黒字でございますので、赤字比率としては、算定されず数値は表示されません。

次に、連結実質赤字比率につきましては、普通会計に特別会計、公営企業会計を加えた全会計が対象となりますが、連結した場合でも実質収支が黒字でございますので、実質赤字比率と同様数値は表示されません。

次に、実質公債費比率ですが、これは普通会計、特別会計の公債費に加え一部事務組合等が起こした地方債の償還に充てられた負担金等の標準財政規模に占める割合で、資金繰りの危険度を示す指標となります。本市の実質公債費比率は９．６％となっておりますので、早期健全化基準２５％を下回っております。

次に、将来負担比率ですが、土地開発公社、第３セクターを含めた指標となっており、将来負担すべき債務の標準財政規模に占める割合を示すもので、数値が大きくなるほど将来に見込まれる負担が大きく、財政運営を圧迫する可能性があることが示されます。本市の算定比率は２１．２％となっており、早期健全化判断基準３５０％を下回っており、適正水準を確保いたしております。

最後に、公営企業会計の資金不足比率につきましては、水道事業会計を初めとする６会計を対象とし、資金不足額を事業規模で割ったものです。各会計において資金不足が発生していないため、資金不足比率についても数値は表示されません。

以上、いずれも基準内でありますが、適正基準を確保いたしておりますが、今後社会経済の動向や施設の老朽化による維持補修費の増大、合併の特例であります交付税の優遇措置の期限切れ等を考慮した場合、大幅に悪化することも見込まれるため、今後さらなるスリム化を図り、健全な財政運営を図っていく必要があると考えられます。

以上、報告第２０号の説明とさせていただきます。

○議長（山瀬義也君）　以上で報告を終わります。

代表監査委員、宮川貞雄君。

［登壇］

○代表監査委員（宮川貞雄君）　財政健全化法に基づきます審査意見を申し述べさせていただきます。

地方公共団体の財政の健全化に関する法律第３条第１項及び第２２条第１項の規定により、審査に付されました平成２４年度菊池市一般会計及び特別会計の歳入歳出決算における財政健全化判断比率及び公営企業決算における資金不足比率とその算定の基礎となる事項を記載した書類につきまして、議会選出の坂本監査委員とともに審査しました結果、いずれも適正に作成されているものと認めます。

以上、審査意見とさせていただきます。

○議長（山瀬義也君）　以上で、報告を終わります。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（山瀬義也君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

日程第７　請願第３号及び請願第４号一括上程

○議長（山瀬義也君）　次に、日程第７、請願第３号及び請願第４号を一括議題とします。請願第３号及び請願第４号が今定例会までに提出されました請願であります。その内容については、お手元に配付しているとおりです。

以上で、本日の議事日程は全部終了しました。

お知らせします。会議を来る６日の午前１０時から開き、質疑・委員会付託及び一般質問を行います。議案に対する質疑を行う方は、事務局備え付けの様式により、その要旨を具体的に記載し、９月２日の正午まで事務局に提出をお願いします。

本日はこれにて散会します。

全員起立をお願いします。

（全員起立）

お疲れさまでした。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

散会　午前１１時０４分

第　２　号

９ 月 ６ 日

平成２５年第３回菊池市議会定例会

議事日程　第２号

平成２５年９月６日（金曜日）午前１０時開議

第１　質疑
第２　委員会付託
第３　議事第６号　決算特別委員会の設置について
第４　一般質問

―――――――――――――――○―――――――――――――――

本日の会議に付した事件

日程第１　質疑
日程第２　委員会付託
日程第３　議事第６号　決算特別委員会の設置について
日程第４　一般質問

―――――――――――――――○―――――――――――――――

出席議員（２３名）

１番	荒　木　崇　之　君
２番	柁　原　賢　一　君
３番	工　藤　圭一郎　君
４番	城　　典　臣　君
５番	大　賀　慶　一　君
６番	岡　﨑　俊　裕　君
７番	水　上　彰　澄　君
８番	東　　英　俊　君
９番	東　　裕　人　君
１０番	泉　田　栄一朗　君
１１番	森　　清　孝　君
１２番	中　原　　繁　君
１３番	樋　口　正　博　君
１４番	中　山　繁　雄　君
１５番	怒留湯　健　蓉　さん
１６番	坂　本　昭　信　君

１７番	隈　部　忠　宗　君
１８番	葛　原　勇次郎　君
１９番	木　下　雄　二　君
２０番	坂　井　正　次　君
２１番	森　　隆　博　君
２２番	山　瀬　義　也　君
２３番	境　　和　則　君

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

欠席議員（なし）

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

説明のため出席した者

市　　長	江　頭　　実　君
副　市　長	木　村　利　昭　君
総務企画部長	野　口　祐　成　君
市民環境部長	下　田　俊　一　君
健康福祉部長	宮　本　誠　一　君
経　済　部　長	平　野　國　臣　君
建　設　部　長	松　野　浩　一　君
総務企画部統括審議員	西　浦　一　義　君
七城総合支所長	岩　下　利　昭　君
旭志総合支所長	水　上　菊　也　君
泗水総合支所長	松　岡　千　利　君
財　政　課　長	小　川　秀　臣　君
総務課長兼選挙管理委員会事務局長	伊　藤　道　俊　君
市長公室長	倉　原　良　則　君
教　育　長	倉　原　久　義　君
教　育　部　長	中　村　鉄　男　君
農業委員会事務局長	松　永　隆　則　君
水　道　局　長	原　　和　徳　君
代表監査委員	宮　川　貞　雄　君
監査事務局長	宮　村　公　男　君

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

事務局職員出席者

事　務　局　長	城　　主　一　君

議　事　課　長	宮　川　啓　子　さん
議　事　係　長	松　原　憲　一　君

○議長（山瀬義也君）　全員起立をお願いします。

（全員起立）

おはようございます。

着席をお願いします。

――――――――――――――――○――――――――――――――――

午前１０時００分　開議

○議長（山瀬義也君）　これから、本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。

――――――――――――――――○――――――――――――――――

日程第１　質疑

○議長（山瀬義也君）　それでは、日程に従いまして、日程第１、質疑を行います。

ここで、申し合わせ事項について申し上げます。質疑は、一括質疑として３回までとなっております。質疑は、提出議案に対して疑義を質すものであり、一般質問と違って、自己の意見を述べることはできません。

発言の通告があっておりますので、質疑を許します。

中山繁雄君

［登壇］

○１４番（中山繁雄君）　おはようございます。この補正予算について、議案第９２号、平成２５年度菊池市一般会計補正予算（第２号）について、款７土木費、項２道路橋りょう費、目２道路橋りょう新設改良費、公有財産購入費の内容と目的について質疑いたします。

○議長（山瀬義也君）　建設部長、松野浩一君。

［登壇］

○建設部長（松野浩一君）　おはようございます。ただいまのご質疑にお答えしたいと思います。

道路橋りょう新設改良費の中でございます公有財産購入費の内容と目的といたしましては、泗水地区に建設予定でございます地域交流センターの進入路整備に伴います市道道下頭図線の拡幅に係ります用地買収費でございます。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　中山繁雄君

［登壇］

○１４番（中山繁雄君）　このたび建設をされます地域交流センターを泗水の人が利用するにあたりまして、私たちが一応考えますに、やはり今計画されている道よりもやっぱり堤防からの道のほうが私たちは利用価値があると思いますが、それについ

てどう見解を持っておられるか、質疑いたします。

○議長（山瀬義也君）　建設部長、松野浩一君。

［登壇］

○建設部長（松野浩一君）　ただいまのご質疑にお答えいたします。

堤防までの道路に関しましては、今回の改良が終わりました後に継続して改良を進めてまいるところでございます。

○議長（山瀬義也君）　次に、東裕人君。

［登壇］

○９番（東　裕人君）　おはようございます。議案第９９号、平成２４年度菊池市一般会計歳入歳出決算の認定について、２つお尋ねをします。

まず、毎年お尋ねをしているので、この収支の問題について今年も伺います。平成２４年度一般会計決算は、単年度収支が約１億１，０００万円の赤字、実質単年度収支も約６，２００万円の赤字です。この平成２４年度の赤字の主な要因、また収支が赤字であることの意味について述べていただきたいと思います。

それから、単年度収支、実質単年度収支とも経年で見ると黒字、赤字を交互に繰り返していますが、合併後の財政運営や事業計画等で苦労されているのかなというふうにも考えますが、これについてどう考えるか、考えをお聞かせください。

それから、次に決算書で言うと１０２ページですが、委託料の問題、６月議会で財産の譲渡の議案の質疑において、小学校売却の評価額算定の大元である不動産鑑定委託料が平成２４年度のどの予算にも計上されていないこと。それがここのきくち夢・元気づくり戦略委託料から支出されていること。しかも別件の不動産委託契約に違う業務名、違う場所で契約をするという契約変更を行っているなど、その支出が適正でないと思われる点について６月質疑をしました。その際、代表監査委員は答弁で、決算に関わることであるので、審査の中で適正化どうか含めて慎重に審査したいと述べて、６月議会の際には直接回答はされませんでした。

そこでお聞きしますが、適正化どうか慎重に審査した結果としての平成２４年度決算であると思いますので、６月に指摘した事項の審査の経過と結果について答弁を求めたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　代表監査委員、宮川貞雄君。

［登壇］

○代表監査委員（宮川貞雄君）　おはようございます。東裕人議員の質疑にお答えいたします。

まず、実質単年度収支の赤字の原因、その意味についてのお尋ねでございさますけれども、平成２４年度菊池市一般会計歳入歳出決算におきましては、実質収支に

関する調書によりますと歳入総額２５９億５，３２９万９，０００円から歳出総額２４２億６００万１，０００円を差し引き、さらに翌年度に繰り越すべき財源３億９５８万９，０００円を差し引きました実質収支は１４億３，７７０万９，０００円でございます。単年度収支は、この平成２４年度実質収支から前年度の平成２３年度実質収支を差し引きましたマイナス１億１，０７７万６，０００円でございます。単年度収支の赤字の原因でございますが、平成２４年度の歳出額に占める一般財源の充当額が１５８億２，４３５万６，０００円であり、平成２３年度と比較して８，９２１万５，０００円増加しております。性質別に見ますと、扶助費、災害復旧費、物件費、維持補修費等が増加しており、特に災害復旧費につきましては平成２３年度の３，３９１万６，０００円に対しまして平成２４年度は５億２，８２７万５，０００円と１５倍以上になっております。人件費、公債費、普通建設事業費等の一般財源充当額が減少しておりますので、合計では先ほど申し述べました一般財源充当額の差は８，９２１万５，０００円となりますが、この災害復旧費に占める一般財源充当額の増加が単年度収支が赤字となった原因と考えられます。

次に、この単年度収支に黒字要因である財政調整基金積立金や地方債の繰上償還金を加え、赤字要因である財政調整基金取り崩し額を差し引きましたものが実質単年度収支になりますが、平成２４年度はマイナス６，１９５万２，０００円でございます。黒字要因である地方債の繰上償還金は、平成２３年度より３，３６１万７，０００円増加していますが、実質単年度収支を黒字に変えるまでは至っておりません。一般財源の充当額の増加が、そのまま実質単年度収支の赤字になったと考えられます。

次に、単年度収支が赤字であることの意味でございますが、平成２４年度の単年度のみで収支を見ると赤字となったということです。そして、前年度実質収支が黒字ですので、前年度までの剰余金を消費したということになります。

次に、黒字・赤字の繰り返しの財政運営をどう考えているかというようなことでございますが、実質収支は財政の健全化のためには黒字にする必要がありますが、地方公共団体は営利を目的として存立するものではなく、また租税を徴収する自治体である以上、黒字の額、すなわち純剰余金が多いほど財政運営が良好であるとは判断できないとされております。ただし、単年度収支の赤字が数年連続したり、実質収支がマイナスでなるようであれば、財政運営を見直す必要があると考えられます。したがいまして、実質収支が黒字で、かつ次年度以降の財源調整に必要な範囲内に保つ必要がありますので、単年度収支の黒字、赤字を繰り返し、実質収支を黒字で一定の水準に保つことは適切な財政運営であると考えます。

最後に、指摘事項の審査の経過と結果についてのお尋ねでございますが、審査に

つきましては本年７月４日に担当課であります企画振興課の決算審査のヒアリングを行い、担当課長から決算の説明を受けました。

一つ目の水源小学校跡地の不動産鑑定委託料の支出につきましては、市長の施策というようなことで知名度アップ、菊池市のＰＲ、定住人口の減少を歯止めする施策等に対応する経費でございます。企画費のきくち夢・元気づくり戦略委託料からの支出であり、その委託料の目的からして何ら問題はないと考えられます。

次に、不動産鑑定委託料の契約につきましては、今回、事業を進める中で新たな業務を行う必要が出てきたことにより、安価で行えるというようなこともあり、追加で発注せざるを得なかったということでございますが、類似業務を同一業者にほぼ同時期に発注するのであれば、経済性、効率性の観点からも取りまとめることは必要でありますが、今回のように業務名や履行場所が異なることであれば、今回の契約変更が不適正とは言えませんけれども、別途契約するほうが適切ではなかったかと考えます。これにつきましては担当課に注意を促したところでございます。

○議長（山瀬義也君）　東裕人君。

［登壇］

○９番（東　裕人君）　収支についてはわかりました。

それから、委託料の問題ですけれども、問題ないというふうに言われましたけれども、もちろんその目や節の間での流用というのは、議会の議決を経ることなく行うことが可能ではありますが、目や節であっても、その予算内容の構成部分であるわけですから、もちろんその中身も、説明も聞いて我々議員は賛否いろいろ判断するわけで、そう考えると予算執行の適正を期するという点でも、その予算を認める、認めないという点においても、私は問題があるのではないかなというふうに思いますが、その辺をどう考えるか、再度お聞きします。

それから、契約については不適正とは言えないが、注意を促したというふうにありますけれども、ここを再度、もうちょっと何ですかね、要は業務名も地域も違う契約を追加契約する、変更について、もうこれは６月から繰り返していますけれども適正化を欠くというふうに思っていますし、注意をされたわけでしょうけれども、ここら辺、もう少し詳しく答弁いただければと思います。

○議長（山瀬義也君）　代表監査委員、宮川貞雄君。

［登壇］

○代表監査委員（宮川貞雄君）　追加して変更契約するのは、流用措置にあたり問題があるのではないかというようなことでございますが、今回、菊池市庁舎等整備用地不動産鑑定業務委託に追加し、変更契約で支出されました水源小学校跡地不動産鑑定委託料につきましては、先ほども述べましたけれども、平成２４年度当初予算で

計上されておりました企画費の委託料、きくち夢・元気づくり戦略委託料からの支出でございまして、流用ではございませんので申し述べさせていただきます。

なお、この企画費の委託料、きくち夢・元気づくり戦略委託料につきましては、菊池市発展のための政策実現に向けて全庁を上げて取り組む予算とされているということで申し添えておきたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　東裕人君。

［登壇］

○９番（東　裕人君）　流用ではないから問題はないという話であったと思いますが、これちょっと準備しましたけど、このきくち夢・元気づくり戦略委託料というのは、款項目で言うところの目、企画費であります。平成２５年度の６月に上程された補正予算では、この企画費、戦略委託料とは別に目、地域振興費で小学校売却の不動産鑑定委託料が計上されていたわけです。そうすると、今回決算、２４年度は、企画費から地域振興費の委託料を支出していることになると思うんですけど、これについてどう考えるのか。企画費から地域振興費の委託料を支出していいのかどうか、適正と思われるのかどうか、お尋ねをします。

また、そういう支出をもし仮によしとするなら、平成２５年度は企画費地域振興費では分けて処理されているのであるから、そうすると２４年度との統一性とか、整合性という問題が出てくると思うんですけど、この２４年度と２５年度のどちらが正しい処理なのか、その見解を聞かせていただきたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　代表監査委員、宮川貞雄君。

［登壇］

○代表監査委員（宮川貞雄君）　再々質疑にお答えいたします。

平成２４年におきましては、学校跡地調整に係る予算が地域振興費で組まれておりますので、本来でしたら議員ご指摘のように水源小学校跡地不動産鑑定委託料につきましては地域振興費の委託料から支出すべきと考えます。ただし、今回の水源小学校跡地不動産鑑定委託料は、庁舎等整備用地不動産鑑定業務委託に追加して変更されており、その委託料は企画費のきくち夢・元気づくり戦略委託料から支出されておりますので、予算の変更ができないことから同じ企画費の委託料から支出せざるを得なかったものでございます。

以上です。

○議長（山瀬義也君）　これで質疑を終わります。

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

日程第２　委員会付託

○議長（山瀬義也君）　次に、日程第２、委員会付託を行います。

議案第９０号から議案第９８号まで及び議案第１１０号から議案第１１３号まで並びに請願第３号、請願第４号ついては、お手元に配付しております議案・請願等付託表のとおり、それぞれの所管の各常任委員会に付託します。

各常任委員会は、付託されました案件を十分審査いただきますよう、お願いいたします。

平成２５年　第３回菊池市議会定例会議案等付託表

付託委員会	議案番号	件名
総務文教常任委員会	議案第　９２号	平成２５年度菊池市一般会計補正予算（第２号）
	議案第１１０号	辺地総合整備計画の変更について
	請願第　　３号	国に対し「消費税増税中止を求める意見書」の提出を求める請願書
福祉厚生常任委員会	議案第　９０号	菊池市税条例の一部を改正する条例の制定について
	議案第　９１号	菊池市国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について
	議案第　９２号	平成２５年度菊池市一般会計補正予算（第２号）
	議案第　９３号	平成２５年度菊池市介護保険事業特別会計補正予算（第２号）
	議案第　９８号	平成２５年度菊池市特別養護老人ホーム特別会計補正予算（第２号）
	請願第　　４号	「年金２．５％削減法」を廃止する意見書採択に関する請願書
経済建設常任委員会	議案第　９２号	平成２５年度菊池市一般会計補正予算（第２号）
	議案第　９４号	平成２５年度菊池市簡易水道事業等特別会計補正予算（第２号）
	議案第　９５号	平成２５年度菊池市公共下水道事業特別会計補正予算（第２号）
	議案第　９６号	平成２５年度菊池市地域生活排水処理事業特別会計補正予算（第２号）
	議案第　９７号	平成２５年度菊池市農業集落排水事業特別会計補正予算（第２号）
	議案第１１１号	字の区域の変更について
	議案第１１２号	市道路線の廃止について
	議案第１１３号	市道路線の認定について

―――――――――――――――○―――――――――――――――

日程第３　議事第６号　決算特別委員会の設置について

○議長（山瀬義也君）　次に、日程第３、議事第６号、決算特別委員会の設置について を議題とします。

おはかりします。議案第９９号から議案第１０９号までの１１案件につきまして

は、１０人をもって構成する決算特別委員会を設置し、これに付託の上、閉会中の継続審査とすることにしたいと思います。これにご異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（山瀬義也君）　異議なしと認めます。よって、議案第９９号から議案第１０９号までの１１案件につきましては、決算特別委員会を設置し、これに付託の上、閉会中の継続審査とすることに決定しました。

ただいま設置しました決算特別委員会につきましては、委員会条例第８条第１項の規定により、お手元に配付しております特別委員会の名簿のとおり指名します。

ここで、正副委員長互選のため、暫時休憩します。

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

休憩　午前１０時２１分

開議　午前１０時２２分

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

○議長（山瀬義也君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

委員会条例第９条第２項に規定に基づく決算特別委員会の正副委員長の互選の結果を報告します。委員長に坂井正次君、副委員長に城典臣君、以上です。

決算特別委員会名簿

◎決算特別委員会　１０名

荒木　崇之	柁原　賢一	城　　典臣	大賀　慶一
岡﨑　俊裕	水上　彰澄	東　　英俊	中山　繁雄
葛原勇次郎	坂井　正次		

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

日程第４　一般質問

○議長（山瀬義也君）　次に、日程第４、一般質問を行います。

なお、ここで申し合わせについて申し上げます。質問の順序は通告順です。質問時間は、答弁を含めまして６０分以内です。通告事項以外の質問並びに関連質問はできません。質問は一問一答となっています。

発言の通告があっておりますので、これより順次質問を許します。

はじめに、東裕人君。

［登壇］

○９番（東　裕人君）　あらためまして、おはようございます。日本共産党の東裕人です。通告に沿って質問をします。

まずはじめに、教育の問題です。教育問題の議論は、進学や過度の競争に重きを置いた議論、どこそこがレベルが高いとか、低いとか、どうしろ、こうしろとか、そういう議論に陥りがちであります。教育とは何か。教育基本法は、第１条で、目的について次のように述べています。教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身共に健康な国民の育成を期して行わなければならない、こういうふうに述べています。陶冶という言葉がありますが、文字通りに陶器を練り上げるように人格、人間を形成していく、そして国や社会の担い手として健全に育てていく、これが目的であります。そして、全ての子どもに基礎学力を保障し、人間として大切にされ、人間形成を助ける場が学校であり、そのための環境整備をするのが政治の仕事であると考えています。

そこで、今回はこの目的や目標に照らして菊池の教育、一体どうか、菊池は人が大切にされ、学ぶ気風にあふれた地域になっているのか、そういう地域にしていくための環境整備はどうか、質問してみたいと思います。

まず、文教菊池、よく言われます。これは、よそから転入してきた人たちやこれから移り住んでこようと思っている人たちにはなかなかよくわからない話です。私も鹿児島から移り住んできて１２年になりますが、いまいちよくわからない部分であります。

そこで、本市が抱える文教菊池とは一体何なのか、教育の現場の主役である子どもたちにもわかるように、まず教えていただきたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　教育長、倉原久義君。

［登壇］

○教育長（倉原久義君）　おはようございます。東議員の質問にお答えしたいと思います。

文教菊池につきましては、平成２１年の６月議会一般質問の中で隈部議員の質問でお答えしておりますけれども、文教とは、一つに人を育てるに教育をもってなすという意味と、二つ目に教育文化の発祥地、あるいは中心地の意味があると言われています。ご承知のように、中世の時代に菊池一族が学問の振興に力を入れ、南西の中にあっての学問や文化の中心地として名声を上げたところです。そこで教育委員会としましては、この菊池一族の歴代の生き様、その精神を端的に表す言葉として用いられました、いわゆる文武両道、廉恥礼節、これを教育理念として取り組んでいるところでございます。その文武両道、廉恥礼節とは、つまり心も形もきちんとしていて、健康で教養ある市民の育成を目指すものであります。この具体的な目指す市民像として次の５点を示しております。まず、１つ目は、菊池の山河自然を愛ずる、これは自然への畏敬、郷土愛、国を愛する心です。２つ目は、菊池の伝統

文化に学ぶ、いわゆる郷土の歴史に学ぶ心です。３つ目は、志を立て、礼儀正しい人となる、いわゆる人としてのあり方を求める心であります。４つ目は、自学自習の心を持つ、いわゆる自主、自立、自ら進んで学ぶ力のことを言っています。５つ目は、個性尊重の心で生きる、いわゆる自他の尊重、生きる力ということです。この５つの目指します市民像は、学校、家庭、地域における実情や実態を踏まえつつ、市民全体が共有し、成長過程にあわせそれぞれの市民像として反映されているものと考えております。

本市には、こうした恵まれた美しい自然、あるいは脈々と続く先人の営み、後世に伝えるべき多くの伝統文化があります。各学校では、この文武両道、廉恥礼節を子どもたちにわかりやすい言葉で表現して学校経営に、あるいは教育活動にあたっております。つまり、それぞれの学校では目指す児童生徒像として、自ら学ぶ意欲を持って勉学やスポーツに励む子ども、自分自身や友だち、物を大切にできる子ども、立ち止まっての明るい挨拶ができ、そして時間を守る礼儀正しい子ども、こういうものを文武両道、廉恥礼節として具現化しながら生かした教育活動を行っているところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　東裕人君。

［登壇］

○９番（東　裕人君）　今の話も聞いた上で、菊池が目指すものという話もされましたが、もう少しそこを聞きたいと思いますけれども、教育基本法の第２条１項は、目標として幅広い知識と教養を身につけ、心理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うことを掲げています。では、その文教菊池が目指す目標、今いくつか言われたのかなとも思いますが、それについてもう少しわかりやすく教えていただきたいと思います。これは目標というと何か偏差値だとか、進学率だとか、いわゆるそういう数値目標的なものを聞いているのではなくて、この菊池の教育が目指す文教菊池の教育が目指す目標として掲げられているものについて、もう少しわかりやすくお聞かせいただきたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　教育部長、中村鉄男君。

［登壇］

○教育部長（中村鉄男君）　おはようございます。それでは、再質問にお答えをいたします。

その目標をどこに置いているかについてでありますが、教育委員会としましては、先ほど教育長が申し上げました教育理念に基づき、教育方針として菊池市教育委員会は市民の理解と協力の下、人間尊重の精神を基底として、ふるさとの伝統・

文化を継承するとともに、市民としての誇りを持ち、明るく平和な郷土づくりを目指す心身共に健全な子どもの育成に努めるとし、菊池市民憲章の実践、市民としての良識と公徳心の育成、郷土を愛する心と日本人としての自覚及び国際意識の高揚、人間尊重の教育の推進、健全な心身の育成の５点を教育方針といたしております。さらに、教育目標として、人間尊重の精神を基底に人格の完成を目指し、学校と家庭、地域社会との連携の下、学校評価の充実等により開かれた学校づくりを推進し、幼児・児童生徒の学力の充実と健全な心身の育成に努め、生涯学習社会を展望した教育指導を推進する。また市民が自己の人格を磨き、心豊かな人生を送ることができるよう生涯学習、社会体育及び文化の振興・充実に努めるということを教育目標としているところでございます。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　東裕人君。

［登壇］

○９番（東　裕人君）　大体はわかりました。で、今話も聞いていて、自学自習とか、自ら学ぶというお話もありましたので、次にですね、文教菊池の子どもたちは一体どこで勉強しているのか教えていただきたいと思います。質問の具体的なイメージとしてパネルも用意をしました。これは、県立ですけど、鹿児島の県立図書館の学習室であります。普通の図書館の閲覧用調査用とは別の入口から入って、３６０席の学習室を整備しています。ここは、中学生以上高校生、大学生、大人も含めて使える自習するスペースです。この広いスペースで、誰一人当然私語をするものはいません。この３６０席の学習室、インターネットで空いているかどうか、飛行機みたいに空席状況がチェックをできるようにもなっています。ある日曜日の朝、９時に開館しますけど、朝９時の時点で、もう既に若干の空席しか残っていないぐらい朝から並んで勉強しにくると。自転車で１時間近く掛けて、弁当を持って土日に通う子どもたちもたくさんいます。先ほど自学自習、自ら学ぶという話もされましたが、こうした風景、こうした場所は一体菊池のどこでみられるのか、ちょっと教えていただきたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　教育部長、中村鉄男君。

［登壇］

○教育部長（中村鉄男君）　３回目のご質問にお答えをいたします。

本市の学習スペースの設置状況につきましては、泗水図書館で夏休み期間中のみではありますが学習スペースを設置したところでございます。そのときの状況としましては、子どもたちは静かに学習に励んでいたと聞いております。また、中央公民館のロビーや七城公民館、あるいは旭志公民館の図書室でも夏休みや平日の放課

後などに子どもたちが学習の場として活用をしているような状況でございます。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　東裕人君。

［登壇］

○９番（東　裕人君）　期間限定でやっていたり、中央公民館という話もあります。私、夏休みちょっと中央公民館行ってみました。クーラーも入って涼しいので、子どもたちが寄って勉強しているかなと思っていたら、何かゲーム、もちろんそれは遊んでもいいんですけどね、なかなかそういう集中して勉強するような環境ではないというふうに感じたわけです。で、この学習室というのは、いわゆる先ほど自学自習、自ら学ぶという話もありましたように、あくまで自習、塾ではないので当然教える人もない。自ら勉強したい人が集う場所です、当然です。子どもは勉強する中学生、高校生のお兄さん、お姉さんたちや勉強する大人の姿から学ぶし、その中で向学心、向上心も芽生えてくるというふうに思います。そういう場がこの菊池でも自学自習を掲げるのであれば、当然私は必要ではないかなというふうに思いますがどうでしょうか。こういう場がないもんだから、この夏休みに中央公民館を借りて４時間ですけど自習の場を小学生対象にやってみました。参加者は少なかったものの、参加できなかった保護者の方々から、またやってほしいとか、いつ行っても勉強できるようなスペースがほしいという声も寄せられました。これはもう机と椅子があれば勉強できるわけですから、お金を掛けずにどこでもいいと思います。この図書館のように３６０席でなくても、２００席でも１００席でもいいと思います。これまで生涯学習センターのワークショップあたりでもその学習室という議論も出たような話を聞きました。生涯学習センターでも、龍門小学校、河原小学校でも、組織機構改革した後の本庁の空きスペースがあれば、そこでもどこでもいいです。社協の２階でも、どこでもいいです。ここに行けば勉強できるという場をぜひつくってほしいと思います。そして、管理については、教職員のＯＢの方や市役所のＯＢの方、ボランティアなどなど、無償でそういう子どもたちの学びの場を保障するようなシステムをつくって、ぜひこういう場をつくってほしいというふうに求めたいと思いますが、どう考えられますか。

○議長（山瀬義也君）　教育部長、中村鉄男君。

［登壇］

○教育部長（中村鉄男君）　４回目のご質問にお答えをいたします。

学習室の取り扱いについてでございますが、最近建設されております図書館には学習スペースを設けているところも少なくありません。本市でも現在計画中の生涯学習センター内に学習室としてのスペースを現在検討いたしております。図書館の

中にスペースを設けるのか、公民館のスペースとするかは決定しているわけではございませんが、生涯学習センターのワークショップの中でもご意見等がありましたので、取り入れる方向で検討をいたしております。

また、泗水地区に建設する地域交流センター内にも多目的ギャラリー内に学習スペースをわずかではございますが設ける予定にしております。もし可能であれば、図書館、図書室のスペースや公民館等の会議室等を夏休みや冬休みの期間中は学習室として開放することもできるのではないかと考えております。そういった取り組みにより、学習環境が整い、主体的に学ぶ子どもたちや市民の学習意欲の向上に寄与できるのではないかと考えております。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　東裕人君。

［登壇］

○９番（東　裕人君）　生涯学習センターの中に入れるとなると、年数かかるわけですから、それは準備しながらも１日も早くつくりますよとか、あるいはできるまでの間、ここでオープンしますとか、ぜひしていただきたいと思います。

最後に市長に、この問題で少しお聞きしますけど、市長も聞くところによるとこの文教菊池で学んで、外に出られて活躍して戻ってこられた。そういう人材をどんどん創り出す、輩出をするということも必要かなというふうに思うんです。菊池も、もちろん人口減少時代に地域からの人口が流出しないような経済政策や福祉の施策あたり、しっかり考えながら、仮に今ここに留まらなくても、これからの日本や世界で活躍するような人材を輩出する、そういう名誉ある地域を目指してもいいんじゃないかなというふうにも思うわけです。中世の歴史はよくわかりませんが、近代日本を切り開いた鹿児島の青年たちは、新しい国づくりの担い手としての希望に燃えて、志高く学んで働いていました。そういう地域に菊池をつくっていく、つくりかえていく、そう考えると、非常に子どもも大人もわくわくするんじゃないかなという気もします。それぐらいの構えで、そのスタートとして学びの場を１日も早くつくってほしいと今回提案したわけですが、この点で市長はどう考えておられるか、お聞かせいただきたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　皆さん、おはようございます。東議員のご質問にお答えいたします。

まず、私、所信表明でも申し上げたことではございますけれども、私が基本として目指しております菊池市の将来像というのはですね、この菊池の自然の恵みを守

りながら、そしてこの自然を生かしながら穏やかな発展を続けていく安心安全の癒しの里と、こういったものを創り上げていきましょうということを申し上げているわけでございますけれども、この中には農業政策もあれば、観光政策もある、福祉政策、教育、いろんな政策分野があるわけですが、何をやろうにもですね、結局人材あってのことなんですね。農業政策であろうが、観光政策であろうが、それを進めていくのはやはり人であります。したがいまして、この人づくりということを私は大変重要に考えておりましてですね、つまるところ、人材育成というのは私たちの永遠の最重要課題であるというふうに考えている次第でございます。とりわけ、自分で考えて、そして行動する知恵と気概と、それから郷土愛を持った人材の育成ということが極めてこの菊池市の将来にとってもですね、重要になることだというふうに考えております。先ほどお話がありましたように、なるべくならそういう人材がこの地に留まって大いに貢献してほしいわけですが、中にはもちろん、国レベルでいろんな活躍をしてくれる人もいるでしょうし、世界的な活躍につながる人も、ぜひ出てきてほしいと思うわけでございまして、そういったふうな素晴らしい人材を供給する、その供給地と相成ればですね、これはまた菊池市民としても非常に誇りにつながることでもありますし、またこういった人材が世界に羽ばたけば、いつの日かかならずやその郷土に対する恩返しとかいったふうなことにつながってくるんだろうというふうに考えております。とりわけ東議員さんご指摘されたとおりですね、教わるということだけではなくて、自ら学ぶという気風を育てていくということがとりわけ重要であろうと。知識や思考力というものを養っていくのは、学力の上でももう基本事項でございますけれども、この大本になるのは、やはり自ら学ぶ気風だというふうに私は考えております。ですから、学習室の設置のお話が今ございましたけれども、現在生涯学習センターのワークショップの中でも多くの市民の皆様から実は同じようなご意見をいただいております。それから、今申し上げましたように、私自身もこの学習室ということについては、大変賛成でございます。ですから、こういった自ら学ぶそういう場や機会をぜひ充実させていきたいと。自ら学習ができるような環境整備に努めていかねばならないというふうに考えているところでございますので、ぜひ議員さんのご支援を引き続きいただきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　東裕人君。

［登壇］

○９番（東　裕人君）　次、２つ目の庁舎整備方針についてお尋ねをします。この庁舎整備方針について、少し気になるところがあるので、今回はいくつか確認したいと

思います。

まず、庁舎の位置の問題解決から２年近く経過をしていますが、今、どういう到達にあるのか、お聞かせください。

それから、６月議会で設置された庁舎等整備市民検討委員会の議論あるいは状況はどうなっているのか、お聞きしたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　庁舎整備に関する位置問題に関してと、それから庁舎等整備市民検討委員会の現状についてというご質問であったかと思います。

最初の庁舎の位置問題でございますが、これに関しましてはこれまで市議会をはじめ、地域審議会やそれから市民の皆様の間におきまして様々な多くの意見があったわけですが、平成２３年の１１月４日に整備方針が表明されまして、同月２４日の議会臨時会において、庁舎等整備基本構想・基本計画策定の予算が議決されております。そして、整備方針に基づいた基本構想・基本計画が既に策定されたわけでございます。また、昨年１２月には次の段階の基本設計・実施設計の予算を議決いただいておりまして、３月には委託業者が選定され、設計に着手して現在に至っているわけでございますので、位置問題に関しては大きな変更はございません。

それから、現在の状況でございますけれども、庁舎等整備基本構想・基本計画に基づく配置計画素案を作成するために、庁舎部分につきましては庁内の作業部会での検討、それから生涯学習センターについては市民の意見を反映するための市民ワークショップをそれぞれ開催してまいりました。ワークショップについては８月に一応終了をしております。それに基づきまして作成されましたそれぞれの素案をただいま集約しまして、庁内の検討組織でさらに検討を重ねているところでございます。

今後の予定でございますけれども、この市民ワークショップや庁内で検討した素案を庁舎等整備市民検討委員会に提案いたしまして、市民の意見を反映した案づくりを行ってまいりたいと考えているところでございます。概ね１０月に入ってからこの委員会がスタートできるかなという目途でおるところです。また、市議会をはじめ地域審議会や区長協議会等へもですね、説明を行ってまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　東裕人君。

［登壇］

○９番（東　裕人君）　庁舎問題で進み具合が一体どうなっているのか、ちょっと見え

ない状況でもあったので伺いました。

次に、この庁舎整備の件でいろんなご意見もお聞きします。検討委員会もこれからだということでした。そういう状況であるので、ちょっとあえてお尋ねしてみますが、例えば仮に私が議員として具体的提案をこの庁舎問題でしようと思った場合、現状でその提案を受け入れる余地があるのかどうか、お聞きします。もしあるとするならば、それは基本構想・基本計画の枠内なのか、あるいはそれを超えるものも提案していいのかどうか、どこまで提案できるのか、できないのか、お聞きしたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　庁舎整備に関して、例としておっしゃいましたのは、例えば今から何かを提案した場合に検討の余地はあるのかと。その提案が枠内・枠外ということに対してはどう考えるかというご質問であったかと思いますが、まず最初のご質問でございますけれども、今回の庁舎等整備につきましては、要所、要所では市議会の皆様への説明、それから意見聴取等を考えてございます。そういう中で提案等ございましたらその都度検討を行ってまいりたいと考えております。

その範囲といいましょうか、庁舎等基本構想の基本計画に基づくその枠内のご提案であるか、あるいは枠外があるかということでございますが、今はちょっとどういうふうな具体的なご提案があるか、今、私のほうでは承知しておりませんので、今この場で申し上げられることはですね、あくまで基本線としては市議会においてこれまで承認、議決された経緯というものがございますので、これを尊重しながら、かつ市民の方の意見も伺っていくと。その中で、無理無駄がないように、あくまで合理性ですとか、機能性を考慮して是々非々で検証したいというふうに考えているところでございます。基本的には基本構想・基本計画というのは市議会の承認、あるいは予算等の議決を経て策定されたということは私は尊重しながら進める必要があると思っている次第ではございます。

これまでに検討されました配置図案、素案等を基にですね、今後市民検討委員会での検討を加えまして、一番の目線としては、やはり市民の皆様の利便性がさらに向上するようにということで考えていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　東裕人君。

［登壇］

○９番（東　裕人君）　最後にですね、これは庁舎整備方針の具体化がちょっと遅いのかなという気がしたもので、危惧するところであったのでいろいろ今回聞いてみま

した。粗方わかりましが、今後どんなふうに進んでいくのか、今、説明もあって重なる部分もあると思いますけれども、今後について簡単にもう一度お聞きしたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　それでは、お答えいたします。

今後のこの見通し、スケジュールということかと思います、はい。当初より、合併特例債の期限が平成２６年度までというのが当初の前提であったわけですが、それを前提にこれまでいろんな審議を重ねられて、今の基本計画構想に至っているわけでございますね。その後、特例債の期限が延びたという前提の変化はございますけれども、では時間ができたからゆっくりしていいのかというあたりをご心配なさっているのかと思うんですが、一方で２７年度より、いわゆる一本算定が始まりまして、だんだんに財政も厳しくなってまいりますので、それに向けた様々な合理化策を進めていかねばなりません。そのやはり一つ前提となるのが、新しい庁舎、入れ物でございますね。これといろいろな施策というのが全部関連してまいりますので、庁舎が遅れれば全体の合理化策も遅れるということの可能性が高まってまいりますので、現段階では当初の予定を念頭に置いて、あくまでそれに向かって努力していきたいというふうに考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　東裕人君。

［登壇］

○９番（東　裕人君）　では、３つ目の質問です。６月議会において、私は市民の暮らしの声は切実で、文字通り待ったなしの状況にあると、暮らしの願いの棚上げ・先送りは許されない、こう質問しました。市長は、大変厳しい状況、深刻な実態になっていると認識している。棚上げ・先送りできないというのは全くそのとおり。市民の生の声、暮らしの声を聞く機会を市長と語る会で具体化したいと答弁されました。

そこでお聞きしますが、この暮らしの課題に対する認識は、就任後３カ月経ってどう変わったのか。また、この３カ月、市長と語る会を含めて暮らしの声を聞いてきたのか、つかんできたのが、まず始めにお聞きします。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　市民の暮らしに関する私の認識に関するご質問だと思います。

まず、就任して４カ月が過ぎたわけでございますけれども、この間、メディア等

におきましては、いわゆるアベノミクスによる経済効果の広がりというのは大変期待されているところでございまして、そういったところが先般の参議院選等にも反映されているかというふうには思うわけですが、まだまだやはり地方の暮らしということになりますと、なかなかやはり市民生活にまではですね、この市民でいうところのアベノミクスの効果が波及しているとはなかなか思えないというのが偽らざる実感であるかというふうに思います。とりわけ６月議会でも答弁しましたとおり、地方都市、菊池市がまさにそうでございますけれども、菊池市を取り巻く環境というのは、やはり経済が低迷しておりますし、人口も少しずつでありますがやはり減少している、少子高齢化が進んでいるなど、やはり非常に厳しい客観情勢であるなというふうに認識しておりまして、現在もその認識は変わっておりません。特に市長と語る会というのをこれまで４カ所で開かせていただいたわけでございます。８月までに一応第１回目を、第１巡目を終わらせていただきましたんですが、今回は第１回目の開催ということもございまして、基本的にはこの自由な討論ということで臨みはしたわけですが、皆様が意見を出しやすいようにということでですね、討議のきっかけとしまして、菊池市の観光戦略、まちおこしの方向感について私のほうから簡単にご説明した後、それを受ける形で自由討議ということで市民の皆様からいろんなお声を聞いた形でございます。ですから、今回は自由討議ということではございましたけれども、市民の暮らしということで、特化したわけではございませんので、直接的にですね、冒頭のご質問にあったようなことを反映したようなご質問や実際の生の声というのは特には聞かれなかったというふうに思っております。ただですね、この間に、いわゆる市長への手紙、それからホームページにおける市長あてのメール等々を通じまして様々なご意見をいただいておりまして、そういったものを通じまして、大変やはり菊池の市民の暮らしというのは厳しいものがあるな、ということは実は承知しているところでございます。

以上でございます。よろしくお願いいたします。

○議長（山瀬義也君）　東裕人君。

［登壇］

○９番（東　裕人君）　この暮らしの問題で、実態をつかむという点では、僕はまだまだ不十分であると考えるので、次に暮らしの実態について実例として、生活保護と国保の問題で少し議論をしたいと思います。そしてその全体の議論を市長に聞いていただいて、最後に市長の今後の取り組み、どうするかについて伺いたいと思います。

まず、生活保護の問題ですが、生活保護基準が引き下げられました。本市でどういう対応をしているのか、減額される世帯、減額総額、そして減額はいつからか、

まず聞きたいと思います。併せて、この全国的には保護費削減に対する減額撤回の審査請求というのが受給者から出されたにもかかわらず、それを受け付けないというような自体が起こって、これに対して大きな問題になって厚労省は法律を遵守するように事務連絡を出しています。本市はそういうことが起こっているのか、いないのかも含めて、その対応も併せてお聞きしたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　健康福祉部長、宮本誠一君。

［登壇］

○健康福祉部長（宮本誠一君）　おはようございます。お答えします。

本市の対応につきましては、被保護者の方が混乱されないよう本年６月に変更のお知らせを行い、７月には変更後の金額のお知らせを送付しております。さらに、ケースワーカーが訪問時及び被保護者の方が来庁時に再度内容を説明しております。減額される世帯につきましては、生活扶助を受給している世帯が本年７月現在で３００世帯、そのうち減額される世帯は２４５世帯で、８月の保護費から変更して支給をしております。減額されます保護費の総額は７月と比較して８月は概算で約１７万７，０００円程度となっております。生活扶助基準額引き下げに対する審査請求につきましては、審査請求があれば受け付けるようにしておりますが、現時点では審査請求はあっておりません。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　東裕人君。

［登壇］

○９番（東　裕人君）　保護費の引き下げ、減額によって、例えそれが世帯の額としては小さくてもですね、やはりこの５００円、１，０００円でしのいで、苦しい中でしのいでいく人たちにとっては非常に苦しい、さらに苦しくなる、そういう自体が８月から起こっていると。この最後の命綱、セーフティネット、これが生活保護、よく言われますが、それが引き下げられるという事態か起こっていて、このことに対して受給者の方々は今どういう反応を示しているのか、もしつかんでいればお聞かせいただきたいと思います。

そして住民と接している行政の皆さんは、この最後の命綱セーフティネットが引き下げられたことに対して、直接接しているわけですからどういうふうに思って業務をされているのか、お聞きしたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　健康福祉部長、宮本誠一君。

［登壇］

○健康福祉部長（宮本誠一君）　お答えします。

先ほど申し上げましたように、生活保護受給世帯に対しましては、６月と７月の

２回減額のお知らせをしており、ケースワーカーが訪問時及び来庁時に内容について再度説明をしておりますので、数件の問い合わせがありましたが、混乱のほうは生じていないと考えております。生活保護法によります保護の基準の一部改正につきましては、厚生労働省の社会保障審議会、生活保護基準部会において、平成２３年４月から議論され、平成２５年１月に報告書が取りまとめられて、それに基づき引き下げが決定しておりますので、各自治体の裁量で対応できるものではないと考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　東裕人君。

［登壇］

○９番（東　裕人君）　国が決めて、引き下げを決めたから、地方でどうこうできる問題ではないということを言われたし、その６、７月にケースワーカーの方々が行って内容の説明がされているという話でしたが、やはり行政自身としては国が決めましたと、内容はこうですという説明だけではどうかなというふうに思うんですよ。それは国が決めたことであったとしても、目の前に最後の命綱が引き下げられようとしている市民の方々がいるわけで、その人たちに引き下げをお願いするわけだから、国が決めたからというだけでは、それでいいのかなというふうに思うわけですね。繰り返しますけど、生活保護は最後の命綱、セーフティネットと言われているわけで、その網が今破られようとしている中で、現場で対応する職員さん自身は説明するだけではなくて、もっと実態をつかんでもらって、それがどの場面かわかりませんけど、行政の議論のテーブルの上にも上がるような、そういうお仕事をしていただかないと、なかなか暮らしの思い、市民の実態が市長まで届かないんじゃないかなというふうにも思うわけです。そこはちょっと注意していただいて、また生活保護の問題については別の機会で取り上げるつもりですけれども、そういうふうにしていただきたいなというふうに思うわけですね。

じゃ、重税感の問題で、次に国保の問題でお伺いしますが、６月議会で市長も重税感は否定できませんというふうに答弁されています。その一方で、所得向上、経済立て直しが第一ですというふうにも言われていました。私はそれこそ先送りではないかなというふうに受け止めました。この重税感の問題は、もう今どうにかしてほしいという思いに、この今どう答えるのかがやっぱり問われている問題だというふうに思います。この問題で、これまで繰り返し質問や質疑も行ってきて、重税解消のために税務課、徴税課、健康推進課の三者での対策協議を進めることにはなりました。ただ、これまで対策は協議するが税率据え置きで推移して至っているのが現状です。

では、重税解消を先送りしないためにどういう議論をしているのか、この三者の議論の中身について簡単にお聞かせいただきたいと思います。この問題、例えば具体的に言うと、平成２４年度の数字で言えば、国保世帯１世帯あたり平均所得が１３１万円、所得２００万円以下の世帯が８０．３％を占める、低所得者が多数を占めるというのが国保の特徴であります。そして、税負担でいうと所得が１００万円以下の世帯の税負担割合は所得が８５０万円以上の世帯の２．５倍の税負担割合となっていて、この会計は所得が低い層ほど重い負担になるというのがこれまで行政が出された資料からもはっきりしているわけです。そういう中で、この重税の問題をどう捉えて、どう議論をしているのか。またそれを、重い税負担を据え置きで先送りするのか、解消するのか、どんな議論を今されているのか、お聞かせいただきたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　市民環境部長、下田俊一君。

［登壇］

○市民環境部長（下田俊一君）　おはようございます。東議員のご質問にお答えいたします。

先ほどおっしゃいましたように、平成２４年度までは税務課、徴税課、健康推進課の３課でそれぞれに抱える問題を共有し、国民健康保険の健全な運営のために協議を実施しております。個別に問題があった場合にも３課の担当者が連携して問題解決にあたっております。本年度から税務課と徴税課が税務課として統合されておりますので、税務課と健康推進課で同じように国保税の税率の安定的な国保運営について、また医療費削減の取り組みなどを協議しているところでございます。税務課といたしましては、協議の中で所得が低い方の税負担についての調査も行っております。他市との税率比較や税率を変動した場合の試算なども実施しているところでございます。健康推進課といたしましては、やはり医療費の高騰が保険税の決定に大きく関係していることから、医療費の削減に向けて訪問指導と糖尿病の重症化予防を中心とした保健事業に取り組んでおります。訪問指導では、レセプトにより抽出した頻回受診者や重複受診者を対象とした訪問指導を行っております。また、人工透析の医療費が１人当たり年間約５００万円かかることから、人工透析へ移行する糖尿病の重症化予防を目的とする特定健診から得たデータを基に健康指導等も実施しているところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　東裕人君。

［登壇］

○９番（東　裕人君）　協議もして取り組みもされていますが、じゃ今後どうするの

か、お聞かせください。いろいろ議会としては３月議会で国に制度改善の意見書も提出していますが、しかし国の政策・施策待ちでは、今、起こっている事態、課題に対応できないわけで、結局国任せ、先送りになってしまうわけです。地方で考えられること、やれることをしっかり検討していただいて、急いで手を打つべきだと思います。全国的には引き下げを行っている自治体はたくさんありますし、そういうところも研究していろいろ知恵を学ぶというふうなことが必要じゃないかなというふうに思います。ですので、今後どうするのかということと、この下げる方向、あるいは税負担軽減のために考えていることがないのかどうか、併せてお尋ねをします。

○議長（山瀬義也君）　市民環境部長、下田俊一君。

［登壇］

○市民環境部長（下田俊一君）　今後どうするかと、税を下げる方向で考えていないかの２点だと思います。現在、税務課、健康推進課で協議を進めてまいっておりますけれども、所得の低い方はもとより国保税を負担する被保険者、または増加傾向にある医療費も考慮しながら議論を進めております。そういった議論も踏まえて、現在のところ、税率は据え置きのままと考えているところでございます。下げる方向とおっしゃいました、所得が低い世帯に対する国民健康保険税の軽減措置などを行っている自治体も調査でわかっております。ただ、本市におきましては独自の軽減措置は非常に難しいと思っておりますので、それに代わる措置ができないか、今まで以上に税務課、健康推進課等で細やかな調査研究をしてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　東裕人君。

［登壇］

○９番（東　裕人君）　結局、何も変わらんと。合併して毎年毎年応能割、応益割とかいろいろな理由で国保税が上がり続けて、この数年、税負担は限界ということで据え置きのままと。また、来年も据え置きと。これでは、何を協議しているのか、一体何なのかよくわからないわけです。だから、行政に対して市民は暮らしの不満をぶつけるわけですね。たくさん職員さんいらっしゃいますから、いろいろ調査もし、研究もして手を打たないと、もう合併１０年になるわけですからね。いろいろアイデアだとか、知恵がありますので、協議していただいて、できれば１２月議会、もう一回聞きますので、その協議の結果について詳しく報告していただきたいと思います。

最後に市長に伺います。生活保護や所得の低い層が多くを占める国保の問題で伺

いました。市長が背負っている５万数千の市民の方々、なかなか厳しい現状の中で今必死に暮らしている多くの方々がいるわけです。私は市長が掲げるいろんな地域再生のいろんな取り組み、これ自体は否定もしないし、おもしろいなというふうに受け止めていますが、やっぱしそこだけに重点を置いてもらうわけにはいかないんですね。地方自治体は住民の福祉の増進を図ることが基本です。市長は、市民の暮らしの実態をこれからどのようにつかんで、今後施策にどう反映させるのか、考えを最後にお聞きします。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　ただいまのご質問は、市民の声をこれからどうつかみ、どう反映していくのかということでございました。これまで既に市長への手紙、市長メール、あるいはパブリックコメントなどですね、様々な方法で市民の声を聞く手立てがあるわけでございますが、ここら辺を、より利用しやすいように見直していきたいというふうに思っております。また、先般行いました市長と語る会というのは、皆様の生の声を聞くという上では大変重要な機会であろうというふうに思っておりますので、第２回、３回とこれから引き続きそういった機会を継続的に実施していきたいというふうに思います。そうした際に、必ず当日の発言だけではなくてですね、アンケートのようなものを今いただいておりますので、そういったものも少し充実させながら、より皆様が意見を出しやすいような仕組みをつくっていきたいというふうに考えております。

また、そうした皆様からいただいたご意見が、なるべくそれを反映できるようにですね、全職員共通の認識ができるような仕組みにして、それを精査して。

○議長（山瀬義也君）　市長、質問の時間の６０分となりましたので、発言を中止します。

ここで、１０分間暫時休憩します。

――――――――――――――――○――――――――――――――――

休憩　午前１１時２２分

開議　午前１１時３１分

――――――――――――――――○――――――――――――――――

○議長（山瀬義也君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、怒留湯健蓉さん。

［登壇］

○１５番（怒留湯健蓉さん）　通告のとおりに一般質問をいたします。

最初に、ワンストップサービスの確立について伺います。近年、ワンストップサ

ービスはいろんな分野で取り組まれていることが知られるようになりました。これは、２００１年のｅ－Ｊａｐａｎ戦略により、高速ネットワークインフラの整備とともに、電子政府の実現による行政サービスのワンストップ化が計画されたことに端を発します。国のこの戦略に沿って、総務省や国交省とそれぞれの所管事務において電子申請等が始まりましたが、単位自治体による行政サービスのワンストップ化は今日見るように、未だ道半ばに留まっているようです。本市も同様です。しかし、総合計画には行政サービスのワンストップ化を目指すとされています。菊池市民が障がいのある人も、ない人も、困難な状況を抱えている人も、そうでない人も、等しく行政との信頼関係の中で必要な行政サービスをワンストップで受けられるためには、まだまだ各分野で多くの課題が残されています。本市において市民生活を総合的に支援するワンストップサービスを確立するためには、私は少なくとも５つの必須条件があると思っています。１つには、以前皆さんが福祉課がハローワークとの連携で経験したことのあるワンストップサービスデイという事業、もしくはこれに準じる同等の事業の継続。２つ目に、関連する事務を合理的につなぐ事務フローの見直し。それから、縦割りの弊害を克服するための業務システムの構築。そして、これらを統括する総合相談課、もしくは総合相談窓口の設置です。そして５つ目に、ハードの面として、ワンストップサービスに見合うフロアの改修等が考えられます。そして、これら５つの必須条件はきっちりとリンクさせなければ、真のワンストップサービスとして機能しないでしょう。ワンストップサービスを確立するには、そういう理念と、そういう仕組みづくりが重要だと思われますが、この５つの必須条件について、それぞれに当局のご認識をお聞かせください。市長のお考えについては、質問の性質上、最後にお聞きしますので、よろしくお願いをいたします。

○議長（山瀬義也君）　総務企画部長、野口祐成君。

［登壇］

○総務企画部長（野口祐成君）　おはようございます。それでは、怒留湯議員のご質問にお答えいたします。

ワンストップサービスデイの継続はあるかという、まず１点目でございますけれども、ワンストップサービスデイとは、平成２１年度に緊急雇用対策の一つとして、ハローワークにおいて試行的に実施されたものでございます。内容は、仕事を探している離職者の方で住居、生活支援を必要としている方を対象とし、ハローワークで提供される職業相談に加え、国・地方自治体の協力の下、公営住宅、生活保護、多重債務等の住宅、生活支援サービスの相談、手続きを同時に１カ所で行えるようにしたものでございます。本市としましては、この取り組みは行っておりませ

んが、ハローワークと連携したワンストップサービスデイと同じような取り組みとしましては、ハローワーク菊池管内の福祉課及び社会福祉協議会で構成する菊池地域生活福祉就労支援協議会を設置し、福祉部門と雇用部門の連携協力の一つとして、本年度より就業・職業紹介等の巡回相談窓口を福祉事務所内に開設し、就労支援を行うこととしております。各種の相談業務のワンストップ化は住民サービスの向上につながるものと考えますし、庁舎等整備にあたっての基本事項に合致していますので進めてまいります。

２点目の事務フロアの見直し、そして３点目業務システムの構築、フロアの改修と相談窓口設置でございますけれども、ワンストップサービスは、窓口サービスを受ける市民の方が極力場所を移動せずに短時間で目的が果たせることでございますが、本年２月に策定された菊池市庁舎等整備基本構想・基本計画に基づきまして、関係職員により構成する窓口業務改善作業部会を設置して検討を進めてまいりました。計画では、市民の利便性を優先し、市民視点の行政サービスの充実を図ることを本市におけるワンストップサービスの基本的な考え方としています。ワンストップサービスを実施していきます過程においては、現在の業務や事務の流れの見直しや電算システムの再構築が当然必要になってまいりますので、関係各課等で十分協議を行いながら進めてまいりたいと考えております。

また、将来的には複数の業務を固定職員で対応する総合窓口課やハローワーク等を含めた関連機関との連携につきましても視野に入れながら様々な相談に一元的に対応できる総合相談窓口の設置に向けて業務の見直しを図っていきたいと考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　怒留湯健蓉さん。

［登壇］

○１５番（怒留湯健蓉さん）　継続するというご答弁であったので大変安心いたしました。前の政権のときの２００９年に厚労省が実施したハローワークでの職業紹介に際して、今おっしゃいましたような住まいの情報提供や生活保護手続きも一度でできるという事業でしたよね。その後はどうなっているかがわからなかったので、私はぜひ継続をお願いしたいというところでお伺いしたんですが、その事業よりももう少し広げて社会福祉事務所等と連携しながら総合的な支援を行うという体制がもうできているということだったですかね、今のご答弁は。やっていくということだったんですね。大変ありがとうございます。それでは、非常に安心いたしましたが、当時の私の質問に対して、市民部長よりですね、ハローワークとともに市民の仕事探し、それから困りごとの相談や住まいの相談など、総合的な支援を行った結

果、多くの方々の生活の再建のつながったということが報告されています。私はぜひこの継続をお願いしたいと思って今伺ったんですが、非常に安心をいたしました。ぜひよろしく。

それからですね、もう少しちょっと先を考えることとして、ちょっとご提案になりますが、私のささやかな経験なんですけれども、私は市民からのご相談に対して、ハローワークはもちろんですけれども、ある事件では労働基準監督署に、ある事件では市の法律相談に、ある事件ではＤＶ相談室に、ある事件では福岡の自治研に、ある事件では県の労働局に、ある事件では市の消費生活センターにというように、それぞれの専門機関につないで問題解決のお手伝いをしたことがあるし、今もしています。私にできるのですから、市当局にそのご意志があるのであれば、様々な専門機関との連携は可能であると思いますので、少なくともハローワークとの連携の継続、今おっしゃったような事業の継続は進めていただくとして、次からはですね、今言いましたように多くの専門機関との連携をして、そして非常に昨今の厳しい状況に照らして、先ほども生活保護のお話もありましたけれども、そこに至らないようなその生活の総合支援を繰り広げていただくというご意志はありますか。ちょっとその確認をさせてください。

それから、事務フローの見直しでは、いろいろ小さくおっしゃいましたけれども、要約しますとライフイベントごとに発生する、その市民に発生する事務をひとまとめするといいましょうか、集合化をして、それを効率よくつなぐという意味合いに取っていいですか。そういうことですよね。それはワンストップサービスを確立するためには、第一義的な要件として必要なことでありますので、その準備が進んでいるということは大変いいことだと思います。完成を待ちたいと思いますが、それを各課が、これは共有しなければ動いていかないと思うんですね。各課の共有はどうなっているのか。現時点でですね。

それから、もう一つ、業務システムの構築としては、ライフイベントごとに集合化された行政事務と、今おっしゃいました各専門機関との連携による生活の総合支援、それともう一つですね、私はこのまちで熊本市、人吉市に次いで立ち上げていただいたと思っているんですけれども、消費生活センターとのリンクです。このことによって、私もここに何遍かおつなぎしたことがあるんですけれども、消費生活センターのお力によってですね、多くの市民の皆さんが金銭被害を救われたと。そのことによって、精神的にも立ち直ることができたというお話は聞いています。その事例も多く聞いています。まさに生活再建につながったという事例で、よその町ではですね、この生活再建から税の収納率も上がったということを聞くんですね。まさにそのとおりの理屈だと思いますけれども。この業務システムの構築の中にで

すね、消費生活センターをきっちりリンクさせるというお考えはございませんか。

２回目の質問です。

○議長（山瀬義也君）　総務企画部長、野口祐成君。

［登壇］

○総務企画部長（野口祐成君）　怒留湯議員の再質問にお答えいたします。

多くの専門機関との連携という、まずお話でございますけれども、これにつきましてもそれぞれの作業部会で立ち上げた部分で議論しながら現在進めているところでございます。その部分を庁舎等整備専門部会の担当課長さんたちを中心に行っているわけでございますけれども、そしてその上に副市長を中心とした庁舎等整備検討委員会がございます。そして、また市民検討委員会が市民の代表の方２０名でまた今後上げたものを議論していきますけれども、その中において、この窓口あたりの部分でも当然担当課から共有する部分で上げていきたいと思っております。

それと、各課との共有という部分でございますけれども、この協議、相談していることがその中で持ち上がってきた部分で議論を行っておりますので、その部分に該当するかと思っております。

それと、それぞれ問題点というのがございますけれども、まず事務フローの見直しで申し上げますと、それと１点目につきましては、先ほどの部分で継続していくということでお答えしましたので省略させていただきますけど、現在それぞれの部署ごとに行っている事務事業を市民目線によるワンストップサービスの視点で見直しを行うとともに、より効率的、効果的なものになるよう、さらに整理していく必要があると思っております。

業務システムの構築につきましても、ハローワーク等の先ほどの関連機関との業務システムの構築につきましては、業務の関連性を踏まえながら、互いに連携して進めていく必要があると思いますが、先ほど言いましたように、まずは庁内での連携が必要不可欠でございますので、今後組織再編を含めまして部課局を超えた横断的な連携ができるような組織体制づくりを進めていく必要があると思っております。

［「消費生活センターとのリンク」と呼ぶ者あり］

○総務企画部長（野口祐成君）　その部分につきましても、その前段で部課局を超えたといいますか、横断的な連携を図れるような組織体制づくりを進めていく必要があると現時点では思っております。それを、また進めてまいりたいと思います。そして、その中で連携を図れるような形に持っていけたらと考えております。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　怒留湯健蓉さん。

［登壇］

○１５番（怒留湯健蓉さん）　ご答弁では、そのハローワークも含めた専門機関との連携も視野に入れていくというふうなお考えであると受け止めていいですね。それから、事務フローの見直し、業務の構築についても、各課連携して共有するという体制を取っていくということも確認してようございますね。その中に、ワンストップサービスを、より充実したものにするためには、消費生活センターも組み込まれるというふうに思っていいですね。また後で聞きますので、お答えくださいね。いろいろ本当に前向きに取り組んでいただいていることがわかったので、希望をもってお話を進めたいと思うんですけれども、ワンストップサービスを、より充実したその事業として確立するために、今おっしゃいました事務フローや業務システムの、それを統括する、総合相談窓口、もしくは生活総合相談課の新設が重要だと思うんですね。同時に、ここに求められるのは、専門性の高いマンパワーです。制度とマンパワーが有機的に結びついて、初めてワンストップサービスは有効になると思うんですね。実は、もうお調べになっているかもしれませんが、現政権の厚労省も、以前のワンストップサービスデイに代わるものとして、あるいはこれを引き継ぐものとして、従前の縦割り行政を一本化し、必要な支援を一括して提供する、総合相談窓口のモデル事業を予定していると聞き及んでいます。それに関連することとして、政府が示す日本再生戦略の実現に向けた主な取り組みというのがありますが、それによりますと、大きな柱として、すべての人に居場所と出番がある共創の国、共に創ると書く共創の国と、それから超高齢社会等の困難を乗り越え、世界に範を示すフロンティア国家の実現を目指すと書かれています。それを具現化するために、すべての人々のために社会、生活基盤を構築する生活雇用戦略と、世界最高水準の医療・介護を創出するライフ成長戦略を推進すると書かれています。これに伴う膨大な事業が予定されているわけですが、これらの事業は、まさに市民生活を総合的に支援する内容であることから、その事務は住民の暮らしに最も近い、皆さん、市町村が担わされることになるでしょうね。そこで、国はこれらの事務が市町村でスムーズに展開するように、市町村における総合相談窓口のモデル事業等を予定していると思われます。これに手を挙げてやっているところがあるんですけれども。で、当市がこれに手を挙げるか、挙げないか、いずれにしても、肝心なことは総合相談窓口、もしくは総合相談課の設置は本市がワンストップサービスを確立する一里塚として大変重要だということです。総合相談窓口、名前は何でもいいんですけれども、もしくは生活総合相談課の新設とそこを切り盛りする有能な人材の登用、発掘及び育成がワンストップサービスに欠かせない要件ですがどのようにお考えですか。

○議長（山瀬義也君）　総務企画部長、野口祐成君。

［登壇］

○総務企画部長（野口祐成君）　総合相談窓口の設置についてでございますけれども、市民ニーズが多岐に渡ることや専門的な知識が必要なことから、個々の職員の意識改革やさらなるレベルアップが必要となってきますので、人材育成を含めて対応ができるよう進めまいりたいと考えております。

［「先ほどの私が確認をしたこと」と呼ぶ者あり］

○総務企画部長（野口祐成君）　消費生活センターのことですか。

［「それと、ハローワーク以外の専門機関との連携も視野に入れているかということ」と呼ぶ者あり］

○総務企画部長（野口祐成君）　多岐に渡る専門的分野ということでございますけれども、その部分もそれぞれの部署からまた協議を重ねながら庁内で十分検討して、また上げていきたいと思っております。

［「消費生活センターも」と呼ぶ者あり］

○総務企画部長（野口祐成君）　はい。

○議長（山瀬義也君）　怒留湯健蓉さん。

［登壇］

○１５番（怒留湯健蓉さん）　専門性の高い人を育てると、庁内での意識改革等を進めるということでありましたけれども、かなりやっぱり専門性が求められると思うんですね。ちょっと先進のところを調べてみましたら、国家資格とか民間の資格等で消費生活アドバイザーとか、そういう専門委員がいますよね。そういう人の登用等々も考えられているのか。ちょっとそこを人材のところではお伺いします。

○議長（山瀬義也君）　総務企画部長、野口祐成君。

［登壇］

○総務企画部長（野口祐成君）　ただいまのご質問に対しましては、今後検討させていただきたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　怒留湯健蓉さん。

［登壇］

○１５番（怒留湯健蓉さん）　それでは、先ほどお触れになろうとしましたが、フロアについて言いますね。ワンストップサービスの確立のために、そのハードの問題としてですね、ワンストップサービスに見合うやっぱりフロアの設計がいると思うんですね。いくらか説明を受けてきましたが、現庁舎はリニューアル改修であることから制約が多くて、ワンストップサービスの設計が困難であるために、増設庁舎の１階が選択されるということを聞いていますが、そのとおりでしょうか。

それから、図書館について、先ほど来触れられておりますけれども、ワークショップがもう既に終わったんですかね。そこでは、図書館を増設庁舎の１階にすべきだという意見が多いと聞きましたが、そのこととの整合性といいましょうか、それはどう対応されているでしょうか。

○議長（山瀬義也君）　総務企画部長、野口祐成君。

［登壇］

○総務企画部長（野口祐成君）　図書館を１階にというふうなご質問かと思います。それにつきましては、整備方針というか、その中におきまして１階を総合窓口、２階を図書館、３階を公民館施設ですね、生涯学習２階、３階という形になっていますけど、いろいろな図書室を１階にとか、ご意見もございますけれども、利用者の数といたしましては、予測でございますけれども、１階の窓口関係が１１万から１２万ぐらいの、今の実績に基づいた数字の積み上げでございますけど、それと図書館の予測としてが３万から４万ということで考えられていますので、その分に対しますと、当然窓口関係は若い人から高齢者の方までお見えになりますけれども、１階部分のほうが当然利用者が多いわけでございますので、それも含めまして、じゃ図書館を１階に持ってきたから、じゃ窓口関係は２階、３階でいいかというと、そういう議論もあるかと思いますけれども、そういうことを検討した上で１階、２階、３階の計画を出しておりますので、それにつきましては現時点ではそのような形で行っておりますし、説明して、ご意見を聞いております。ご意見はご意見として。ただ、今までも申し上げてまいりましたけれども、その枠の中でできること、できないことというのはあると申しておりますので、できることにつきましてはＵＤ含めまして十分対応していきたいと思いますし、できないことに対しましてはどうしてもご理解をいただくような形になるかと思いますけど、いろんな形でご意見をいただいた分は十分検討をさせていただきたいと思います。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　怒留湯健蓉さん。

［登壇］

○１５番（怒留湯健蓉さん）　フロアについては、１階を総合窓口というただいまの基本的な計画ということお話になりましたが、そうであればワンストップサービスを完結するために総合相談課を１階に設定して、そこでワンストップサービスも完結するというふうに理解してよろしゅうございますか。

○議長（山瀬義也君）　総務企画部長、野口祐成君。

［登壇］

○総務企画部長（野口祐成君）　検討する中では、そのような形になるかと考えており

ます。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　怒留湯健蓉さん。

［登壇］

○１５番（怒留湯健蓉さん）　部長、ご苦労様でした。ありがとうございました。

最後に、総合相談窓口、もしくは生活総合相談課の新設も含めて、市長のワンストップサービスへの期待と市長が描かれている絵をご披露ください。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　ただいまの怒留湯議員さんからのご質問は、ワンストップサービスに私が期待すること、そのイメージということかと思いますが、ワンストップの必要性ということについては、私も大変理解しておりますし、また民間等におきましてはですね、やはり競争が激しい中で、その顧客サービスの充実ということで、やはり今一番大きなテーマになっていることだと思いますので、これが行政の中にも浸透していくということは、ある意味時代の流れだなというふうに感じているところです。何よりこのユーザー、すなわち市民の皆様の立場に立ったときにですね、とりわけいくつもの案件を持たれたり、あるいはその非常に複雑な内容のご相談であったりしたときに、確かに１カ所で１回の話でですね、基本的な事柄が済むということは非常に利便性が向上する話で、大変好ましいことだと思っております。また、このワンストップサービスを通じてですね、実はメリットが出てくるのは市民の方だけではなくて、市役所の中のそのいろいろな横軸での連携というのが、これはいや応なしに求められることになりますので、私どもの仕事の、従来の仕事のやり方そのそのものもですね、大きく見直していかなければいけないと。ともすれば、役所の仕事については市民の皆様から、どちらかといえばお褒めの言葉より批判の言葉をいただくことが多いわけですが、そういった中で、反省すべき点は多々あろうかと思いますので、そういった部分を見直していくいい機会にもなるだろうなというふうに考えているわけでございまして、ワンストップサービスには、そういう意味で私は非常に業務改革とも併せてですね、大変期待しているところでございます。

具体的にどういう機能を持たせるかというところは、まずこれから検討を進めてまいるところでございますので、また機能だけではなくて実際の合理的なレイアウトということ等もきっちりとつながっていかないといかんもんですから、今ちょうどこれから進めてまいります新市庁舎の基本計画とも併せまして、このことをこれから具体的に考えていきたいと思います。

大事なことは、やはり合理性といいましょうかね、この視点というのは非常に大事だと思っていますので、例えばそのワンストップにしたほうがいいものとですね、そうじゃなくて単独で済ませたほうがいいというのはあるかもしれません。そういったものはよく効率性・合理性の観点から峻別しましてですね、本当の意味での利便性、時間短縮といったものにつながるような形で考えたいというふうに思います。

これを進めていく上での課題は多いわけですが、とりわけ先ほどご指摘のあったような、総合窓口という機能自体、これはワンストップを進める上で必ずや必要になることだと思いますので、ネーミングというよりも、むしろその機能についてですね、よくこれから議論していきたいと思いますが、その中で、やはり一番大きな課題になってくるのは、先ほどの人の部分でございますね。先ほどマンパワーという言葉をおっしゃいましたが、恐らく量的なことだけではなくて質的なこともこの中に含めていらっしゃるのだと思いますが、まさしくご指摘のとおりでして、これだけ複雑な社会になっている中でですね、このこうしたワンストップでお客様のニーズ、市民のニーズを受けていくということは、それをさばいていかなきゃいけませんので、かなり広範で深い知識を有してないと、なかなかこのボタンの押し方、つなぎ方がわからないということになりかねなくてですね、かえってそこでボトルネックになって行列ができるということでは、元も子もない話ですので、意識改革も含めて、そういった専門家の育成であるとかですね、教育、レベルアップといったことをやっていかないかん。これはまた短期間でなるものでもない部分もあると思いますので、そういったことも視野に入れながら、計画的にこれから整えていきたいというふうに考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　怒留湯健蓉さん。

［登壇］

○１５番（怒留湯健蓉さん）　期待をして、一緒に進めていきたいと思います。時間ですので、次に進みます。

介護支援ボランティア制度の導入について伺います。本市の喫緊の課題、そして中期・長期の課題として、市民の高齢化の問題があります。本来、年を重ねるということは人生の喜びでなければなりませんが、現実の問題として、介護をする方、される方、そのどちらもが今厳しい現実に直面しています。先月の８月７日に政府の社会保障制度改革国民会議が安倍首相に提出した消費税増税と一体とみられる社会保障制度改革の最終報告書というのがありますが、それを見ますと、医療介護を中心に負担増と給付削減の方向が示されて、漠然とした人も多いでしょう。続く８

月２１日には、政府は閣議で医療や介護など社会保障制度改革の手順を定めるプログラム法案の骨子を決めました。骨子は、社会保障制度改革国民会議の報告書を踏まえて、７０歳から７４歳の医療費窓口負担を２０１４年度にも１割から２割に引き上げるなど、改革方針が実施の時期を具体化して秋の臨時国会に提出するといいます。また、１カ月の窓口負担を一定額以内に軽減する高額医療制度、これも見直し、そういった改革を２０１４年から１７年度までを目途に実施するとしています。介護の分野について解説を見ますと、これはもう毎日動いているようですが、私が調べた８月２１日の時点では、一定以上の所得のある人の自己負担の引き上げが示されて、現状の１割負担から２割負担へ、その境界はですね、夫婦の合計所得が３００万円から４００万円と言われて、合計所得ですから多い額ではありませんよね。また、介護の必要度が比較的低い要支援者である高齢者の介護予防サービスは、介護保険から切り離して段階的に市町村が行う地域包括推進事業に移行するとしています。また、軽度な認知症患者などは、一定の基準や制約もなく、介護保険の対象から外されることも考えられているということですから、家族の負担は労力の面、財政の面、さらに増大すると予想され、本市の介護保険事業はもっともっと厳しいものになるでしょう。こういう現実に対応するためには、私たちは何らかの市独自の施策を考えるときに立たされています。課題として、通告をしておりますように、社会保障制度改革国民会議の最終報告の受け止め方、それからこの報告書と本市の体制と課題について、それから現実に照らした新制度の導入の必要性はないかということ。それから、高齢者施策の民間、これは市民グループですけれども、その連携は可能かということ。さらには、サービス申請を控えざるを得ない、１割負担ができなくてですね、そういう人々への対応についてなどなどが上げられると思います。

これから、以上の５項目について一緒に考えてまいりますが、具体的な提案に入る前に、次の事柄について確認をさせてください。１つは、本市介護保険の保険・医療・介護の連携の現状です。２つ目に、介護予防教室、いろいろ取り組んでいらっしゃいますが、その種類ですね。それから、介護保険のメニューにない利用者固有のニーズ、この３点についてです。これは、簡単にようございますからちょっと確認をさせてください。なお、ここでも市長のご所見は最後に承りたいと思いますので、よろしくお願いをいたします。１回目です。

○議長（山瀬義也君）　健康福祉部長、宮本誠一君。

［登壇］

○健康福祉部長（宮本誠一君）　お答えします。

社会保障制度改革国民会議報告書は、議員の質問にもありましたように、たしか

な社会保障制度を将来に伝えるための道筋として、少子化対策、医療、介護、年金の４分野を中心に議論を続けてきたもので、本年８月６日、安倍首相へ報告されたものです。その中で、介護保険制度については、支援や介護を必要とする高齢者が住み慣れた地域で尊厳ある生活を可能な限り継続できる体制の整備を図る地域包括支援システムの構築こそが最大の課題であると言われています。本市の体制と課題につきましてですけれども、地域の高齢者の心身の健康の保持、保険・福祉・医療の向上、生活の安定のために必要な援助・支援を地域包括支援センターにおいて実施しております。具体的な事業としましては、介護予防事業や総合相談、権利擁護業務、介護予防マネジメント、介護支援専門員の後方支援を行う包括的・継続的ケアマネジメント事業など、関係機関との連携を図り、ネットワークを構築するとともに、高齢者の支援を行う包括的支援事業及び介護家族を支援するための任意事業を実施しており、併せて高齢者の社会参加、生活支援を行う高齢者福祉サービス、認知症の方やその家族を支援する認知症施策総合推進事業を実施しております。本市におきましても、少子高齢化が進む中で一人暮らしの高齢者や高齢者世帯、要介護認定者や認知症高齢者の増加が予想されます。市民の皆様が住み慣れた地域で安心して尊厳あるその人らしい生活を継続することができるためには、今後介護保険制度の公的なサービスに加えて、家族、近隣住民、ボランティアなどの互助によるサービスの構築も必要と考えます。

○議長（山瀬義也君）　怒留湯健蓉さん。

［登壇］

○１５番（怒留湯健蓉さん）　市役所の業務の中でも、この分野は非常に苦労が多いところですよね。制度が変わるし、たくさんのニーズにしっかり応えていくということで苦労が多いことは存じ上げておりますが、その中で、今おっしゃいましたように、可能な限りの連携も、それからいろんなその支援体制も取っていらっしゃいますということを改めて確認しました。私がここで取り上げたいのはですね、介護保険もそんなふうにフル回転させていらっしゃいますが、そのメニューにないために、いわゆる谷間・隙間と言われる利用者個々人の固有のニーズですね、これが介護現場の大きな課題の一つであるわけです。これを今日は取り上げたいと思うんですね。その介護保険の谷間・隙間という大きなその問題として、そういう問題意識があったもんですから、２０１０年の秋に当時の福祉厚生常任委員会は研修のために静岡県の袋井市を訪問しました。それは袋井市が２０１０年度により有償の介護支援ボランティア制度というのを導入して、介護保険の谷間・隙間に対する成果が報告をされていたからだったんですね。私たちは、袋井市の非常に謙虚なその取り組みと考え方から多くの示唆を得て、これならば我が菊池市においても応用編が可

能ではないかと私は思って、その後、各方面の意見を聴取しながら今日の質問を用意したんですけれども、介護支援ボランティア制度とは、ご存じと思いますけれども、厚労省の認可を受けた有償ボランティア制度であって、これは２００７年に導入されて、９月より運用が開始されていますね。地方自治体が介護支援に関わるボランティア活動を行った高齢者、これは法律でいう６５歳からの高齢者に対して、実績に応じて換金可能なポイントを付与するという制度で、財源は今のところ介護保険法の規定による地域支援事業交付金とされているようですが、制度の運営は自治体が介護予防事業として行って、実際の事務手続きは社協がやるということが多いようです。本市でも、導入されるならば、介護予防の効果を上げるだけではなくて、住民同士の連帯の強化も図られて、高齢社会を乗り切る一つの、あくまでも一つのですけれども、一つの手立てになり得ると私は考えます。実はですね、この有償の介護ボランティア制度の導入を視察に赴いた翌年の２０１１年３月議会では早速提案しています。ですが、その後音沙汰なしですので、改めて、あの答弁の後どう研究されたか、お考えをお伺いします。時間の都合もありますので、ちょっと袋井市の要綱を紹介してみましょうかね。袋井市は目的を高齢者自身が社会参加活動を続けることによって、いつまでも元気で自立した生活を送ることができるようにこの制度を設けたと。概要は、６５歳以上の高齢者が市が指定した介護施設でのボランティア活動または地域包括支援センターから依頼された在宅支援活動を行うと、その施設からポイントが付与されて、付与されたポイントの合計に応じて換金交付金を受けるということです。活動はどんなふうに行っていくかというと、まずボランティア登録及び活動保険加入の申し込みをすると。事前研修を当然受けて、手帳及び登録施設情報の一覧をもらって、そして登録施設へ連絡し、実際にボランティアを行うと。そこで、登録施設からポイントをもらうと、これはスタンプが多いようですけれども、それでその後に、次年度に１年分のポイントの換金申請を行うというものですね。在宅支援の場合はご自宅に入ることになりますから、もう少し細かな打合せが必要になると思われますけれども、原則として施設支援のルールが準用されるという中身ですね。述べてきましたように、介護保険の谷間・隙間を埋めるために６５歳以上の元気の方々による要介護者への支援ボランティアを奨励して、そのことを高齢者介護予防の社会活動として位置付け支援することは、今後の高齢者施策の一つの方向だと考えられますので、本市でも、今紹介したような条件の下で６５歳以上の元気な方々に介護支援有償ボランティアになっていただいて、活動に応じ、私は上限は設けた方がいいと思うんですけれども、上限を設けたポイントを付与し、そのポイントは地域通貨とするというようなシステムは、本市では可能だと思われますがいかがでしょうか。そして、この制度のメリットをどう

分析されるでしょうか。

以上です。

○議長（山瀬義也君）　健康福祉部長、宮本誠一君。

［登壇］

○健康福祉部長（宮本誠一君）　介護保険の谷間・隙間の認識と課題ということについてですが、介護予防の効果をより高めるためには、公的なサービスと共に住民参加によります福祉活動への支援が必要と考えております。現在、本市においては地区社協によります生きがいデイや行政区単位によります語らいの場などの住民参加型の活動の支援を行っております。

次に、介護支援ボランティア制度は、介護予防成果・効果だけでなく、地域の活性化や住民同士のつながりの強化により、住みよい地域をつくるための制度として、将来の高齢者福祉の一翼を担うものだと考えます。また、高齢者の方がボランティア活動を行うことそのものが介護予防と併せて社会参加の生きがいづくりにつながるという点で大変有用な制度だと認識しております。メリットになるかと思います。

今後、地域の実態やニーズについて第６期介護保険事業計画策定に伴い、本年度行います日常生活圏調査によりニーズを把握するとともに、先進事例におきます実態や課題等も調査し、国等の動向を見極めながら導入も含め検討していきたいと考えております。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　怒留湯健蓉さん。

［登壇］

○１５番（怒留湯健蓉さん）　私の２０１１年の３月議会で提案したときも、そのようなご答弁があったんですね。これからはもう少し歩を進めるという意味で、思いで進めていきましょうね。メリットを言われましたが、私はですね、この制度のメリット、参加する高齢者に生きがいを与えることができるということが一つ大きいと思うんですよね。それから、地域ケアの推進に不可欠な住民参加の認識を、今おっしゃいましたように、高めることができるということもあると思います。それから、社会参加による元気な高齢者を増やすとともに、新規のボランティアも発掘することができるんじゃないかなと思っています。その結果として、介護給付費の削減が図れるというふうに考えています。だから、導入の意義は大きいと見ていますので、再びここで取り上げているわけですが、介護保険の問題点としてですね、もうちょっと見落とせないことがあるんですけど、導入から１３年ですかね、この間見直しが３回か、４回ですか、行われましたね。見直しの後のほうが、より厳しく

利用しづらくなったという声があるということです。実際にリハビリの回数が減らされた人や補助具の貸与が受けられなくなった例が身近にあるんですね、たくさんある。当事者にとっては非常に深刻な状態です。各自治体は、見てきたように介護保険制度の後退を補うこととして、国がやることだからと、さっきの話じゃありませんけれども、そういうふうに投げ出さないで、これまで以上に実態に即した独自の施策を工夫しなければなりません。それには実態調査がいると思いますが、もっとも新しい実態調査はいつだったのか、そこでどのような課題が確認されたでしょうか。それから、私はいろいろやっている女性の皆さんたちと連携をしているんですが、その一つ、ＪＡ女性部の助け合いの会に所属しているんですけれども、そこでは市との連携が期待されていると聞きます。有償ボランティア制度におけるこの連携はあるでしょうか。

それから、介護の課題として見落としてならないのは、サービスの１割負担ができなくてですね、サービスの申請をしない人がいる。このことを放置すれば、個人の状況を、症状を悪化させるばかりではなくて、事業全体を糾合化させますよね。これについてはどういうご認識があって、どういう準備があるでしょうか。

○議長（山瀬義也君）　健康福祉部長、宮本誠一君。

［登壇］

○健康福祉部長（宮本誠一君）　お答えします。

実態調査ということにつきましては、高齢者の実態把握調査ということで、平成２３年の７月から２４年の３月に６５歳以上の単身世帯の方を対象として実施をいたしております。

続きまして、高齢者の民間との連携につきましてですけれども、平成２３年度に６５歳以上で福祉サービスを利用していない方を対象としまして、高齢者実態調査を実施しております。先ほど言いました実態調査ですけれども、その結果、買い物や外出手段につきましても困っているという回答が多く、そのほかにも話し相手がいない、庭木の処理に困っているなど様々な回答が寄せられています。また、介護サービス利用者や事業所等につきましては、先進地の調査結果では、散歩、外出等の移動補助、話し相手、部屋の花瓶の水かえ、配膳などの補助などの要望があるとの結果を得たものです。

今後におきましても、地域の実態やニーズを把握するとともに、多職種の参加によります地域ケア会議を開催し、個別ケースの問題解決を図り、そのノウハウを蓄積するとともに、地域の課題を整理し、本市に必要な社会資源の発掘、社会基盤の整備、地域づくりなどに取り組むとともに、民間との連携も検討したいと考えます。

また、サービス申請を控えざるを得ない人への具体的手立てについてということですが、介護保険施設に入所したり、短期入所、ショートステイですけれども、サービスを利用したときはサービス費用の１割のほかに食費、居住費が利用者負担となります。食費、居住費の額は施設と利用者との契約で決まりますが、低所得世帯の方の負担が過重にならないよう所得に応じた負担限度額を設定し、基準費用額との差額を特定入所者介護サービス費として施設から市に直接支払うことで負担の軽減を図っています。さらに、本市では菊池市介護保険に係る利用料の軽減に関する規則により、利用料の軽減を定めております。規則では、前年の所得がない、介護保険料を滞納していないなど、一定の要件を満たせば利用料の軽減が適用されます。軽減割合は、通常の利用料に対し、その利用に応じて段階的に全額軽減から２割軽減となります。具体的な理由としましては、震災、風水害、火災、その他、これに属する災害により住宅・家財またはその他の財産について著しい損害を受けた場合や要介護等被保険者の属する世帯の生活が特に困難であるなど、市長が認める場合などが対象となります。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　怒留湯健蓉さん。

［登壇］

○１５番（怒留湯健蓉さん）　実態調査をされて、いろいろな具体的な、細かな課題が明らかになったというんですね。例えば、話し相手がほしいとか、買い物に行ってほしいとか、散歩を一緒にしたいとか、配膳の手伝いをというようなことですね。これらが、いわゆる介護保険のメニューになくて、谷間、隙間なのでボランティアでどうかということですが、その辺も視野に入れた、今制度を研究するとおっしゃいましたが、そういうことも細かに調査をして入っているというふうに受け止めていいですね。入って居るんですね。

それから、申請を控えている人のためにも、一定の要件を満たせば申請しても受けられるというふうな制度があるんですね。それを周知させて、周知して、申請をしていただくようにということを、我々もしなきゃいけませんが、その辺はぜひ力を入れていただくということでよろしゅうございましょうか。よかったです。

それでは、非常にやっぱり苦労のあるところでお取り組みをいただいているということを評価しながら今後につないでいきたいと思いますが、部長のお話は十分立派なものがありました。では最後に、新制度の導入及び、ここでいろいろ取り上げました課題についてですね、高齢者施策を総論としてではなく、それぞれの課題について市長のお考えをお聞かせください。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　総括としての意見ということかと思いますが、高齢者の方がこの菊池市の住み慣れた地域で、できるかぎり在宅で穏やかな生活を続けていただきたいと、これが癒しの里の描く一つの姿でもあるわけですが、そのためには、やはり医療と介護の連携を中心とした様々なサービスがこのいろんな方のニーズや状態に応じて切り目なく提供されることは必要であろうというふうに考えます。お受けになる方々自体が、その体調も含めて様々な状況、環境が異なるわけでございまして、また関係する機関・関係者というのは、今、機能ごとに大変細分化されている時代でございますので、どうしてもやはりこれからのネットワーク化、連携ということは大きな鍵になってくるだろうというふうに思います。そのためには、この保健・福祉・医療、各分野の連携はもちろんなんですが、ボランティアの方も含めたですね、地域にある様々な資源をネットワーク化すると。そしてそれを継続的に、総合的な形で提供していくような地域包括ケア体制と、こういったものをより一層強くしていくことが不可欠だろうなというふうに考えております。

そういう中ではですね、先ほどご提案があっております介護支援ボランティア制度の導入ということは、これは大変有効な手立てではなかろうかというふうに考えております。こうした新しい制度の構築ですとか、今申しましたような関係者のいろんなネットワークによる体制強化ということは必ず隙間や谷間を埋めていく具体的な手立てになっていくだろうなというふうに一つ考えております。また、こうした多くの多職種の方々との協働連携によりましていろいろな会議が催されることと思います。こうした地域ケア会議の中でいろんな個別ケースの問題解決を図っていく。そうしますと、そこでいろいろな問題ごとのケースが生まれてきますので、そこのノウハウを蓄積していきながらですね、地域の課題というのを整理していきたいと。それをベースにですね、この菊池市の人口動態等もにらみながら、当市に必要なこの社会資源の発掘、例えばボランティアというものはどのぐらいやっぱり創り出していかなきゃいかんかとかですね、あるいはいろんな施設等々の待ち解消も含めました社会基盤の整備であるとか、それから行政・住民・ボランティア一体となった、いわゆる共助を目指したその地域づくり、こういったものに取り組んでいかなきゃいかん。こういう中では、当然民間との連携も十分この活発にさせながら進めていきたいというふうに考えているところです。

それから、また低所得者の方へのセーフティネットの対策としまして、特に費用面でのいろいろな支援策を実施してきているところでございまして、保険料の個別の軽減制度ですとか、訪問介護等のその利用料の軽減制度等を実施してきているところでございますけれども、環境的には介護保険を含めたその社会保障制度の改正

が見込まれておりますので、ここら辺についてはよく国の動向を注視して、支援を必要とする人が必要なときにこの必要なサービスを安心して受けられるようにですね、意を注いで取り組んでまいりたいというふうに考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　ここで、昼食のため暫時休憩します。

午後の会議は、１時半から始めます。

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

休憩　午後零時２８分

開議　午後１時２８分

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

○議長（山瀬義也君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、荒木崇之君。

［登壇］

○１番（荒木崇之君）　議席番号１番、荒木崇之です。私の報酬は市民の皆さんの税金らかいただいている、今回もこれを肝に銘じて一般質問いたします。

それでは、通告に従いまして一般質問を行います。

はじめに、市議会議員の税情報の公開についてです。私は、前回の一般質問において、市民の税金から、さらには血税から報酬を得ている市議会議員が仮に市税を滞納している、もしくは滞納していたということであれば、憲法第３０条で定められている国民の重要な義務を果たしていないことになります。まじめに納税をしている市民を愚弄している行為であり、納税に対する市民の信頼を裏切る大きな問題であるので、市議会議員の税情報を公開してくださいと質問しました。しかしながら、江頭市長の答えは、心情的にはわかるが、法律上、いろいろ制約があるので公開できないとの答弁でした。前回の一般質問後に市民の皆さんよりたくさんのお手紙やご意見をいただきました。その中の一つをご紹介いたします。私は、家族４人で暮らす自営業を営むものです。朝早くから夜遅くまで働いていますが、家族４人、食べていくのがやっとの収入しか得られません。しかし、そのわずかな収入の中から税金を払っております。税金を滞納すると差し押さえをされたり、仕事が来なかったりといろいろ制約を受けることになりますので、できる限り生活を切りつめて納税をしております。もし市議会議員が税金を滞納しているのなら、まじめに払っている私たちをばかにしている、腹が立って腹が立ってどうも収まらないので手紙を書きました。荒木さん、この市議会議員の税金滞納疑惑を絶対に明らかにしてください。ほかにも、情報を公開しない限り、市政や市議会を信用しない。江頭

市長は公開すると思っていたのに残念だというようなご意見もいただいたところです。この心強い民意、市民の思いを背に追究していきたいと思います。

まず、平成２４年４月２４日の熊日新聞に、１３人の市職員が税を滞納していた議員がいると知っていた、税を滞納している議員がいたことが明らかになったと掲載されていますが、この報道は本当でしょうか。当時税務課は総務部の所管でしたので、野口総務企画部長にお答えをお願いします。

次に、平成１９年に上益城郡甲佐町においても議員の税金滞納疑惑が持ち上がり、開示請求に対して開示されていますということを前回の一般質問で申しましたが、菊池市においては法律上制約があるので開示できないとの答えであります。それでは、菊池市と甲佐町、どちらが適法なのでしょうか。さらに、この市議会議員の税情報の公開について、市民の方が公開を求めて菊池市と裁判をされております。その裁判で菊池市の公開できない主張の一つに、滞納状況が公開されることによって市議会議員に不利益が生じるとあります。いいですか。滞納状況が公開されることによって、市議会議員に不利益が生じるとありますが、どのように不利益が生ずるのか、具体的にお示しください。

４点目ですが、私たち市議会議員は、公人・公職ですか。

以上、ご答弁をお願いいたします。

○議長（山瀬義也君）　市民環境部長、下田俊一君。

［登壇］

○市民環境部長（下田俊一君）　こんにちは。荒木議員のご質問にお答えいたします。

現在、税務課は市民環境部のほうで統括しておりますので、私のほうから答弁させていただきます。

まず１点目の熊日新聞の件でございますけれども、これにつきましては市議会議員の税情報の開示に関するご質問に関しましては、昨年度本市において税情報に関して情報公開審査会の不開示妥当の答申を踏まえまして、不開示決定を行っている状況でございます。しかし不開示決定の妥当性においては、その後、係争中でございます。現在は裁判所におきまして適宜菊池市として主張を行っている状況でございますので、訴訟に関する事項になりますので、申し訳ございませんけれども回答は控えさせていただきたいと思います。

それと、甲佐町の件でございますけれども、甲佐町が情報公開審査会の答申を受けまして税情報の一部を開示しました件につきましては、甲佐町においては情報公開請求の内容や審査会の答申内容が本市とは異なっており、甲佐町の情報公開審査会の答申を尊重した処分の決定で行われるものでございまして、このことに対しまして本市のほうから適法か、違法かを判断する立場にはないということでございま

す。

それと、市議会議員の現在の裁判中の書面におきまして具体的に不利益とはどういうものかということに関しましても、同様に現在訴訟に関する事柄でございますので、裁判所の決定が下るまで回答のほうは差し控えさせていただきたいと思います。

それと、市議会議員は公職かということでございますけれども、公職選挙法に該当しまして市議会議員は公職であると考えております。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　荒木崇之君。

［登壇］

○１番（荒木崇之君）　ご答弁ありがとうございました。なかなか苦しい答弁ですね。４点目だけお答えいただきましたが、最初の本当ですというのは、答えたら下田部長は地方公務員法第３４条、漏洩にあたりますので答えられないかと思いますが、しかしですね、ここに熊日新聞あります。４月２４日、そして同じく６月２９日に議員の税滞納疑惑くすぶると２つの記事が載りました。このとき、市からは何ら記事の訂正等もされておりませんので、私はこれはあったと、もう認めていることだと思います。

そこでお尋ねしますが、これは市議会議員に滞納があったことを認められたと理解してよろしいでしょうか。また、福村前市長は、平成２４年第４回定例会において、２４年５月末現在で滞納はなかったと答弁されております。お尋ねしますが、２４年５月末現在で滞納はなかった。しかし、それ以前は滞納があったということでしょうか。江頭市長は、第三者委員会である審査会の決定を尊重して公開しないと答弁されました。しかし、菊池市ではその審査会の内容さえ非公開なんです。多くの先進的な自治体は、審査会の内容や議事録、すべて公開であります。市長も情報の共有化、見える化を掲げているなら、今後は審査会の内容を公開すべきと、これは提言いたします。市議会議員はお答えいただいたとおり、公職選挙法で選ばれた公人であり、公職にあるものなのです。先日、７月２日の熊日新聞で県議会議員や熊本市議会議員の所得、預貯金、資産が公開されました。首長も同じです。江頭市長にも調査があっているかと思います。これは、政治倫理を確立するため、資産公開制度に基づき公職の資産を毎年公開しています。菊池市は、地方税法第２２条を盾に公開しないとしていますが、所得、預貯金、資産、というのは、この２２条で言えばトップシークレット、いわば一番公開できない情報です。しかし、資産公開制度では、公職であれば公開しなければならないのです。私が公開してくださいと言っているのは、公職である議員がいくらもらっているかという一番の秘密では

なく、もっと秘密度が低い市議会議員がいくら税金を払っていなかったのか、あるいはいないのかという情報なのです。滞納状況が公開されることによって、市議会議員に不利益が生じると菊池市は裁判において主張されております。では、市議会議員が滞納していたならば、菊池市に、さらに市民に不利益が生じているのではないでしょうか。市議会議員個人の不利益と菊池市及び市民に対する不利益、どちらが市にとって重要なのでしょうか。

以上、滞納があったと認めるのか、市及び市民に対する不利益をどのようにお考えなのか、お答えください。

○議長（山瀬義也君）　市民環境部長、下田俊一君。

［登壇］

○市民環境部長（下田俊一君）　荒木議員の２回目のご質問に答弁いたします。

新聞の件と前市長の見解でございますけれども、共に市会議員の税法に関するご質問に関しましては、先ほども申しましたように、現在裁判中でございますので、訴訟に関する事柄に関しましては、裁判の決定が終わるまではですね、回答は控えさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○議長（山瀬義也君）　荒木崇之君。

［登壇］

○１番（荒木崇之君）　裁判中なので、裁判中なのでお答えできない。弁護士の意向、ということはですよ、職員要らないじゃないですか。市の意向を伝えて、その弁護士が裁判でその意向を伝えているわけでしょう。私は、どのような不利益が市民にありますかということをお尋ねしているんです。そこだけでもお答えいただきたい。

次に、情報公開法第７条では、こう記載してあります。行政機関の長は、行政文書に不開示情報が記録されている場合であっても、要は出せない情報というふうに記録されている場合であってもですね、公益上特に必要があれば、開示請求者に開示することができるとあります。公益上、特に必要があるときという解釈ですが、個人を識別できる情報であっても、個人情報ですね、情報であっても、人の生命・健康・財産を保護するため、公にすることが必要であれば開示しなければならないと情報公開法、これは菊池市の情報公開法にも記してあります。私は、公職である市議議員が税金を滞納している、もしくは滞納していたということは、菊池市、ひいては菊池市民の不利益であり、市の財産、市民の財産を脅かしていることになります。財産保護の観点から、開示しなければならない情報であると解釈しますが、江頭市長はどのように解釈されますか。お尋ねいたします。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　ただいまのご質問は、情報公開に関する公益の考え方に関するご質問かと思います。私ども菊池市では、情報公開法に則りまして菊池市の情報公開条例というのを定めておりまして、基本的には妥当な理由を持った、いわゆる不開示情報に該当する場合を除いて、当該行政文書は開示しなければならないというふうになっております。不開示情報の中には、法令・条例等で公にすることができないと認められているもの、個人に関する情報、それから様々な事務の中で、当該事務または事業の適正な遂行に支障を及ぼす恐れがあるもの、その中で個別事例としては、租税・徴税関わる事項ということも明記されております。その中で、そういった不開示情報を定めながら、原則公開というふうにはしておりますが、今議論になっている情報は、この不開示情報にあたるわけでございます。しかしながら、一方で菊池市情報公開条例の９条によりますと、公益上、特に必要があると認めるときは開示することができるという定めがございます。一方でいろいろな理由から不開示情報として、それを守る立場を取りながら、一方で公益上の必要性というのを認めますと、これは非常に恣意性が入る可能性もあるわけですから、この公益上の必要性があるかどうかを行政の一人ないしは少数のもので決めるよりは、これは第三者も入れた客観的な視点でこれは判断したほうがよろしいという考え方から、当市では情報公開に関わる審査会というのを設けまして、５名の審査委員の方にこの判断をお願いしているところでございます。今回の場合も、この審査会の審査の結果ですね、これは公益も勘案した結果、総合的に判断して不開示が妥当であるという結論に至りまして、それを受けての私どものただいまの基本スタンスでございます。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　荒木崇之君。

［登壇］

○１番（荒木崇之君）　ご答弁いただきました。情報公開法、情報公開条例ですね、私この目的という部分が一番条文の中で好きなんです。ちょっと読ませていただきます。目的、第１条、この条例は日本国憲法が保障する地方自治の本旨に則り、市政に関する国民の知る権利を尊重し、行政文書の開示を請求する市民の権利を明らかにするとともに、情報を積極的にわかりやすく提供する責務と市民が等しく市と情報を共有するための情報公開の総合的な推進に関し、必要な事項を定め、もって市が市政に関し市民に説得する責務を全うし、市民の理解と批判の下に市政参加による公正で透明な市政の推進に資することを目的とする、素晴らしい崇高な内容なんです。でも今の菊池市の情報公開は、これには全く則っていません。自分のいいよ

うに法を解釈しているだけなんです。これでこの質問は終わりにしますが、守るべきと５万人の市民か、それとも法の解釈をねじ曲げてでも公開しない情報か、江頭市長、一度お一人になられたときにゆっくり考えてみてください。考えれば自ずと答えは出るのではないでしょうか。市長として守らなければいけないのは何なのかを。何度も言いますが、私は誰に何を言われても、どんな圧力を掛けられても、この市議会議員の税金滞納疑惑は必ず追究してまいります。このことを市民の皆さんにお約束して、次の質問に移ります。

次に、菊池市文化会館の土地の賃借料について質問いたします。菊池市文化会館は、合併前、合併後と幾度となく一般質問され、当担当委員会においても、毎年議論の対象となっております。旧市議会議員の方の中には、文化会館を負の遺産とやゆする方もあり、また市民からも噂が噂を呼び、あまりよい評判は聞きません。それを表すかのように、合併前の一般質問において、中原繁議員が文化会館の固定資産税の課税を宅地ではなく農地課税されていたことを指摘されております。新人のこの前上がったばかりの私が言うのも失礼ですが、これがまあ実に確信を付いたよい質問でありまして、この質問を受けて、執行部は固定資産税の課税を改め、平成１０年から宅地課税に改正してあります。この固定資産税については、中原議員が改善されましたので、私は土地の賃借料についてどうも腑に落ちない契約でありますのでお尋ねします。文化会館は、昭和５３年に６０年の賃借契約が結ばれており、現在まで合計３６回、金額にして約２億７千万円の支出がされております。あと２４回残っており、平成４９年まで契約は続きます。ここに拡大したボードがあります、契約書を。読みます。その中の第３条、賃借料は年間４００万円とする。２、翌年度以降の賃借料については、前項の金額に人事院勧告による菊池市職員の給与改定の平均上昇率を加算した額とすると、実にわかりにくい契約です。要は、公務員の給与が上がれば、そのパーセントに応じて賃借料の４００万円に加算されるということです。例を挙げましょう。契約額は４００万円です。今まで人事院勧告で一番上昇したときで、これはもうかなり前ですね、６％です。４００万円に６％を掛けると上昇額は２４万円です。賃借料は、その上限額と固定資産税額を加算した額となります。そこで、固定資産税額を現在の単価から１５０万円と仮定しましょう。賃借料４００万円に上昇額２４万円、それに固定資産税分１５０万円を足しますと５７４万円となります。ところが、毎年約１，０００万円の賃借料が支払われております。その差額、なんと年間４３０万円。

そこでお尋ねしますが、契約書の第３条の賃借料の解釈について、私が説明した解釈でよろしいでしょうか。監査委員にお尋ねします。また、支出した教育委員会には支出の内訳をお示しください。

○議長（山瀬義也君）　教育部長、中村鉄男君。

［登壇］

○教育部長（中村鉄男君）　それでは、荒木議員のご質問にお答えいたします。

菊池市文化会館の土地賃貸借契約書第３条第１項及び第２項に定める賃借料の解釈についてでございますが、顧問弁護士に契約に係る相談をいたしました結果、本契約第３条第２項では、ご紹介ありましたとおり契約締結の翌年度以降の賃借料については、前項の金額に人事院勧告による菊池市職員の給与改定の平均上昇率を加算した額と規定をされており、一見すると議員ご指摘のように賃借料は４００万円プラス当該年度の人事院勧告による上昇率であるかのように読めます。しかしながら、本契約の第３条の当時の趣旨は、文化会館の賃借料を公務員の給与の上昇に合わせて増額していこうとするものであったと解され、また人事院勧告は改定率を勧告するものであることからすると、本契約における賃借料も前年の賃借料を基礎として次年度の賃借料を人事院勧告に従って増減することを想定していると思われますという回答をいただいたところでございます。したがいまして、これまでの賃借料の支払いについては、現在のところ妥当であると解釈をいたしております。

次に、土地賃借料の内訳についてのご質問ですが、第３条第２項により積算された賃借料と第１２条に規定してあります固定資産税分を加算しまして支払いを行っているような状況でございます。その上で土地所有者より固定資産税を納付いただいているような状況でございます。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　代表監査委員、宮川貞雄君。

［登壇］

○代表監査委員（宮川貞雄君）　菊池市文化会館の土地賃貸借契約書における第３条の解釈についてのお尋ねでございますが、この契約書を見る限りにおきましては、議員解釈のようにも受け取られますが、先ほど教育部長のほうからご答弁もありましたが、翌年度以降の賃借料につきましては、前年度の賃借料をベースに人事院勧告による上昇率を加算し、今日まで、先ほど３５年間に渡り支払ってこられており、何ら双方からの異議もなかったというようなことは、人事院勧告による上昇率を順次加算していくことが取り扱ってこられていたのかと判断します。

また、担当課は毎年このような計算を基に算出した賃借料を議会に提案し、ご承認をいただいております。このようなことから、翌年度以降の賃借料につきましては、前年度の賃借料をベースに人事院勧告による上昇率を加算した算出でよいのではと考えます。ただし、この契約書はいろいろと解釈の仕方によっては疑義を持たれるところもございますので、できるだけ具体的かつ詳細に記載し、解釈に問題が

ないように変更されたらと考えます。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　荒木崇之君。

［登壇］

○１番（荒木崇之君）　今のご答弁をわかりやすく言いますと、最初が４００万円と、１０％上がったら４４０万円、また次の年１０％上がったら４４０万円の１０％４４万円をプラスして４８４万円と、これはネズミ講式に増えていきますよ。今がたまたま不景気だから、公務員の給与、今はマイナスですから上がっていませんが、今後上がっていくなら、あと２３年、どれだけ上がっていくかわからないじゃないですか。そして、市民プール南側の職員駐車場、これも借りておられますが、菊池市が。ここは年額いくらと定額なんです。こんな変な条件は付いてないんです。同じ路線でありながら、片方はこんな変な解釈、片方は定額、市として整合性が取れないんじゃないですか。私は、弁護士、弁護士とおっしゃいますので、そう言われると思ってですね、７月３日にこの賃借契約の解釈について４人の弁護士に相談に行きました。領収書もここにあります。その４人の弁護士からの答えは、私が述べた計算の解釈で間違いないとのことでした。そして、拡大解釈しても４００万円に上昇率を加算し累積するなんという解釈はできませんときっぱり言われました。この契約書のどこにも上昇率を累積するなんていう文言は一切出ていません。勝手な執行部の解釈なんです。その証拠に、前項の金額に、つまり４００万円に上昇率を加算すると明記してあるじゃないですか。どうしても認めないというならは、仮に上昇率を累積すると仮定して計算してみましょう。ボードがあります。ご覧ください。この支払額は執行部から出されたものです。上昇率は人事院勧告から調べたものです。平成１２年に１，０６０万１，４６４円、平成１３年に１，０６０万１，４６４円、同額ですね、平成１４年に１，０６０万１，４１２円支払ってあります。平成１２年は０．１２％が給与上昇率ですので、上昇しているはずなのに１３年は全くの同額です。さらに１３年は０．０８％給与が上昇しているのに、平成１４年は５２円下がっています。どうしても計算が合いません、累積でいっても。固定資産税の下落額を調べましたが、平成１３年が前年よりも約６万９，０００円程度下落しております、ここからここですね。平成１４年も１３年から６万９，０００円程度下落しております。固定資産税の変動では、ここに示した金額にはどうしてもなりません。このことについてどうご説明されるか、お願いいたします。

○議長（山瀬義也君）　教育部長、中村鉄男君。

［登壇］

○教育部長（中村鉄男君）　再質問にお答えを申し上げたいと思います。

ただいまお尋ねがありました金額の相違の件でございますが、荒木議員の質問の通告を受けまして現在の担当者のほうで連日一生懸命に以前の書類や以前の担当者等に掛け合ったりして調査をいたしましたが、大変申し訳ございませんが、その理由につきましては明確なところがわからなかったところでございます。

以上、答弁いたします。

○議長（山瀬義也君）　荒木崇之君。

［登壇］

○１番（荒木崇之君）　平成１２年から１４年といいますと１０年以上経過していますので、近々のところをお示ししたいと思います。まだお認めにならないというならですね。合併後の平成２１年から２３年をボードで記しています。平成２２年に８９２万3，１１２円が平成２３年には９０２万9，９１０円が支出され、１０万6，７９８円増額しています。しかし、給与の上昇率はマイナス0．１９と下がっています。さらに、固定資産税は約、これも税務課で調べましたが１３万円下落しております。ですので、増額するなどあり得ないのです。ところが増えている。２２年から２３年まで増えている。これは、先ほど言われてた累積というのがもう完全に崩れているんじゃないですかね。私はそう思います。私は、中村部長一人を責めているのではありません。こんなおかしな契約をした当時の市長、そしてそれを改善しなかった歴代の市長、執行部、議会も責任があります。江頭市長、前歴は銀行員さんですね。よく耳にする話で、銀行は1円でも合わないと帰れないとよく言いますね。市の支出もそうなんです。市民の方に1円でも説明のつかない支出はできないのです。

そこで、この契約が市長になっていますので、江頭市長じゃないですけど昔の市長になっていますので江頭市長にお尋ねしますが、今までの文化会館の賃借料の支払いは不正な支出だと思いますか。お聞かせください。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　文化会館の土地賃借契約についての私の見解ということでございますが、私なりに過去に遡って契約書等も点検をいたしました。まず、ご指摘になっておりましたその上昇率を加えていくというくだりですね。これは、文言をそのまま捉えますとですね、荒木議員さんがご指摘されているような懸念にこれはつながるなというふうに思います。ただ、契約書というのは、これはどこでもそうですが、当事者の合意内容を文書にしたものでありますから、文書から始まるんじゃなくて当事者の合意内容がなんであったかと。よく書き違いとかですね、思い違いなんかがありまして、よく契約書を巡ってその裁判があったりするんですが、その

際に一番やっぱりよりどころになるのはですね、ところでお二人はどうしたかったんですかと、必ずここに戻るんですね。これがないとお互いが平行線になるわけでして、そういう意味では言葉の解釈でここで今この異なる説がある際には、必ずですね、もともとは何を合意しようとしたのかと、ここが一番大事になるわけでございまして、３５年前のことでございますから、今当時者はここにはいらっしゃいませんけれども、市役所のこの給与改定率を乗っけるということは、これはよく不動産の取り引きであることですが、いわゆるインフレ率を加味していくという考えなんですね。そうしませんと、特に本件は６０年という非常に長い契約ですから、６０年後の相場というのは誰にもわからないわけですね。物事はこの基本的には右方上がりに上がっていく、あるいはデフレになるかもしれません。そうすると、双方当事者にとってですね、やはり一つ安心になるのは、じゃ物価がスライドした分はその分は変えていきましょうねと、こう考えるのはこれは私ども、別に専門知識なくてもですね、普通の市民生活において普通の決めごとなわけですね。そのインフレ率といいますと、またいろいろと人によって都合のいい数字が出てきますので、それを一つ客観的に表すものとして、菊池市の職員の給与の、いわゆるベアアップですね、この改定率を持ってきたんだと思います。でそのこと自体は不動産取り引きとしても、通常の商取り引きとしても非常に普通のことだなと思います。ですから、本件はもう３５年に渡ってですね、当事者からは特段、今おっしゃったような指摘もなく、恐らくそういう意識もなかったんだと思うんですね。というのは、合意内容自体はインフレ率を反映させていきましょうという理解であったと思われますので、だからこそ３５年間誰も何も言ってこなかったと思うんですね。つまり、取り引きの実態というものは、まさしくこの４００万円をスタートとして、そこからインフレ率を上下させていくというわけですから、普通の不動産取り引きと同じように、その賃料というのはインフレのときには加算されていくし、デフレのときにはそこから下がっていくという考え方、非常に合理的でありますし、極めて常識的にも納得できるものであると思います。

ただ、契約書の文言がですね、いかにも当時ちょっとまあ稚拙であったなということは、これは大いに反省しなきゃいかんと思いますね。たまたま合意事項がはっきりしていますし、それから市役所とそれから地主さんという、非常に取引関係が明確で、相手も、素性もはっきりわかっている、双方でございますからこの問題がなかったわけでございますから、今後の反省としては、こういう契約文言についてはきちっとですね、ご指摘があったように、一切誤解を招かず客観的に、合理的に説明がつくような、そういう契約文言に変えていかなければいかんと思いますので、これから他山の石としてですね、私どもの行政に少し反映させて、緊張感を持

って今後の契約事務にあたらせたいと思っている次第でございます。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　荒木崇之君。

［登壇］

○１番（荒木崇之君）　今、市長がおっしゃったのは、累積していくのは物価上昇率だとか、インフレ率で適当じゃないかということなんですが、私がそこを言っているんではなく、累積すると計算してっても計算が合わないんですよ。どう計算してもですね。そして、先ほどおっしゃった、お互いが納得していればいいだろうという話は、民と民の間では、これは成立します。よくある話です。親父が隣の人に１００万円がたの土地を変えたと、１００万円と土地を変えたと。息子の代になってもめたというのは、契約書も何もないからもめたという話はよく聞きますが、これは税金で支払われているんです。税なんです。市民の皆さんの血税なんです。ということはですね、私はその解釈の違いはいろいろあると思いますが、その解釈の違いをですね、すべて出してくださいということで情報公開を請求しました。ここに私が情報公開請求に係る行政文書の件名、読みます。菊池市文化会館の土地賃借契約書及び付属する覚書等とあります。先ほどおっしゃったような覚書やそういうのがあれば、何で私に提示していただかなかったのか。これは、おかしいですよ。覚書等とちゃんと書いてありますので、そういう資料はすべて提示していただきたい。ややもすれば、これは情報公開法違反ではないかと思います。ここについては、いろいろ執行部の方も大変ですので問いませんが、市長、私はこれは明らかに不正な支出だと思います。市長はこの不正な支出を明らかにするために、第三者委員会を設けて、この問題を明らかにする考えはありますか。お尋ねします。もし、市長が第三者委員会をつくらないのであれば、私は市議会の皆さんの賛同をいただければ百条委員会の設置、もしくは住民監査請求をして不正があれば告発する考えがありますが、どういたしますか。市長、お答えをお願いいたします。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　ご指摘のその金額自体に誤りがあるんではないかという疑義かと思いますので、その点についてはこれまで精査をしたはずではございますが、もう一度私の責任においてですね、調査をさせたいと思います。その結果については、またご報告をさせていただきたいと思います。

以上です。

○議長（山瀬義也君）　荒木崇之君。

［登壇］

○１番（荒木崇之君）　今まで議会の委員会や一般質問においてですね、おかしいから調査をする、弁護士に相談するという答弁はいくつかあっております。しかし、その後報告がなされていません。今回の江頭市長のその発言、私は信じたいと思います。有余を持って、そして見守りたいと思います。もし本当におかしいという不正があればですね、不正な支出であれば、江頭市長、あなたのときに改善をしてください。じゃないと、あと２３年、２４年ですか、この契約は続きます。市民の大切な税金が不正に支出されないことを願います。

最後に、この質問を聞いておられるであろう本庁及び支所の職員の方にお願いしたい。今回発覚したおかしな契約及び支出は、氷山の一角ではないですか。このような前例でまかり通ってきたこと、おかしなこと、疑問に思うことがあれば、わかるのはあなたたち職員ですから、どんどん市長にぶつけてください。年齢、役職、旧市町村に関わらず、その思いを市長にぶつけてください。不適切な支出や契約を改めるのは職員しかできません。問題意識を持って公務にあたることこそ無駄な支出を防ぎ、市民の税金が有効に使われるものと思います。市長も職員の意見が上がってきたなら受け止めてください。そして、トップダウンで改善してください。受け止めないなら、私はあなたの敵になります。受け止めるなら、必ず市民はあなたの見方になるでしょう。

以上で私の一般質問を終わります。ご静聴、ありがとうございました。

○議長（山瀬義也君）　ここで、１０分間暫時休憩します。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

休憩　午後２時１５分

開議　午後２時２５分

―――――――――――――――○―――――――――――――――

○議長（山瀬義也君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、境和則君。

［登壇］

○２３番（境　和則君）　境でございます。６月に一般質問をやっておりませんでしたので、まずは菊池市新市長、江頭市長が大変な菊池市の付託を受けられて当選されたことを心から期待してお喜び申し上げます。

また、副市長は大変関心ごとがある人物でしたけれども、これもまた我々が想像する以上に行政マンの県の職員のＯＢということで、非常にバランスの取れた人事案だと思って、こころからまたお喜びを申し上げます。どうぞよろしくお願いいたします。

一般質問を、議長の許可をいただきまして質問をさせていただきます。

皆さんもご存じのとおり、新市建設計画は、合併をした４市町村の合併後の新市建設計画を総合的に、かつ効果的に推進することを目的とし、４市町村の一体性の速やかな確立及び住民福祉の向上を図るとともに、地域の均衡ある発展に資するように配慮して、平成１７年度から平成２６年度までの１０カ年の期間をもって策定されたものだと思います。また、計画の策定にあたっては、住民のまちづくりに対する意向や地域のバランス及び財政面にも考慮をしながら策定されておられます。

このような中、平成２３年３月１１日に東日本大震災が発生し、復興事業に専念をする被災地に限って延長されました合併特例債の発行期限が平成２４年６月に合併をした被災地以外の市町村においても発行期限の５年間延長が決定をされました。しかしながら、菊池市の平成２１年度以降の財政状況を考えた場合、交付税の段階的な縮減を経て、平成３２年度では一本査定になり、大幅な歳入の減少が考えられます。また、不透明な景気や社会情勢から、国の財政も大変厳しくなることが考えられますが、そのような見通しの中で合併市町村を国が財政上支援する合併特例債の活用は、本市においては大変有利なものであり、有効活用する必要があると考えております。

そこで、現在新市建設計画の見直しと総合計画の策定が行われておりますが、私も菊池市議会ですから菊池市全体のことを考えなきゃなりませんが、本日はとりわけ七城地区において本年６月議会定例会で合併当初の新市建設計画の旧市町村別での配分に対する執行率が大変低いのが私ども七城町ではないかというような質問がありました。私もそのように考えております。今回の計画の見直しに併せ、先に述べました計画の目的に考慮し事業執行の均衡を保つため、事業をし、優先順位と申しますか、実施をしていただきたいと思います。具体的に申し上げますと、老築化している七城町ふれあいプラザ、七城老人福祉センターなどの周辺整備を含めた改修整備であります。また、２つには、県内外からの大変利用の多い温泉ドーム駐車場やリバーサイドパークの整備、それに伴う市営住宅、見てみられるとわかりますが、本村住宅、蛇塚団地の集約化の整備。３番目に、これはもう我々が勉強させていただいたようなものでありますが、市のほうにも関係地域から要望があっております歩行者を含めた道路の安全な確保をするため、菰入新橋架け替えや、仮称ではありますが新古閑長田線などの道路改良整備、また西郷南洲先生祖先発祥の地、菊池源吾発祥の地で知らせる西郷地区の公園整備。４番目、豊かな自然を生かした鴨川河川に公園整備など、まだまだ七城地区として取り組みが必要な事業があります。また、これらの事業は、組み合わせることによって市長が所信表明の中で申し上げられました菊池の自然の恵みを守り、自然を生かして、穏やかな発展を続けていく安心安全の癒しの里や、自然力を生かした農業観光を組み合わせた桜やほたる

など、本市の特性を生かし、心に訴える仕掛けや仕組みづくりを推進できると考えております。今後、見直しが予定されております新市建設計画、平成２５年度から平成２６年度２カ年で策定される新総合計画の中で、各地域間のバランスに配慮した具体的な事業はどこで反映をされていかれるのか、質問をいたします。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　ただいまのご質問でございますが、現状を踏まえて今後の計画見直し等が予定されているその新建設計画、あるいは総合計画策定の中に、現状、足下の見直しプラン等をどういうふうに入れていくのかと、こういったご質問であろうかと思います。

まず、大きく２つのものがございます。新市建設計画というものと、いわゆる総合計画でございますね。まず、新市建設計画のほうでございますけれども、ご存じのとおり菊池北部４市町村の合併協議会におきまして、新市の建設を総合的かつ効果的に推進しようということを目的にしまして、４市町村の一体性の確立と、それから住民福祉の向上ということを狙いとしまして、特に地域の均衡ある発展に資するように配慮して策定された計画でございます。計画の策定にあたりましては、国・県の計画等の整合性を図りながら、新市の将来を展望して、そして住民のまちづくりに対する意向や地域のバランス等に考慮しながら健全な財政運営が確保されること、こういったふうな目配りをしながら、これを基本線として策定したわけでございます。

また、財政計画を検討する中で、それぞれの市町村の標準財政規模の過去３カ年平均の比率に応じた枠配分で、道路排水路等の生活基盤の整備ですとか、公共施設の整備等々、緊急性・必要性というのを考慮しまして、合併後１０年間の普通建設事業計画が作成されたというものでございます。

この計画の変更は、昨年の６月に合併特例債の発行期限が５年間延長ということが決定されましたので、それを受けまして、この新市建設計画の基礎資料として作成しました普通建設事業計画自体の変更見直しが必要となっております。

これまでの一般質問でお答えしておりますように、旧４市町村の合意に基づいた計画でございますので、私としてはこれをまず基本に尊重していきたいというふうに考えております。しかし、境議員が言われましたようにですね、８年、９年経ったところで、この旧市町村間の枠配分に対する進捗状況にはばらつきが生じているのは確かでございます。とりわけ七城地区においては、その進捗率が低い状況にあるということは私も認識しております。ですから、旧市町村から出された事業計画につきましてはですね、一つには期間内に完了できる事業であるかどうかという精

査を加えなければいけませんが、その中には恐らくですね、様々な理由で事業実施の見通しがもう立たないというものもいくつかあるということは承知しておりますので、新たにその状況変化、環境変化等で必要としている事業がないかどうか、これを検討していきたいというふうに考えておりますので、この新市建設計画の５年延長の中でですね、今おっしゃったような足下のニーズについて、よくご意見をお聞きしながら検討を加えていきたいというふうに思っているところです。

また、合併特例債５年間の発行期限の延長というのは決定しているわけですけれども、一方で普通交付税が平成２７年度から段階的に一本算定のほうに移ってまいりますので、３２年度以降は大幅な財源不足が現状は予想されるところでございますので、財政基盤の強化を急ぐ必要がございます。

以上のようなことから、見直しのこの基本線としましてはですね、様々なニーズをまずお聞きして、それから国・県の補助による継続事業ですとか、それから緊急性・重要性等を勘案して、それから今一度４市町村間の均衡に配慮するという軸で事業を選択して見直しを図っていきたいというふうに考えております。

なお、変更見直しにあたりましては、新市建設計画の普通建設事業計画自体がこの各事業の積み上げで成り立っておりますので、各事業をお示ししながら地域審議会等の意見を十分踏まえて進めていきたいというふうに考えております。

次に、総合計画でございますけれども、ご存じのとおり本市の最上位計画として位置付けられるものでございまして、平成２７年度以降の計画につきましては、現行の総合計画をもう一回評価し直してですね、アンケート、ワークショップ等を通じまして市民の皆様からの意見もちょうだいするなどして、本年度から新しい総合計画の策定に着手しとるところでございます。今回の総合計画策定の中では、中長期的な視野に立ってのこのまちづくりの理念と目標ですとか、それから将来像を示す基本構想、それから基本的施策を実現するために必要な手段、施策等を体系に示しました基本計画、こういったものを策定してまいります。先ほど申しましたこの新市建設計画の普通建設事業の中で見直しを図られた事業ですとか、七城地区の個別の事業などは、今回のこの総合計画策定業務の中には含まれておりませんので申し添えておきます。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　境和則君。

［登壇］

○２３番（境　和則君）　市長さんの部局には、当然市民から、市長と語る会のときもたしか町民の方からお話があったと思いますね。これは、私どもが考えたのではなくて、やっぱりその地区の人たちが非常にその自分たちが住んでいるところが素晴

らしい、しかし交通の便が、学童保育の問題やら、交通事故の問題やら、鴨川公園については路肩に駐車されてですね、大変迷惑をされているということから、また菰入新橋については、たしかもう４０年近いということ、国交省のほうもやっておるということで、住んでおられる地域の方たちが発案されて、我々議会にお示しをいただいたんですね。感動しました。議長もおられるし、ほかの議員さんもおられますから、ちょっと読ませていただきますとね、菊池市におかれましては、江頭市長の下、地域に合った事業の実施、農業特産品のブランド確立、温泉や渓谷などの環境の活用、自然力を生かし、活性化のため行財政運営がなされることに対しまして、心より敬意を表すものでございますと。そこで、地域発展の市道改良工事の要望書を６地域連名で提出します。七城地区住民にとっては、菊池経済圏、山鹿経済圏、熊本経済圏を結ぶ産業生活基幹道路として利用されている市道・県道は、生活行動の重要な道路であり、市道・県道の整備は地域の発展にはなくてはならない整備が望まれていますと。特に、間所は私が住んでいるところですから、板井線の菰入新橋には、老朽化が進んで将来架け替えが必要となりますと。橋の架け替えに伴い、鴨川右岸の改良工事を望むにあたりますと。鴨川右岸は、サッカー場や東側では菊池川、菰入橋まで整備が終わっております。樋門横から県道辛川鹿本線のアクセスを望む、これは一回テレビでも出ましたね、板井のメロンが、集荷場があるところですね、そういう事業にあって、合併に伴う新市建設計画の事業配分に取り組んでいただき、また道路整備により、農業、通勤、通学並びに支所の中心部にある公共施設や七城グラウンド、鴨川有効活用や県道辛川鹿本線の利用が多くなると思いますと。菰入、宮園改良につきましては、市営グラウンド東側の市道から菊池川堤防に上がり、グリーンロードのアクセスを望み、またそれぞれ諸々お話をされてですね、要望が上がっております。全くそのとおりだと思いますね。七城も教育委員会関係に関しますが、やっと１学年５０名ぐらいを保っておりながらも、やっぱり疲弊しないように新しい環境の核づくりを望んで、活性化は均衡ある活性化としてやっていかなきゃならないということで、私も感動をいたしておりますしですね、ぜひやっていただければ大変素晴らしいと思うんです。これは我々議員が言ったんじゃなくて、地域の人たちが、住んでいる人たちが、市長もですね、職員さんも通られると、夜はですね、道路が狭くて、やはり心配です。朝夕は通勤が激しゅうございます。それから、板井地域からはですね、学童さんたちの歩道がないということで大変危険に感じられております。たまたまそういうことで考えられましたのがサッカー場の東側の道路整備ができておりますので、そこに橋を架けて県道辛川鹿本線につないだならば、そこにまた桜を植えれば、温泉ドーム、板井園芸集荷場、それから七城町の市営体育館グラウンド、素晴らしい一つの、県が実質的に自

然鴨川公園としてつくったところでありますので、これは非常にひとつの大きな菊池市の力になると信じて疑わないということで、私大賛同いたしておりますので、総合計画には、今、市長が述べられましたように理念と理想を掲げるということですけれども、再質問になりますけれども、実際この事業面には、じゃどこでどのような計画に乗せられるのかですね。市長でなくても結構ですけど、担当部長でもよろしゅうございますが。私が考えまするには、基本構想、基本計画、実施計画とあると思いますけれども、どのような格好で載せられますか。

それから、質問外になるかもしれませんけどもですね、やはりこの七城町は、前非常に一生懸命頑張って整備が整っとったんです。ですから、合併してよくなったとは、いいことは何にもないとは私は思っておりません。それは、やはりですね、これからみんな一緒にやっていこうというような気持ちであれば、私はよかったと思います。しかしながら、私どもが考えている以上に地元の市民の人たちは自分が住んでいるところをもっとよくしたいということで提案をされていることに賛同しているわけですね。それで、この総合計画はわかりましたけれども、事業面についてはですね、どのようなことで個別の事業ですがね、個別の事業というのはどこで反映されるのかをですね、ちょっと具体論があったら教えていただきたいと思いますけど、よろしゅうございますか。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　それでは、いろいろとご希望があるそういう個別の事業、これがもし検討して乗っかるとすれば、どういうふうに決まっていくのかというご質問であったかと思います。

まず一つには、先ほど申し上げましたように、これからの特例債の延長に伴いましてですね、新市建設計画の延長部分についての計画が必要でございますので、当然個別のものの積み上げという形になってまいりますので、その中で取り上げていくこと、検討していくことになります。

それから、これから毎年度必要な具体的な事業を明らかにした実施計画というものを策定してまいりますので、この実施計画というのは毎年次年度の当初予算編成に合わせて作成しとるわけでございますけれども、今後３年間の重点的な取り組みや施策を実現するために様々な事業を示したものとなっております。この先ほどからご提案いただいております個別の事業につきましては、中には私、個人的には素晴らしい構想だなというのもございますが、今この時点ではちょっと個別案件の評価は差し控えさせていただきますけれども、そうした個別の事業の計画ですとか、それからそれぞれの事業の優先順位等につきましてはですね、その必要性、有効

性、あるいは効率性等々を考慮しながら、この実施計画の中でまた策定していくと、こういうふうな段取りになると思います。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　境和則君。

［登壇］

○２３番（境　和則君）　ぜひよろしくお願いしたいと思いますけれどもですね、ほかの議員さんに大変ご迷惑ですが、七城町だけのことで申し訳ありませんが、七城町は３２５号沿線上にメロンドーム、社会福祉センター、ふれあいプラザ、それから南には温泉ドーム、教育関係のということで、大変素晴らしい発展をしていると思いますね。中央地区には小学校、中学校がありまして、グラウンドの整備やら、先ほど申し上げましたように鴨川河川公園というのがありまして、大変均衡が保たれていると思います。

ですから、それともう一つはですね、旧はまちづくり合併特例債というのが菊池市はその事業の行政の継続化ということで、隈府中央線やらいろんな事業が進められてまいりました。旭志もまちづくり交付金の中でいろいろやってこられました。泗水町のときは、政権が変わっておりましたので名称が社会資本整備ということですけれども、これもやってこられました。そして、待ちに待った４番目が七城町の順番だったんですね。ところが、少しお話を聞くと、大変その道路改良とか骨格が基礎になりまして、独自の提案型の比率が非常にないということで苦慮をいたしているわけですね。それで、皆さんも質問をされますけれども、人口増でやればですね、やっぱり若い人が定着をしてやっていかなければならない。そうすると、菊池市は市営住宅の建設は認めないということですから、果たしてどんなもんができるのかなと悩みます。これは私のただ思いでありますけれども、菊池市独自でもしそういうような団地がつくれるならば、社会資本整備に該当するならば、合併特例債を使って若い人の定住を独自に市営団地を建てるというのも人口増の結果になりますし、私どもの七城町の小学校、中学校も子どもさんが出て賑わいができるというようなことも考えられておりますので、市長、ぜひですね、新市建設の実施設計のときには、真剣に検討して事業に乗せていただきたい。１年や２年でできないとわかっとると思います。しかしこれだけの熱意があって、６地区の区長さんや七城地区の市民の皆さんが熱望されている事業に対して、市長が前向きに、また行政が前向きに取り組んでいくならばですね、今度は２期目は無投票かもわかりませんよ。それは本当にそれだけ関心を持っておりますし、ついでに自分の宣伝もさせていただきますが、私も来年は改選でございますが、ひょっとするといいかもわからないなというような望みも込めまして、次の質問に移っていきたいと思います。

第三セクターの指定管理者公募についてお伺いをしたいと思います。この前の月例会におきまして、指定管理者制度の趣旨と本市における指定管理の経緯ということは月例会で報告をいただきました。十分検討されているように思います。公募については、こういう流になっておりますので、私も致し方ないとは思います。しかし、一般公募が行政改革の一環であるということは、もう先ほども申し上げましたように理解をいたしておりますが、実際、第三セクター出資者の理解を得るためにどのような説明をされたのかということが大変懸念に思います。月例会のときもある議員さんがご質疑の中で新しい社長といいますかね、会社といいますか、出資者の理解を得るためにどのような説明をされたのかということが大変懸念に思います。月例会のときもある議員さんがご質疑の中で新しい社長といいますかね、会社といいますか、この方が買った場合については、第三セクターは出資者は解散ということになります。それはそれでわからないわけではないですね、出資者が解散されるわけです。だけども、この三セクに対してはですね、この月例会で公募にあたっているときにですね、大体は、非常に明確に書かれていましたね、第三セクター及びその管理運営施設は地域とより密着し、地域の特性を生かした独自の活動の中で構築された知名度や営業効果により健全な運営が行われ、特に物産館施設は出荷協議会との地域に密着した取り組みがなされ、消費者の方からの信頼も厚く、施設の初期目的に沿った地域活性化の核として位置づけられているということで５年間延長になっている。それで、５年間の中でいろいろ説明されてきていらっしゃったんでしょうけれども、まじめにご理解されている方もおられるかもわかりませんが、一般市民、出荷者、最初の取り組みですね、このやっぱり高齢者の方たちが路地野菜でつくったものを自分たちの値段で、自分たちが対面販売してきて売るという目的と、それから、ほかの物産館についても同じだろうと思いますけれども、七城町の温泉ドームについては高齢者の方々たちの、やっぱり温泉に入って長生きをして、ゆっくり市民との語らい場所という大きな目的があったと思います。そして、議会の報告の中では、私が知り得ている限りでは、そんなに健全な運営がされているというようなことも考慮に入れながら、今度公募にあたってのいろんな選定委員会の要綱があるかと思いますけれどもですね、そういうのを含めて、民間人の、新しい会社の人たちが委託料をただ安く提示されることが考えられますね。私がもう市からの委託料は要りませんよと、自分がやっときますというようなことも大きな課題になるかもしれませんが、ただそれだけで選定していいのかと。これまで三セクが農業振興のために取り組まれた実績があった点も考慮に入れるべきではないかと考えますけれども、執行部としてはいかがお考えでしょうか。お尋ねをしたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　経済部長、平野國臣君。

［登壇］

○経済部長（平野國臣君）　境議員の質問にお答えします。

指定管理者制度につきましては、公の施設の管理に民間の能力を活用し、行財政の効率化を図り、併せて市民サービスの向上を図ることなどを目的として平成１５年９月に創設をされた制度でございます。そのため、指定管理者の指定につきましては、公平公正を期するため公募の形式を採用することが原則となっております。本市におきましても第２次行政改革大綱におきまして、指定管理者の公募制導入を推進項目として、第三セクターの見直し方針を策定、推進をしておりますので、本年度末をもって期間満了となります物産館及び温泉施設等の指定管理者の平成２６年度からの指定管理者の選定につきましては、公募制としているところでございます。本市におけるこれまでの取り組みとしましては、物産館及び温泉施設につきましては、平成１８年９月２日から平成２１年３月３１日までの２年７カ月を、それまで委託しておりました各第三セクターへ非公募により第１期目を指定管理者として選定いたしております。その後、平成２１年４月１日から第２期目となります指定管理者の選定に先立ちまして、平成２０年１月１１日と同年８月２１日に第三セクターの役員及び各店長、支配人等を対象に第三セクターの見直し方針や公募制に向けた行動説明会を実施いたしております。また、要望がありました出荷協議会に対しましても説明会を実施してきたところでございます。結果としましては、第２期目となる平成２１年度からの指定管理者の選定につきましては、非公募として現在の第三セクターを指定管理者として選定したところでございますが、再度平成２２年４月９日に第三セクター取締役に参集をしていただきまして、第三セクターの見直し方針や公募制に向けた行動説明会を実施してきたところでございます。そのような方針の下、各第三セクターにおかれましても、株主総会などの機会を捉えまして、公募制に向けた説明を行ってきておられますので、出資者への周知は図られているものと考えているところでございます。

また、指定管理者制度は公共サービスの水準の確保という要請を果たす最も適切なサービスの提供者を議会の議決を経て指定するものでございます。平成２２年１２月の総務省からの指定管理者制度の運用についての通知の中でも、指定管理料の安価な提示額をもってのみを理由として選定すべきではないということで示されているところでございます。

また、現在の指定管理者であります第三セクター及びその管理運営施設につきましては、地域とより密着し、地域の特性を生かした独自の活動の中で構築された知名度や営業効果により健全な運営が現在行われております。特に物産館につきまし

ては、出荷協議会との地域に密着した取り組みがなされており、消費者の方からの信頼も厚く、施設初期の目的に添った地域活性化の核として位置付けられておるところでありますので、その点も評価の対象になるものと考えております。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　境和則君。

［登壇］

○２３番（境　和則君）　今、お話を聞きました。公募については認識をいたしているところでありますけれども、地元雇用、または生産者の方、地域、いろいろこれは複雑に絡み合っておるところでありますし、その２年ぐらい前ですかね、三セクで財政的な黒字とまでは言いませんが、行政に迷惑掛けない、売上高もメロンドームが九州で何番目だったとか、いろんな実績があっているわけですね。ただ、行革の一環とするならば、市長におかれましてはですね、ちょっと聞いた話ですけれども、製品が揃わなきゃなりませんので、本社自体や市場から仕入れることはあるかもわかりません。しかしながらですね、名義貸しというようなお話もありまして、登録だけしてよそから出荷して、自分の名前で出して利益を上げているというようなこともあるそうであります。私は確実にはわかりませんが、噂でありますけれどもですね。そのような改革は必然的にやっていかなきゃならないと思います。それで、財政面もたしか江頭市長が言って３１年度になるということですけれども、私はですね、先ほどの議員が税金だから一生懸命１円たりとも責任を持って使わなきゃならん、全くそのとおりだと思います。しかしですね、これは行政は住民サービスをして、菊池市自体には約５０億円しか税収はないわけですね。ですから、思い切って投資するところは投資をするという意味合いと、ただ生産、費用対効果だけで評価すべきではないんじゃないだろうかなと思います。一つ例題を申し上げれば、このたびの決算報告の中でもちょっと議長、質問から逸れているかもわかりませんが、平成２４年の決算書ではみんな合格点ですね。それから、１００名削減をしたことによって、資産では１９億円の交付税の削減ということでしたけれども、職員の皆さんの努力や議会の努力によって、たしか２４年度の１０月の議会に前市長は大体１０億円ぐらいの削減幅をもってきたと。ですから、ますます公募によって民営化されることはわかりますけれども、同じ民営化と地域密着型はしっかり考えてやられる必要があるんではないかと思いますが、市長も私たち市会議員も市民から選ばれたものであって、指定管理者の決定には大変重要な責任が生じてきます。各第三セクターはこれまでも十数年間地元に根ざして、非常に愛着を感じておりますし、雇用が７０名か８０名ぐらい雇用されとると思います、七城町だけでですよ、七城町だけでですね。そこで市長は第三セクターをどのように捉えられ、ま

た仮に第三セクターではない新しい指定管理者を選定されてやられた場合には、最終的には議会に提案されると思いますけれども、私自体は安易な公募であった場合には大変厳しい議会があると想定をいたしております。市長は最高責任者として次回の指定管理者をどのように決定をされるのか、最後に市長にお尋ねいたしたいと思います。よろしくお願いします。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　第三セクターに関する次の指定管理者の選定についてということのご質問でございますけれども、まず、日本全国にたくさん第三セクターと呼ばれるものはあるわけでございまして、そのかなりの割合で赤字で苦しんでいるところはあるようでございますね。中には、その赤字が大変累積して市の財政では支えきれなくなって、残念ながら閉鎖という事例も少なからずあるようでございます。その点、この菊池市にございます第三セクターは、総じてですね、非常に皆様のご尽力もありまして、財政的には比較的にまずまずいい状況にあるのかなというふうに認識をしております。そういう意味では、確かに赤字が累積して市民の税金をどんどん食いつぶしていくというようなことがあっては、それはもう元も子もないわけでございます。ただ、やはり第三セクターというものをどう捉えるかというときにですね、そういうふうな一つ財務面で見る視点と、それからもう一つやはりその効果と言いましょうか、地域経済に与えるその役割ということを大きく考える必要があると思っていまして、この中の所詮バランスの問題だと思うんですね。そうしたときに、やはり私どもが押さえるべきこの基本線というのはですね、私たちがこの第三セクターを設立したときの様々なこの議論の中にあるんじゃないかと。第三セクターを設立するに至った狙い、思いというのがあるわけですか、やはりそこが私ともがこの判断するときの基準軸になるんではなかろうかというふうに思うんですね。そういう意味で見ますと、財政面はもちろん赤字であまり足を引っ張ることでは困りますけれども、やはりより大きな意味で期待していかねばいかんのは、何よりもまず農業、地域農業を振興するための販売拠点という役割でまず大きく期待したわけでありまして、それからその農業を通じてですね、地域経済を活性化したいと、この一大拠点にしたいという思いがあったわけでございますから、それがどれぐらい発揮できているかと、あるいはそういう力があるかということがかなり大きなウエイトを占めてくるだろうなというふうに私は思っております。そういう意味ではですね、様々な資格要件、能力が必要になります。お金儲けがうまいということだけではなくてですね、地域との関係力、地域の理解、その人的なつながり、ネットワークの構築力とかですね、信頼であるとか、そういったふうな諸々の非常

に基礎力が問われると思いますので、とりわけこうした点が永続的な発展のためにも非常に重要な要素になると思います。ですから、こういったことをまさに反映した形で私どものその今回の仕様書にもなっておりますし、今申し上げたようなところが今後の判断をさせていただく大きな軸になっているということをここで申し上げておきたいと思います。とりわけ地元への貢献という点がですね、大きなポイントになる点は否めないと思います。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　境和則君。

［登壇］

○２３番（境　和則君）　私は、正直申し上げまして江頭市長さんとこんなに話したのは初めてでございますけれども、以外と優しいんですね。説明も上手でございますので、これからちょくちょくお話をして、そして菊池市の発展のためにですね、お互いに激論を交わしながら切磋琢磨やっていただければ大変素晴らしいかなと思います。

一般質問はこれで終わらせていただきます。大変ありがとうございました。

○議長（山瀬義也君）　ここで、１０分間暫時休憩します。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

休憩　午後３時１０分

開議　午後３時１９分

―――――――――――――――○―――――――――――――――

○議長（山瀬義也君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、泉田栄一朗君。

［登壇］

○１０番（泉田栄一朗君）　あらためまして、こんにちは。それでは、通告に従いまして質問をさせていただきます。

まず最初は、環境及び景観についてでございます。本市は全国でも有名な菊池渓谷を有しております。四季折々の大自然がおりなす風光明媚な景観は本市の特色でもあり、素晴らしい地域環境であります。しかし、近ごろ屋外広告物や看板、のぼり旗等の設置の仕方で美しい自然を損なっているような危惧を感じているところでございます。一つは、美観を損なわない景観に悪影響を与えるような構築物設置に対する規制をする条例について、本市の現状をお聞きします。

関連して、２つ目に山鹿・菊池・大津を結ぶ国道３２５号等の熊本・菊池・大分を結ぶ国道３８７号等の主要道路の剪定管理について質問をさせていただきます。現在、泗水周辺にはひめこぶし、花房の坂から桜、そしてヤマダ電気から菊池女子

校までケヤキが植えられております。また、この周辺にもケヤキが植えられておりますけれども、残念なことに花房の坂は菊池平野を見下ろす絶好のスポットであるにも関わらず、桜の剪定の管理が良好でないために景観が損なわれているだけでなく、損傷した枝が枯れて危険な状態になっております。管理方法がその年々で変わっているような感じもしているところでございます。以前、城議員がトラックやバスなど大型車が通るとき、街路樹が大きくなり、垂れ下がった枝が危険であるという質問をされましたが、その機能性と美観を兼ね備えた剪定管理のマニュアルがあるのか、またあるならばその基準を教えていただきたいと思います。

まず、その点についてご質問します。

○議長（山瀬義也君）　建設部長、松野浩一君。

［登壇］

○建設部長（松野浩一君）　それでは、ご質問にお答えいたします。

街路樹の剪定についてのご質問でございます。本市で管理しております市道につきましては、主にご存じのとおりケヤキと低木を植栽しているところでございます。現状を調査いたしましたところ、樹形を無視したような剪定は行っていないというところで判断をしているところでございますが、議員がご指摘のとおり、過去には樹木の周辺の住民の皆様方からの要望とか苦情によりまして、必要以上に刈り込んだ樹木もあるようでございます。また、そのまま放置されている状況でもあったかと思われるところでございます。

それと、管理基準のことでございますが、現在の委託の契約と本市の場合でございますが、委託する際に剪定の方法等の仕様書を示してはおりませんが、造園業の専門の業者さんでございますので、それぞれの剪定で行っていただいたところでございます。

今後につきましては、国の管理基準や県の街路樹維持管理改善マニュアル等を参考にしながら、剪定等の仕様書を示し、適切な街路樹の維持管理に努めてまいりたいと考えているところでございます。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　泉田栄一朗君。

［登壇］

○１０番（泉田栄一朗君）　今、２つの質問をさせていただいたんですけれども、１つ目の菊池市での看板等の条例についてのお答えがなかったような気がしますけれども、菊池市で、私もちょっと菊池市の美しいまちづくり条例と菊池市環境基本条例という２つの条例を勉強させていただきまして、その中に看板について、また広告看板のところをちょっと探してみましたけれども、１行それが見つかりました。菊

池市美しいまちづくり条例というところに、第４条、広告看板を設置している者は、当該広告看板の適切な管理に努めなければならないという、ただ１行だけですので、非常に不安定な内容になっております。その点について、もう一度お聞かせ願えればと思います。

○議長（山瀬義也君）　建設部長、松野浩一君。

［登壇］

○建設部長（松野浩一君）　失礼いたしました。広告看板についてでございますが、市の条例で規制がないかということでございますが、現在のところ、熊本県屋外広告物条例によりまして、本市の主要な国道・県道、あと旧菊池市街地についてでございます、には規制が掛けられておりますので、この条例では禁止区域、許可区域の路線が事細かく指定されており、公告物の種類や大きさ等についても指定がされているところでございます。このようなことから、市といたしましては県の条例が十分に機能を果たしているものと考えておりますので、市の条例等での規制は今のところ考えてございません。

○議長（山瀬義也君）　泉田栄一朗君。

［登壇］

○１０番（泉田栄一朗君）　今、熊本県の屋外広告物条例を下にしながら、菊池市もそれに準じてやっていくというようなことを言われましたけれども、やはり菊池市でも何らかの条例の中に盛り込む必要があるのではないかというふうに思っております。この熊本県の条例の中には、良好な景観を形成し、もしくは風致を維持し、または公衆に対する危害を防止することとあります。また、看板設置禁止地域として、景観地区、緑地保全地区、森林法に制定された保安林のある地域、都市公園法に指定された地域、道路や河川、渓谷、高原等と知事が指定する地域などがうたわれております。さらに、禁止物として、橋や石橋、街路樹、信号機、電柱等が細かく上げられております。市長は、所信表明の中で素晴らしい素材があるとし、その宝の山である自然を守り、癒しの里づくりを目指しておられます。観光に対して自然や歴史、文化資源を活用し、心に訴えるような仕掛けを通じて、癒しの里のイメージを構築すると言われております。この点から見ますと、看板、広告物が本市の観光イメージをアップするか、ダウンするかは、大きな違いになります。まず、広告看板の規制について、どのように感じておられるか。そして、熊本県の条例を参考に、至急菊池市でも検討していただきたい。まず、市長のその考えをお聞きしたいと思います。

　また、街路樹と景観について私の個人的な見解でございますけれども、花房の坂の展望所が狭く、危険性もあるように感じております。また、周辺を拡張して桜の

並木を見直し、あの花房の坂のところが一番のスポット、パノラマを見せてくれるところだと私は思っております。八方ヶ岳が全面に見え、また菊池平野を見下ろすと壮大なパノラマが見れて、非常に素晴らしいところだと思います。ぜひここの場所を掘り起こして、さらにその景観の素晴らしさを出していただきたいと思います。この２点について、ご答弁をお願いします。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　ただいまの泉田議員さんからのご質問は、広告看板の規制についての考え方、それから花房の坂を中心とする樹木の整備に関してということでございました。

まず最初の広告看板のあり方についてなんですが、実は私、菊池を眺めております際にですね、特に花房の坂からの眺め等々、大変感激したことがございまして、それは特に久しぶりに帰ってきた際にですね、大変きれいな空間を保っているわけですね。特に国道のまっすぐな道のところにほとんど看板がない状態でございましてですね、これはある意味ちょっと奇跡的なことだなというふうに感心したんですね。これはぜひこのまま維持しなきゃいかんなと。ついては、そういうふうな議員さんおっしゃるような手立てがあったほうがいいんじゃないだろうかというふうに実は私も思っておったところなんですね。事務局のほうでちょっとこの間、調査確認を取ったところですね、先ほど答弁がありましたように、市として細かく決めたことは実はないんですけれども、熊本県の屋外広告物条例が、今のところはかなり細かくいろいろな指定があるようでございまして、そのお陰で実は今の光景があるんだなというふうに感じておりますので、今現在はですね、新たにこの市条例で特段この苦慮を重ねる必要は恐らくないんではないかというふうに感じているところではございます。また、不都合等が察知されればですね、その時点でまた別途検討はしていきたいとは思います。

それから、花房の坂に関する整備の方向感というご質問であったかと思いますが、まず景観的に今は坂にございます桜並木がですね、確かにちょっと無造作にといいましょうかね、枝が伸びているのは確かでございまして、折れたままぶら下がっている枝も確かにございました。これについては、来年さくらシンポジウムを控えているということもございましてですね、これについてはなるべく早い機会に整備をするように補正の中でも検討しているところでございます。

それから、中期的な整備の方向感としましては、地区民の方がですね、一緒になってあそこを整備開発したいという申し出もあってございまして、一部地権者の方のそのご理解等もいただいている分もあるやに聞いておりますので、行政だけでは

なくですね、ぜひ地元民の方と一緒になった形でこの整備を進めていきたいというふうに考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　泉田栄一朗君。

［登壇］

○１０番（泉田栄一朗君）　今、熊本県の条例を基にして菊池市もそれを遂行していくということをいただきました。また、管理のマニュアル的なものも、私としては菊池市の基本的なマニュアル、主要道路のところの街路樹は特別たくさんはありませんので、そのマニュアル的なものをきちっともって、毎年の管理に指導するぐらいの管理のマニュアルは必要ではないかと思いますので、ぜひそれはお願いしたいと思います。

次に、老樹名木の調査保存についてでございます。市長の所信表明にもありますように、豊かな自然を守るという観点から、次に老樹名木の調査と保存についての質問でございます。議員研修など、全国各地に行かせていただきますけれども、私の専門の立場から、どうしてもそういう樹木に目がいきます。例えば、福島県に行きますと三大桜の三春桜、また屋久島のほうに行きますと屋久杉、鹿児島のまた大楠など、興味深く見せていただいております。いずれも地域のシンボルとして多くの人を引き寄せております。全国には巨樹巨木林の会があり、巨木ツアーなるものを実施しております。インターネットで、例えば長野県、群馬というものを調べていくと、４００年の桑が出てきたり、非常に様々な名木が紹介されております。熊本県でも熊本緑の財団で老樹名木ガイドがつくられております。その中に、菊池市の老樹名木が８本紹介されております。七城町では旧七城町時代に二重の神木・巨木がまとめられています。

はじめに、合併後の菊池市として老樹・名木の調査、管理はどうなっているのか、現状を質問します。

次に、隠れた老樹名木があるという声も寄せられております。これをまず調査していただいて、地域の宝として遺しながら、点と点を結び観光資源までつなげていけないか、そういう考えがあるか、ご質問をさせていただきます。

○議長（山瀬義也君）　教育部長、中村鉄男君。

［登壇］

○教育部長（中村鉄男君）　泉田議員のご質問にお答えをいたします。

現在、市内には天然記念物として文化財指定している樹木が県指定として４本、市指定として８本で、合わせまして１２本。また、菊池遺産として企画振興課で登録しているものが７本あり、うち４本は指定文化財と重複しておりますので、計１

５本となります。これらは、いずれも原則として市以外の所有者等で管理が行われております。これらの天然記念物は、例えば将軍木など歴史的に縁があって、かつ樹齢がおおよそ６００年以上経ったものや菊池高校敷地内のチャンチンモドキなど、樹木自体が珍しいものなどでございます。本市は、比較的温暖で雨も多いため、樹木の生育には非常に適した地域であると思われます。そのため、市内には多くの立派な巨木が見られますが、いずれもこれまで大切に保存されているのが伺えるようなものばかりでございます。このような樹木の保存は、本市でも重要なことだと考えており、これまで平成１８年度に旭志岩本区の岩本巻天神の椋の木及び同姫井区の水神木について樹勢回復事業を行ったほか、本年度はすべての天然記念物の樹木診断を行い、その結果をもとに今後の管理の方向を決定することといたしております。ほかの団体の状況としましては、議員が紹介されましたように、平成１９年度に熊本緑の財団が県下各地の樹木調査をもとに、熊本の老樹名木ガイドを発行するなどしております。

次に、市としての樹木に対する補助助成制度としましては、指定の天然記念物に限るものではございますが、菊池市文化財保存整備費補助金交付規則を定めております。所有者等の申請により、２００万円を上限として、対象経費２分の１以内で補助をするもので、近年では平成２１年度に菊池高校前の将軍木の樹勢回復事業、旭志の岩本巻天神の椋の木の樹木環境整備事業に補助を行ったところでございます。菊池遺産認定の樹木につきましても、菊池市地域づくり推進補助金交付要綱に基づき、４０万円を上限として対象経費の３分の２以内の金額を補助することとなっております。

以上、申し上げましたとおり、文化財指定や菊池遺産認定の天然記念物樹木につきましては、市として調査と現状把握に努め、所有管理者に対する指示、指導と同時に補助金を含めた相談等にも対応することで、その保護・保存に努めているところでございます。今後は指定以外の樹木についても、市民の皆様からの情報収集を行い、将来の指定文化財候補としての現状把握に努めてまいりたいと考えております。

次に、観光資源としての樹木の活用につきましては、まずその所有管理状況から申し上げますと、先の答弁でも少し触れましたが、市内の天然記念物はすべて市以外の個人・団体が所有、管理しておられますので、活用にあたっては必ず所有管理者の理解が前提となることは言うまでもございません。幸い本市における天然記念物の所有管理者の皆様にはご理解をいただいておりますので、現在のところでは菊池市文化財マップや市の指定文化財を掲載した菊池市の文化財冊子の刊行、また市のホームページ掲載などによる樹木も含めた文化財を巡る歴史散策や学校での歴史

学習での活用が中心となっております。

ただいま議員からご意見がいただきました市内全域の樹木をつないでの活用でございますが、具体的には、散策マップというものが考えられますが、近年のマップ等は一定の地域や範囲をベースにつくっているものが多い傾向でございます。例えば、県の菊池地域振興局で作成された菊池一族散策マップは、隈府周辺の菊池一族関連の史跡等を中心に、それ以外の文化財等も含め掲載をしてあり、３．５㎞コース、１０㎞コースなどの散策ルートも示してございます。また、泗水地域、七城地域のフットパスマップも作成されておりますので、これらについては史跡散策と併せて健康づくりにつながるなどの効果が期待されるため、県との連携協力も積極的に行いながら、既存のマップを活用した推奨ルートづくりを進めていく必要があると考えております。天然記念物をはじめとして分野別に特集する形としては、ホームページ等では対応しやすいかと思われますので、そのような形で今後検討してまいりたいと思います。

今後の老樹名木の調査につきましては、合併前の調査結果に基づく追跡調査なども検討をいたしますが、まさに地域の宝という位置付けである菊池遺産として各行政区等から情報をいただければ、より容易にその把握ができるのではないかと思います。そして、その中から歴史的な付加価値などを見いだすことによって、文化財指定へとつなげることで、菊池遺産と指定文化財に連動性・連続性が生まれます。そのような方法が理想的なものではないかと考えているところでございます。

また、文化財は活用と同時に将来に残していくために保存のことを考えていくことが必要でございます。とりわけ樹木は他の文化財と違い生き物ですので、人為的あるいは自然環境の影響を受けやすいことから、屋久島の屋久杉に代表されるように、その保存には最大限の配慮をする必要がございます。例えば、観光に重きを置きすぎて観光客によって樹木の根回りの土を踏み固めてしまい、その生育を妨げることにならないよう気を付けるなど、所有管理者ばかりでなく、見る側も含めてできる配慮ではないかと思います。樹木に関しましては、観光資源であると同時に、自然や環境、生き物を大切にするための学習、啓発の資料としても重要なものであると考えております。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　泉田栄一朗君。

［登壇］

○１０番（泉田栄一朗君）　菊池市としても様々な角度から努力をされて、老樹名木を守る努力をされていると。また、観光資源につなげていっていただいているということがわかりました。特に菊池市は１２本指定の木が、樹木があるということで、

特に泗水の村吉のいちいがしは、私も知る限りでは非常に珍しい木であります。この貴重な樹木を保護・保存していく努力をされているということがわかりました。ただ、菊池渓谷を回ると、また樹木の中にも大きな石をこう抱いたような大木もありますし、また鳳来のほうに行きますと聖護寺の近くの山にあります五葉松、これは３人の人たちがこう手を結んで抱きかかえても大きいぐらいの木だそうです。ほかにもたくさんの名木があちらこちらにあるのではないかと。そういうことで、ぜひいろんな情報を持っていただいて、今後ぜひ観光資源につなげていっていただきたいと、そう思います。再質問のほうは、取りやめます。

それでは、次に公園の長寿命化についてご質問をさせていただきます。昨年末、笹子トンネル事故以来、高度成長期につくられたいろいろな施設や建造物が老朽化し、その安全神話が大きく崩れ、見直す時期が来ております。都市公園と言われる公園は、全国に平成２２年時点で約１０万カ所あり、ほとんどが高度成長期に急ピッチで整備されたそうでございます。菊池市の公園もその中に入るものもあると思います。公園の長寿命化のために、遊具や建造物等の安全性、維持管理のコスト面など調査する必要を感じております。以前、城山公園内の低学年向けの遊具が破損し、危険な状態であると市民から声が上がり、すぐに対処をしていただきました。４月に富の原の憩いの森公園と名された公園が完成し、誰もが安らげる地域のオアシスとして喜ばれております。これは、一番新しい公園で、バリアフリー化にされている公園で、高齢者や障がい者に配慮した公園になっております。私も活用させていただいております。

まずはじめに、本市の公園の長寿命化計画の現状を質問します。

○議長（山瀬義也君）　建設部長、松野浩一君。

［登壇］

○建設部長（松野浩一君）　それでは、市の公園の長寿命化につきまして、現状についてお答えいたします。

老朽化が進みます都市公園施設に対しまして、公園を利用していただきます皆様に安全性の確保及びライフサイクルコスト縮減の観点から、適切な施設点検や維持補修等の予防、保全的管理を実施することにより、開設しております都市公園の長寿命化を図るとともに、安全・安心な施設として利用できるよう計画的な修繕や更新を、また改築等を行うことを目的として、平成２３年度に策定をしたものでございます。当時の計画といたしましては、長寿命化計画対象公園といたしまして、都市公園の７カ所であり、期間といたしましては１０年間を対象としているところでございます。まず、総合公園といたしまして菊池公園がございます。近隣公園として、菊池ふれあい清流公園、街区公園といたしまして菊之池、北古閑、遊蛇口、野

間口の各街区公園並びに合志川河川公園の５カ所でございます。合わせまして７カ所の公園となっているところでございます。

また、平成２４年度に先ほど議員よりご説明いただきました富の原地区にございます憩いの森公園も近隣公園といたしまして、この長寿命化計画の対象公園となるところでございます。

総合公園や近隣公園につきましては、市が直接管理をしているところでございますが、街区公園につきましては、地元の皆さんによりまして管理をお願いしているところでございます。また、都市計画区域外の七城地内にございます鴨川河畔公園、亀尾城址公園、菊池川河川公園、松島、山崎、高田の各緑化公園につきましては、都市公園としての位置付けがございませんが、建設された経緯等がございます。また背景によりまして市が維持管理をしている状況でございます。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　泉田栄一朗君。

［登壇］

○１０番（泉田栄一朗君）　今、状況を聞かせていただきまして、一般に土木構造物等は完成直後に最大の効果を発揮し、年を取るごとに徐々に老化し、機能が低下していくというのが普通でございます。しかし、公園の場合は理想的なあり方として、ハード、ソフト両面で利用されることによって年を取るごとに機能が強化され、だんだんよくなるものだと思っております。これからの公園の老朽化対策と長寿命化計画にあたって、まずその公園に求める機能、役割は何かという原点に立ち戻り、持続可能な公園の運営について考える必要があると考えております。大事なことは、安全確保のために定期的に点検を行い、廊下や損傷、異常、故障が確認されたときに必要に応じて撤去、更新が行われているかです。先ほどの答弁で、本市でも計画的に修繕、改築をしているとのことでしたが、点検の頻度と健全度に対しての判定基準のマニュアル的なものがあるか、質問します。

○議長（山瀬義也君）　建設部長、松野浩一君。

［登壇］

○建設部長（松野浩一君）　市では、施設点検におけます判定基準マニュアルといたしまして、日常的な維持管理に対する考え方や点検方法、危険箇所に対します措置や補修、事故等への対応などにつきまして、国土交通省より都市公園における遊具の安全確保に関する指針案というのを参考にいたしまして作成をしているところでございます。現在の管理状況といたしましては、市では遊具等の公園内の施設に設置したときの製造施工業者と市職員が立ち会う初期点検、市職員が主に目視、触診、聴診などによりまして施設の変化や異常の有無を調査いたします日常点検、それと

毎年１回点検調査業務を委託して、専門業者による詳細な定期点検を実施しているところでございます。また、植栽の管理等につきましては、本市の造園業組合において年間を通して、剪定、消毒、施肥等を委託しているところでございます。また、公園内にございますトイレ、水飲み場、手洗い場の清掃管理や草刈り、除草管理や照明装置の維持管理等も行っているところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　泉田栄一朗君。

［登壇］

○１０番（泉田栄一朗君）　国の基準の中でマニュアルがあるということでお答えがありました。これから公園のあり方としまして、管理費がどんどん嵩んでいきます。公園をつくっていただくのは非常にありがたいことですけれども、今後菊池市の緑全般についてどういうふうな維持管理をしていくかということが大事だと思います。これは提案として考えていただきたいと思っております。

次に、医療費支払いについてでございます。本市では、医療費が小学校６年生まで無料、中学生が一部負担になっていますが、他市で受診した場合もそれが適用されているのか、現状を質問します。

○議長（山瀬義也君）　健康福祉部長、宮本誠一君。

［登壇］

○健康福祉部長（宮本誠一君）　お答えします。

子ども医療費助成制度における医療費は、医療機関の所在地や保険の種類等により現物給付と償還払いの２つの支払い方法で助成をしております。現物給付とは、医療費の自己負担分を医療機関が受給者から徴収せず市へ直接請求するものであり、市内の医療機関を外来で利用された場合に該当します。償還払いは、医療費の自己負担分を医療機関に支払い、後日受給者が領収書を添付し、市へ助成金の請求を行うものです。本市では、市外の医療機関を利用された場合や入院された場合、助成対象者が中学生の場合などが償還払いとなっております。また、社会保険の種類によって通常の保険給付に上乗せをする付加給付を行っている保険者もあります。この被保険者の場合も償還払いとしております。平成２４年度の子ども医療費制度の助成状況は、総数９万５，４２１件、１億７，４９３万５，２５２円であり、そのうち件数の５８％、５万５，３２８件、助成額の５３．１％、９，２９３万４，８８８円が現物給付となっております。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　泉田栄一朗君。

［登壇］

○１０番（泉田栄一朗君）　本市のこの現物給付と償還払い、市外ではできないということでございますけれども、市民の声は他市で受診した場合も立替払いをしなくてもいいようにしてほしいと切望されております。隣の町の大津町では、他の市町村で受診しても立替払いをしなくていいようになっております。先般、私もその内容を大津に行って研修してまいりました。本市は、他の市町村よりいち早く小学校、中学校の医療費のことは取り組んできました。子育て支援の先駆的役割を担う本市として他の市町村で受診した場合も立替払いをしなくていいような施策をしてこそ、完全実施になると思いますが、この点についてどうでしょうか。

○議長（山瀬義也君）　健康福祉部長、宮本誠一君。

［登壇］

○健康福祉部長（宮本誠一君）　お答えします。

現物給付は市内の医師会や医療機関のご理解とご協力により実現しているものであり、現物給付を市外まで広げるとなると、レセプト審査や支払い業務等の膨大な事務が発生することから、既に実施している自治体では業務委託により対処しております。委託により受給者の利便性の向上や給付事務の軽減などがメリットとして上げられますが、一方では委託料の発生をはじめ現物給付を実施した場合にペナルティとして国の交付金が減額されるなどのデメリットも多く、慎重に見極める必要があります。こうしたことから、現時点では現行のままで実施してまいりたいと考えております。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　泉田栄一朗君。

［登壇］

○１０番（泉田栄一朗君）　大津のほうに行きまして、そのペナルティの内容についても聞いてまいりました。また、この委託をすることによって６５０万円ほど費用がかかるというお話も聞きました。ただ、その反面、メリットとして一人の職員と二人の臨時職員の手間が省けたということで、ほかの仕事をやっていただいているというようなメリット、デメリット、そしてペナルティがあるということであります。そういう状況の中で、菊池市もしっかり考えておられるということであると思います。できれば国にこのぜひペナルティをなくしてもらいたいというようなことをしっかりと市としても言っていく必要があるんではないかと。そして、よりよいこの、他市にもたくさん、よその市で診療にかかって現物支給になっている市がここざっと見ますと宇城市も、益城も、荒尾市も、南関も、玉東も、様々、まだほかにもあります。そういう中で、しっかりと見極めながら菊池市も頑張っていただきたいと思っております。

次に、介護用品購入についてでございます。介護認定された人は、必要に応じて介護保険を利用して住宅改修をすることができます。ものによってはレンタルできるものと購入するものとがあります。購入する場合、一度利用者が全額払って後日口座に振り込まれるようになっていますが、介護用品は造りもしっかりしていて、高額であります。特に生活に大変な方々は、一度全額を支払うということで大変苦しい思いをされています。最初から１割だけで支払うことができないか、本市の現状を質問します。

○議長（山瀬義也君）　健康福祉部長、宮本誠一君。

［登壇］

○健康福祉部長（宮本誠一君）　お答えします。

介護保険におけます福祉用具は、利用者の身体状況や介護の必要度の変化などに応じて用具の交換ができるよう貸与を原則としておりますが、衛生上、再利用に適さない用具や形態・品質が変化して再利用できない用具は購入することができます。

このように福祉用具を購入した場合は、申請に基づき、その費用の一部として介護保険から福祉用具購入費が支給されます。利用できる方は介護保険の要介護認定を受け、在宅で生活されている方で、その方の介護度により利用できる福祉用具の種類は異なります。また、利用限度額として同年度で１０万円を上限に費用の９割が支給されます。平成２４年度の実績としまして、福祉用具貸与利用延べ月数９，３８７月、支給額９，２８３万９３０円。福祉用具購入、利用者数２５６人、支給額４９１万２，１２５円を支給いたしました。さらに、福祉用具とは別に小規模な住宅改修費につきましても支給を行っております。これは、住宅内における、より安全な生活を確保するために、手すりの取り付けや段差の解消など、小規模な改修を支援するサービスで、改修の費用は最高２０万円を上限に費用の９割が支給されます。平成２４年度の実績としましては、２４４件、１，９３３万３，２６１円を支給いたしました。払い戻しの方法としましては、福祉用具を購入また住宅改修を行った場合、一旦費用を全額業者へ支払っていただき、申請により対象経費の９割分を後日払い戻しいたします。しかし、全額支払うことが困難という方につきましては、要綱で定める一定の要件、市民税非課税世帯であり、介護保険料に未納がないなどを満たせば、費用の１割を業者に支払っていただき、残り９割は市から業者に直接支払う受領委任払いという方法もあります。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　泉田栄一朗君。

［登壇］

○１０番（泉田栄一朗君）　今、まず２０万円の改修費がかかるということで、それを９割まず全額負担をしておいて１割を支払うということでございますけれども、その中に非常に大変な方はそういう、まず１割だけでいいという方法もあるということを私も初めて勉強させていただきましたけれども、やはりこういうことは誰がまずその方のところに行って、どういう内容ですということをご紹介をする、説明をしていただく方というのはどういう方がされるのか。やはりそういう介護についての最初の説明というのがあまりわからないままに、非常に苦しんでおられる方もおられます。そういう制度があるということであれば、それを周知徹底していただきながら、大変な方にはまず紹介をしていただくということが大事じゃないだろうかと思います。そういう点について、１点お願いします。

○議長（山瀬義也君）　健康福祉部長、宮本誠一君。

［登壇］

○健康福祉部長（宮本誠一君）　制度の周知の方法でございますけれども、今後ケアマネージャーの研修会などで周知は行っておりますが、今後は広く周知できるようホームページ、広報等、あらゆるメディアを活用いたしまして実施していきたいと考えております。よろしくお願いいたします。

○議長（山瀬義也君）　泉田栄一朗君。

［登壇］

○１０番（泉田栄一朗君）　それでは、最後に健康マイレージ取り組みについてということで、今、全国的に健康診断の受診やスポーツ活動への参加などでポイントを貯めると特典を利用することができる健康マイレージの取り組みが注目されております。先ほど怒留湯議員のほうもポイントという話をしていただきましたけれども、それと合わせた内容でございます。これは、医療費削減のために非常に素晴らしい取り組みだと私は思っております。私も先日、養生園で健康診断を受診してきました。この市民の健康受診率を上げ、健康づくりに励むことで医療費や介護費の抑制につなげられるほか、地域コミュニティや地域経済の活性化など、まちづくりや人づくりに上げていくことが期待できるユニークな施策でございます。例えば、日本一健康文化都市を掲げる静岡県では、健康づくり活動をポイント加算し、公共施設利用権と交換することができる健康マイレージ制を平成１９年度から全国に先駆けて実施しておられます。また、今年度は県内共通の特典カードをつくり、県内の協力店でサービスを受けられる仕組みになっているそうです。北九州では、４０歳以上の市民が市が認めた運動教室や健康関連のイベントに参加したり、健康診断を受診するとポイントが貯まり景品と交換ができるシステムを実施しておられます。このような取り組みをしている自治体は全国紙に紹介されただけでも２０近くあり、

その特典は様々でございます。クオカードや図書券と交換ができるとか、また自分のポイントや幼稚園や保育園や、また小中学校に寄付することもできるなど、自治体独自で考えられておられます。熊本県では、荒尾市が国保加入者のうち特定健診の受診率が県内の市町村で最低ということから、特定健診受診者のうち５０人に１万円の商品券があたるキャンペーンも始めました。どの自治体も受診率向上と疾病の早期発見による医療費抑制、介護費の抑制のための施策に取り組んでいることがわかります。私も以前から健康の里菊池ということをテーマにしてウォーキングを推進する質問もさせていただきました。また、本市では健康体操や菊ちゃん体操、水中歩行、コスモスマラソン、コスモスウォーキング、市民体育祭等々の市のイベントもたくさんあります。市民の皆さんも自主的に筋トレやウォーキングをされていて、意識の高い人が多いと思います。これらを全て健康マイレージにつなげ、何か特典があることでもっとたくさんの市民が運動するきっかけになればと思い、これは大変素晴らしいことだと確信しております。ぜひ本市では、この健康マイレージ事業を取り組んでいただきたいと思いますけれども、どのような考えがあるか、質問します。

○議長（山瀬義也君）　健康福祉部長、宮本誠一君。

［登壇］

○健康福祉部長（宮本誠一君）　お答えします。

健康マイレージの先進的な事例を見てみますと、健康教室や各種スポーツイベント、史跡巡り、ウォーキングの参加等をポイント化し、取得したポイント数に応じて協力店や団体のサービスが受けられるなど、地域の特性に応じて健康づくりと地域経済の活性化を結びつけた形で運用をされております。現在、本市におきましては健康づくりを積極的に進めるために、各種団体の代表者からなる健康づくり推進協議会を設置し、保険事業施策について協議をいただいております。また、食生活改善推進員の養成講座や活動への支援、健康手帳の交付や健康相談、健康に関する講話などを行ったり、各種健診の結果、受診をお薦めしたり、生活改善が必要な方への訪問指導などを実施することにより、市民一人一人が生涯を通じた健康づくりを実践できるよう取り組んでおります。

今後もこれらの保険事業の充実を図り、より一層健康づくりを進めるとともに、健康マイレージにつきましては庁内の関係各課、市民団体等との連携を図りながら検討してまいりたいと考えております。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　泉田栄一朗君。

［登壇］

○１０番（泉田栄一朗君）　この健康マイレージの事業というのは、本当に医療費削減に非常に役に立つ内容だと思っております。また、このポイントを貯めるということも非常に市民がやりがいのあるものだと思っております。市長は、この提案をどう考えておられるか、最後に市長の答弁を伺いたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　先ほど来からの健康マイレージという仕組みについてご紹介いただきまして、ありがとうございました。健康増進というのは、結局医療費抑制のもう一番の鍵だと思うんですね。そういう中で、先ほどのこの健康マイレージの仕組みというのは、少しこの楽しみながら健康増進を図ることができるという意味では、おもしろい仕組みであるなというふうに感じましたので、ちょっと内容について少し勉強させていただきたいというふうに思いました。ありがとうございました。

○議長（山瀬義也君）　以上で、本日の一般質問は終わりたいと思います。次の会議は９月９日に開き、引き続き一般質問を行います。

本日はこれにて散会します。

全員起立をお願いします。

（全員起立）

お疲れでした。

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

散会　午後４時１４分

第　３　号

９月９日

平成２５年第３回菊池市議会定例会

議事日程　第３号

平成２５年９月９日（月曜日）午前１０時開議

第１　一般質問

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

本日の会議に付した事件

日程第１　一般質問

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

出席議員（２３名）

１番	荒　木　崇　之　君
２番	柁　原　賢　一　君
３番	工　藤　圭一郎　君
４番	城　　典　臣　君
５番	大　賀　慶　一　君
６番	岡　﨑　俊　裕　君
７番	水　上　彰　澄　君
８番	東　　英　俊　君
９番	東　　裕　人　君
１０番	泉　田　栄一朗　君
１１番	森　　清　孝　君
１２番	中　原　　繁　君
１３番	樋　口　正　博　君
１４番	中　山　繁　雄　君
１５番	怒留湯　健　蓉　さん
１６番	坂　本　昭　信　君
１７番	隈　部　忠　宗　君
１８番	葛　原　勇次郎　君
１９番	木　下　雄　二　君
２０番	坂　井　正　次　君
２１番	森　　隆　博　君
２２番	山　瀬　義　也　君

２３番　　境　　和　則　君

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

欠席議員（なし）

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

説明のため出席した者

市長	江頭　実　君
副市長	木村利昭　君
総務企画部長	野口祐成　君
市民環境部長	下田俊一　君
健康福祉部長	宮本誠一　君
経済部長	平野國臣　君
建設部長	松野浩一　君
総務企画部統括審議員	西浦一義　君
七城総合支所長	岩下利昭　君
旭志総合支所長	水上菊也　君
泗水総合支所長	松岡千利　君
財政課長	小川秀臣　君
総務課長兼選挙管理委員会事務局長	伊藤道俊　君
市長公室長	倉原良則　君
教育長	倉原久義　君
教育部長	中村鉄男　君
農業委員会事務局長	松永隆則　君
水道局長	原　和徳　君
監査事務局長	宮村公男　君

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

事務局職員出席者

事務局長	城　主一　君
議事課長	宮川啓子　さん
総務審議員	徳永裕治　君

○議長（山瀬義也君）　全員、起立をお願いします。

（全員起立）

おはようございます。

着席をお願いします。

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

午前１０時００分　開議

○議長（山瀬義也君）　これから本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

日程第１　一般質問

○議長（山瀬義也君）　日程第１、一般質問を行います。

はじめに、中山繁雄君。

［登壇］

○１４番（中山繁雄君）　おはようございます。昨日、オリンピックの東京開催が決まり、国の景気もよくなればと思います。午前中は株も値上がりしておるようであります。私も決定の瞬間を見たいと遅くまでテレビを見ておりましたが、あと１０分で投票というときに寝てしまいました。残念でありました。昨日は、菊池市のレガッタ大会に出場し、多忙でありました。大会の中で、県のボート協会の方の挨拶で、オリンピックは菊池市にとってチャンスと述べられました。なぜだろうかと思っておりましたら、東京開催になることにより、世界のボートの選手が日本で合宿されるということもありますということでありました。私たちもボートの大会に新潟に行きますけれども、日本には菊池市の竜門ダムありという思いで国際大会もできる競技場があることをアピールしていきたいと思います。

今日の一番の質問であります。よろしくお願いいたします。

これからの菊池市の行政について質問いたします。新しく菊池市に戦略室をつくる考えはないか、質問いたします。先だって企業誘致促進特別委員会で企業訪問、国会議員への陳情に行きました。そこで印象に残ったというか、すぐに市が何をやるべきかと思ったのが、市長直属の市長戦略室の設置であります。企業誘致で会社訪問での企業情報の把握、一日一日経済状況が変わっている中、その情報を得るために言われたのが、前市長と企業との関係が少し疎遠であったと企業から言われました。市長とやはり企業との関係は密にいつも保たなければならないと思っております。企業との関係について一つの例を挙げますと、市の対応がよかったことにより、企業の対応も全然違うことも実感いたしました。それは、ある企業がソーラー発電をするために農地転用の手続きにおいて市の早急な対応ができたことに深く感

謝しておられました。同時進行でよその県で申請を出していますが、まだできていませんということで、本市の株が上がっておりました。それから、地元国会議員さんのほうに陳情に行きました。ここでは、昨年まで東京事務所にいた関係で、この関係の職員の方がいたという関係で、新しい情報を親切に教えてもらいました。これは市の職員が東京で何度も何度も議員のところへ訪問していたからだと思っております。市長はこれから一本算定により大幅な予算の削減が予想されると今議会で何度も述べておられます。だからこそ、補正予算で支援事業などの情報をいち早く得る必要があるのです。

ここで一つの例を挙げますと、平成２５年度地域中小商業支援事業２次募集が行われております。本事業は、商店街等が地域コミュニティの担い手として実施する少子化・高齢化等の社会課題に対応した空き店舗活用事業や地域資源を活用した集客力向上及び売上げ増加に効果のある取り組みを支援することにより、商店街の活性化を図る事業であります。補助率、国３分の２、２分の１、３分の１以内となっており、補助額上限２億円、下限１００万円。もう一つは中心市街地魅力発掘創造支援事業、これは町の魅力を高め、地域経済の活性化、コンパクトで賑わいあふれるまちづくりを推進する事業であります。この２つの事業、これを見たら議員さん、すぐに手を挙げたらどうでしょうかという思いになるでしょう。この情報が市に入るのが、今聞いてみますと１週間から１０日前であるということであります。ほとんどの書類が見て、これには対応できないということで終わりであります。そこで、この補助金に行き着くためには、情報をいち早く知り得ること、次に計画立案をすぐに行うこと、また事業に対しての書類の書き方のプロの人材をつくることが大切であります。

いくつか例を挙げてまいりましたが、市長とセットで動きがとれ、企業周り、国の情報収集、補助事業の補正予算の獲得などの戦略室をつくる考えはないか、質問いたします。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　皆さん、おはようございます。オリンピックは大変うれしい、楽しいニュースでございました。やっぱりテレビなんかを見ていますと、あのニュースが出た途端にですね、何かこう人の気持ちもかって明るくなったような気がしまして、いろんなことがわくわくするような気になってきますので、やはり景気は気とよく申しますけれども、気というのは非常に大事だなと。そういう意味でも菊池市にとってもですね、常にやはり前向きに新しいことに挑戦していくというふうな気概を持つということは非常に大事であろうなというふうに思いました。

そういう中で、今のご質問、そういう前向きの策につなげるために、菊池市に戦略室をつくる考えはないかというご質問でございました。私のこの政策の中身については、これまで６月定例会においての所信表明、施政方針等でも述べておりますし、またいろいろなところで皆様のご意見をお聞きしたりしているところでございまして、その政策の大きな方向感については、皆様ともいろいろと共有、ご理解いただいているのかなというふうに思っております。これをどうやって具体化していくかということがこれからの大きな課題でございまして、今おっしゃった意味では、私は似たような考えを実は持っておりましてですね、この公約に掲げた諸施策というのは、大変広範に及ぶことでございます。それから、今までになかった新しい取り組みをやろうということがかなり多うございますので、やることはたくさんあると。かつその中にはですね、今すぐに手を付けなければいけないものに加えまして、中長期的にですね、いろんなステップを踏みながら着実に積み重ねてやっていかなければいけないこと。こういったことがたくさんございますので、今後のその進捗管理というのがですね、非常に重要になってくるだろうと。これは企業の中でも永遠の課題でございまして、いわゆるＰＤＣＡというプランをしただけではなくて、それを実行してチェックする仕組みを入れて、そしてまた修正の動きにつなげていくと。このＰＤＣＡをうまくこう回していくことが必要であろうと。このためにもですね、やはりきちっとした、それを統括管理するような仕組みが必要であろうなというふうに一つ思っております。

それから、ご指摘ありましたように、国や県のいろいろな様々な補助の仕組みがございまして、これは必ずしも私どもが言っている施策とぴったりはまるものが必ずあるというわけではございませんで、それに非常に近似したもの、応用ができるもの、こういったものがたくさんあるわけでございますから、いつもアンテナを高くしてですね、かつ創意工夫をこらして、この補助プログラムがこれに使えるじゃないかとかですね、いうふうな柔軟性が非常に大事でございます。またそのためには公表されてからではなくて、その前にそういった動きを察知していく。そのためには人的なネットワークを構築していくということがとりわけ非常に重要になるかと思います。特にアベノミクスが本格化していくわけですが、今後のいろいろな経済対策においてですね、いろいろな新規のプログラムもまた出てくることと思いますので、とりわけこれからはそういったふうな情報のネットワークというものが必要であろうと。そうしますと、この今申し述べたことだけでもですね、大変広範な範囲に及ぶわけでございまして、こうして入ってきた情報を入手して、的確に分析して、それをまたスピーディに施策につなげていく、施策を立案して提言していくと、こういったことを非常に短期間のうちにやっていくということが成功への近道

ともなるわけです。また、いろいろな部署を巻き込んで連携を取りながらやっていくということも大きなポイントになってきますので、庁内への連絡調整、あるいはその進捗の統合、こういったことが極めてこれから重要になると思いますので、私はそういう意味においてですね、先ほど戦略室というような、これは例示としてのお言葉だろうと思いますけれども、ございましたけれども、そういう機能はですね、必ずや必要であろうなというふうに考えております。例でおっしゃいました、その企業誘致等々はですね、これは現行の組織の中で、その仕事のクオリティを上げていくべき課題かなというふうに考えておりますので、どちらかといえば、今申し上げたようなですね、全体のこの統合管理、文字通り私の目と耳であり、それからそれでやろうとなったときの手と足になるようなですね、そういう機能を強化していかなきゃいかんと思っていますので、実際に独立したその部署にすべきかどうかはですね、全体の人員効率等々もよく考えながら、これから考えていきたいというふうに考えている次第でございます。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　中山繁雄君。

［登壇］

○１４番（中山繁雄君）　先ほどもオリンピックのことを言いましたけれども、合宿場としても知ってもらうためにも、トップセールスをしなければならない、やはり市長におかれましては多忙になるかと思われます。先ほど述べられましたように、市長の手となり足となることが、そういう人材が絶対必要になると思います。戦略室を言いましたけれども、その中で考えるということでありますけれども、その市長の思いに対してツーカーというような仲となるような職員、それをすぐ育成、またその書類の書き方のできるようなプロの育成をしていただいて、そういうことに対して今から理解して進めていっていただきたいと思います。

次に、生産者のための補助金について質問いたします。ある情報サービスの会社に行きお話を聞いておりますと、ある思いになりました。それは、このたび市長は農作物の販売に対して、ネット販売などに対して予算を組まれております。予算を組まれたことによりまして、市民は相当期待しております。私は市長はこのネット販売に対して基本といいますか、素火をつくるための予算だと私は思っております。これからネット販売をするにあたりましては、市の補助金に頼るばかりではなく、自ら出資し、運営にあたっても経費は自ら負担し、自分たちの意見を通すような補助金を使わなければならないと思っております。ただ単発に打ち上げ花火で終わらず、長続きするような補助金の使い方についてどう考えておられるか、質問いたします。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　実効的な補助金のあり方についての考えを述べよということかと理解いたします。特に農林業の振興というのは、これまで何度も申しますように当市の活性化の大きな重点方針の一つというふうに考えておりますので、その中におきましては、やはり市としてもですね、最大限の支援をしていきたいというふうに考えている次第でございます。

ただ一方で、これもまたいろんな場で申し上げますとおり、市の財政環境というものがこれから急激に変化していくことになるはずでございます。その方向というのは非常に厳しい方向になることが予想されているわけでございます。そういう意味では、この限られた資源をなるべく有効に使っていかなきゃいかんということでございますから、これからのいろんな補助等に関わる支援策というのも、やはり効果、効率ということをよく念頭に置いて具体化していく必要があろうというふうに考えている次第です。その際の一つのやはり大きな考え方というのは、その支援ないしは補助というものはですね、菊池市全体の、あるいはその事業の成長ですとか、発展につながるかどうか、これが大きなやはり軸として捉えていきたいと思います。もちろん、それに至るまでにですね、例えばなかなか自分一人の努力ではどうしようもない部分があろうかと思います。そういった部分については、例えば機械導入が大きな発展をもたらすのであればですね、それに関するその補助事業など、生産者に必要な部分につきましては検討していく部分があるんだろうなと思いますし、今回のインターネットのようにですね、インフラの仕組みをつくることで全体がうまく回り出す、こうした共通インフラに対しては大きくやはり重点的にですね、考えていくことで市全体としては大きな効果につながるんじゃないかというふうに考えますので、こういうふうなメリハリを付けた考え方で今後の補助事業というのを考えていきたいと思います。

よく補助ありきということでは競争力とかですね、自立的な経営力というものを弱めてしまうという考えもあり、私もそういった部分は少なからずやはりあるだろうというふうに考えていますので、今申し上げたことをですね、念頭に置きながら、バランスの取れた効率的な支出に努めていきたいというふうに考えている次第であります。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　中山繁雄君。

［登壇］

○１４番（中山繁雄君）　私も、今、補助金について自らといいましたけれども、補助

金が要らないと言っているわけではありません。農業資金について少し調べてみましたが、国の事業で新規就農者補助金、融資主体型補助金、集落営農補助金や条件フリー地域型とか、女性経営体の育成など、結構ハードルは高いんですけれども国の事業につきましては大変出ております。これに対しても市から農家に周知徹底をして、この補助金の対しての対応はぜひ市としてやっていただきたいと思います。

次の質問に移ります。地域で支え合う高齢者対策について質問いたします。民生委員さんの仕事と申しますと、住民の生活状況を必要に応じて適切に把握しておくこと、援助を必要とする者のその有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるように生活に関する相談に応じ、助言、その他の援助を行うこと。援助を必要とする者が福祉サービスを適切に利用するために必要な情報の提供、その他の援助を行うこと。社会福祉を目的とする事業を経営する者または会社福祉に関する活動を行う者と密接に連携し、その事業または活動を支援すること。社会福祉事務所その他の関係行政機関の業務に協力すること。老人福祉等の施行について、市町村長、福祉事務所長、また社会福祉主事の事務の執行に協力すること。生活保護等の施行について、市長、福祉事務所また支所長、または社会福祉主事の事務の執行に協力すること。身体障害者福祉法の施行について、市長、福祉事務所長、身体障害者福祉または社会福祉主事の事務の執行に協力すること。知的障がい者福祉法の施行について、市長、福祉事務所、知的障がい者福祉または社会福祉の執行に協力することなど挙げております。今言った仕事、本当に大変だと思います。現在、旭志の世帯数と６５歳以上の一人暮らしの数と集落数及び民生委員さんの数をお知らせください。

○議長（山瀬義也君）　健康福祉部長、宮本誠一君。

［登壇］

○健康福祉部長（宮本誠一君）　お答えします。

旭志地区の世帯数は１，５９１世帯で、６５歳以上の一人暮らしの方は２３０人です。また、現在旭志地区での民生委員・児童委員の数は１３名で、担当地区が２８あり多くの方が複数の地区を担当され、大変ご苦労されております。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　中山繁雄君。

［登壇］

○１４番（中山繁雄君）　なぜこの質問をするかと申しますと、市長と語る会、また議員との懇談会で民生委員さんから要望があったのを議員さんも聞かれたと思います。本年多くの民生委員さんが交代されます。旭志のように広い集落を見ておられると思います。最近は個人情報という難関もありまして、以前の前民生委員さんからの

情報は知り得ることができず、引き継ぎができないと聞いています。本当でしょうか。新しく委員になられ、一軒一軒調べて回る、これは本当に大変だと思います。情報収集に対して配慮ができないのか、質問いたします。

また、私たちの集落では、昨年災害を想定いたしまして避難訓練が行われました。区長さんの号令で体の不自由な方の把握、一人暮らしの方の対応などを把握して行われました。これからの高齢化社会は、民生委員さんと集落、集落となれば区長さんの連携が必要だと思いますが、市としてどう考えておられるか、質問いたします。

○議長（山瀬義也君）　健康福祉部長、宮本誠一君。

［登壇］

○健康福祉部長（宮本誠一君）　お答えします。

今回の改選には間に合いませんが、今後市全体の民生委員の数の見直し等について、民生委員・児童委員協議会連合会と協議してまいります。個人情報につきましては、民生委員・児童委員さんへは毎年１月１日時点の住民基本台帳情報を提供しており、できるだけ活動しやすい環境を整えておりますが、日常的に個人情報を提供することは個人情報保護条例等の関係から難しいと考えます。また、民生委員・児童委員協議会連合会では、独自に高齢者世帯等についての調査を行っておられますので、住基情報とこの世帯情報により、きめ細やかな活動ができると考えております。現在の民生委員・児童委員の任期は本年１１月末までで、今回交代される方につきましては後任の方への十分な引き継ぎ事務をお願いしてまいります。

地域防災組織への情報提供につきましては、現在災害時要援護者支援計画の中で命のバトンという自己申告方式で個人情報を福祉課に提供していただき、緊急時の避難に役立てる活動を行っており、今後広げていく準備を進めております。また、現在各課と連携し行政区ごとに要援護者の方の情報と障がい者の方の情報を取りまとめる災害時要援護者管理システムを構築しております。今後、この情報の提供につきましては、個人情報保護条例との関係もございますので、関係部署と十分協議を進めていきたいと考えております。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　中山繁雄君。

［登壇］

○１４番（中山繁雄君）　これから高齢化社会はどんどん菊池においては進んでいきます。もっと一人暮らしは増えていきます。市も民生委員さんばかり頼るのではなく、区長さんを中心に考えていく必要があるのではないかと思います。そのためにも、区長さんに行政の仕組みとか流れなどの勉強会などをする考えはないか。やはり区長さんの意見の把握、これは市民から市へのメッセージとなると思いますが、どう

考えておられるか、質問いたします。

○議長（山瀬義也君）　総務企画部長、野口祐成君。

［登壇］

○総務企画部長（野口祐成君）　中山議員のご質問にお答えいたします。

区長様方には、区長協議会、会長会議、役員会議、年４回、５回、それと区長協議会の全体研修会等を行っておりますが、その中におきましても、最初の総会におきまして区長必携ということで主な役所の、市役所の業務内容はお伝えし、それに基づいていろんな項目ごとに説明をいたしております。それもございますけれども、よりよく周知できますように、今後区長協議会あたりと協議をしながら進めてまいりたいと思います。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　中山繁雄君。

［登壇］

○１４番（中山繁雄君）　次の質問に入ります。

第三セクターの指定管理制度の市のこれからの考えについてと、第三セクターの現在の経営状況を簡潔にお知らせ願いたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　経済部長、平野國臣君。

［登壇］

○経済部長（平野國臣君）　おはようございます。中山議員の質問にお答えします。

指定管理者制度につきましては、公の施設の管理に民間の能力を活用し、行財政の効率化を図り、併せて市民サービスの向上を図ることなどを目的として、平成１５年９月に創設された制度であり、指定管理者の指定につきましては、公平・公正を期すため公募の形式を採用することが原則となっております。本市におきましては、第２次行政改革大綱におきまして、指定管理者の公募制導入を推進項目として第三セクターの見直し方針を策定、推進しておりますので、本年度末をもって指定管理期間満了となる物産館施設及び温泉施設等につきましては、公募制で進めてまいりたいと考えております。

また、平成２４年度の４つの物産館の指定管理者である第三セクターの経営状況につきましては、それぞれの物産館が特色に応じた加工商品の開発や販路開拓などに積極的に取り組まれております。有限会社菊池観光物産館におきましては、売上げ総額が１億６，０６７万７，０１７円で、経常利益が１６６万１８２円、税金等を差し引きました当期純利益が１４１万７，８８２円となっております。また、有限会社七城町特産品センターにつきましては、売上げ総額が１１億３，３０２万１，０４４円で、経常利益が１，３８５万５，４１７円、当期純利益が９４０万５，７４２

円となっております。有限会社旭志村ふれあいセンターにつきましては、売上げ総額が５億１２６万６，９８５円で、経常利益が９０２万９，８０３円、当期純利益が５６７万８，５６２円となっております。また、有限会社有朋の里泗水におきましても、売上げ総額が３億７，７５５万８，８３１円で、経常利益が４４４万９，５４９円、当期純利益が３１５万４，５４９円となっており、各社とも利益配当金処分等も行われ、順調な経営をされているところと理解をいたしております。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　中山繁雄君。

［登壇］

○１４番（中山繁雄君）　市長は、農業で菊池基準をつくり、６次化を踏まえ農業の活性化を考えると言われております。現在、国では農業の６次化が流行語のようにささやかれております。しかし、私はいろんな成功例や失敗例を見てきました。農家が新しい商品を考え販売する。これで成功した例は少しはありますけれども、ほとんどありません。あまりにもハードルが高すぎます。普通の農家が国に申請しても、農業法人をつくりなさいとか、いろんなことで却下されます。また、農家で成功しても増産するにしても、１軒の農家では無理があります。ましてや農家が考えているようなことは企業がほとんど考えております。企業というものは、市場調査をし、材料を調達し、マスコミを使い宣伝し、ブームをつくり販売する。皆さん、コマーシャルを見てください。深夜放送ではほとんど健康食品であります。資本力のある企業だからこそできることであります。農家というものは、１次生産を頑張り、良質で安心・安全な生産をする、それが農家本来の仕事だと私は思っております。

そこで例を挙げますが、旭志の道の駅、売上げが伸びております。道の駅独自のオリジナル商品をどんどん出し、売上げアップにつなげておられます。また、旭志の農産物で何か加工品ができないか、模索もされております。私はこの物産館と農家との６次化の形が理想の形だと私は思っております。合併して物産館関係の合併、また公募など必要だというのはわかっております。物産館の合併などは特に必要だと思っております。合併するにあたっては、出資金の問題や連携の問題などいろんな問題もあるかもしれませんけれども、一本化することにより市外からの買い付け、商品の菊池市での統一、加工所は七城のメロンドームにあります。ここをもっと充実し、菊池の農産物をここで集結し、新しい商品の開発をし、販売に力を注ぐべきときに民間を含めた公募、私はこれは絶対考えられません。農家と道の駅協議会をつくり、どうすればお客さんが付いていけるだろうか。品揃え、品物の欠品を出さないようにとか、悪い品物が出ないようにとか、今、連携はうまくいっていると思います。このような同じような民間の施設では手数料も高いようですし、販売主体

の会社に委託がされれば、今頑張っておられる農家はほとんどの方が高齢の方が多いと思います。生きがいをなくされないかと心配でたまりません。統一は必要だと思いますが、公募についてどう考えておられるか、質問いたします。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　ただいまのご質問は、第三セクターの予定しております公募に関する考え方というご質問でございました。公募に際してはですね、これはもう先ほど経済部長のほうからお話がありましたように、市の行革大綱の中で従前に決定されているわけでございまして、その考え方というのは、ある程度その競争原理を入れていこうとするものであるというふうに私は理解しております。その背景としては、これは当市ということではなくて全国的な傾向でございますけれども、第三セクターの中には、残念ながら業績不振で自治体の財政にも多大な負担を与えていると。その中では、特に閉鎖に至ったものも少なくないというふうに理解しておりますけれども、菊池市の場合は幸運なことに非常に皆様のご尽力あってですね、第三セクター比較的良好な姿をとどめているんじゃないかというふうに考えている次第でございます。第三セクターを考えるときには、その行革の基本にありましたそういった経営としてのこの改善、競争原理を入れていくというもののほかに、当然ながらこの地域経済全体に活性化を与えていくと、これがそもそもの大元でございますので、私がこの第三セクターの公募を実施するにあたっては、やはり基本はこの第三セクターを創業したときのねらいであるとか考え方、ここにまず戻って、それを出発点として考えたいというふうに考えております。例えば経済的なことだけを言えば、委託料をどんどん下げていけば市の財政は楽になるわけですが、しかしやはり物事というのは長期的な視点で考えていかなければいけませんので、そのことを通じて、一体地元の産物の発展に寄与するのか、それから農業の振興に役立つのかといったことがむしろ大きな考え方の軸になってこようと思いますので、それを実現するためには、その指定管理業者がですね、地元の産物に対しての理解がどうか、それから地元との人的なネットワークがきちんと構築されているか、それからそういう業界における経験はどうか、それから成功実績を持っているということも、これは大きな一つの勝算になってくるわけでございますから、こういったふうな見方で創業時の狙いを踏まえつつ、長期的な、総合的な意味でですね、本当に農業の振興、地域の活性化に役立つ力を持っているのはどこかと。こういった目で見ていきたいというふうに考えております。

また、今回の仕様書もそういうふうなことが基本に組み立てられておりまして、これから選定委員会のほうで選定をしてもらいますけれども、その際にも今申し上

げたようなことが基本的な判断軸として既に入っております。その結果を踏まえましてですね、総合的に判断して選定をしたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（山瀬義也君）　中山繁雄君。

［登壇］

○１４番（中山繁雄君）　例を挙げますと、私たちの旭志には四季の里というものがありました。しかし、これが民間委託になりましてほとんど利用がないような形にもなりました。やはりこの変化というのは大変地元に対しては大きなものだと思います。こういうことも踏まえて、いろんな考えを、今、市長が言われましたように考えてやっていただきたいと思います。やはり民間というか、そういうところに委託した場合、そういうことが赤字になれば、やはり手数料が上がる、これはやっぱり農家の皆さんにすぐ跳ね返ってくると思います。市としましては、生産者に説明者とこの間部長は述べられました。オリンピックのプレゼンじゃありませんけれども、いいことばかり述べて手数料は上げませんとか言われたかどうかわかりませんけれども、ありませんとか、今までとほとんど変わりませんというようなことが言われておられれば、生産者はそれを鵜呑みにして、変わってもいいかというような思いが出てくるのではないかと心配しますので、そこのところは考えてやっていただきたいと思います。

最後に、さくらの里構想について質問いたします。市長は菊池市を桜でいっぱいの構想を述べておられます。合志川沿いから鞍岳を見れば、本当に素晴らしい眺めであります。旭志でも平地区に桜が植わっております。そこから見る鞍岳は、本当に桜が咲いた時期は素晴らしい眺めであります。私たちの集落にも公民館の周りに、河川に桜を何本か植えておりました。最近少し大きくなりまして、本当にもう少しまだ植えたらいいんじゃないかという意見が集落で出ています。しかし、河川法という何か県からとか国からの規制があるように聞きますが、市長はこの間の市長との語る会でそこで何か打開策があるような話をされておりましたが、そこのところを聞かせていただきます。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　ただいまのご質問は、さくらの里構想においてのその河川堤防への植樹の可能性ということでございました。この日本一のさくらの里プロジェクトにつきましては、今申し上げたように河川堤防が中心ではございますが、公園等も可能性があれば検討してまいりたいというふうには考えております。目下、庁内関係各課でプロジェクトチームを立ち上げて検討を進めているところでございます

が、こういう中で、まずはともかく現況の調査、それから各種課題の整理というのを行いたいというふうに思っております。そういう中で、当然この堤防の場合は実際に河川管理者との詳細な打合せがこれからまた続いていくということになろうかと思います。河川の場合には、皆様ご存じのとおり国土交通省が管理しております国直轄の区間、それから県が管理しております県管理の区間、それから市が管理しております普通河川、準用河川がございますけれども、いずれにしましても河川堤防に植栽を行う場合には、河川法の適用を受けることになるわけでございます。実はこれからプロジェクトチームで詳細にこれを詰めていく前にですね、直轄区間につきましては実は国土交通省の菊池川河川事務所が山鹿にあるわけでございますけれども、こちらの所長さんと実はこの構想についての話をしまして、意見交換を行いました。その結果ですね、実はこのプロジェクト自体については大変基本的な賛同の意をいただいておりまして、大変いいですねと、ぜひ協力をしたいというふうな話でございました。今ご懸念の河川堤防はだめなんではないかということを私も前から実は間接的に聞いておったわけですけれども、実はこれを管理されていますこの河川事務所の、いわば当地の責任者である所長さんにお話をしたところですね、むしろ賛同の意を表されたのみならずですね、具体的な方策等についても一ついろんな示唆をいただいておりまして、盛り土のやり方等々でそれがカバーできるというふうなことを聞いております。もちろん、その堤防ごとの立地環境、それから堤防の周り状況等が異なりますので、一律全部がということではないというふうに理解しておりますけれども、進めていくことは可能だというふうに感じております。今後、県の管理河川についてはですね、地域づくりに関わる菊池地域振興局との連携会議を開催しておりますので、この植樹等に関してもですね、協力の依頼を行っているところでございます。

こうしたことを踏まえて、時間はかかるとは思いますけれども、できるところからですね、少しずつ進めていくことが可能だというふうに考えている次第でございます。

以上です。

○議長（山瀬義也君）　中山繁雄君。

［登壇］

○１４番（中山繁雄君）　ありがとうございました。建設部長にちょっとお尋ねですけれども、私たちの集落でここを見てくださいというときの窓口になっていただけるでしょうか、なっていただけないか、質問いたします。

○議長（山瀬義也君）　建設部長、松野浩一君。

［登壇］

○建設部長（松野浩一君）　建設部で窓口になりたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　中山繁雄君。

［登壇］

○１４番（中山繁雄君）　私たちの集落では、昨日区役がありまして、彼岸花の里ということで菊池遺産になっておりますし、そういうことも努力しておりますし、今度も桜も植えたいという方向で進んでおりますので、今後ともどうぞよろしくお願いしたいと思います。ありがとうございました。

○議長（山瀬義也君）　ここで、１０分間暫時休憩します。

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

休憩　午前１０時４７分

開議　午前１０時５７分

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

○議長（山瀬義也君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、工藤圭一郎君。

［登壇］

○３番（工藤圭一郎君）　おはようございます。議席番号３番、工藤圭一郎です。通告に沿って一般質問に入りたいと思います。

今回、私が一般質問を考えるときに、一つのテーマを考えました。市長の、江頭市長の本気度、覚悟をお尋ねしたいなというところで今回の一般質問を自分なりに考えてみました。それは、市長と語る会、そして議会からの報告会、いろんな市民の皆様から声を通じてですね、確かに市長と語る会というのはものすごく評判がよかったです。初めて目の前に来てくれて、そしてしっかり自分のビジョンを語っていただいたと、そういうお話を聞きました。ただ、議会の報告会でも意見が出ていましたように、ひょっとすると絵に描いた餅になってしまうんじゃないかと、そういう市民の声もありましたし、私もそういうふうに思っております。きれいな言葉は確かにいっぱいしゃべっていただきます。ただ具体的にどういうふうな施策を本当に実行していくのか、そのあたりがなかなか見えない、そういう現状ではないかなというふうに私も思っております。それを踏まえてですね、今回の一般質問を始めたいと思います。

まず、泗水の朝日東団地が今建設中であります。そこで、この泗水朝日東団地はですね、今３０戸の計画で進んでおりますけれども、既存の朝日団地についてですね、今後どういうふうな取り扱いをされるのか、そこをまずはじめに聞きたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　建設部長、松野浩一君。

［登壇］

○建設部長（松野浩一君）　既存の住宅についてでございます。残されます老朽化いたしました既存の住宅につきましては、入居されております皆さん方が退去完了後に解体工事を平成２８年度に予定しているところでございます。

○議長（山瀬義也君）　工藤圭一郎君。

［登壇］

○３番（工藤圭一郎君）　２８年度に解体を目指しているというようなお話なんですけれども、その後ももう少しお尋ねしたなというところです。泗水町において計画してあったのが、新たに建て替えた場合に解体して、その後民間に払い下げて、よければ個別の住宅あたりが民間の力で建っていただけるならというような思いも持っておりました。そのあたりをですね、よければ計画があるんであったらお聞かせ願いたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　建設部長、松野浩一君。

［登壇］

○建設部長（松野浩一君）　今ご質問の住宅団地の跡地利用につきましてでございますが、現在のところは今後の課題という形で、まだ検討のほうには入っておりません。

○議長（山瀬義也君）　工藤圭一郎君。

［登壇］

○３番（工藤圭一郎君）　それと、もう１点、あそこが国道沿いでですね、非常に目立つ場所に新たな新築部分ができております。ただ、どうもなんだか窓が少ないような、色がおかしいような、そんな話をよく聞くんですよね。民業圧迫にならないように市がつくる市営住宅は控えめにつくられているのかなと思いますけど、もう少しデザイン性だとか、景観に配慮してあるのかもしれませんけれども、どうもですね、そういう声が多い。そのあたりは、設計をされた方がそういう提案をされて、ＯＫを出されたんだろうですけど、そのＯＫを出すときに、もう少しですね、部長なのか、課長なのか、だろうですけど、そこがなんだかちょっと私としてはですね、思うところであります。そこはもう聞きませんけど、やっぱりそれが泗水の人たちが、今何か見よって、よく聞きます、私に。だから、今さらどうこう変えてくれとか、そんなことは言いませんけど、そういうところを思っているということだけは思っておいてください。

次の質問にいきます。行政改革において、民間より来られた江頭市長ですので、市長の感性と、これから効率化を進める立場で見たときの、やはりこの本庁での職員の数、これはですね、常に言われます、多いと。今、議会改革の検討がされていますけど、議員の数を減らしたって知れとるだろうがと。それよりもしっかり議員

が職員の数を言ってくれよと、そういう声をよく聞くんですよ。だから、ここに適正な職員の数とか書きましたけど、その私からしてもそういうことを具体的に何人だということは言いませんけど、やはり外の民間から来られた市長が今の現状、これを見たときにどうなのか。本音のところでそこを市長にお伺いしたいなと思っての次の質問であります。そして、よく民間では行われている早期退職勧奨ですか、それも含めて市長がどのようにここの市長になられて思われているのか、そこのところをお聞かせ願えればなと思います。次の質問とします。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　今、２つご質問いただきまして、最初のご質問が職員数が多すぎると感じないかというご質問であったかと思います。市長と語る会を今回４カ所でやらせていただいたわけですけれども、職員数についてのご意見もございました。やはりまだ多いんではないかというご意見もございました。一方で、総合支所のほうを増やしてほしいというふうなご意見もあったというふうに記憶しております。

まず、この本庁ということではなくてですね、本市全体の職員数というのを、私も銀行員でございますのでどうしても全体の数からまずは押さえたいというふうに思うわけですが、合併当初から比較しますと、これはいろんな場所で申し上げておりますけれども１１４名の減員というふうになっておりまして、ただいま４９９人在籍しているわけでございますけれども、やはり一つの相対間ということで見ておかねばならんと思うわけですけれども、総務省の出しております類似団体別職員数というふうな一つの統計がございまして、この統計で見るところではですね、この総務省のある程度用意しているフォーミラによりますと、ただいま現在の全体数というのはそんなに多くも少なくもないというふうな数字のように読みとれます。ただ、私自身はまだこの全部を掌握しているわけではございませんけれども、今この直感的にどうなんだという趣旨のご質問であったかと思うんですが、全体として見たときにはですね、まだまだ見直しの余地があるかもしれんなというふうなのが私の今感想でございます。ただ、本庁の中でどうか、支所ごとにどうかというところについては、まだ私としては何ともですね、まだ実感としても多いか、少ないかはよくわかりません。ただ私が全体としてはまだやっぱり減らす余地はあるなと思いますのは、これから課題でありますその支所方式のほうにどうつなげていくか。そのためには、実は業務の見直しというのがもう不可避なんですね。例えば単純に減らすだけではなくて、窓口をむしろ市民の利便性を高めるためにＩＴを導入することで、例えば機械化をしている自治体は非常に多いわけでございますけれども、私も実は前自分が住んでおったところでその恩恵を受けておりましてですね、大変手軽

で便利で早いということで、市役所のほうも窓口に置かなくていいというふうなメリットがあったというふうに記憶しておりますので、まさにこういったことを組み合わせていけばですね、減る余地があるはずであるというふうに今考えておりますので、実際にはそれをどういうふうに実現していく中で、例えば総合支所の問題、各地域からのいろんなご意見・ご要望もありますんでね、どういう解決を図るかでまた全体の数は違ってくるんだろうというふうにも思うわけでございます。いずれにしても、そういったことを踏まえながら、業務効率化等も踏まえながらですね、適正な水準というのはこれから練っていきたいというふうに思っています。本年度中にはですね、職員の定員適正化計画というものを策定していきたいというふうに考えているところでございます。

それから、２番目の早期退職を促すことはできないかということでございますが、公務員の身分に関する様々なこの法律上の考え方というのもあるわけでございますが、この仕組みとしては早期退職を促す仕組み自体としてはですね、菊池市職員の勧奨退職実施要項というのがございまして、その中で年齢構成の適正化ですとか、それから行政能率の向上を図るといったことを目的としてこれまで実施されてきているところでございます。具体的には、今年度末現在で年齢が５０歳以上５９歳以下で、かつ勤務年数が１０年以上の職員を対象として５月と１０月に勧奨退職の希望を取っているところでございます。引き続きこうしたふうな形での新陳代謝を図っていきたいなというふうに考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　工藤圭一郎君。

［登壇］

○３番（工藤圭一郎君）　この職員の数を言うときにですね、前の市長だけじゃないかもしれませんけれども、新規の採用を減らしたり、見送ったり、そういうことに往々にしてつながるんだなというふうに私も思っているんで、そうじゃなくて、なるべく若い世代の若い人たち、そういう人たちはですね、どんどん入れてほしい、行政がですね、頑張って。その裏で、やはり早期退職勧奨あたりはですね、しっかり市長が頑張っていただきたい。

それと、前半の部分で答えられたところは、聞いてますと何か総合支所は支所をですね、やっぱり効率化して減らすような答え方に今聞いてて感じたんですけれども、要はコンビニ窓口で窓口業務がコンビニでできるようになれば、窓口も減るんじゃないかみたいな、と私は聞こえたんですけど、そうなってもらっちゃ困るんですよね。そうじゃなくて、私が言いたいのは、多くの市民の人が見て言うのは、何で本庁にあんなに人がいるんだ。そして、もともとＩＴ化を進めるときにはですね、

ＩＴ化、要はパソコンを１人１台ずつ使うようになったときに減るはずだったんです。全然減ってないですか。返って、何かそのパソコンを使って余計な仕事をしているのかなというふうに私は感じるんですよね。だからそこをですね、やっぱりずっと行政におるとなかなかそこが見えにくくなる。だからこそ、民間から思い切って市民の皆さんは期待して変えてくれるんじゃないかなというような投票行動だったんじゃないかなというふうに私は思います。やはりそういう声を多く聞きます。だから、その感覚をお聞きしたいんです。もっと、市長になられて、いろんなレクチャーはされたと思いますけど、その中で、いや、違う、民間ではこれは通用しないよというような職員のその配置なり、人員なり、思われたと思うんですよね、市長は。だから、そこを本当にディスカッションされたのか、それをもう一度お伺いしたいと思いますけど、いいですか、市長。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　今申し上げたとおりですね、私自身としてはまだ合理化の余地があるというふうに考えております。ただそれは、ただ数を減らすとか増やすとかいう議論では当然ないですね。業務があって人があるわけでございますから、これは民間にしろ何にしろ同じだと思いますが、まず業務をどういうふうに流れをつくるのか、そこの合理化がはっきりして、初めて何人ぐらいの人間がいるんだということになるわけでございますから、ＩＴのこの活用の仕方次第で全然変わってくると思いますし、またその本庁・支所の関係の分脈の中で当然変わってくると思いますし、だからそこにおいてはユーザーの方、すなわち一般市民の方の使い勝手等を考えながら、よく耳を傾けてやっていかなきゃいかんところがあるものですから、そういったふうなことを総合的に判断しながら、自ずと数のほうが決まってくるんではないかと思っていますので、ただ一律にですね、数だけの議論で今お答えするのはなかなか難しいとは思いますが、いずれにしても全体としてはこの行財政の改革は待ったなしでございますので、減らしていかなきゃいかんという方向性は何らこれは私の中では変わらないと、不退転の決意で臨むということでございます。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　工藤圭一郎君。

［登壇］

○３番（工藤圭一郎君）　じゃ、次に、庁舎整備方針についてお尋ねしたいと思います。何人か議員さんたちが質問されていまして、今までどおりの計画を粛々と進めるというような市長のお答えだったかと思いますけど、私はですね、やっぱり反対してきた立場からですね、一つ一つついきたいと思います。

まず、この本庁舎整備ですね、もうやがて５０年ですよ、この本庁舎、菊池のですね。これを耐震してリフォームするって。これこそ無理無駄がある計画であるし、一体いつまでこの庁舎が保つのか。これを後世に残すことがどれだけ負担になるか。また、何年後かに建て替えなきゃいけないときがきます。そのときにお金があるのか、菊池市に。そういうことを言葉では市長は無理無駄がないように市民の皆さんに意見を聞いてと言われるけど、結局計画はそのまま継続していきますと。その中で、無理無駄がないように皆さんの意見を聞く。先だって図書館のお話、ワークショップあたりがあったらしいんですけど、結局この計画の中だけで、ああじゃない、こうじゃないと言えという話をされても、自分たちはもともとなんかおかしい計画の中で図書館が２階て、単純にそんなことから話がでてきているんですよね。そもそもこの計画に皆さんが本当に納得していない。私はそういうふうに思います。そして、中央公民館、それをプールの上へ、足らない部分もそこに。さらにプールも建設しなけりゃならなくなりますよね。そして、花房の圃場整備地内の不換地についても買うと。そして、そこに建てるものは後から、まだ先ですので考えます。その分のお金もまた要ります。もともとこの場所は駐車場が少なくて皆さん困っておられます。その問題も全然解決しない。大体がこの計画がやっぱり無理があるんじゃないかなと私は思うんですよね。前回、６月議会で坂井正次議員が白紙にしたらどうかと、したらヤジが飛びました。いいじゃないですか、市長が代わったんだから、思い切った方向転換をされるのも議会と本当に向き合って、それを市民が望むことであればしっかりと勝負していく。そういう姿勢を多分市民は求めて市長に託したんじゃないかなというふうに私は思います。だから、私が思うに、元に戻って、原点に立ち返って、ゼロベースで考え直すということが市長に求められているんじゃないかなと思います。そもそも花房での庁舎建設を変更してから、泗水の独立運動が始まりました。それはご承知のとおりだろうと思います。そして今、菊池環境保全組合ではですね、どうも菊池に対して信頼と信用ができないと、その大元はこれじゃないんですか。表面の取り繕いはされていますけれども。こういうことをきちっとしていかない市と本当にいろんな契約事項を結んで大丈夫なのか。そういうことを言われているんじゃないかなと私は思っております。皆さんは違うかもれしれませんけど、私はそういうふうに考えております。多くの菊池市民が江頭市長に投票したときに、前の市長の政策を継続するという、そういうふうには絶対思っていなかったはずです。多分新たなことをやってくれる、市民目線でやってくれる、民間から来た人だから、行政にずっといた人じゃないから、自分たちの気持ちをわかってくるんじゃないか、そういうふうに期待して多くの人が入れたんじゃないかなと私は思っておりますし、そういうふうに聞きます。それに対する答えがですね、

確かに無理・無駄という言葉は使われますけど、全然具体性が出てこない。だから、市民の人が絵に描いた餅にならないか、ホタルを増やして桜を植える、それはそれで大いに結構なことなんですよ。でも、実際足下で、目の前で菊池市が抱えていることを一つ一つクリアしないと、本当に前に進めるんですか、菊池市は。本当にみんなが桜、ホタルて進めるんだろうかと私は思います。そこを江頭市長がですね、はっきりと見せていただくことが市民に応えることじゃないかなというふうに思って、まずこの庁舎整備に対してですね、１回目の質問としたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　ただいまのご質問ですが、ご質問がですね、原点に立ち返り、そのゼロベースで検討したらどうかとおっしゃっていること、並びにその桜・ホタルとの関連等ですね、ちょっとそこら辺が必ずしも今、ご質問の趣旨が具体的な意味で理解しとるかというと、ちょっと自信がないもんですから、原点に立ち返りゼロベースとおっしゃるところの意味をですね、今一度お教えいただきたいというふうに思います。お願いいたします。

○議長（山瀬義也君）　工藤圭一郎君。

［登壇］

○３番（工藤圭一郎君）　そんなに難しいことじゃないかと思いますけど、ちょっといろんなことを言い過ぎたのがちょっと混乱を招いたのかなと思いますけど、もとを正せば合併で協議した一番の最重要課題である新庁舎の位置の変更、それが前市長のときに全会一致ではなく、賛成多数で決定されて今に至るのは事実ですよね。それによっていろんな問題が生じてきたよ。泗水ももう独立しますよ、分離独立しますよという運動も起きたし、今、その菊池環境保全でもなかなか菊池市全体として入れることはというようなお話がある中で、そのもとを正せば、いや、それは違うというふうに執行部側は言うかもしれませんけど、私はそういうところから信頼を失ってきているんじゃないですか。だからこそ、原点に返ることはできないかと、市長が考えられませんかという質問です。前の市長は、無理ですと、花房ではとても間に合いませんと。どんなに言ってもそうでした。不換地で建てることは無理です、間に合いませんと。そのとき泗水の議員はですね、いや、不換地に建てることは無理じゃありませんよと、市長がやる気がないだけですよと。だからそこあたりをですね、市長になられたんですから、本当に検討をされて、ゼロベースでどうだったのか。いや、それを言い出せばものすごく大問題になるかもしれません、ここで。でも、それが私が最初に言った本気度と、それと覚悟を持って進めていかれるか、そこが聞きたいところです。このぐらいでいいですか、市長。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　私のこの庁舎問題に関して、私自身はですね、この私自身の原点というものがございます。それは、実はこれいろいろな選挙の前の政策討論会等がございましたけれども、この場でも私ははっきりと申し上げておりますけれども、これまで庁舎問題をめぐってですね、いろんな議論がなされて、ほとんどなかなか平行線のままですね、大変時間とエネルギーを費やしてきたわけですね。その結果、当時私が見ておりまして、市民が大変疲弊しているという状況があったような記憶がございます。その中で私が当時からずっと一貫して申し上げていますのは、やはり今の庁舎の立地というのはですね、そういうふうな様々な異なる立場での議論を経て、その間、ある意味市民のほうにもそのいろんな傷みが生じていたわけですね。そういった一つの副作用といいましょうか、副産物を生じながら議論の果てに議会のプロセスを経て決定したことでありますから、私はもうそれは尊重しましょうというふうに申し上げているわけですね。ですから、この立地自体をもう今からどうこうという話になると、これは本当にまたもう一回あのようなですね、市民を巻き込んだ痛みを伴うプロセス、もう一回これやることになって、当時その結果、出口がなかったわけですよね。それをもう一回また私になって繰り返すということは、これは到底考えておりません。私が申し上げたのは、むしろその力はもう前に向けるべきであると。もういつまでもその議論をしている場合じゃありせんと。そんなことをやっている間に、菊池市がどんどん取り残されておりますということを私は外から見た目で、本当にふるさとを心配してそういうふうに思ったわけでございます。ですから、様々な議論、様々な意見ありますけれども、もう議会のプロセスまで経て決まった事をですね、私は、もう一回それを私が蒸し返すというのは、これはこの市というのはやはり菊池市民のものでございますから、やはりこの市民の代表としての機関の決定は、これは尊重していくべきであろうというふうに今も強く感じているところでございます。

ただその中において、いろんな市民が直接物を言う機会というのは必ずしもそんなに多くはなかったと思います。ですから、今回の庁舎整備の中において、ワークショップにも入っていただいて意見をいただく機会もつくりましたし、それからまた検討委員会の中にも民間の方に入っていただこうということで、少しでも民意を反映したものにしたいというふうに考えているわけでございます。その中で、特に図書館、公民館機能のワークショップに関しましては、使い勝手という意味で、庁舎が二つに機能が分かれるよりは、図書館なら図書館、そういう文化機能、市民ホール機能と申しましょうかね、といったものと、それから庁舎機能は、これはもう

きちっと分けたほうがむしろ合理的ではないかと、使い勝手も非常にいいというふうな話は出ているようでございますから、私はそういうものはむしろこれこそ無駄ムラが生じないか、それから合理性・機能性の点でどうなのかということで見直していけばそればよろしいのかなという気はしております。ただ、全くおっしゃっている原点というのが当時の花房台地を含めた議論に戻れというのであればですね、それはまたこの菊池市をあのような議論の状態に引き戻すことになって、そこから何が生まれるだろうかということを私は強く懸念しておりますので、むしろ未来志向で、将来をにらみながら、何が自分たちにできるだろうかということをしっかりとにらんでいきたい。私たちにとってあれば傷みを伴うプロセスでございましたけれども、それを反省材料として、レッスンとして生かしていくならば、それは私たちにとって貴重な経験であったと後になって言えるのではないかと思っておりますので、私としては今申し上げた中において、一般市民の目線での利便性、合理性、そういった目線からこの問題というのを検討していきたいというふうに思っている次第でございます。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　工藤圭一郎君。

［登壇］

○３番（工藤圭一郎君）　そうであればですね、市長が言われるようなことであれば、ならられて、もう花房の不換地は買わないとか、そういうふうな方向を、無理・無駄があるじゃないですか、そういうところに。これから考えますというようなことじゃなくて。それを買うと言われるから、いやってやっぱり私も思いたくなるし、元々原点がそこじゃないですかと言いたくなる。しつこいようですけど。そうすると、それとこの庁舎ですね、今少し方向を変えられるようなお話が出ましたけど、やはりもう４０年以上過ぎて古いコンクリートになっていますよね。耐震補強はしたけど、本当に持ちますか、これが。中をちょっと扱うぐらいで。そんなに持たないと思うんですけど、そのときにまた建て替えるんですか。当然、それだけそんなにすぐは崩れないでしょうから、市長がそのとき市長ではないだろうと思いますけど、その辺の見込みは江頭市長、どういうふうに思われますか。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　今、ご懸念をいただいておりますコンクリート等の耐久性の問題でございますけれども、これはこう申し上げては大変失礼ですが、それは工藤議員もですね、私自身も専門的な知見を持っているわけではございませんので、まさしくそういう安全性に関わる検証というのは、これはもうきちっとした専門家の意見

を踏まえて考えていきたいというふうに考えているところでございます。ですから、私にとっての原点というのは、まさしくこの場所においてですね、ここの場所と、それから中央公民館の場所、ここを使ってやっていくということを踏まえて、その上で一つには安全性の問題が出てくれば、当然それは放置できませんから、その分は修正を加えていかなきゃいけませんし、市役所の職員だけでつくったのでは、それはいろんな目線が欠落している可能性がありますから、そこは利用者の、市民の方の目線で見ていただく。その中で、変更が本当に必要なものが生ずれば、それは入れていかざるを得ないわけでございますから、そういったことを基本にして見ていく次第でございます。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　工藤圭一郎君。

［登壇］

○３番（工藤圭一郎君）　まだまだずっと小さいことまで聞きたいんですけど、すみません、もう一つ質問を入れておりますので、そちらに移りたいと思います。

小川基金の活用法とですね、小川基金の泗水町との関連性についての江頭市長の認識をまずお尋ねしたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　小川基金に関する私の理解ということでよろしゅうございますか。まず、小川基金というものについてのこれまでの経緯というのは、私なりに理解させていただいたつもりでございます。かつ、小川基金というのはですね、これはまだ合併前の泗水町の時代に小川さんという方の特志でもって設立されているわけでございますが、その合併の際には議会の付託を受けましてですね、この小川基金の使途について、泗水の市議会議員を中心に構成された小川会館建設特別委員会で小川記念館に代わる交流センターの建設、それから営林署苗畑跡地の購入、それから光ファイバーの設置、こうしたものを小川基金以外の財源で達成できるんであれば、故小川さんのご遺族の意向を尊重してですね、小川基金はそのまま残して、菊池市の振興及び青少年の奨学金等に役立てるということで決議されたというふうに私は理解しております。

その後、議会で委員会の結果を踏まえまして、新生小川基金として、教育、福祉、産業、国際交流等に活用していくという条例の一部改正の議決がなされたというふうに併せて理解をしております。私としましては、こうしたふうなこれまでの様々な協議の結果を受け止めまして、それからまたこの間に実際にご遺族にお会いすることができましてですね、そのご意志を直接確認してきたところでございますので、

そのご意志に乗った形でですね、将来を担う子どもたちへの活用ということを第一義的に考えて、当市の将来に有効に役立てたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　工藤圭一郎君。

［登壇］

○３番（工藤圭一郎君）　今市長が言われたところはですね、泗水町のときは金利もある程度高くて、金利を使っていろんなことをやってきておりました。元金には手を付けずにですね。今のお答えは、これから元金も使うというところで理解していいんですか。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　お答えいたします。

元金についての考え方でございますけれども、先日この小川さんのご遺族の方にお会いした際にですね、これはお嬢様でいらっしゃいますけれども、実は先方様のほうから強い要請がございましてですね、この基金は父が生前にこういうふうに使ってほしいというようなことを常々自分に語っていたと。その際に、一番やっぱり願っていたのはですね、子どもへの投資であると。それもできれば経済的な事情があって勉学環境に制約を受けている人たち、こういう子どもたちにぜひ使ってくださいと。もう一つ言われたのは、物とか箱には使わないでくださいと。人というものに使ってください。それは、例えば奨学金とかそういうものでしょうかとお聞きしたときに、そうですというふうにおっしゃいました。それを含めていろいろな人の教育に使ってほしいということでございました。その際に、これも先方様からのお話でございましたけれども、使っていいんですよと、元本が減っていっても構いませんからねと。どんどんそうしたことで子どもたち、とりわけ経済的理由で進学が難しい子どもたちに使ってくださいと、こういうふうなお話がございまして、それが実は父の意志そのものであると、こういうお話をされました。ですから、私としてはこれは故人のそういう厚い心でもって成り立っている基金でございますから、やはりそれを第一義的に捉えてですね、そのご意志に十分に尊重してまいりたいと。その際に、私のほうからは、じゃ今お聞きしたことを踏まえてですね、私なりにこういう使い方でどうでしょうかということを一回またお示ししたいと思いますというお話で締めくくらせていただきました。まだ私のほうでは、その具体的な項目づくりのほうにはまだ至っておりません。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　工藤圭一郎君。

［登壇］

○３番（工藤圭一郎君）　泗水の町民からするとですよ、あれは泗水のお金だと。よく今でもですね、お前たちは議員になっとるけど、小川基金はもうなくなっとるとじゃないか、そういうことをよく言われます。いや、ありますよと、きちっと小川基金と残っています。今、市長が確かに遺族の娘さんである小川さんと話されて、使い道のお話をしましたと。そもそも前の市長がですね、泗水の議員を連れていくでなく、自分一人だけで会ってきて、いろいろこういうお話ができました。そのときから議事録にも載っておりますけど、その当時の泗水の議員は、はっきりとそれに対しておかしい、やり方が。せめて泗水の議員を連れて行ってですね、一緒に話すならばまだしも、自分だけ、いや、たまたま市長会があって東京に行ったから、そのついでに会ってきたんですよて、そういうことをするからおかしい話になって、それを今、江頭市長が引き継いでいるんじゃないかなと思います。泗水が分離独立できたら、これは持って帰るお金なんですよ、と思っております。そういうお金じゃないのかなと、泗水の町民はですよ、みんな思っています、そういうふうに。その使い方をですね、今、平然と遺族と話したから、いやもう元金もいいんですよと言われたからしますよと言われて、はあ、そうですかってなりますか、泗水の町民が。もうちょっとそのあたりを配慮していただきたい。やっぱり相手の立場に立って考えないと、逆の立場だったらどうですか。菊池市に、旧の菊池市に寄付があって、それをほかのところから出ているトップが話したときに、済まないでしょう、単純に、そうですかというふうには。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・そう思われるのが普通でしょう。私はそういうふうに思います。だから、今言われるような、その子どもたちに使う、人的に使うというのはものすごく大事なことと思います、いいことだろうと思います。ただ、泗水の町民の思い、感情、感じ方をですね、もう一回、江頭市長、考えてほしいんですよ。どうですか。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　やはりこれは生前の小川様、それから小川さんのご遺族のご意志があって成り立っている基金でございますので、物事の判断の基準というのは、やはりご遺族のご意志ということになるんじゃないかと思います。ご遺族のご意志は、先ほどの繰り返しになりますけれども、子どもたちの教育に使ってほしいと。それは当然泗水町も含めたですね、菊池市の未来ある子どもたちのために使ってほしいということでございます。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　工藤圭一郎君。

［登壇］

○３番（工藤圭一郎君）　以上で私の一般質問を終わります。

○議長（山瀬義也君）　ここで、昼食のため暫時休憩します。

午後の会議は、１時から始めます。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

休憩　午前１１時４５分

開議　午後　零時５７分

―――――――――――――――○―――――――――――――――

○議長（山瀬義也君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、坂井正次君。

［登壇］

○２０番（坂井正次君）　皆さん、こんにちは。１０年先を見据える坂井でございます。私は１０年ですけれども、江頭市長におかれましては庁舎のこともあります。４０年先を見据えた市政運営に努めてもらいたいと思います。

それでは、やがて合併して１０年になりますけれども、あと１年半しかない新市建設計画について質問をしたいと思います。

七城の進捗率に関しましては、非常に低い執行率であり、七城地域の市民の方、また元職員の方、また元議員の方、そして議員と職員さんなど、密に話し合い、意見を伺いました。今定例会では、七城の現職議員３人全員で七城の思いは一つということで質問に立ちます。初日は境和則議員、本日は私、最終日は隈部議員の３人で三本の矢で皆様にお訴えをし、質問をいたしますので、どうぞよろしくお願いをいたします。

それでは、七城地区２番目の矢でまいりたいと思います。合併の合意事項の中で、庁舎の位置で大変な問題が起きましたが、旧市町村にとりましては、それ以上に大きな意味を持つ各地域、また新市にとって骨格をなす大変大事な約束合意が新市建設計画なのであります。しかし、合併９年を迎えている今日、旧七城町の執行率が非常に低い。今まで一般質問で幾度となく質問をしてまいりましたが、前市長、今後調整すると言ってはおられましたけれども、もう限界です。期間もありません。そこで三本の矢なわけであります。現状としては、合併合意の約束が破られている状態になってはいないか。まずは、市長執行部にご認識をしていただきたいと思います。

それでは、一つ目の質問ですが、合併当初、新市建設計画１０年間総額で４２９億円、旧市町村標準財政規模割で菊池市１４２億円、七城町４４億円、旭志３９億円、泗水町６８億円、共通が１３２億円となっていましたが、この合併当初の事業

計画を基準に一番最新の進捗状況をお示しください。

以上を１回目の質問といたします。

○議長（山瀬義也君）　総務企画部長、野口祐成君。

［登壇］

○総務企画部長（野口祐成君）　坂井議員の新市建設計画についてお答えいたします。

新市建設計画普通建設事業の執行状況につきましては、合併当初の計画による事業費を基に、平成２４年度末現在で申し上げます。１０年間の総事業費は約４２９億７，０００万円、うち平成２４年度まで実施済額が２４２億６，０００万円、執行率が５６．５％となっております。その内訳といたしましては、共通事業約６２億６，０００万円、執行率４６．５％、旧菊池市約９３億７，０００万円、執行率が６５．７％、旧七城町が約２０億５，０００万円、執行率が４５．９％、旧旭志村が約２９億７，０００万円、執行率が７５．３％、旧泗水町が約３６億１，０００万円、執行率が５２．９％となっております。この執行率は、あくまで合併当初の総事業費を基にした比較でありますので、ご理解をいただきたいと思います。

また、現在全体計画の見直し事業を行っておりますので、今後事業費や執行率等が変動することがありますので、ご了承いただきたいと思います。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　坂井正次君。

［登壇］

○２０番（坂井正次君）　これは、本当なんでしょうか。多少疑いますけれども、以前に合併後５年の執行率を私質問したときに、福村市長は答えられました。そのときの執行率が菊池市５７％、七城４４％、旭志５９％、泗水４９％となっております。その中で、今、総務企画部長がお答えになった数字では、七城はあまり変動がないようですけれども、後でまたこの点に関しましては質問をいたします。

このように、今私が新聞の記事を読んだのが５年間の経過でございました。格差がやはりありました。また、その当時の福村市長、調整するとは言っておられたにも関わらず、さっき出た進捗状況となっております。なぜこのような格差が付いたと思われますか。お伺いをいたします。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　七城地区の新市建設計画の実績について、格差が付いた理由をどう考えるかというご質問でございます。今の実績については、先ほど部長のほうからご説明をしたとおりでございますが、その数字によりますと、確認でございますけれども七城地区がただいま４５．９％、地区別に見ますと一番低い方でござい

ます。共通の部分が進捗率４６．５％、泗水が５２．９％、以下省略させていただきますが、若干低いのは事実かというふうに思います。その理由につきまして、過去全部点検してですね、分析しましたところ、もう既にこれまでにも何回かご説明したところではございますけれども、この各地区の執行率の差、とりわけ七城地区が若干進捗率が低いということについてはですね、やはり主因としては、道路整備の計画が中止になったということから、用地交渉が難航したというふうなところが大きな主因であったようでございます。それから、圃場整備の事業もございましたけれども、そこにおいては同意の推進が進まなかったということも同じく事業着手に至らない理由だと理解しておりまして、こういったことを主因にですね、七城地区の進捗率が低めに出ているものというふうに理解しているところです。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　坂井正次君。

［登壇］

○２０番（坂井正次君）　市長が今おっしゃったようなことだとは思います。なぜ七城の事業がこのようにできなかったか、自分なりに考えてみました。それは、今までの執行部にも責任はあると思いますけれども、その要因の一つが本所・総合支所方式の中で本所の建設部にもありはしないかと私は思います。特に土木課を例に取りましょう。本所の建設部土木課でありながら、旧菊池市地区の事業が中心ではなかったかと私は思っているところです。どうですか。もうちょっとあります。そこで質問ですけれども、本市の道路改良事業、本所・本庁土木課が手掛けた道路改良事業の内訳をお示しください。これは、旧菊池市、旭志村、泗水町、それに七城町、旧市町村別に本数をお示しください。

○議長（山瀬義也君）　建設部長、松野浩一君。

［登壇］

○建設部長（松野浩一君）　ただいまのご質問にお答えいたします。

合併いたしましてから本庁の土木課で実施しております各総合支所の事業につきましては、橋りょうの修繕工事を含めまして、七城総合支所ウォーキングトレール工事に伴いますコスモブリッジなど５路線、泗水総合支所につきましては市道泗水中央線のほか８路線、旭志総合支所につきましては市道妻越泗水線など７路線となっております。なお、平成２５年度につきましては、七城総合支所２路線、泗水総合支所２路線、旭志総合支所１路線となっております。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　坂井正次君。

［登壇］

○２０番（坂井正次君）　今の答弁では、私が一番知りたい旧菊池市の本数が言ってなかったと思いますけれども、それをお聞きします。

○議長（山瀬義也君）　建設部長、松野浩一君。

［登壇］

○建設部長（松野浩一君）　誠に申し訳ございませんが、今、手持ちにちょっと資料がございませんので、後ほどお答えさせていただくようにさせていただいてようございますでしょうか。

○議長（山瀬義也君）　坂井正次君。

［登壇］

○２０番（坂井正次君）　これが一番知りたいわけです。本所でありながら、菊池支所の仕事をやっていたと、私はそのように目が付くんでございます。確かに限府の道路改良事業、たくさんありました。後で、なるべく早く知らせてください。

それでは、一応先に行っておきます。これはまた元に戻りますので。

さっき示されたとおり、進捗率、大変な格差となっております。皆さんもおわかりのとおりでございます。合併合意の根幹である新市建設計画という事業の中で、その新市建設計画を信用して合併したと。七城町に対して、この差は何なんでありましょうか。まして今年度の予算、残り２年で遅れを取り戻さなければならない七城町なのに、新市建設計画の予算配分、聞きましたところによると、旧菊池市７億３，０００万円、旧泗水町５億６，０００万円、旭志村４億３，０００万円、後れを取っている七城２億１，０００万円なんですよ。さっき述べられた進捗率の後のこれは状況ですから、ますます格差が出てくることでしょう。いいですか、江頭市長。今までの市長、格差を調整すると言いながら、なかなか本気で取り組まなかったのではないか。この数字が示すのは全てではないかと思います。改良工事の本数はわかりましたか、部長。わかりました。なら、途中でこれを聞きたいと思います。わからん、まだ、わかりました。多分、相当な本数が出てくると思いますが、道路改良の本数が全てで、公平公正さがなかったと。そこででございます。公平公正さを公約に掲げ江頭新市長が誕生したわけでございますから、七城町の期待も大変大きいものがあります。前回の質問で、江頭市長は格差を無くすために今までの事業計画でできない場合は、必要であるものならばほかに新たな事業も検討していくとの答弁でございました。この点は、現在どのようにお考えでございましょうか。お伺いをいたします。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　調整の中で新しく出てきた必要案件があればどう考えるかとい

うご質問かと思います。これまでいろんな場で、先ほども述べましたとおりでございますけれども、新市建設計画でお出しいただいた計画というものを当時のみんなで議論をして、これでいこうということでスタートしているわけでございまして、当初の計画を尊重してそれぞれ実現に向けたいろいろな作業をやってきたわけでございますが、先ほど申し上げましたとおり、その中で実際に着手しますと、その中でこの地域の中における様々な事情、理由というものがどうしても生じてまいりまして、特に七城地区の場合は道路が中心であったこともあって、関係者の方々の合意が得られなかったということなわけでございます。平成２５年度において今計画しておりますのは、残り時間等も考慮しながらですね、新市建設計画の中で七城地区で計画されている執行可能な事業を取り上げているものでございます。ただ、前回の議会定例会でも申し上げたことでございますけれども、状況はこれは当時と当然変わっているわけでございますから、その間に新たな必要性というものは出てきているというのも事業としてあるかと思いますので、こういったことはその必要性ですとか緊急性をにらみながらですね、同時にやはりそれぞれの事情があるとは言いながらですね、ある程度の均衡に配慮しながらやっていくということは長期的にも非常に大事なことだと思っておりますので、過去の計画の中になかったとかいうことでもってですね、除外するとかいう考えはございませんので、新たな必要性、緊急性に応じて事業の見直し自体はやっていきたい。もしその中で取り上げの意義があるものがあればですね、十分にその中で考えていきたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　坂井正次君。

［登壇］

○２０番（坂井正次君）　ありがとうございます。今までできない事業等を事業見直しをしていただけるということで、本当にありがたいと思っております。念を押して、本当にそれでよろしゅうございますか。念を押して。一言で結構です。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　新しい事業計画であっても、その必要性、緊急性という観点から、十分に吟味してまいりたいというふうに思っております。

○議長（山瀬義也君）　坂井正次君。

［登壇］

○２０番（坂井正次君）　ありがとうございます。この事業、１ないし２年という短期間で事業をやるのは困難を極めます。先ほどの質問で道路改良事業が示す通り、ま

だすべて出ておりませんけれども、今の総合支所の人員配置では、今までの遅れた分を取り戻すのは到底無理ではないかと思いますが、格差を調整する期間、この期間だけでもよろしければ人員増員をお願いしとうございますが、いかがですか。質問いたします。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　事業見直しのために、平成２６年度中にそのための人員配置ができないかと、こういうご質問であろうかと思いますが、これまでの本庁・総合支所にかかわらずですね、各課の業務内容、それから業務量の見直し、課の統廃合などを行うことで業務遂行に必要な職員数を配置してきたところでございますので、今の時点では２６年度のこの検討のためを目的としてですね、人員配置は特段考えておるわけではございません。むしろ、今後の総合支所事業を円滑に推進していくということを組織として体制づくりをしていきたいと思っておりますので、本庁と、それから総合支所のこの関係部署との連携をうまくやっていくということで課題解決できる部分があろうかというふうに考えておりますので、そこのところに今後注力してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（山瀬義也君）　坂井正次君。

［登壇］

○２０番（坂井正次君）　それでは、市長、本庁・総合支所、密に連携を取っていただいて、本所に頑張っていただくということで理解をいたしました。今から計画しても残り１年しかございません。このような短期間で事業展開は、ここにおられる誰が考えても無理な話でございます。そこで、来年新市建設計画最終年度２６年度までにできない事業に関しましては、合併特例債も５年延長になりましたことでありますし、事業延長を望みますけれどもいかがですか。答弁をお願いします。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　２６年度までにできなかった事業をまた引き続き延長してくれないだろうかというご趣旨のご質問と思いますが、今までの答弁の若干確認になりますけれども、これまで計画されていた事業でできなかったもの、あるいはできそうにないもの、これはそれぞれの事情を抱えているわけでございます。そこら辺を今度は向こう５年のスパンの中でですね、果たしてそれができるものなのか、そういったふうな一つ一つの見直しが必要だと思います。その中では、もうこれ以上見通しが立たないというものも出てくる可能性はございます。そういったものを取捨

選択しながら進めていくことになると思いますし、それから今まで前の計画には乗っかっていなかったものでもですね、新しいニーズというものは出てくることも十分もあり得ると思いますので、そこを是々非々で、新しい目でもう一回見直すというのは基本スタンスだと思います。その際に、当面環境の変化としてございますのは、まもなく一本算定に向けた交付税の段階的な縮減が始まりますので、そこら辺も現実問題ですね、視野の中に入れて、現実的な運営ができるように考えなければいけないと思っておりますので、事業については今言ったような形で慎重にですね、効果とそれから実現性、緊急性等々を踏まえながら検討してまいる必要があると思っております。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　坂井正次君。

［登壇］

○２０番（坂井正次君）　建設部長、もういいです。相当の件数だと思いますけれども、これはよろしゅうございます。七城町としてはですね、他市町村以上は決して望んでおりません。ただ、やはりあまりにも格差があると、地域住民の方の不満も出てまいります。どうか努力をなされてですね、ある程度の水準までにはご努力をお願いしたいと思います。

この新市建設計画では最後の質問としますけれども、２７年度から新たに総合計画を作成するとのことでございます。江頭市長は、新市建設計画の差額を調整するとおっしゃっていただいております。総合計画の中に七城の未達成の事業費については、これはできるだけで結構ですので、できるだけ足並みを揃えるために、上乗せというご配慮をしていただきたいと思いますけれども、いかがですか。質問をいたします。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　上乗せ等を含めたこの差額調整についてのご質問でございますけれども、先ほど来から申し上げておりますとおりですね、あくまで今の時点でもう一回緊急性、必要性等を見直して、新しいのがあればそれはそれで入れて考えていきましょうというのがまず基本軸でございます。

それから、一方でいろんな経緯があるとはいえですね、全体のできあがりのバランスというものも当然ございましょうから、それはいろんな限られた資源、予算があるわけですから、その中でバランスをよく考えながらですね、優先順位等を考えていこうという中においては、配慮していこうと思っています。ですから、まずは差額調整ありきとかそういうことではございませんで、あくまでやはり市民からお

預かりした貴重な税金でございますので、今言ったふうなところを一つの軸にしましてですね、ただ全体のバランスというのもよく目配りをしながら進めていきたいという趣旨でございますので、どうぞよろしくご理解のほどをお願いいたします。

○議長（山瀬義也君）　坂井正次君。

［登壇］

○２０番（坂井正次君）　これは私の質問でもございましたけれども、七城地域の方々の、ここまでは聞いてくれというようなお声でしたので、何度でも聞かせていただきました。ありがとうございました。

次に、児童並びに市民の安全と利便性について質問をいたします。菰入新橋とその左岸右岸道路の児童の通学状況、通行状況について、市としてどのように把握をされているか、質問をいたします。

○議長（山瀬義也君）　建設部長、松野浩一君。

［登壇］

○建設部長（松野浩一君）　ただいまのご質問にお答えいたします。

菰入新橋の周辺地域でございます市道間所板井線の現在の利用状況についてお答えいたします。菰入新橋の両岸の前川菰入集落内の市道間所板井線は、車道の離合もできないような幅員の狭い危険性の高い状況の道路ということで、以前から道路拡幅の要望がされていたというところでございます。市といたしましても道路整備を検討いたしてまいりましたが、集落内での用地買収、建物移転補償など課題も多く、現在まで取り組みがなされていないような状況でございます。しかしながら道路の利用状況といたしましては、地域住民の皆様の生活道路及び通学路であり、七城の南地域と行政機関、学校施設などを結ぶ主要道路でもあり、市民生活にとっても重要な道路となっていると思っているところでございます。また、七城グラウンド、鴨川河畔公園など施設を利用される本市内外の皆さんの利用も多い道路であると認識をいたしております。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　坂井正次君。

［登壇］

○２０番（坂井正次君）　詳しい調査、ありがとうございました。以前にですね、私、菰入新橋が危ないということで児童の通学時の危険性について一般質問をいたしました。菰入新橋の架け替え、また歩道橋の設置について要望いたしましたけれども、そのときの答弁は、執行部として把握されておられますか。お答えください。

○議長（山瀬義也君）　建設部長、松野浩一君。

［登壇］

○建設部長（松野浩一君）　ただいまの歩道橋の新設についてでございますが、菰入新橋につきましては、橋長が１００．４ｍ、橋の幅が５．２ｍの橋となっております。この歩道橋を新たに架けることになれば、菰入新橋と同じ橋長が必要となりますことから、集落内の市道についても歩道を付けた道路改良が必要となると考えているところでございます。先ほども申し上げましたとおり、この道路については緊急に改良をすべきだということで認識をしているところでございます。

○議長（山瀬義也君）　坂井正次君。

［登壇］

○２０番（坂井正次君）　そのような答弁だったと思います。歩道橋設置に関しましては、危険なのはわかるが、橋自体が４、５０年経って、橋の耐久性に問題ありとの答弁だったと思います。大きな橋への架け替えについては、左岸・右岸の道路を同時に拡幅せねば意味がなく、それは不可能といった返答だったと認識しております。今の菰入新橋、築これ何年でしょうか。それと、またそのインフラの点検ということに関してはどのようにお考えでございますか。質問いたします。

○議長（山瀬義也君）　建設部長、松野浩一君。

［登壇］

○建設部長（松野浩一君）　ただいまのご質問にお答えいたします。

現在の菰入新橋の橋本体の状況でございますが、１９６０年に築造された橋りょうでございます。築５３年経過していることになっております。橋りょう長寿命化策定計画の中の点検によりますと、主に防護策と伸縮ジョイント部分の修繕が必要な橋であるという結果が出ているところでございます。築５０年以上の橋でもあり、通行量、地域の利用の状況から早急な補修、修繕が必要な橋と考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　坂井正次君。

［登壇］

○２０番（坂井正次君）　本日、七城の関係６地区から菰入新橋の架け替え及び路線変更の要望書が提出されました関係者が後ろに傍聴に来ておられます。切実な思いでございます。この要望書提出に関しまして、執行部としてどのようにお考えでしょうか。お聞きをいたします。

○議長（山瀬義也君）　建設部長、松野浩一君。

［登壇］

○建設部長（松野浩一君）　ただいまのご質問の要望書の件でございますが、今年の７月１７日に七城町菰入新橋周辺の関係６地区の区長の皆さんから橋の架け替えの要望書が提出されております。要望書のとおり、菰入新橋を下流２００ｍに架け替え

ることができれば、集落内を通過せずに七城グラウンドやサッカー場、鴨川河畔公園に行くことができ、交通の利便性、通学路等の安全確保が図られ、地域全体の振興を図れるなど大きなメリットがあるかと思っているところでございます。ただし要望書が出されております箇所につきましては支流の鴨川の合流点である菰入水門と加恵堰がある間となっており、技術的に検討すべき区間となっているところでございます。現在、菊池川の管理者でございます国土交通省菊池川河川事務所と菰入新橋の架け替えに向けた協議を進めているところでございます。市といたしましては、菰入新橋の架け替え箇所の現地状況調査と課題の整理、経済的比較検討などの業務委託の発注を予定しているところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　坂井正次君。

［登壇］

○２０番（坂井正次君）　地域住民の方の熱望が多少伝わったような気もいたしますけれどもと、補足的にですね、これは県道辛川鹿本線へつなぎ、国道３号線、九州自動車道、グリーンロード、国道３８７号へのアクセス道路として、地元区民また七城中心部市民の通勤・通学及び経済効果もございます。何よりも児童の安全が確保されます。

以上の観点で、早期の着工を強く望んでおられますが、市長におかれましてはどのように考えておられるのかを質問いたします。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　お尋ねの菰入新橋の架け替え並びにそれに伴う一連の見通しということでございますけれども、私も実は関係６区の区長さまから直接お話を伺う機会がございました。まず、児童の安全確保という意味からですね、地元の区長様それから親御さんたちが大変ご心配なさっているという状況を私も共有しましてですね、これはやはりきちんと対応しなきゃいかんなというふうにまず考えているところでございます。

それから、これは実はその際にですね、この橋の架け替え自体が児童の安全確保のみならずですね、この地域一帯の活性化につながるんじゃないだろうかという、実は区長さんのほうからご提案をいただきまして、先ほど来からお話があるような、その近辺にあります温泉ドーム、それからリバーサイドパーク、それから亀尾城趾等もございますけれども、それから七城のグラウンド、鴨川公園と、少し視野を広げてみるとですね、大変いい素材が、今、点の状態で存在しているわけでございまして、区長さんのほうからはですね、この橋をきっかけとしてそういったふうな一

つのフットパスのようなものもつくれるだろうし、ぜひさくらの里の構想に乗った形でここら辺一体を桜でつなげたいと。自分たちとしてもぜひ一緒になってやっていきたいというお話をお聞きしまして、私は大変素晴らしい構想だなと実は感じたところでございます。日本一のさくらの里プロジェクト、それからホタル王国プロジェクト、こういったものをこれから着手していくわけでございますけれども、やはりこういった具体的なとっかかりというものがあるとですね、非常に市民にも見えやすいと思いますし、何よりも市民の皆様がやっぱり一体となってですね、行政と一緒になって自分たちの地域を創り上げていくということが実は一番大変大事なことでございますので、それの一つのいい出発台になる可能性を秘めている事業であるなというふうに考えております。早速県などの他の機関との協議も始めているところでございますので、いろいろと技術的な問題もあるようでございますけれども、何とか前のほうに向かってですね、区長さん、住民の皆さんのご協力もいただきながら進めていきたいというふうに考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　坂井正次君。

［登壇］

○２０番（坂井正次君）　ありがとうございます。確かに七城温泉、リバーサイドパーク、ウォーキングトレール、そしてまた七城町河川公園総合グラウンド、サッカースタジアムなどを結ぶアクセス道路でもありますし、そこに桜並木でもできたら本当にすごい、相乗効果抜群だと思います。市長は新市建設計画で七城の事業が極端に進んでおらず、執行率が極めて低い。それゆえ市長は七城の執行率を上げるため事業の組み替えや工事延長も考えながら調整するという非常に温かい答弁をいただいております。この事業ができたとしても、市町村並みになるか、ならないかはわかりませんけれども、合併した七城地域の最後の思いがこもった、いわゆる切り札でございます。最後の事業になると思います、１０年間で。事業にあたりましては合併特例債と社会資本整備の補助金を活用すれば、市の持ち出しも少なくて済むと思います。この事業は６地域の方々の要望書という形で市に提出してありますけれども、この地域の方々のこれは熱望なのであります。もちろん、七城町あげての願いであるということを申し添えまして、もうこれは答弁は要りません。お願いでございます。

続きまして、庁舎整備について質問をいたします。まず、私は庁舎の位置は決まった以上は現行のままでということで質問をさせていただきます。ただし、今の庁舎築４５年、風雪に耐え、よく持ちこたえていると思いますけれども、いわゆる市民・職員が使う庁舎は最低でも４０年の計で考えねばならないと思っております。

市民が使うも、職員が使うも、不備、不都合、不合理、不便ではなりません。何せ４０年も使うわけでございますから、その差は大きゅうございます。１０年や２０年で建て替えるものではないと思います。そんな中で、市民、職員からよく耳にすることがございます。１つ目の意見、一番市民の声が大きいのが別館第２庁舎の２階、３階に図書館、公民館、生涯学習センターをつくる案。多くの市民は、特に市役所業務と図書館、公民館は別棟がいいというような意見が多うございます。２つ目の意見、市役所業務が離れて２カ所というのは、市民にとっても、職員にとっても大変不便であり、効率性が悪くはないか。１、２年ならともかく、４０年も使うのなら、その差は大きい。３つ目の意見、玉名市新庁舎２８億円、山鹿市新庁舎２棟で４４億円、本市は本庁舎をそのままリニューアルし、別館庁舎と合わせて４２億円となっております。そのコストの差は大きくはないか。４つ目の意見、築４５年の庁舎を再利用、４０年の計で考えたら築８５年になる。耐用年数、安全は絶対に大丈夫なのか。

以上、図書館などの市民の声、またコストの件、市民職員の利便性、そしてまた市民職員の安全に対して、以上４点、しっかり市民の声を聞き、考える気は市長、あられますか。お聞きをいたします。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　今度の新庁舎の安全性、あるいは利便性等々に関しての私の見解をということでございました。

まず、一番目が図書館を別にしたらどうかという市民のご意見があることに対してどう考えるかということでございますが、これは利便性からのお話だと思いますが、先般の新庁舎のうちのこの市民センターですか、に関わるワークショップの結果の声だと思いますが、私のほうも伺っておりましてですね、４つのグループでご検討いただいたうちの半分からそのようなご意見が出てきたというふうに伺っておりますので、そのことも踏まえてですね、これから検討委員会のほうにもご審議いただくことになりますけれども、この点についてもよくいろんな意見を聞いて検討をしていきたいというふうに思います。

それから、これと関連してくるわけですが、２番目に役所機能は一つにまとめたらどうかというご意見かというふうに理解しましたけれども、これも同じようにそういう声が出てきたということでございますので、庁内等でそれを踏まえて、少し議論をした上で検討委員会のほうにご審議をお願いしたいというふうに思います。

それから、玉名の例を見ててすね、このコストの面についてどうかということでございますけれども、私どもも他の庁舎の計画等を参考としてですね、研究してお

りますけれども、実際には整備内容が様々でございまして、それから他市の数字もですね、入札後の契約金額であるのに対して、当市の場合は概算の事業費ということで、なかなかちょっと一律の比較がしにくい部分もございましてですね、参考にはさせていただきたいと思っておりますけれども、なにより市民の大切な税金を使わせていただくわけでございますので、コスト面については十分に配慮していきたいと。もうとにかく合理的に、節約できるものは節約していきたいということでございます。

しかしながら、４番目の安全性の問題等も当然絡んでくる問題でございますから、昔からよく安物買いの何とかと申しますけれども、節約のあまりにですね、最も大事なその安全性であるとかいったことがおろそかになるというのは、これはもうあってはならないことだと考えておりますので、安全性については、とりわけその専門家の評価を受けながらですね、本当に必要なものは対策をきちんと講じていくということを行っていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　坂井正次君。

［登壇］

○２０番（坂井正次君）　今、ＮＨＫで盛んに報道されております。築４０年ないし５０年の公共事業の建物、構築物の安全は大丈夫かと。いわゆるインフラの崩壊という番組でございますけれども、日本中の橋、トンネル、建物が４、５０年経つと、セメント、鉄筋の劣化で非常に危険であり、再点検が必要とのことでございます。本市の庁舎はその危険な４５年に来ており、その４５年物をリニューアルすると、今から４０年使うとしまして、つまり築後８０年ということになると思います。大丈夫でしょうか。以前に、身近な議場の天井の一角のスラブが落下したことでございます。その場に議員がいたなら、大きな事故になっていたかもしれません。庁舎は災害時の避難場所であり、災害時の対処防災に関して重要な施設でございます。まして来庁中の市民、職員、万が一にも地震などによる破損、落下があってはならないと思います。安心・安全の点で４０年の計で本庁の鉄筋コンクリート等、耐久性、インフラは大丈夫なのでしょうか。質問いたします。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　庁舎の建設に際して、様々な見ていくべきポイントがあろうかと思いますが、その中でもやはり安全性というものはですね、特に公共施設である以上、最も重要な判断軸の一つかというふうに思います。スラブの落下という実際のそういう事例もございましたので、そういったことも十分に踏まえながら、これ

につきましてはよく専門家の意見を、評価をきっちりと聞いて進めていたいと、慎重に進めたいというふうに思います。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　坂井正次君。

［登壇］

○２０番（坂井正次君）　そちらのほうは、ぜひ専門家のご意見を十分に聞いていただきたいと思います。

今回の庁舎建設、４０年の計で多額の市民の血税で整備をやるわけでございますけれども、本当に市民のため、職員のため、合併特例債も５年延長にもなりましたので、後悔がないよう十分市民の意見を聞かれ、建設コスト、不満、不備、不合理、不便、危険等、不都合があれば見直す点は見直す覚悟があられるのか、質問をいたします。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　私も何回かですね、この見直しの基本としては無理無駄がないように、それから合理性、使い勝手等の観点からですね、やはり別なものをつくりたいというふうに思っておりますので、今おっしゃいました、不備、不便、不都合、危険でございますね、こういった点も当然に踏まえてやっていきたいというふうに考えておりますので、またなるべくたくさんの専門家の方の評価・ご意見を聞きながら進めていきますし、それから市議会は当然としまして、地域審議会等への説明、意見聴取等も考えております。そういったふうに様々な観点から幅広く意見を聞きながら、総合的に判断していきたいというふうに考えます。

以上です。

○議長（山瀬義也君）　坂井正次君。

［登壇］

○２０番（坂井正次君）　様々な観点でご検討をよろしくお願いしたいと思います。

４番目に、市文化会館について質問をいたします。修復工事と今度の課題について。荒木議員が詳しく質問をされましたので、私なりに質問をしたいと思います。

６０年という長期の賃貸契約で、賃貸料も非常に高額であります。多くの市民の方が疑問に思っておられます。今までの経緯と経過についてどう思われるのか、質問をいたします。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　昨日もご質問があった点でございますが、昭和５５年にこの文

化会館というのは開館しております。その当時の賃貸借契約につきましては、昨日のご質問でもわかったところではございますけれども、契約書の文言については、今振り返りますとですね、契約文言としては、やはりもう少し精度を上げるべきであったというようなところがあるというふうに考えております。ただ取り引きの実態、それから契約の成立自体はですね、当事者同士の当時の合意内容に沿ったものというふうに理解されますので、ただいま現在においては、契約自体は有効であるというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　坂井正次君。

［登壇］

○２０番（坂井正次君）　時間もなくなりました。今年度の文化会館の修復工事に予算が上がっておりましたけれども、これは複数年の事業だそうです。相当多額な金がかかるようですね。質問するはずだったけど時間がなくなりました。最後です。財政上もですね、市民の感覚上も、早いうちに賃貸料改善交渉です、改善交渉に対して、これは市長自ら努力したがいいと思いますけれども、市長、この点に関してはいかがですか。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　文化会館の賃貸借契約の見直しについての見方ということでございますけれども、今申し上げましたとおり、契約自体は契約文言の不正確というのはございますけれども、取り引き実態としては成立していると、弁護士も含めた見解であるわけですが、従いまして、本来的には、例えば契約書の規定によりますと、土地所有者の合意がなければいろいろな契約の変更はできないとなっているわけでございます。それから、価格自体もですね、当時のいろんな環境の中でお互いが合意したものとは思っております。ただし、その間と今では事情が変わっている部分もあろうかと思いますので、それに即した形で、少なくとも土地の所有者の方とですね、そういったところについてのすり合わせというものは今後も続けていかねばならないかなというふうには考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　ここで、１０分間暫時休憩します。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

休憩　午後１時５７分

開議　午後２時０７分

―――――――――――――――○―――――――――――――――

○議長（山瀬義也君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、城典臣君。

［登壇］

○４番（城　典臣君）　皆さん、こんにちは。公明党の城でございます。昨日未明、東京オリンピック、パラリンピックの開催が決まり、１日中昨日はオリンピックの話題で持ちきりでございました。私はちょうど５時に目がされまして、その模様をダイレクトで見たところでありました。また興奮いたしました。また、スポーツの持つ力をまざまざと見せつけられた思いがいたしました。まずは、計り知れない経済効果を考えれば、おめでたいことだと思います。

さて、私はこれまで身近に潜む問題から、市が抱えている問題に対し、市民目線で、現場第一主義で様々な角度から質問させていただきました。これからも様々な問題に対し、提案型の質問に心掛け、一般質問していきたいと思っております。

では、早速通告に従い、一般質問をさせていただきます。

まず、安心・安全対策の進捗状況についてお伺いいたします。車のブレーキ、ワンペダルについてお伺いしたいと思います。これは、今まで過去２回ほど質問しております。しつこく聞くようでありますが、市長も新しく江頭市長に代わられましたのでお聞きしたいと思います。最近では、昨年６月議会におきまして質問しております。過去２回の質問で、高齢者の事故防止の観点から質問しております。ワンペダルに改造された方に対し、金額の半分を市が助成する考えはありませんかということでお聞きいたしました。また、この車の試乗を質問し、担当課が１年がかりで体験してもらった経験があります。回答の中で助成金の話はさておいて、菊池市と警察署の間に安心・安全な菊池市実現に向けた菊池市と菊池警察署連絡協議会の席で、ワンペダルのことを私どものほうから提案して、警察の担当にも実際試乗していただけないか働きかけてまいりますという部長の答弁がありましたが、その後どのようになりましたか。私持っておりますけれども、警察の方は乗っておられませんので、どうなったかお聞きしたいと思います。

そこで、公用車に付けてみてはどうかということで質問したいと思います。２番目ですね。最近、各自動車メーカーがぶつからない車を出しておりますが、これにはいろいろな条件があります。条件に合ったときに作動して暴走したりぶつかったりしないようです。その点、このワンペダルは、言うなればデジタルではなくアナログですから、居眠りしていない限り、暴走したりぶつかったりしないと思います。また、私が乗っていて感じたことは、高齢者の方に講習会を開きませんかと質問しましたが、若い世代から経験していたほうが、お年を取って経験するよりスムーズに受け入れられると感じました。何人かの職員の方にも運転してもらいましたが、

概ね好評でした。

そこで、公用車にこれを付けてみてはと考えます。職員には様々な世代がおられます。また、男性も女性もおられます。体験してもらうには、公用車に取り付けてもらえないかと考えます。そして、１件でも不幸な事故を減らし、安心・安全な社会を築く一つになればと考えます。

それから、安心・安全な社会を築くために、あと１つ提案がございます。先日の議会報告会の中で、市民の方から夕方ライトの早めの点灯のことで質問しておられました。９月に入って、夕方の交通事故が多発していると報道もあっておりました。せっかくの提案でありますので、本市をあげて夕方早めのライト点灯運動を始めてはいかがでしょうか。併せて市長にお伺いしたいと思います。よろしくお願いします。

○議長（山瀬義也君）　市民環境部長、下田俊一君。

［登壇］

○市民環境部長（下田俊一君）　こんにちは。城議員のご質問にお答えいたします。

私のほうからは、公用車にワンペダルを付けたらどうかというお尋ねのほか、その以外について答弁させていただきます。

城議員が以前から提唱されておられますワンペダルにつきましては、よくご存じと思いますけれども、玉名市の民間会社の社長が自分も体験した踏み違えによる暴走の恐怖体験から、事故防止のための装置として数十年前から研究され、改良を重ね、現在取り付け販売等を行っておられることはよく存じております。玉名市では、事故防止ということで、平成２３年度から２５年度までの３年間を期限として、設置費用が概ね１２万円程度かかりますので、その約２分の１の５万円の補助を交付されております。その実績といたしましては、初年度が平成２３年度で３０台、２４年度で２０台、本年度は現時点で３台の申請があっているということでございます。

また、玉名市に確認しましたところ、現在玉名市内の事業所単位での設置とか、玉名市以外の自治体での設置事例はないということでございました。現在、自動車の各メーカーでは障害物に対して自動的に衝突防止の措置を行う装置が開発されておりまして、今後ますます事故防止の安全対策が図られた車両が販売されることになると思っております。

このようなことを含め、交通事故防止策といえ、一業者の製品販売につながる行為は行政としてはいかがなものかという考えもございます。本市といたしましては、この装置設置にかかる補助金の交付については、現在のところそういう理由で考えておりません。

また、警察と交通安全協会等とワンペダルにつきまして協議しましたところ、先ほど述べましたように、技術の進歩により衝突防止等のシステム装置が整備された車も普及されてくると予想されており、特定の業者を推薦するようなことはできませんが、この装置についてはいろいろな場面で口頭による紹介はできるのじゃないかなという回答を受けております。

次に、車の夕方早めのライト点灯呼び掛けにつきましては、現在市としては特段な取り組みは行っておりません。菊池警察署にお尋ねしたところ、毎年９月の秋の全国交通安全運転時期から１２月までの４カ月間でございますけれども、月に１回警察署や県、公安委員会から任命された地域交通安全活動推進員及び市内の３高校の女子生徒で構成されているボランティア組織で、ＫＣＧ３０という組織がございます。この皆さんにより警察署前の国道を中心として夕暮れ時から街頭啓発を行っておられるということでございました。本市といたしましては、交通安全協会が行っております交通教室等での呼び掛けのほか、現在夕方実施しております安全・安心パトロールにおいてアナウンス等を利用してライトの早期点灯の啓発などをあわせて行えるよう周知方法を工夫してまいりたいと考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　それでは、城議員のご質問の中でワンペダルを公用車に設置してはどうかという点についてお答えいたします。

実は、ワンペダルというのは、最近初めて耳にしましてですね、まずは自分でやってみようということで、先日ワンペダルを試乗する機会をいただきましてやってみたんですが、やはり何十年も今の運転の仕組みに慣れているせいかですね、非常に戸惑って、ちょっと怖かったというのが実は正直なところで、初回でございますのでね、慣れがないのかと。慣れに従ってというところはあるのかなと思います。ただ、恐らく技術がこう確立されて、周知されてくれば、だんだんにまた広がってくる可能性もあるかもしれませんが、現在の段階ではですね、この公用車というのは性格上、不特定多数の職員が使用するものですから、やはり私と同じように、今の乗用車の操作に慣れているといいましょうか、それがすり込まれておりますのですね、運動神経のいい人も、悪い人も、やっぱりいろいろな方がいらっしゃると思うので、公用車という性格を考えますとですね、やはり戸惑う職員がある一定数出てくるだろうなということが容易に想像できますので、現在のところはですね、ちょっとまだ導入ということの状況にはないのかなという気がしとるわけでございます。どうか、ご理解をいただければというふうに思います。

それから、早めのライト点灯についての私の意見をということでお求めでございました。これはですね、私ヨーロッパのほうにおりました際には、これはもう日本人からするとかなり早めでもですね、点灯すると。それから、曇り空のときは、もう朝からでも点灯するということがある程度社会常識的になっておりましてですね、北欧のほうを中心にどうしても日照時間がこう短いもんですから、早め早めということになっていることのようなんですが、実はそれ自体が昼間でもですね、やっぱり目立つんですね。ですから、事故防止に実際に役立っているという話を聞いたこともありますので、このようないい習慣はなるべく広めていくということはそれはそれでいいことではないかなというふうに私は感じております。

○議長（山瀬義也君）　城典臣君。

［登壇］

○４番（城　典臣君）　ありがとうございました。ちょっと市長の体験されての、意外でございましたけれども、絶対突っ込まないと思いますけどね、間違ってもそれはないように私は思いますけど、そうですよね、何十年と同じ、全然違う、何十年も使っていた車と違う方法でやるもんでですね、ちょっと違和感あったと思いますけれども、一つでもですね、事故が減ればという思いでしつこく質問をさせていただきましたけれども、あとはそちらが難しいようでございますなら、やっぱし夕方の早めの点灯は、先ほど部長が言われましたけれども、いつから、絶対文言に、口頭でも入れられるんですか。その巡回するときに、早めに点灯しましょうとか、何とか、そういう運動をやっておりますとか。どうですか。

○議長（山瀬義也君）　市民環境部長、下田俊一君。

［登壇］

○市民環境部長（下田俊一君）　夕方早めのライト点灯につきましては、先ほど申しましたように市の安心・安全パトロール等で車で巡回しておりますので、その中でうまく啓発放送ができないかですね、そういう工夫をしてまいりたいと考えているところでございますので、早い時期にですね、できればやっていきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　城典臣君。

［登壇］

○４番（城　典臣君）　部長、よろしくお願いしておきます。早めによろしくお願いします。

それでは、次にいきたいと思います。限界集落の現状についてということでお伺いしたいと思います。地域の人築対策にボランティアを募集してはということでち

ょっと話したいと思います。本市も例に漏れず、高齢化が進み、地域の格差はありますが、ここ５年ないし１０年で地区の共同作業もできなくなるところが出てくるんじゃないかと思います。年に２回ほどの草刈り作業、水道の草切り及び水道タンクの清掃等、また原材料支給で農道等のコンクリート舗装、またU字溝埋等々、地区の作業、人築があります。考えただけでもこれだけの作業があります。そこで、将来に向けて地区の作業を手伝ってもらう人築ボランティア、仮称ですけど、募集してはと考えます。人築は人を築くと書きます。人が地域を築き、地域が人を築くと、素晴らしい言葉だと思います。この区役のことを人築というところは、菊池市と鹿本のほうだけとお聞きしております。地域で築き、守りたくても守れなくなってきているということを感じております。どの部署か窓口になって、地域からの要望に答えてもらうことが必要と思います。そこで、今のうちに手を打っておいたらどうかと考えて提案させていただきました。役所が先駆けて市民に対して手を差し伸べることが市民の皆様から信頼を得ることではなかろうかと考えます。そこで、地域別でどれぐらいの高齢化率になっているか調べてありますか。わかれば教えていただきたいと思います。

以上、この２点を将来を見据えて回答をお願いしたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　総務企画部長、野口祐成君。

［登壇］

○総務企画部長（野口祐成君）　城議員の限界集落の現状の中で、ボランティアの募集というご質問にお答えいたします。それと、地域別の高齢化率につきましては、ちょっと私の手元のほうに資料がございませんので、その部分はまた後で担当部署のほうからでもご報告させていただきたいと思います。

近年の少子高齢化は、全国的な社会現象となっています。本市におきましても同様で、特に中山間地の集落では深刻な過疎化が進み、行政区の運営に対し様々な支障をきたしていますことは十分承知しているところでございます。

議員ご質問の限界集落などの農林道の整備、農業用水路の清掃等の作業を行うボランティア組織の構築と利用窓口の設置につきましては、所有者の管理義務の問題やボランティア活動の継続性の確立及び安全管理など様々な問題をクリアしなければならないと考えています。また、限界集落に近くなればなるほど、区の作業のみならずコミュニティ事業の執行や区の役員の任命などにも支障をきたしており、さらに災害時の対応などを含めますと、懸案事項が大変煩雑化しています。このような状況の下、作業内容を含めボランティアという活動でどういう対応が可能であるか、今後十分検討してまいりたいと思います。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　城典臣君。

［登壇］

○４番（城　典臣君）　ですから、いろいろなことをクリアしなきゃいけないということでありますので、５年、１０年と言いましたので、今のうちから検討をしていただいて、そういうところが出た場合はですよ、手を打てるような体制を、今からボランティア組織ができるか、できないかを検討していただきたいという思いで言っておりますので、どうか今からその組織堅めができるか、できないかを、また聞きますので、そのときはそれまでやっておいていただければと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。今、総務企画部長言われましたように、先ほどどなたかが質問されておりましたけれども、民生委員さんのなり手もないと。そして、２地区ぐらい見らんといかんと、なり手がないから、というふうになかなか本当に高齢化でですね、人はおりません。また、区長さんも何回もされている人もありますし。だから、本当にボランティアじゃなくて、もう市からの派遣で何かしてあげなくちゃいけないような形になるかもしれません。さしあたりボランティアでですね、できることはボランティアでできないかなという思いで質問をさせていただきましたので、その辺はすぐじゃないと思いますけど、５年、１０年絶対もう、本当に劇的に変わってくると思いますので、よろしくお願いしたいと思います。

それでは、次にいきます。関連するようなことですけれども、空き家対策についてお聞きしたいと思います。空き家対策の現状と課題ということでお聞きします。私の住む地域でも、空き家が点々とあります。菊池市にどれぐらいの空き家が存在しているのでしょうか。空き家の理由は様々でしょうが、そのまま放置していると放火などの犯罪の温床になったり、老朽化していけば災害時に倒壊する恐れもあります。そこで、市内外から移住を希望される方に対してどのような手を打たれているのか、お聞きします。

次に、市内の方が申し込んだら剣もほろろの対応だったと相談された方がおられました。市内の方が借りたりはできないのでしょうか。また、このたび国会では自民党が空き家対策で、早ければ秋の臨時国会に議員立法で新法が提出される見通しであります。この新法は、市町村に立ち入り調査権を与え、空き家の所有者へ改善命令を可能にするのが目的です。この法案が通れば、今後は空き家を無くす対策を本腰を入れて考えなければならなくなります。移住で空き家をなくす対策と所有者への改善命令と大変ではないかと思われます。所有者への改善命令等は、法案が通ってからのことにして、まずは移住者を求め、空き家を一つもなくす対策が必要と考えます。

そこで、県内には１０万２，８００の空き家が存在すると新聞紙上に書いてあり

ました。本市にはどれぐらいの空き家があるのでしょうか。

以上、３点、現状と課題と対策についてお尋ねしたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　建設部長、松野浩一君。

［登壇］

○建設部長（松野浩一君）　ただいまのご質問にお答えいたします。

まず、空き家の現状につきましてお答えいたします。定住化の対策の事業の一つとしたしまして、空き家並びに空き地の情報活用制度をホームページに情報提供しているところでございますが、先の東日本大震災の影響により、移住の問い合わせが多数寄せられたものの、紹介できる物件が少なく、移住希望者の方々の要望に対応できていないのが現状でございました。そのために、田舎暮らしを応援しているＮＰＯ法人２１世紀環境研究会と定住化に関する協力協定を締結し、移住希望者の要望の高い中山間地において空き家調査を行っているところでございます。平成２４年度末現在でございますが、移住可能な１４４件の物件がございます。しかしながら、賃貸、売買となりますと所有者の事情や移住希望者の要件を満たしていないことなどスムーズに進んでおらず、物件が不足しているのが現状でございます。

ここで、市の空き家・空き地情報活用制度とＮＰＯ法人の役割の違いについて簡単に触れさせていただきます。市の空き家・空き地情報活用制度は、賃貸及び売却をお考えの所有者から市の情報をいただいた物件を市のホームページ上で公開し、利用希望者に情報を発信するもので、市は物件の管理や仲介を行うものではなく、あくまで紹介を行うのみでございます。宅建業者の仲介を希望される場合は、市と協定を締結している業者を紹介するといった制度でございます。

一方、ＮＰＯ法人の場合でございますが、ＮＰＯ法人が情報として持っております物件について賃貸、売却等の意向を確認して、利用可能な物件を見つけ、移住希望者を紹介しております。また、空き家所有者と移住希望者双方が合意に達した場合は、さらに区長さんや地元の皆さんに紹介するなど、移住希望者がスムーズに地域に馴染めるようサポートするなど活動を行っております。

課題といたしましては、市の空き家・空き地情報活用制度をはじめといたします定住化促進制度の情報発信が不十分であること、移住希望者が多いものの、要望に添う物件が少ないこと、さらに移住後の安定した収入が見込めないなど、生活基盤が弱く、定住につながらないケースがあることなどが上げられると思います。この対策といたしましては、ＮＰＯ法人を活用いたしまして、移住希望者に対し定住・移住化へのサポートをするなど、ＮＰＯ法人と情報の共有を行い、連携をしていくことと空き家調査等により判明した空き家を所有者の了解を取った上で空き家物件として市の制度である空き家・空き地情報活用制度に登録し、空き家・空き地情報

活用制度をはじめとする市の定住化支援制度など、２つの制度をうまく活用し、その情報についてパンフレットやチラシを作成し、配付いたしましてＰＲを行うことなどを考えているところでございます。

また、移住者の生活基盤を確立し、定住につなげていくために、体験宿泊や移住者の要望の多い就農支援、ハローワークなど、関係機関との連携をしながら移住者の就労支援を行っていく必要があると考えているところでございます。

また、先ほど市内在住の方のことでございますけれども、市内在住の方でもご相談をいただけるというふうになっておりますので、その点は大丈夫かと思っております。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　城典臣君。

［登壇］

○４番（城　典臣君）　先ほど市内の方のことでちょっとお話ししたいと思いますけれども、私の地域でこういうことがあったんですね。一人暮らしのおばあちゃんが亡くなられまして、そこに住んでおられた方たちは県外におられまして、そこで空き家となっておりましたので、もう帰る気はないので処分したいと、近所の方に相談をされたらしいです。それで、その方は市に相談したらと助言をいただきましたので、市のほうにお伺いしたら不動産屋さんを紹介するからと言われたと。紹介してもらったんですが、こういうことを今から増えてくると考えますよね、考えられますし、またその不動産屋さんに相談されたというか、自分たちのところからそっちに投げられたんじゃないかと言われたんでですね、不動産屋さんを紹介されて、行政のほうは安心されとっとですかねとか言われたもんでですね。また、不動産屋さんのホームページ見たら、その家を売るような気配というか、力を入れてないといいますか、ホームページにも載っていないということで言われましたのでですね、不動産屋さんのほうに投げればそれで終わりなのかなということで言われましたので、市の対応としてどうかなと思いますので、今、私が言ったことに対しては部長、どう思われますかね。

○議長（山瀬義也君）　建設部長、松野浩一君。

［登壇］

○建設部長（松野浩一君）　ただいまのご質問でございますが、市といたしましての考え方といたしましては、情報を活用する制度がございます。その制度に則っているのかどうかという部分と、確かに売買に関しましては市が介在はできませんので、当然仲介を行っていただく業者の方、宅建業者の方の仲介を希望されたのではないかというふうに考えますけれども、それは売買なのか、賃貸なのかという部分でも

若干変わってくるのかというふうに思います。ただし、その中で情報として市のほうの物件のほうに登録するということであれば、またそこからできるのではないかというふうに考えております。

○議長（山瀬義也君）　城典臣君。

［登壇］

○４番（城　典臣君）　市には登録はしてあるということですたいね。それで、不動産屋さんに紹介したということになるわけですたいね。だから、市はその情報はずっと持っとるということですたいね。どうなんですかね。

○議長（山瀬義也君）　建設部長、松野浩一君。

［登壇］

○建設部長（松野浩一君）　申し訳ございません。その件につきましては、確認ができておりませんので、ここではちょっとお答えすることはできません。申し訳ありません。

○議長（山瀬義也君）　城典臣君。

［登壇］

○４番（城　典臣君）　じゃ、後で新法が通ったりしたとしますよね。そしたら、その辺は追跡調査といいますか、はっきりしとかんと、後で、結局市のほうは空き家対策はしていかなくちゃならなくなるんで、そういうところははっきりしとったがいいんじゃないかと思いますので、先ほど１４４ですか、把握されておりますけれども、しっかりその辺を見とかんと、実際国のほうから投げられたら、また困るんじゃないかなという思いがしますので、よろしくお願いしたいと思います。ですから、結局後のフォローのほうもですね、よろしくお願いしたいという思いでお伺いしましたので、よろしくお願いしたいと思います。

　次にいきます。環境問題についてお伺いしたいと思います。うちの地元であります水迫地区で、また新たな環境問題が発生していないかということでお伺いしたいと思います。私の住む地元水迫地区は、長年にわたる産廃問題をはじめ、養鶏場問題と環境に関する問題がとぎれることなく起きてまいりました。大概にせいよと言いたいのが地元の皆さんの思いであります。このような問題が生じてくると、地域間がぎくしゃくしてまいります。亀裂が生じたり、個人個人の対立が生まれたり、過去に苦い経験をしております。今回、聞くところによりますと、今度は養豚場建設の話が持ち上がっているとお聞きしましたが、どこまで話が進んでいるのか、また地元の皆さんが心配されておりますので、現時点でわかっている範囲、お答え願いたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　市民環境部長、下田俊一君。

［登壇］

○市民環境部長（下田俊一君）　城議員のご質問にお答えいたします。

城議員の今のお尋ねは、水迫地区の養豚場の建設計画の件だと思いますけれども、この件につきましては本年５月にですね、事業主代表と農業関係団体の方が来庁されまして、建設計画に伴い事業内容の説明を担当課が受けております。その内容によりますと、建設計画の面積が１，０００㎡以上の土地の用途変更に当たることや環境に影響を及ぼす恐れがあることから、環境基本条例に基づく事前協議を必要する開発行為であると判断いたしまして、地元の行政区及びその周辺の住民の皆様へ説明会を開催するよう指示をいたしております。その内容の一部をご紹介いたしますと、肥育豚が約４，０００頭規模の養豚経営で、豚舎、堆肥舎、管理棟のほか場内に雨水対策として調整池の建設を予定されているということでございました。なお、その後事業者から何も連絡がございませんでしたので、担当課のほうから７月下旬に経緯をお尋ねしたところ、現在業者の話では用地交渉が困難で進展していないとのことであり、地元への説明会も開催できない状況であるという回答を受けているところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　城典臣君。

［登壇］

○４番（城　典臣君）　今の時点じゃ、頓挫しとるという認識でよろしいんですかね。こういう問題が次から次に来るんですね。養豚場がいけないとか、養鶏場がいけないということじゃなくて、うちあたりのいろんな問題があるところにですね、話が来るもんで、皆さんが神経質になっておられますので、こういう問題がある場合は、事前にやっぱり地元に説明をするということが最前提だろうと思いますので、その辺は行政としての指導をお願いしたいと思います。

こういう菊池市のですたいね、環境基本条例のことでちょっとお聞きしたいんですけど、企業とか業者が山間地の開発の話を持ち込んだ場合の歯止めとして、菊池市の環境基本条例で規制を掛けられるのかどうか、今の時点でですね。ちょっとお伺いします。

○議長（山瀬義也君）　市民環境部長、下田俊一君。

［登壇］

○市民環境部長（下田俊一君）　お答えいたします。

城議員のご心配は、最もだと思います。以前、環境基本条例、確か平成１６年に制定しておりますけれども、そのときにも地元の水迫地区にあります産廃施設ですね、そういう施設が新たに来る恐れがあるとか、そういうのがないように条例で制

定できないかという議員さんからのお話もありまして、庁内で十分協議いたしまして、今ある環境基本条例をつくっているところでございますけれども、何分にも上位法がございまして、廃棄物の場合は廃棄物の種類並びに清掃に関する法律がございます。この法律の解説の中で、いろんな諸条件を満たしている場合は許可をしなければならないとなっておりまして、市のほうで厳しい措置を設けてもですね、上位法のほうでそういう形で許可になれば、必然的にできるような形になるということでございます。そういうわけで、そういう計画が事前に入る場合に市の環境基本条例で開発行為が１，０００㎡以上ある場合は、地元住民に説明し、その地元住民から同意を得るように努めなければならないという形で条例を制定しているところでございます。基本条例ですべてが止められるわけではございませんけれども、早めに地元住民の皆様がそういう情報を察知いたしまして何らかの対処をしていただく。一番いいのは、そういう迷惑施設に土地を売らないとかですね、そういうことも大事でございますので、これは行政に限らず、地域住民の方もですね、日ごろからそういうことがないように気持ちを同じ思いは持っていただきたいと考えているところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　城典臣君。

［登壇］

○４番（城　典臣君）　その努めなければならないということで、それから先の強い文言は入れられないと、今は入れてないということですたいね。それで、市長にお伺いしたいんですけれどもね、やっぱしもうちょっと強く何かこう文言を入れられるような環境基本条例にするとかいう思いは市長はありませんか。どうですかね。これで止められるといいますか、ちょっと難しいんですけどね、いろいろな事業等でやってこられるのもありますけれども、うちあたりはそういう生き物に対してのアレルギーがありますもんでですね、うちだけとは限らず、山間地のことですたいね。市長はどういう思いでおられるか、ちょっとお聞きしたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　今の環境問題に対する対策の考え方ということだと思うんですけれども、対策の前に、ちょっと私の思いをお伝えしておくならば、やはりこの菊池市を、今、自然力を生かして経済の活性化につなげていこうとしているわけですね。そうすると、やっぱりどうしても農産物にしろ何にしろですね、水というものに行き着くんですよね。水に行き着きますと、どうしても森ということになってきますので、この水とか森を守りながらですね、うまくそれを活用していくというの

は、これからの菊池市のいわば生命線だろうなというふうには私は思っているんですよ。ですから、そこのところの延長線上でですね、当然この話が関連してくることだと思いますが、そういったふうなその、どういったことが私どもでできるのかというのは、正直いって今現在ですね、まだそこまで詳しく私自身が研究を開始しておりませんので、ちょっとこの場では何ともお答えできないんですが、思いとしてはですね、そういったふうな守ることにつながるようなことは少し私のテーマとして勉強してみたいというふうに思っていますので、少し私なりに、他市の例とかですね、先進事例等を少し研究してみたいというふうに思っております。そういうことで、ご容赦いただければと思います。

○議長（山瀬義也君）　城典臣君。

［登壇］

○４番（城　典臣君）　いずれにしましても、私は前に話しましたのは、水のことで質問した覚えがありますですたいね。水を中国のほうから求めたりしておりましたので、市営牧場の跡地のこと、また買っていただいた経緯もありますけれども、民間が持っておれば、とにかくいろんなことが起きるということで、あのときは市に買っていただいたという経過がありますけれども、今回もまたかいという思いでありましたのでですね、お聞きしたところでした。とにかく、このままで消えてしまえばですね、話が消えてしまえば問題はないことではありますけれども、とにかく心配されておりましたのでですね、お聞きしたところでした。基本条例のところは、また皆さんと協議いただいてですね、また方向性が決まればですね、お知らせいただきたいと思います。

それでは、次にいきたいと思います。施政方針の進捗状況についてということで、市長の思いは達成されているのかということで、４月に市長となられ４、５カ月のところでございますけれども、６月の議会で様々な市政の舵取りについて述べられました。また、自分の理想とする本市の将来像を述べられました。そこで、今まで手を打たれたソフト面の取り組みや、今、議会で市長の思いで取り組まれたハード面で補正予算に組み込まれた事業等があればお聞きしたいと思います。市民の皆さんはせっかちです。市長は言わしたことば具体化しよらすかいたとか、議員にも言えることですが、言うばかりじゃつまらんけんなと、これは私が言ったんじゃないです。市民の皆さんがそう言われますので、ちょっとお話ししましたけれども、市長に対してですね、期待されているので発言されたと思います。ですから、これに対してですね、市長がどのような思いでいくつかされているんでありましたらお話しいただいて、またこの補正予算に組み込まれておるならば、市長の思いが入っているならお答え願いたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　私の施政方針に関わる施策の実現に関するこの現在の自己認識といいましょうかね、そういうお尋ねだと思いますが、６月の定例会で選挙公約に沿った７つの施策を施政方針の中で述べさせていただきました。それで、いったんそこで、いわゆる肉付け予算をご了承をいただきましてですね、それから早速その実現に向けて走り出したところでございます。それから、まだ２カ月ちょっとの段階ではございますけれども、これまで既にいくつかのことを進めておるんですが、さくらの里にしろですね、ホタル、森の中のまちにしろ、大きく打ち出した３つのプロジェクトというのが、どちらかといえばこれはこれから中期的に取り組んでいく構造的な部分なんですね。皆さん、どうしてもこれまでの施策、特に観光なんかのところがですね、イベント主体になってきたもんですから、ひとたびイベントが終わると、またこの寂しくなるというような状況があったことからですね、いわば構造的なそのインフラのところをじっくり取り組んでいこうということでございますから、すぐに何か効果が出てくるというものではございません。ただ逆に言いますと、中期的だからついつい着手が後回しになるというふうなことになると一番困るんですね。ですから、今やっておりますのは、そうしたその施策の行程といいますけれども、いろんなステップがたくさんございますのでですね、やらなきゃいかんこととステップをきちっとまずつくろうと、管理表をつくろうということでやっております。そのためには、まずいろんな足下の整理、調査をしなきゃいけませんのでですね、主には今そういったふうな、どういう問題があるのか、どういうふうに解決していくのかという方法のところを今、他の県とか国とかもですね、お知恵を借りながら整理をしているところでございます。ただ今現在必要なものについてはですね、お陰様で前回のこの肉付け予算の中で基本的にはカバーされております。ただ、今回の補正予算においてはですね、来年このさくらシンポジウムというのが予定されておりまして、これがちょうど日本一のさくらの里プロジェクトのこの具体的なスタート地点として格好の機会なもんですから、これにつながるという意味でですね、花房の坂の桜の今の街路樹が大変ちょっと貧相でございましてね、そこのところを今予算付けを今回の補正予算の中で計上させていただいておりまして、そのほかについては前回いただいた肉付けの中で今のところ整斉と進めているというところでございます。また、必要となる次の施策予算等が見えてまいりましたらですね、また議会のほうにも予算を計上してご説明をしたいというふうに思います。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　城典臣君。

［登壇］

○４番（城　典臣君）　市長、福島のきらり博への議員の派遣のことは忘れちゃおんならんでしょう。いつか派遣していただくならて６月に言いましたけど、職員の皆さんを派遣してみたらと言いましたけど、市長、忘れちゃおんならんとでしょう。いつかしていただくような気持ちはあるのかなとちょっと思ったもんでですね、お聞きしたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　すみません、今ですね、すぐちょっと記憶が出てこないものですから、もう一回、その件につきましてお聞かせいただければと思います。お手数をお掛けしますが、申し訳ございません。

○議長（山瀬義也君）　城典臣君。

［登壇］

○４番（城　典臣君）　福島の私たちが行った喜多方のきらり博といって、４カ月ないし半年間にわたってイベントをしているということで、市長にお話を、パンフレットをお見せして、ここに職員の皆さんを派遣して体験してみたら、実際に見ていただいたらどうですかという話をしましたけどですね、記憶から消えとるなら全然やる気がないということでしょうかね。そして、またパンフレットは私に戻してもらってないのでですね、市長の手元にあると思いますので、どうか本気でやっていただければなという思いがしますけど、いかがですか。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　今のきらり博ですね、件は覚えております。ただ、今、私の回路がうまくつながらなかったものですから、大変失礼いたしました。実は、今、出張のところまでは考えておりませんが、きらり博、いただいたパンフレット自体が非常に私どもにとって示唆に富むだったものですから、それ実は商工観光課とですね、それから観光協会、服部さんのほうにこれをお渡しして中を見てもらって、これをうちに活用できないだろうかということを今ご相談しております。とりわけあの中はですね、２つ特徴があってですね、３カ月単位で全部の行事を見せているんですね。それも見る、食べる、遊ぶ、学ぶ等々ですね。ですから、いわば季節ごとにそういうものを発刊するという考え方のようなんで、旅行者にとって非常にあらかじめ自分の好きなときにですね、１０月だったらどういうものがあるなというふうに自分のプランに組み込みやすいということ。それから、もう一つ特徴だったのは、その中に、例えば各地区のですね、地区の祭りですね、神社の祭りとかですね、

何とか祭とか、そういうものはちりばめられてありましたので、人によってはそういうものにすごく興味をそそられてですね、そういうものがきっかけでこの、例えば菊池市に行ってみようとかですね、あるいは行ったときに、ついでにそれも見てみようとか、非常におもしろい構成だったなと思いまして、常々言っている、足下に宝の山がありますよというのをですね、うまく素材として、旅行者に向けてですね、素材化ができているんだなということは大変印象に残っていましたので、一つの私どもの型といいましょうかね、今後の応用できる一つのタイプだったなということで、関係するところはすぐ集めてですね、話をして渡したところでございまして、だから物がまだお返しできてないわけでございまして、どうぞよろしくお願いいたします。大変失礼いたしました。

○議長（山瀬義也君）　ここで、１０分間暫時休憩します。

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

休憩　午後３時００分

開議　午後３時０９分

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

○議長（山瀬義也君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、森隆博君。

［登壇］

○２１番（森　隆博君）　それでは、通告に従いまして一般質問に入りますが、先ほどからオリンピックというような話に盛り上がっておりますけれども、レスリングが種目に残ったというようなことでありまして、先ほどこの前の報道にもありましたように、泗水出身の古市雅子さんかな、ジュニアで三連覇というようなことでありまして、大いに期待ができるという方向で、私も喜んでおります。

それでは、通告に従いまして一般質問に入らせていただきます。

はじめに、地域の活性化の取り組みというようなことで、菊池市の地域の課題点、人口の減少問題、旧市町村の人口の減少率ということが１点目であります。２点目に、人口減少化が及ぼす影響に対して、市の対策ということであります。３点目に、中山間地域の環境保全、集落維持管理というような問題でありますが、その中で１点目の課題点、人口減少問題、市町村の減少率ということにつきましては、やはり今後１０年間で菊池市の人口がどれだけ減っていくのかということについて考えておられるのかということであります。特に少子高齢化、人口の減少問題、また空き地対策、財政健全化、広域関連の影響など、菊池市に人口の問題は大きな影響を与えるというふうに考えておりますので、その点についてお尋ねをしていきたいと思います。

２点目の影響ということにつきましては、やはり人口減少の歯止め策、やはり菊池市から市外へ通学する学生を持たれておられるかた、そういった方が少し異動といいますか、移住先が見えてきたというところもありますので、そういったことについてどのような考えを持っておられるかということでお尋ねをしたいと思います。中山間地域の環境保全及び集落の維持管理ということで、これは今、城議員も申されましたように、やはり学校統合により、やはり地域に若者が離れていくというような現象は避けて通れないというふうに考えますので、その中におきましていろんな維持管理について、今後市の政策案というものがあればお示しいただきたいと思います。

以上、３点について１回目の質問といたします。

○議長（山瀬義也君）　総務企画部長、野口祐成君。

［登壇］

○総務企画部長（野口祐成君）　森議員のご質問にお答えいたします。

人口減少の旧市町村別の割合でございますけれども、合併いたしました平成１７年の国勢調査時点での人口が旧菊池市で２万６，７１６人、旧七城町が５，６５４人、旧旭志村が５，２１０人、旧泗水町が１万４，２８２人の、合計の５万１，８６２人となっております。合併後の人口は、５年後の平成２２年に行われた国勢調査時点で旧菊池市が２万５，２４１人で、１，４７５人減少しており、減少率は５．５％となっています。旧七城町が５，４７５人で１７４人の減少となっており、減少率３．２％、旧旭志村が４，９３５人で、２７３人の減少、減少率５．３％です。旧泗水町が１万４，５４４人で、２６２人増えており、１．８％の増加となっています。全体では５万１９４人で、１，６６８人の減少、減少率３．２％でございます。今後１０年間の減少率の見込みにつきましては、国立の社会保障人口問題研究所が予想数値を出しておりまして、平成２２年の５万１９４人に対して、平成３２年予測値が４万７，２８９人となっており、２，９０５人の減少で、減少率５．８％となっております。空き家の数につきましては、平成２０年の住宅土地統計調査によりますと、住宅戸数１万９，１３０に対して２，４５０戸の空き家があり、空き家率が１２．８％となっております。人口減少により地方交付税の影響としましては、交付税を算定するにあたり消防費から都市計画、教育、社会福祉関連など２０を超える算定経費があり、人口が大部分の費目算定における測定単位となるため、その減少は基準財政需要額を押し下げる大きな要因となるところでございます。また、広域関連のうちごみ処理及びし尿処理の負担金につきましては、均等割が１０％、利用割が９０％で算定されており、利用割はごみ量やし尿等の量により増減いたします。人口減少に伴い、ごみ量及びし尿等の量は減ると考えられますので、負担金は減少す

ると予想されます。

次に、人口減少化が及ぼす影響に対する市の対策につきましては、人口減少歯止め策の一つとして、空き家の有効活用による定住化を進めております。ホームページでの空き家情報発信やＮＰＯ法人との協力により、空き家調査や移住希望者等の紹介を行っており、平成２２年から２４年度までの３年間で２３世帯、６１人が市外から移住しているところでございます。そのほか、企業誘致もそうでございますけれども、婚活の支援を行ったり、それと市が出していますあらゆる施策を通しまして定住化できるように力を入れていかなければならないと思っております。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　経済部長、平野國臣君。

［登壇］

○経済部長（平野國臣君）　森議員質問の中山間地域の環境保全及び集落維持管理方針についてお答えします。

本市におきましては、旧菊池及び旧旭志地区の中山間地におきまして、補助事業であります中山間地域等直接支払制度に８６の集落が本市と協定を締結され、集落内の農道や水路の管理、改修などの環境整備のほか、特定農用地の保全管理や共同機械導入、県内外への研修など、それぞれの集落の実情に即した取り組み活動が行われているところでございます。単独事業としましても、行政区、水利組合等に対する原材料支給、小規模農地の基盤整備などの財政支援を行い、農林業施設の長寿命化を推進しているところでございます。また、森林の基盤整備事業としまして、作業道の開設補助や林業研究グループなどの後継者育成事業等にも取り組み、中山間地域の活性化及び森林の持つ多面的機能の発揮に努めているところでございます。

また、先ほど申し上げました中山間地域直接支払制度に取り組まれております８６の地域の高齢化率につきましては、本年９月１日現在で３３．３５％、平成２３年４月１日は３２．１６％となっております。議員ご指摘のとおり、農業生産者の高齢化、後継者不足、さらには全国的な少子化など、様々な要因により農家戸数が減少し、集落単位での共同作業における人員が不足するなど、集落機能が低下しており、環境保全はもとより農業施設の適切な維持管理が困難となってきている状況にあることも認識をいたしているところでございます。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　森隆博君。

［登壇］

○２１番（森　隆博君）　空き家対策等につきましては、先ほど城議員のほうからもあっておりました。そういうことでありますが、私なりに今まで近隣の例といいます

か、ちょっと調査をしておりますので述べさせていただきますが、人口減少化による空き家対策ということで、南阿蘇におきましては平成１９年度から空き家の調査を実施し、２３年には各行政区の区長さんを通じて本格的な調査を実施されておりまして、南阿蘇に移住したいという全国からの相談が年間に４、５０件あるということで、村はとりあえず無償で貸し出すという家のほうをリフォームして月３万円の家賃で移住者に募ったということで、そういうことで土地建物の所有者には固定資産税の減免措置を行うというようなことで、やはり人口増加に向けた取り組みが行われております。それと、中山間地域の高齢化に伴います地域再生の集落支援という取り組みで、これは多良木町の槻木地区というところがやっておりますが、やはり高齢化率が４０％を超えるということで、やはり福祉関係の免許を持っておられます夫婦の方に、その地域に入っていただいて福祉の支援を行うという例もあっております。それと、水上村のほうでもありますが、ここは本当に地域資源ということで、市房ダムあたりには本当に名所であります桜も有名でありますが、市房山の千年杉といいますか、大体まだあと数十本残っております。ほとんど１，０００年以上経った杉でありまして、切り株等も私も何度か見に行きましたが、やはり大きいものになりますと８畳一間ぐらいの切り株があるような、そして屋久杉と違いまして、本当に伸びのいい杉であります。大体一本単価で１億円と言われているような杉が何本も残って、水上村の財産として残っておるところもあります。そういったようなところで、やはり資源を活かした取り組みというのは、やはりどの地域でも行われておるわけでありますので、やはり菊池市の自然の活用、地域活用に向けた政策ということで、市長も掲げられておりますので、そういった方向で菊池のよさというものに対しての考えをお聞かせいただきたい。

２点目としましては、やはり一番懸念いたしてますのが、やはり菊池市の財政問題であります。人口減少に伴います交付税、これは大きく影響しているわけでありまして、合併特例が２６年度で終了します。２７年度から３２年度に掛けまして５年間、一本算定という方法になってまいりますと、本当に菊池市の財政に大きく影響を与えてくるというふうに考えますので、市はこの問題に対しまして、この健全化案ということについて２点目にお聞かせをいただきたいというふうに思います。市の職員が１００名減ったということでありますけれども、やはり市の職員が１００名減っただけで１９億円の削減かということにもつながっておるようなわけでありますので、やはり人口の減少というのはどうしても止めなければならないというふうに考えているわけであります。

そういった中で、熊本市への高校通学を持つ親の方々が、なかなか菊池から熊本へ通うのに不便だというようなことでありまして、やはり大津駅とか光の森の周辺

に移転すれば、家族の車も減らされる。そして、今現在住んでいる家も賃貸しを行えば収入が入ってくると。それと、本当に時間と生活に余裕が出来るということで、年々と菊池市からそちらのほうに移住されるというのが目立ってきているのも現状であります。そういったことで、やはり一番収入の安定した年代の方は、菊池市から離れていくということは本当に深刻な問題であります。やはりそこに人口の歯止めということ、またそれに対します交通の利便性ですね、やはりこの交通体系が菊池市から大津、光の森方面に路線バスというか、そういったものが願えるならば相当のそういった歯止め策にはなるというふうに考えるわけでありますが、今までそういった交通体系に対しても何度か質問がされておりますが、今現状では無理だというようなことで答弁が帰ってきております。今、国体道路から菊陽の鉄砲小路のところを抜けまして合志のヴィーブルの裏を通って合志に抜けてくる道路が今進んでおりますが、そういったことになりますと、やはり菊陽、合志、菊池と、一つとなって新しい道路に対しては交通体系のほうは願えるんじゃなかろうかという考えもありますので、そういったことで取り組みができないかと。考えていただきたいと思ってもおります。すぐできることではありませんが、やはりそういった将来性が少しでも見えてくるならば、そういった歯止め策にもなるんじゃなかろうかと思いますので、そういった関係についての考えがあるかということで３点目にお尋ねをしたいと思います。

あとは広域関係でありますけど、やはり人口が減りますとごみの量も減るというよなうことで、今、環境保全組合でも論議になりましたのが、やはり３３年度建設に向けて今取り組んでおります新しい新工場に対しまして、合志、菊陽、大津で３町で９億円以上のメリットがあるというふうに示されましたけれども、やはり人口が菊池市の場合がだんだん減っていく、片一方は増えていくというようなことになりますと、３３年度ごろにはもうメリットがなくなるんじゃないかというような話も出てきたようなことでありまして、やはり本当にそういった消防関係でもそうであります。やはり菊池市の面積は２７６ｋ㎡、合志市は５３ｋ㎡、そして菊陽は３８．５ｋ㎡という、本当に狭い面積の中に人口はどんどんと伸びていく、菊池市は面積に割りには人口が減っていくということになりますと、やはりそういった割合的について、やっぱりいい判断にはされていないというのが現状でありますので、どうしてもここで菊池市にやっぱり人が寄ってくるような、そして安定して定住できるような策を考えていくのが、これが一番の問題ではなかろうかということでこの質問をさせていただいております。そういったことで、そういった人口減少化が進む場合、デメリットが発生しますが、その対応策として菊池市の方針ということで４点目にお尋ねをしたいと思います。よろしくお願いします。

財政面と、それとできますならその人口の減少化を歯止めというような形、そういったものに対して、よかったらお示しいただきたいと思いますが。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　最初に、ご質問事項を確認させていただきたいと思います。今、最後におまとめいただきましたように、一つは財政面の問題、今後１９億円と想定されておりますが、一本化算定に向けて大幅に収入減になる、それに対する対応の考えと。二つ目が人口が減少を続けているわけですが、人口歯止め策に対する一つの展望。この２点ということでよろしゅうございますか。

最初の財政面に対する対策ということでございますが、これはある意味ではどれか一つということではなくてですね、あらゆる限りのたくさんの施策を総合的に打っていかなければいけないものだというふうに考えております。先ほども別の議員のご質問の中でもお答えしましたけれども、やはり一つ大きな柱になってきますのは、この行政のコストというものをもっともっとやはり合理化して下げていかなければいけないと。組織の見直し、体制の問題、それから人数、こういったものをまず大きく見直していかなきゃいかんと思いますし、それからいろんな建物につきましてもですね、今年でございましたか、去年でしたか、菊池は非常に建物面積が多いので、その理論的には非常に管理コストがかかっているという観点からですね、ワースト６番目でしたか、７番目でしたか、ちょっと記憶にございませんが、そういったことで一時期ちょっとこれが話題になったこともございます。こうした建物の見直し、そのためには本当にＬＣＣという、ライフサイクルコストといいますけれども、メスを入れてですね、向こう長期間どれぐらいのコストが必要なのか、そのために、例えばこれから本当に建てていくものは要・不用というものをもっと厳密に算定していかなきゃいけませんし、今あるものについても、例えばもっと合理化を進めて、要らないものは、もう場合によってはなくしていくというふうな、踏み込んだものも場合によっては必要になることもあろうかと思います。こうした様々なことをこれから議会も協議いただきながらですね、組んでいかなきゃいかんなというふうに考えている次第でございます。

それから、もちろん収入を増やすという意味では、今、経済面を活性化させていこうということで農業、それから観光業の基礎的な力をまず上げていかなきゃいかんということで、今諸施策を構築し始めているところでございます。

それから、２番目の人口減少に対する歯止め策ということでございますけれども、泗水地区等では若い世代を中心に人口が少しずつですが増えている傾向が未だに維持できているわけでございます。やはりこれは熊本というその一大消費地、それか

ら企業も集積しておりますけれども、そこに対する勤務地ですね、職場というものが確保されて、そこから近いというところが反映されているのかなというふうに思います。逆に言いますと、菊池の場合はなかなか若者に職場がないということでございますから、そこは先ほど申し上げた経済活性化の中で農業、観光業、それからそれにつながるサービス業、ここを活性化することで増やしていこうという考えに立っているもんですから、時間は少しかかるかもしれません。それから、そのほかでは、特段人口減少というのが深刻な影響を及ぼしてきますのはやはり中山間地でございますので、中山間地の空き家というもののむしろマイナス面を発想の転換をしてプラス面に生かしていこうという試みをこれからやっていきたいというふうに考えておりまして、その際には農業の就農者を増やすという軸だけではなくて、今、都市部の大手企業の、特にＩＴ関係等におきましてはですね、こういった環境の中で、むしろ通信設備を生かしながら業務を分散していこうと、そのほうが生産性が上がるというふうな動きもかなり具体化しておりますので、こういったものの流れをつかまえて業務誘致というものをですね、今まで考えられなかった中山間地においても検討していける土壌が今できてきているんじゃないかと思いますので、そういったふうなあらゆる可能性をこれから過ごしていきたいというふうに考えているわけでございます。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　森隆博君。

［登壇］

○２１番（森　隆博君）　確かに人口の歯止めというのは厳しい状況と思いますけれども、やはり菊池郡が今、一体化というようなことで取り組んでいくためには、どうしても菊池市の評価といいますか、そういったものがやはり大きく左右されておるというのも現実でありますので、やはりできますなら菊池郡のそういった情報交換というものをやっぱり職員さん方の中でそういった取り組みのできるような専門的なチームといいますか、そういったものも今後編成していただきながら、やはりいろんなそのお互いの環境状況は違いますけど目的は同じだというようなことで取り組めるような方針をやっていただくならばというふうに思うわけであります。これにつきましては、今すぐできることではないと思いますが、そういった形を取っていくことが、やはり菊池郡の一体化ということにつながっていくというふうに思いますので、よろしくお願いをいたします。

それでは、次の質問に入らせていただきます。日向川及び松尾川の改修計画ということでお尋ねをいたします。県と市の協議の進捗状況についてでありますが、毎年のように県の振興局と市の土木課に日向川及び松尾川の関連地区から改修の要望

が提出されております。県は、合志川及び日向川の調査を終えたら関連地区に説明を行いますと昨年の３月に回答をいただきました。市も県に要望していくという部長の答弁もいただいておりますけれども、それから約１年半になりますが、一度の説明会も実施されないのはなぜかということであります。市は、また松尾川の改修に向けて測量調査を行うという回答をいただき、昨年の７月１２日の水害により被害した橋の架け替えも農道に接しているということで、今、農林整備課が現在工事を行っておりますが、昨年の水害時の川幅よりも狭くなった橋の架け替えでありまして、ちょっと申しますと堰を設けたような施工となっております。農道にまた段差ができたということで、地区の方がトラクター等の運搬に対して段差はということで問題化されているところもありますが、この橋の架け替えは本当に水量計算を基にした工事であったのかということであります。そして、松尾川は今、通学路と平行しております。とくに危険性が高いということは私も感じております。そういうことで、以前から安心・安全な通学路と松尾川の改修工事というのは、着工計画と同時にやってほしいというのが昔からの要望でありましたが、やはり今の通学路は白線もないような、そして水たまりもできているような状況であります。そういった道路区分がないような通学路では、やはり安心・安全とは言えませんので、去年の水害のときももう河川といいますか、松尾川を超えて道路に流れ出ておったような状況であります。そういうことでありますので、やはり通学路ばかり整備しても意味がないというふうに考えますので、松尾川の改修と通学路を同時にやっていくということについての考えをお示しいただきたいというふうに思います。

次に、県にずっと関連地区からの要望が本当にこう危機感の要望でありますけれども、それについて市のほうからの認識ということでお尋ねしますのも、やはり県のほうに要望は市と一緒にやっていくということでありましたが、その後、市のほうも何の対応もないというようなことでありますので、その点についてお尋ねをしますが、やはり昨年の７月１２日の北部災害のときに、日向川の一部の氾濫が発生した状況であります。そういうことで、その写真も付けて県のほうにも要望を出したわけでありますが、やはりその危機感を感じておられます地区の方は、生命、財産を守るためには、はっきりと早く示していただきたいということであります。そういうときに、今、菊池テクノ用地の造成も終わりまして、県のほうは貯水池を設けるとの説明を受けております。そして、また県のほうから貯水池を超えることはないという説明も受けておりますが、そういったことで私も今月の４日の日にそのテクノ用地を見て回りました。確かに貯水池は設けてありますし、貯水池から出るその日向川に流れ出る水路と、またその周辺整備の道路から流れ出る水路が全く違っておったということで、やはりちょうど旭志の川辺の基盤整備の水とテクノ用地

周辺の道路関係からの水、それが１メーターぐらいの水路に流れるようになっておりまして、それから少し下流に行きますと住吉工業団地の排水も一緒に合流しとるというようなことでありまして、途中まででちょうど車も行けないような状況でありましたので歩いてみますと、やはり山の、要するに間伐された木が、１ｍか１ｍ５０で切った木材が井手に流れ込んでおるというような状況でありまして、これに本当に大きな今のようなゲリラ雨といいますか、そういった集中的な雨が降った場合には、完全にこれはオーバーするかなというふうにも感じております。また、そのテクノ用地から１５０ｍほどの下流の畑がこの前の雨で全面的に畑か何かわからないように泥が流れてでおりまして、道路も区別がつかないような状況になっておりましたので、やはりその調整池の分は心配はしませんけど、その周辺関係からの流れ出る水というのは、本当に日向川に大きな影響を与えてくるというふうに考えております。絶対にないと県のほうも申されておりますが、そういった状況について、市のほうの認識といいますか、それについての考えをお示しいただけるならと思います。

３点目にが、やはり今全国的にゲリラ雨といいますか、そういった状況が発生しておりまして、先月の８月９日の日には東北方面で発生したゲリラ雨といいますか、午前７時から午後１時まで１時間当たり９０㎜という雨が降りました。また、今月の９月４日名古屋・岐阜には１０９㎜という雨が現在降っております。そういったことがこの辺でも起きないとは限りませんので、もし起きた場合ですね、やはりそういった雨が４時間、５時間続いたということになりますと、調整池では全く処理できないというふうに思っておりますが、県のほうとの企業誘致関係あたりの話の中で、どれだけの雨で、どれだけ調整池が保てるのかといいますか、調整池から流れ出ないで済むのかということがわかっておれば、その点もお示しをいただきたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　建設部長、松野浩一君。

［登壇］

○建設部長（松野浩一君）　それでは、ただいまのご質問にお答えいたします。

まず、県と市の協議及び進捗状況でございます。県と市の協議の進捗状況につきましては、平成２４年の６月の定例議会の森議員の一般質問について、県に確認いたしまして、日向川の流量等の調査結果に基づく解析が行われ、その調査結果については関係する皆様へ時期を見て報告会を開催するとご答弁申し上げておりました。県では、昨年７月の九州北部豪雨の災害以降、災害復旧業務を優先的に実施しており、説明会の開催を延期せざるを得ない状況であったと伺っているところでございます。県のほうでも説明会が遅れることは認識しており、日向川の流量等の調査に

基づく解析結果及び今後の事業計画につきましては、関係します区長の皆さんに対し早急に説明会を開催したいという以降であると伺っておるところでございます。

次に、各年度の県及び市に関係いたします地区の皆様から危機感への要望書に対する認識についてお答えいたしたいと思います。関係区長の皆さんから平成２２年１０月、平成２４年１月に県に要望書が提出され、また平成２４年９月には市へ提出されており、市から県へ要望を行ってまいったところでございます。要望書にありますとおり、最近は予想もしないゲリラ豪雨が発生いたしまして、また近年本上流域におきまして開発造成が行われ、その際、面積に応じた雨水対策が実施されているものの、近隣集落においては日向川の流量が今以上に増加しないか、不安を感じておられることは十分に認識しているところでございます。県におきましても、本要望書の内容について十分に認識していると伺っております。市といたしましては、今後の河川の現状や周辺を取り巻く環境に注意しながら、県をはじめ関係各課と連携し事業を推進してまいりたいと考えているところであります。

次に、異常気象におけますゲリラ豪雨時の水量についてお答えいたします。菊池テクノパーク事業につきましては、平成１９年度から県が事業主体として取り組みが始まったものです。地元の旭志川辺地区への説明会や地権者への用地交渉が進められ、平成２４年から造成工事が始まり、本年９月末に工事を終える計画と伺っているところでございます。菊池テクノパーク事業の降雨対策に関しまして県に確認いたしましたところ、５０年に一度の大雨を想定して、計画貯水量は約４万８，０００ｔ、可能な総貯水量は約６万４，０００ｔとしているそうでございます。この５０年に一度の大雨とは、昭和２８年の白川大水害の降雨を参考にしており、当時総降雨量１，４５３㎜と仮定いたしましても、菊池テクノパークに降った場合、約２万３，２４８ｔとなり、十分に対応できる貯水量と考えているとのことでした。また、気象庁では時間雨量につきまして強い雨や２０㎜以上３０㎜未満、激しい雨が３０㎜以上５０㎜未満、非常に激しい雨が５０㎜以上８０㎜未満、猛烈な雨が８０㎜以上と規定してございます。議員お尋ねの１時間当たり９０㎜の猛烈な雨が降っても、県からは菊池テクノパークの総面積では１時間当たり２，７３６ｔ、継続いたしまして１２時間連続した豪雨でも３万２，８３２ｔとなり、貯水量を上回ることはないと伺っているところでございます。また、菊池地域振興局へ問い合わせたところ、この調整池に貯まった雨水は最大水量といたしまして秒速０．７㎥しか河川へ流れませんので、急激に河川の水量を増やすことはないとのことでした。よりまして、調整池から日向川へ流れる水量は１時間当たり約２．７ｔ、１２時間継続いたしまして流れても約３２ｔの水量となる計画でございます。

また、菊池テクノパーク周辺へ降った雨水については、この事業を取り組む以前

から同様に流れていたものであり、菊池テクノパーク事業により影響を及ぼしたとは言えない状況にあると思われます。

次に、菊池テクノパーク事業に伴って旭志小ヶ原地区へ流れる水量でございますが、国道３２５号を挟んで小ヶ原地区へ流れる水量はほとんどないというような状況であると思われます。

次に、松尾川の改修調査と通学路の計画についてお答えいたします。松尾川につきましては、近年に地域の住宅事情等によりまして、大雨時に一時的に河川が越水することなどの状況から、その対策として松尾川の流量を把握する必要があり、平成２４年度に流域全体の流量調査を実施しております。調査結果といたしまして、桜山集落内の河川区間につきましては、河川断面が不足するとの結果が出ております。また、桜山集落の下流側に現存する調整池から下流につきましては、調整池の水量を調整することにより現在の河川断面を確保できるとの結果が出ているところでございます。

今後の松尾川の河川整備計画といたしましては、まず桜山集落の上流に新たな調整池を設置した上で、桜山集落内の河川断面の拡幅整備を行う計画で進めてまいります。現在、調整池の候補地を選定中であり、関係区への調査結果の報告が遅れ、ご心配をお掛けしております。調整池の選定に目処をつけ次第、関係区への説明会を早急に開催いたします。

次に、災害復旧工事により施工しております農道橋につきましては、被災前の河川幅により原形復旧しております。上流の調整池で流量調整を行うことにより、布設断面は確保しておりますが、河川へ農地側より水路が合流している箇所がありますので、合流地点及び線形等につきましては、護岸の整備を行う際に検討したいと考えております。

次に、松尾川と並行しております富納永線につきましては、一部区間歩道が未整備の状況でございます。当路線は通学路であることから、まちづくり交付金事業を活用しながら、県道原植木線との交差点部までの未整備区間の歩道の設置を行うことで、通学時に安全が確保できるよう計画しております。現在の進捗状況といたしましては、工事説明会を終了し、関係地権者との用地交渉の準備を進めているところであり、合意が得られ次第、早急に工事に着手したいと考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　森隆博君。

［登壇］

○２１番（森　隆博君）　今、松尾川の改修関係につきましては、桜山の上流に調整池を設けたいというような説明でありましたが、やはり今桜山のちょうど真ん中にあ

たります公民館の裏通りといいますか、体育館どおりのところあたりが、やはりちょっと雨が降りますと道路が川の状態になりまして、マンホールの蓋が浮き上がって下水道に流れ込むというような状況でありましたので、昨年桜山地区に土木課のほうで説明をやってほしいというようなことでお願いしたときも、やはりああいう雨が降って通れないとき、子どもたちはどこを通っとるですかという親御さんの意見も出ましたが、子どもたちも水が溜まるところは通らんで上のほうば帰りよるとじゃなかですかというぐらいの答弁しかなかったもんですから、やはり認識がないというようなことでですね、やはり計画をぴしっとやっていただきたいというふうに思っております。

そういうことで、断面を広げればですね、下流のほうに流れる速度は速くなってくるということになります。そういったことで、今、橋の架け替えが行われましたが、その橋の１００ｍ下にある橋が、一昨年架け替え工事をやっております。その断面と比べると本当に狭い状況になっておるわけでありますので、どうして元の断面でやったと言えるのかなということと、大体水路関係は土木だろうと思いますが、農道に接しとったということで農林整備課の予算でやったということでありますので、やはりこういう事業というものは一本でやるのが本当ではなかろうかというふうに思うわけであります。

それと、桜山の下流にあります調整池、これは桜山を開発された元の千代田不動産の子会社であります、太陽建設、倒産しておりますけど、その方の持ち主とはなっておるようなわけでありまして、市のほうで勝手に調整するというのも確認とれておるのかなというわけであります。やはりそこが完全にうまってしまって、この前の雨のときも全部ぐるりのフェンスを押し倒して畑に流れ込んだというような状況になっておるわけでありますので、やはりそういった現状を考えますと、本当に早く上のほうで一回調整を行うと。そして、桜山の第２体育館の横にも以前の調整池が残っておりますが、そこももう現状的には埋まってしまっているような状況でありますので、そういったところに対しての調整池の復活といいますか、そういったものについても考えておられるのかということを再度確認しておきたいと思います。

それから、日向川の件でありますが、やはり説明をするといってもう１年半ほど説明が行われておりません。そういったことで、昨年の１０月だったですかね、県に要望を出すときに、もしそういった明確な説明ができない場合には、企業誘致関係の反対といいますか、そういった看板を立たせていただきますという文言も付け加えて提出されてあります。そういうことで、今、そういった運動の看板がもし日向川に立てば、それは企業誘致には大打撃というのはもう目に見えておりますので、

本当に説明を今月中にやるのか、来月になるのか、はっきりした日にちをお示しいただきたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　建設部長、松野浩一君。

［登壇］

○建設部長（松野浩一君）　まず、説明会の開催でございますが、県に確認をいたしましたところ、日向川と合志川との合流部の改修に伴う説明会につきましては、９月末に開催するということでございます。また、日向川の越水等の現状につきましては、県としても十分認識されているとのことでございます。しかし、現在のところ、流域や流量の調査が行われておりませんので、まずは調査を行うことが必要であるということでございます。その調査結果を踏まえた上で、対策や対応を講ずることになると伺っているところでございます。

次に、松尾川でございますが、新設する調整池につきましては、溜まった土砂等の撤去が容易に行えるような構造で進めてまいります。また、既設の調整池の活用につきましては、引き続き流量調整ができるよう行ってまいりたいというふうに考えているところでございます。

富納永線につきましては、工事の概要につきまして、住民説明会を昨年度とは開催しておりますが、今後の用地交渉に向けまして、早期に再度説明会を行いたいと考えております。

歩道設置部と並行しております松尾川の区間の整備につきましては、今後検討を行ってまいります。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　森隆博君。

［登壇］

○２１番（森　隆博君）　日向川につきましては９月末に説明を行うということでありますので、この点については各関連地区の区長さんあたりもある程度安心されるんじゃなかろうかと思いますが、松尾川のその改修関係につきましては、今年の３月にその通学路のくい打ちをさせていただきたいという部落説明があって、その後、杭は打ってないということで、本当に市はやる気があるのかというふうに今指摘を受けて、私にも問い合わせがあっておりますので、早急にそういった対応といいますか、対策をやっていただきたいということであります。

それと、先ほどから挙げております橋の架け替えの件でありますが、その架け替えの前後がですね、まだ片面だけが間知石が積まれて、片一方は土手といいますか、蛇篭式になっております。そういうようなことで、機械でもさらいができない、手でもされないというような状況でありますので、できますなら片面をコンクリート

張りにやってていただいて、重機等で下の泥とかそういったものが撤去できるような工法にやっていただかんと、やはり今までがそういった雨が降るたびに通学路のほうまで流れ出るような状況であります。そういうことで、やはりその土地の、通学路の持ち主の方々もそういった方向でやっていただくなら安心安全な方向で一括してやってほしというのが希望でありますので、そういった関係で取り組んでいただきたいと思いますが、部長のほうからその点についてですね、できる範囲。それと、桜山の下流の調整池が個人の持ち物ということはご理解であったのか、ここをちょっと確認しておきたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　建設部長、松野浩一君。

［登壇］

○建設部長（松野浩一君）　調整池のことにつきましては、理解はしているところでございます。ただし、基本的にあの団地ができたときに調整池が造られておりますので、本来ならば事業者がやるべきところでございますが、倒産等におきましてできない場合は、やはり行政でやるべきではないかというふうに考えているところでございます。

それと、先ほどおっしゃられました水路の件でございますが、なるべくできる限りは、本来ならば重機等が入ってやりやすくすべきところでございますが、今の災害の現況復旧につきましてはやり方が昔と変わっておりまして、コンクリートの三面張りというのがなかなか今はできないような状況でございます。なるべく希望に沿うように今後はやっていきたいというふうに考えておりますので、よろしくお願いいたします。

○議長（山瀬義也君）　森隆博君。

［登壇］

○２１番（森　隆博君）　どっちみちやっていただくまで質問せにゃいかんかもしれんですけど、これはやはり安全対策関係を考えたらやっていただくということと、先ほど申しました地権者のほうにお願いしております通学路のくい打ちですね、これは早急にやらんと３月にさせてくれと、４月には打ちますよと言って今まで何もやっとらんというのが現実的にちょっと行政の怠慢じゃなかろうかということでありますので、その点は強く注意していただいて取り組んでいただくようにお願いをしときます。

終わります。

○議長（山瀬義也君）　以上で、本日の一般質問は終わりたいと思います。明日も引き続き一般質問となっております。

本日は、これにて散会します。

全員起立をお願いします。

（全員起立）

お疲れさまでした。

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

散会　午後４時００分

第　４　号

９ 月 １０ 日

平成２５年第３回菊池市議会定例会

議事日程　第４号

平成２５年９月１０日（火曜日）午前１０時開議

第１　一般質問

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

本日の会議に付した事件

日程第１　一般質問

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

出席議員（２３名）

１番	荒木崇之　君
２番	柁原賢一　君
３番	工藤圭一郎　君
４番	城　典臣　君
５番	大賀慶一　君
６番	岡﨑俊裕　君
７番	水上彰澄　君
８番	東　英俊　君
９番	東　裕人　君
１０番	泉田栄一朗　君
１１番	森　清孝　君
１２番	中原　繁　君
１３番	樋口正博　君
１４番	中山繁雄　君
１５番	怒留湯健蓉　さん
１６番	坂本昭信　君
１７番	隈部忠宗　君
１８番	葛原勇次郎　君
１９番	木下雄二　君
２０番	坂井正次　君
２１番	森　隆博　君
２２番	山瀬義也　君

２３番　　境　　和　則　君

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

欠席議員（なし）

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

説明のため出席した者

市長	江頭　実　君
副市長	木村利昭　君
総務企画部長	野口祐成　君
市民環境部長	下田俊一　君
健康福祉部長	宮本誠一　君
経済部長	平野國臣　君
建設部長	松野浩一　君
総務企画部統括審議員	西浦一義　君
七城総合支所長	岩下利昭　君
旭志総合支所長	水上菊也　君
泗水総合支所長	松岡千利　君
財政課長	小川秀臣　君
総務課長兼選挙管理委員会事務局長	伊藤道俊　君
市長公室長	倉原良則　君
教育長	倉原久義　君
教育部長	中村鉄男　君
農業委員会事務局長	松永隆則　君
水道局長	原　和徳　君
監査事務局長	宮村公男　君

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

事務局職員出席者

事務局長	城　主一　君
議事課長	宮川啓子　さん
議会係長	松原憲一　君

○議長（山瀬義也君）　全員、起立をお願いします。

（全員起立）

おはようございます。

着席をお願いします。

――――――――――――――――○――――――――――――――――

午前１０時００分　開議

○議長（山瀬義也君）　これから本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。

ここで、発言の申し出があっておりますので、これを許します。

工藤圭一郎君。

［登壇］

○３番（工藤圭一郎君）　おはようございます。私の昨日の一般質問の中で、不穏当な発言があったようですので、あとの処理については議長にお任せしたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　工藤圭一郎君の発言につきましては、後日会議録を調査し、不適切発言等があった場合には善処したいと思います。

ここで議長より申し上げます。

発言に当たっては、無礼の言葉、誤解した発言、他人の私生活にわたるような発言などないようにお願いしたいと思います。

次に、執行部から発言の申し出があっておりますので、これを許します。

総務企画部長、野口祐成君。

［登壇］

○総務企画部長（野口祐成君）　おはようございます。議長よりお許しをいただきましたので、昨日の森隆博議員の一般質問の答弁の中で、数字に誤りがありましたので、訂正をさせていただきます。

地域活性化の取り組みについてのご質問の中で、平成１７年から平成２２年の国勢調査によります人口の推移の答弁する中におきまして、旧七城町の人口減少を１７４人と申し出ましたけども、１７９人が正解でございます。また、旭志村の人口４，９３５人を４，９３４人に、そして２７３人の減少と申し出ましたけども、２７６人にそれぞれを訂正させていただきます。

申し訳ありませんでした。

――――――――――――――――○――――――――――――――――

日程第１　一般質問

○議長（山瀬義也君）　次に、日程第１、一般質問を行います。

はじめに、森清孝君。

［登壇］

○１１番（森　清孝君）　おはようございます。同僚議員から、いくつか物産館についてお尋ねもありましたが、私も通告に従いまして物産館についてお尋ねをいたします。

４つの物産館の営業報告を見ますと、第１４期から２１期と、創立からおおよそ２０年が経っております。２０年前、旧自治体それぞれに国の補助事業により農業振興、地域振興をねらいとして、物産館を建て、その運営母体として第三セクターが設立されたことはご案内のとおりです。４社とも２０年の歳月を経て、地域貢献もしながら安定した経営を維持されていることに、まず敬意を表したいと思います。

さて、そんな中で、今度は国の指針のもと物産館の運営のあり方が大きく変わろうとしております。設立当初を思い出しながら、いくつかお尋ねをいたします。まず、決算書の様式、あるいは考え方の違いは統一できないのか、ということであります。また、特別職の社長就任はなぜいけないのか、このことについてお伺いをいたします。

公募要項選定基準につきましては、ペーパーをいただきましたけれども、その中で一つ、二つをお尋ねをいたします。運営を受託する立場に立てば公募要項の現場説明で必ず聞かれるであろう第三セクターが持っております固定資産の扱いをどうするのか。あるいは、受託したとして、向こう５年の間、修理やリニューアルの必要や要求があるとき、市はどういうふうに対応しますか、お尋ねをいたします。

市が考えている審査基準２の１における４つの物産館に、それぞれ特産物というふうな指摘がありますが、それはそれぞれ何ですか、お尋ねをいたします。

四番目、指定管理者の変更があった場合、市として今あります第三セクターをどういうふうになさるおつもりでありますか、お尋ねをして最初の質問といたします。

○議長（山瀬義也君）　経済部長、平野國臣君。

［登壇］

○経済部長（平野國臣君）　おはようございます。森議員の質問にお答えします。第三セクターの経営状況報告の中で、決算書の損益計算書における売上高は、物産館の総販売高を売上高として捉えるか、あるいは委託手数料収入を売上高として捉えるかということで、会計士の捉え方に相違があり、これまでの決算書においては統一ができていない状況にあります。

そのため、毎年６月の市議会定例会で報告をいたしております第三セクターの経

営状況報告におきましては、補足説明資料としまして、第三セクター経営状況概要書により、総販売額や入店客数の数値などを統一した形で説明をしておりますが、今後できる限り統一できるよう働きかけをしていきたいと考えております。

また、市は第三セクターに対しまして出資をしており、法人を監督する立場と、経営する立場の両面がありますので、市の特別職は代表取締役に就任しないことを要請する旨を盛り込んだ「第三セクター見直し方針」が、平成２１年度の行政改革本部会議で承認され、それを推進するとした第二次行政改革大綱の議決を経て、各法人に対して現在要請をしているところであります。

次に、第三セクターが所有しております固定資産、特にメロンドームの選果機等につきましては、補助事業で導入された経緯もありますので、次期指定管理者に継承していただくことになりますが、清算については減価償却等を考慮し、算定されることになると考えております。

次に、今回の指定管理施設の今後における施設の修繕につきましては、一定基準未満につきましては管理者側、以上につきましては市が負担するということで、今まで同様に指定管理者間との間で協定書を締結するということになると思います。また、施設の改善、増築、移転等につきましては、必要性や緊急度等を総合的に判断し、市が実施することになりますが、指定管理者の申し出に基づく施設の増築、また改築等があるときにつきましては、当該部分に関する使用料単価の見直し等も含め協議していくこととしております。

次に、指定管理者公募の要項の審査基準に掲げてあります物産館における特産物の定義につきましては、地元や各市内で生産された野菜や果実、肉類等、農林畜産物や、それらを原材料として作られた多種の加工品など、地域で生産される農林畜産物ということで、審査基準に挙げているところでございます。代表的な特産物として捉えておりますのは、きくち観光物産館におきましては、ヤーコンや水田ゴボウなどの野菜、菓子類、メロンドームにおきましてはメロンやメロンを原料とした加工品、米など、旭志ふれあいセンターほたるの里におきましては、肉類やメンチカツなど肉の加工品など、また泗水養生市場におきましては、野菜や果物、道の駅弁当などが挙げられると考えております。

次に、次期指定管理者に変更があった場合には、その第三セクターにつきましては、解散し清算を行っていくことになると考えておりますが、現在の第２期指定管理者選定の時点で、次期については公募制を実施するということで示しておりますので、各第三セクターは第二期の５年間の指定管理期間の中で、公募制に備えた対応が十分されてきているものと考えております。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　森清孝君。

［登壇］

○１１番（森　清孝君）　実は、最初の質問につきましては、２年ほど前にもいっぺんお尋ねをした経緯があるかと思います。今後、統一に向けて努力するというような答えがあっておったかと思います。第三セクターといえども民間の会社という考え方もあるそうでありますけれども、大株主の市としては、それではいかんのじゃないかという立場から、続けてお尋ねをいたします。

行政目的を果たすため、役員会あるいは社員総会等へ市の担当者の出席はあるのかないのか、ということをお尋ねをいたします。指導改善というならば、大株主である市の議決権の行使により、市の考えは会社運営に反映されるはずと思いますけれどもいかがですか、お尋ねをいたします。

以前、出荷者協議会代表の役員就任が、役員会で否決されたという答弁、これは森隆博議員の質問であったと思いますが、中身につきましては、出荷者協議会の代表者を一つ役員会に参加させてくれというような要望がございまして、取締役会議にかけられたということでありますけれども、福村、その当時の社長の市長の答弁では、「そういうお話はあったけれども役員会で否決されました」というような答弁であったと思います。このことにつきまして、市としては妥当であるというふうに考えられるかどうか、お尋ねをいたします。

旧有限会社法というのを引きずっております今の物産館におきましては、役員会の決定を覆す総会というのもございますし、市の考えがはっきりしてあるならば、そういう答弁はいかがかなという思いでお尋ねをいたします。

続きまして、市長が代表取締役に就任しなくても、設立の経緯や株主構成からみて、市の関与はやっぱり大きいと思います。経営に対する市の責任の範囲はどこまでというふうに考えておられるか、お尋ねをいたします。

２番目の項ですが、「メロンドームから地元メロンが消える」というような、報告書の中に会社の訴えがございました。ご案内のように、七城メロンドームはメロンの形をしたメロンが売りの物産館でありますが、そこから地元のメロンがなくなりそうであるという訴えでありました。メロンドームは特産物のメロンを中心に、よそに打って出てＰＲをして、会社を大きくして売上げも伸ばしている会社でありますが、そこに地元のメロンがないと。このことに対しまして、市はどう考えているのか。生産者が激減しているというその訳、あるいはその対策についてどう考えているか、お尋ねをいたします。

４つの物産館の報告を聞いておりますと、もう既に売上競争中心から、重きを置くべきは交流促進へというふうに私は思うわけでありますけれども、市はどういう

ふうにお考えですか、お尋ねをいたします。具体的に言いますと、スーパーが物産館のようになり、物産館がスーパーのようになっているという指摘は多いわけでありますけれども、もともと物産館の原点はＪＡ、農協婦人部の青空市場から端を発しまして、農業振興のために売り場を提供するという原点であったというふうに思います。昨日の市長の答弁の中にも、原点に返ってというようなお話がありましたのでいかがでありますか、お尋ねをして２回目の質問といたします。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　おはようございます。それでは、一つ一つ整理しながらご回答申し上げたいと思います。

まず最初に、第三セクターの役員会、総会等への出席の状況ということでございますが、実は、第三セクターごとに特に取締役会等の頻度は、必ずしも同じではございませんが、取締役会、それから出荷者協議会の会議について及び株主総会につきましては、すべての第三セクターに市の側より出席をいたしているわけでございます。

それから、順番が多少前後するかもしれませんが、市の関与ということでは、経営に対する市の責任の範囲ということについては、第三セクターに出資をしておりますが、その出資額に応じた範囲において責任を負うというのが基本であるというふうに考えておりまして、会社運営に関しましては、本市は出資者として第三セクターに対しての的確な助言、指導、支援等を適切に行っていかなければならないというふうに考えております。また、第三セクター自身も、自らの経営責任に基づいて運営の改善などに取り組まれるとともに、市民ニーズや社会情勢に対応した事業運営、サービス提供を展開していく必要があるふうに考える次第でございます。

それから、役員就任の件でございますけども、例としてお出しになった出荷者協議会代表の役員就任が役員会で否決された事例があるということでございますけども、これは会社の役員人事に関することでありますので、基本はやはり役員会で判断されるべきものではないかなというふうに考えております。

それから、いわゆる「消えたメロン」についてのご質問がございましたが、ここは、新聞報道を私も見まして、報道自体非常に目を引く、若干ショッキングな見出しではございましたけども、ここは冷静に２つに分けて考える必要があると思っていまして、一つは、大変な猛暑でございましたわけですけども、こういった夏場における要因というものと、それからその背後にある生産者の数自体が減っているんではないかという根本的な問題と、恐らく２つあるのかと思いまして。この夏場の問題につきましては、実は「消えたメロン」の直後に、ある１軒の農家さんがまた

品物をお出しになって、そういう夏場対策をなさってやっていらっしゃるということを聞いておりますけども、そういったふうな新しい生産技術といいましょうかね、そういった工夫といったものを、例えば、ほかのところ、生産農家さんとも共有できないかとか、それから、できればそういったものを計画生産する余地はないだろうかとか、それから夏になりますと、どう頑張っても、このメロン自体がなくなってくるわけでございまして、物産館一部においては、夏になると売る物が不足して困るという、夏場特有の問題というのもございますので、こういう夏枯れ対策ということで、それに代わる作物を計画的に考える必要はないだろうかと、こういったいわゆる夏場対策としての考えるべき問題というのは、一つあると思います。

二つ目は、生産者数の減少という問題がございまして、こちらのほうはより深刻に捉えているわけでございます。実際に、特にメロンドームさんにお話をお聞きしたところ、やはり生産農家の数がかなり減っているということで、これは、物産館の問題のみならず、ある意味では、菊池の農業政策にも関連してくる話でありますから、物産館ともよく連携をとって、いろんな対策等をとれるものはないか検討していきたいというふうに考えている次第でございます。

それから、スーパー化しているのではないかというご懸念でございますけども、ご指摘のとおり物産館は地元で採れた新鮮野菜などの農林畜産物の直売所としての役割から始まったわけでございます。このスーパ化しているのではないかという、そのスーパーの定義にもよると思うんですが、菊池の農産物の品ぞろえ自体が増えていくのであれば、それは顧客ニーズ、あるいは顧客確保という意味では、ある意味は良いことではないかと思っておりますが、この農産物をわざわざ菊池市外から仕入れて売るというようなことでは、先ほど申し上げた本来の設置目的とは若干異なってくるわけですので、そこのところはよく注視していく必要はあると思います。ただ、物産館と直接お話をしてみますと、特に夏なんかが顕著のようですが、物がなくなってくる中で、やはり菊池の物にこだわりたいと。ただ、顧客ニーズを満たして、ある程度のリピーター等の来館を維持するという意味では、やむを得ずつなぎ策として菊池市外から農産物を取り入れているという例もあるというふうに聞いておりますが、あくまでそれは補助的な政策の一環というふうにお考えのようでございますので。ただいま競合店が増えてくる中で、厳しい経営状況が続いているというのも事実としてはありますので、ある程度の部分は、そういった会社の販売方針という中で行われているというふうに理解しているところでございます。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　森清孝君。

［登壇］

○１１番（森　清孝君）　市長は、昨日も前職は銀行員であられたということで、そのお話もあったわけであります。今、日曜劇場で評判の「半沢直樹」という番組もあって、私も一生懸命見ておるわけでありますが、そういう中で、今、不良債権の引当金の問題があちこちで評判であります。それを引当金をめぐって銀行内の駆け引きといいますか、それがあっておるわけでありますが。

私たちは、「四季の里」というレジャーランドみたいな第三セクターが１つあったわけでありますが、そこで一つの経験をいたしまして、この４つの物産館とは質が違うわけでありますけれども、第三セクターの抱える問題ということで勉強した経験がございます。今までに議会としても悩んだことがあるわけであります。それを参考にしながら、今までの同僚議員への答弁、あるいは今の答弁を聞きましても、今度、指定管理者の変更と、公募ということで競争をさせるというような部長のお話もあったわけでありますけれども、行政目標にそうならば、民間委託もいいし、でも、しかし第三セクターにも続けてやってほしいというような、悩ましい市の感覚というのが見えてくるわけであります。

しかし、市長が言っておられる「一本算定で、交付税がガクンと減ります」ということで、保育園、あるいは老人ホーム、いろいろ関与しておった市の施設も民間にお任せするというような感じの流れの中で、健全経営といえども、この４つの物産館をどうするかというのは中長期的にみて、市の抱える課題であるということは間違いないと思います。

本音としてというような質問はいかがかと思いますけれども、先ほどのお話を聞いておりまして、恐らく予想としましては、ほかから応募はあるのかなという気がするわけであります。

３回目の質問としまして、本気でこの物産館についてどうしようと思っておられるのか、今一度お尋ねをしたいと思います。

それから、物産館運営のやっぱり基本は持ち込まれます農家、出荷者、どう扱うかと、扱うというと言葉が語弊がありますけれども、どう対応するかということにどうもやっぱり根本があるような気がいたします。農業を考える議員の会におきまして、先般２つの民間の物産館を研修したわけでありますけれども、いずれもなかなか難しさを抱えながらも、やっぱり原点は生産者をどうするかというところにあるというふうに感じたものであります。支配人がそれぞれの生産者団体に対応しておられるという話はよく聞くわけでありますけれども、商売の論理ばかりではなくて、物産館というのはやっぱり農業の論理をどこまで組み込むかというところに本質があるんではないかと思いますので、再度お尋ねをいたします。

なおまた、固定資産の話がありましたけれども、引き継ぐときは減価償却を勘案

してという部長の答弁でございましたが、要するに、簿価で引き継ぐという話ではなかろうかというふうに思います。ところが、会社をやめますと簿価と時価というには雲泥の差がございまして、そこでみんなが悩む、困るわけであります。市長は銀行員であられたので、その辺はおわかりと思いますけれども、いったん経営が止まりますと、持っておる道具、それを簿価で買うてくれる人がおれば決算書のとおりでいいわけですけれども、なかなかそうさばけないというところに難しさがあると。そこで、部長がそういうふうにおっしゃるということは、やっぱり譲り渡す気はないのかなというような反応を持ったわけであります。自分の感想も併せて３回目の質問といたします。よろしくお願いします。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　第三セクターに関する、とりわけ指定管理会社の公開に伴う私の基本的なスタンスはいかがかというご質問かというふうに理解いたしますけども、先日来から同種類のご質問をいただいておる中でお答えしているとおりでございまして、第三セクターをつくった、とりわけ物産館をつくったときにはいろいろな経緯があって、やはり当時の設立のねらい、趣旨というものがあるわけでございますね。私は、必ずそこにまず立ち返って物事を判断していこうというふうに考えております。それは、先ほどからお話のあった地元農産物の直売所と、そういう場所を提供するということでございまして、そのときのねらいは農業の振興にあったと。それから、農家所得に少しでも、それが潤いもたらすようにと。そして翻って、そこがにぎわいのもととなって地域活性化の発信地になるようにという思いがあったんだと思います。そこのところは、全く変わっていないわけでございます。一方で、貴重な私どもの税金を投入させていただいて運営しているわけでございますから、その投下資本が無駄にならないような形で、うまく運営していく必要はあると思います。ただ、大きなねらいは冒頭に言ったことでございますから、これをある程度の安定した経営で、このねらいを達成していくという能力が一番大事になってきますので、そのためには単なる収益力だけではなくて、地元への理解、それから地元の農産物に対する理解、地域農業のありように対する理解、そのために人的なつながりネットワーク、こういったものが基礎として経営の中にもっておりませんと、この思いを達成しながら経営を成り立たせるということは難しかろうと思いますので、そういった資質に合う先を、私どもとしては慎重に選定していきたいというふうに考えているところでございます。

それから、２番目のご質問の時価、簿価の問題につきましては、多少私が少しまだ理解が行き届いていない点があるといけませんので、大変恐縮でございますけど

も、今一度ご質問の趣旨をお聞かせいただければと思います。お手数をおかけしますがよろしくお願いいたします。

○議長（山瀬義也君）　森清孝君。

［登壇］

○１１番（森　清孝君）　メロンドームに限って言いますと、施設は市のものでありますから、第三セクターとしては固定資産税も払っておらんわけでありますけれども、会社で求めた固定資産というのがございまして、先ほど部長の答弁にもありましたように５，０００万円ほどあったかなというふうに思います。会社の固定資産が５，０００万円ありますと、結構小さくはない数字でありまして、それを減価償却して誰かが引き継ぐ場合は、その減価償却を勘案して、残存価額というふうになると思いますけれども、それで次の会社に引き継ぐというお話であろうかと思いますが、非常にそれはなかなか難しいお話でありまして、それでいかんならばやめてくれというお話になれば、第三セクター以外はもう参入できないという話になろうかと思います。その施設の価値といいますのは、見ようによってはどうともなるわけでありますけれども、例えば、卑近な例でいいますと、福島の原発でトラクター田植機、あるいはコンバイン一式流されたと、東電の補償は「残存価格によってやります」というふうに言われて、農家の人は泣いておられたわけですね。そのお金で今すぐ農業ができるような機械はつくれないと。しかし、補償する側からしますと何かの根拠がないといけませんから減価償却をして、要するに簿価で払いますと。しかし、これではトラクター１台買えないというふうに農家の奥さんが泣いておられました。

そういう状況があると思いますので、大きくなりすぎた物産館には会社所有の固定資産がいっぱいありますとなかなか大変ではないかなと、指定管理者の変更におきましては。そういうふうに思いますので、それを本気で競争させようとするならば、その扱いも厳密に考えておきませんと共通の土俵に乗れないんじゃないかと、新しく参入する人はですね。それはいかがかなという質問であります。

この話は、聞き取りのときにやったけれども、そこまで詳しく聞くつもりもなかったわけですけれども、固定資産の簿価という話が出ました、減価償却という話がでましたもんですから、そういう話もあるということで、市長においてはお聞きとめ願って、また研究をしていただきたいとこのように思いますし、出荷者代表の経営参加ということにつきましても、これはなかなか「出荷者は株を持っとらん」とか、いろいろいう話もあるわけですけれども、そうじゃなくて、大株主として運営する、第三セクターを運営する関与している市として、参加の道を開くような株主総会でもできるわけですから、有限会社５０人株主がおられますけれども、その中

にそういう願いが生産者からあるとするならば、かなうように努力をされるように指摘といいますか、お願いをしまして次の項に入りたいと思います。

次に、泗水の歴史資料館についてお尋ねをいたします。これも今のと同じみたいに前田中教育長が辞められます年に、一度お尋ねをした質問であります。ただ、ときあたかも、ちょうど泗水の交流センターの建設の話が出まして、それに併せて歴史資料館はどうなるのかなという思いがございましたもんですからお尋ねをいたします。

８月の末に現場を見てみますと、もうやっぱり天井も落ちまして、とてもじゃないですけれどもどうしようもないという状態でございました。以前行ったときは、まだ陳列棚と物品もあそこにあったわけでありますけれども、今行ったときは見当たらないわけであります。

平成２２年の答弁では、収蔵物を１カ所に集約して管理を行い、管理作業ができるような施設の検討をしていると。管理といいますか、整理作業ですね。収蔵物の整理作業ができるような施設の検討をしていると。今後展示物の移転ができる施設について、補助事業や公共施設の空きスペースの活用を検討いたしますと。坂本経堯氏の評価は高いと思うので検証していきたいというようなご答弁があっておりました。それから、だいぶ時も経つわけでありますけれども、いかがになったかそれらを中心にお尋ねをいたします。まず、展示物というのが、今どちらのほうに持って行かれたといいますか、あそこが崩れそうですので、中の展示品あたりをどっちになおされましたかという質問であります。

２つ目、歴史資料館を先の答弁のように、いろいろ検討されるということでありましたけれども、どうされますか、率直にお尋ねをいたします。

３つ目、交流センターでの展示は、どのように計画をされておるのか。「交流センターで展示も考慮します」というお話でございましたけれども、新しくできます交流センターにどのようなお考えで展示をされるのかをお尋ねをいたします。

○議長（山瀬義也君）　教育部長、中村鉄男君。

［登壇］

○教育部長（中村鉄男君）　おはようございます。森議員のご質問にお答えをいたします。菊池市泗水歴史民俗資料館につきましては、ご存じのとおり郷土史家、また考古学者であった故坂本経堯先生が長年にわたり、県内各地で調査及び収集された埋蔵文化財である土器類の出土品を中心に、農具や日用生活品等の民族資料を含めた資料館として、昭和４９年に開設され、現在３９年が経過いたしております。老朽化も著しく、平成２０年度に天井の落下があり改修を行ったところでございますが、その後、外壁の剥落や再度別の場所で天井の崩落等があり、平成２２年より閉

鎖をしている状況でございます、内部の展示物につきましては、破損を避けるため、施設奥の資料室及び中学校敷地内のプレハブ倉庫で保管をしている状況でございます。

しかし、昨年の九州北部豪雨によりまして、中学校敷地内のプレハブ倉庫内の農機具等につきましては、一部浸水による被害を受けているものもございます。出土遺物の集約する資料館につきましては、平成２２年３月の定例会後、収蔵物を１カ所に集約して管理を行い、整理作業が可能な施設について検討をしてまいったところでございますが、現在まで確保できていないのが現状でございます。できるだけ、１カ所で集約して、保存、整理作業等ができるところを庁舎や関連施設の空きスペースの確保を中心に検討してきておりますが、多くの遺物を収蔵するだけのスペースを確保するのが大変難しい状況でございます。今回学校統合が行われ、跡地の利用について現在検討されておりますので、可能であれば学校跡地の利用ができないか検討を現在行っているところでございます。

次に、資料館をどうするのか、ということにつきましては、先ほど述べましたとおり、歴史民俗資料館については老朽化に伴い、改修についても大変難し状況でございますので、解体する方向で考えております。ただし、展示されておりました出土遺物や資料等につきましては、貴重な物ですから保存、展示、整理及びそれを活用できる施設を確保いたしまして、市民の皆様にも見ていただけるよう努めてまいりたいと考えております。

また現在、建設が計画されております地域交流センターにつきましては、これまでワークショップで市民の皆さんから出された意見やアイデアを反映しながら進めてきたところでございまして、平屋で計画を進めております。その中で、約１００㎡につきまして、歴史民俗資料や郷土資料の展示と調べ学習のスペースを確保いたしております。

次に、交流センターの共同資料展示室につきましては、現在のところ区切りのない展示スペースとして検討をいたしております。交流センター内の資料館ということもあり、地域の方や市外の来場者の目につきやすいオープンスペースでの展示を考えております。また、歴史文化の学習スペースとしても活用いただくことができますので、生徒たちの学びの場としても活用していただけるものと考えております。

また、解体を予定しております歴史民俗資料館の資料をすべて展示することはできませんが、県内外を問わず、古代遺跡の発掘等で業績を収められている故坂本経堯先生により、広く周知されました三万田式土器や、コレラに感染しながら防疫につくされた故増田敬太郎巡査に関するものなど、関係者の方々にもご協力をいただ

きながら強度の歴史文化等に特化した展示を検討してまいりたいと考えております。

現在の歴史民俗資料館のスペースからは、約半分ほどとなりますけども、展示品や企画を充実させることで、多くの方に興味を持っていただければと考えております。また、できるだけ早期に出土遺物等の保存、整理ができるような場所の確保にも努めてまいりたいと考えております。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　森清孝君。

［登壇］

○１１番（森　清孝君）　教育部長が流れるように答弁されますと、みんな解決しそうな感じもしないわけではないわけですけれどもですね。教育長には、一つ合志市の資料館を見てほしいというようなことをお願いしておったわけで、話によりますと見てこられたということで、ありがとうございます。

私も一つ、新しい公民館ができますならば、合志市のあの施設を一つイメージしておったわけであります。２階建てということで、一角にああいう施設ができるのかなと思っておりましたところ、今のようなお話でございます。そこで無理していろいろ詰め込みますと、かえってそれがあだになりはしないかなという考えもあるもんですから、お尋ねをするわけです。先の答弁では教育学習スペースも何かそこにつくらないといかんと、夏休みあたり子どもたちが勉強する場所にもというような教育部長の答弁でしたから、あれもこれもといいますと、結局何が何だかわからんようになりはしないかなというふうな気もせんでもないわけであります。

そこで一つありがたいことは、統合されまして、残りました、残りましたというと語弊がありますけれども、古い校舎ですね。その活用も考えておるというような話でした。先だって私も方保田の山鹿市の出土管理センターというのを
見行ったわけでありますけれども、土器類は非常に重くて、扱う人も骨が折れるわけであります。ですから、一つ一つ抱えて持ち込んでうんぬんというのは大変でありますから、やっぱり車の便もよくないといけないし、できるならリフトもほしいしと、いろいろ願いがあると思いますが、本気でそういう新しい投資をしなくて、施設を考えておられるということであれば、本気で一つ考えていただきたいというふうに思います。関心を持っておられます民間人の方、いっぱいおられますから、ボランティア等でお役に立てる方もおられると思います。でありますので、またこれはいつか聞きたいと思いますが、通り一遍のあれじゃなくて本気で一つ考えていただきたい。そうしませんと、山鹿と単純に比較するわけにはいきません。山鹿には国指定のチブサン・オブサンというような施設もございますし、鍋田地区のいろ

んな博物館、出土品の豊富なところでありますから、山鹿のようにとは申しませんけれども、まちかど資料館もございますけれども、名前のとおりやっぱりまちかど資料館でしかないというふうに私は思いますので、別に悪く言うわけではありませんけれども、そういう方面で一つ、真剣に一つ教育部のほうで、教育長のほうでお考えいただきたいというふうに思います。

一番問題にしたいのは、やっぱり本気で考えておられるかという、この本気度のなさを一つ問題にしたいと今回は思っておりました。田中教育長、そのように考えておられたでありましょうけれども、学校の統合、その他いろいろで教育長のほうも大変であろうと思いますけれども、どうか一つ学校に限らず、空きスペース、総合支所あたりも考えられて、真剣に検討していただきたいと、このように思います。

教育長、最後に決意のほどを一つお聞きしたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　教育長、倉原久義君。

［登壇］

○教育長（倉原久義君）　やはり市民の方々が、非常にそうした歴史物、文化財等に興味を持ってきておられる方が、本当に最近は増えてきておられます。今回計画いたしております地域交流センターの中に是非足を運んで、そして中に入ればちょっとそこの資料室が見えるようなオープンスペースで、いつでも来てどんなものがあるかなと、ちょっと興味を、関心を持っていただいて、そして中に入ってきてもらうということ、これが大事じゃないかなと思います。そして、この資料室の中にもずっと同じ物ばかり置いていては駄目ですので、できるだけ人々が関心、興味をいただけるような期限を設けて、何月何日から何月何日までこういうのもやっていきますと、そういうのを繰り返しながらですね。常設していると本当に１回見れば、もう来ないというような状況で、歴史資料館という別館も考えましたけれども、別館になるとどうしても足が遠のいてしまう、そういう懸念もありましたもんですから、交流室の中にオープン的にいつでも見れるようなものやったほうが、より親しまれる資料館になりはしないだろうかなという気持ちでありますので、そういう決意で、まず交流センターの中にできますこの資料館を充実していきたいというふうに思っております。また、すべてが展示されるわけではございませんので、限られておりますので、残ったそうした文化財等につきましては、今後も学校跡地あたりも検討しながら、もしできるならば、そういうのを活用しながら、今後進めてまいりたいという決意でもっております。

以上です。

○議長（山瀬義也君）　森清孝君。

［登壇］

○１１番（森　清孝君）　３番目の非正規職員のことについてお尋ねをいたします。仕事に見合う報酬が得られないと嘆く介護職の話はよく聞くわけでありますが、民間の保育園の関係者と話をしておりますとき、「臨時嘱託を募集します」というふうに募集をかけても人が全然集まらないという話を聞きました。だからといって正規職員を増やしますと経営が圧迫されるというような話でございました。

そういうことに関心を持っておりましたところ、最近、学校のことは施設以外に中身のことについては、あまり私も関心はなかったわけでありますけれども、学校の先生方もいろいろおられると、県費職員、県費職員の中にも臨時嘱託、あるいは市の職員もおられると、同じ私たちは先生と呼んでいるわけでありますけれども、いろいろおられて、待遇もだいぶ違うという話を聞きますもんですから、それで伺いたいと思います。

まず、保育園、学校における非正規職員の本市の割合はどのくらいかなというふうな状況を、一つお知らせを願いたいと思います。それから、要するに正規職員と非正規職員の大まかな報酬について、一つお知らせを願いたいと思います。

二つ目、これは市長部局でありますけれども、自治体によっては、非正規職員がもう正規職員よりも多いというような自治体があるそうであります。私はびっくりしましたけれども、そういう自治体も「確かにある」ということであるそうです。今まで市長は昨日までの答弁で、「業務によって職員の数も変わるわけでありますから」というようなお話でございましたけれども。それはそうでありましょうが、方向としまして、これから先、市としましては、臨時職員といいますか、非正規職員を増やさざるを得ないのか、どうしてもやっぱりもうこれ以上はというお考えなのか、これについてお尋ねをしたいと思います。よろしくお願いします。

○議長（山瀬義也君）　総務企画部長、野口祐成君。

［登壇］

○総務企画部長（野口祐成君）　森清孝議員のご質問にお答えいたします。まず、保育園につきましては、現在、菊之池保育園と花房保育園の２園がございます。菊之池保育園につきましては、正規職員が７名、嘱託職員が１２名で、嘱託職員の占める割合が６３％となっております。また花房保育園が正規職員が５名、嘱託職員が６名で嘱託職員の占める割合が５５％となっております。

ちなみに、平成２４年度から第一幼楽園、第二幼楽園、砦保育園が民営化されておりますが、平成２３年度末の時点のこの３園を加えましたところの正規職員は６４名でございました。

次に、嘱託職員の報酬月額につきましては、保育士が１４万１００円、調理師が

１２万５，４００円となっております。

次に、市職員全体で申し上げますと、正規職員の数につきましては、合併直後の平成１７年４月現在の６１３名に対し、本年４月現在は４９９名となっており、１１４名の減となっております。一方、臨時嘱託職員の数につきましては、合併直後の平成１７年４月現在の２５１名に対し、本年４月現在は２８２名で３１名の増となっており、臨時嘱託職員の占める割合につきましては、３６％となっております。

次に、今後臨時嘱託職員を増やすか減らすかというご質問でございますが、臨時的な業務や、より専門性の高い業務を行うことがあれば補充することが必要かと思います。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　教育部長、中村鉄男君。

［登壇］

○教育部長（中村鉄男君）　教育委員会からは、学校現場の正職員と臨時採用職員及び市費嘱託職員の状況につきまして申し上げたいと思います。ただいま議員からご紹介ありましたように、学校には教員免許を有する先生と呼ばれる教員が大きく３つあります。一つが県が採用して市町村に配置をいたします正規の県費教諭、二つ目に非正規職員の県費臨時採用の講師、三つ目に市が直接雇用する補助教員、以上が主に学校で授業に携わる先生方となります。

菊池市内に配置されております正規の県費教諭は、平成２５年５月１日現在で、２４９名、また講師の配置人数は３８名で、正規職員との割合は１３．２％となっております。

次に、各小中学校に配置されています正規の県費教諭の平均給与等についてでございますが、平成２４年４月１日現在の熊本県全体の数値として申し上げますと、平均年齢が４５．７歳、平均給料月額３９万３，６１３円、賞与を含めます平均給与月額が４３万３，６８０円となっております。

対する講師の給与等についてでございますが、菊池市に配置されています講師の平均として、平均年齢が３５歳、平均給料月額が２０万２，７２５円、賞与を含めます平均給与月額が２８万９，４７５円となっているところでございます。

学校において教科担任や学級担任などを行いますのは、この県費の先生方になります。同じく教員免許を持つ市費の補助教員は、この県費の先生方のアシスタントティーチャーとして各学校に３１名配置をしており、賞与等はなく、報酬月額は１６万１，６００円となっているところでございます。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　森清孝君。

［登壇］

○１１番（森　清孝君）　学校の先生の中にも、非常に格差というと言葉がおかしゅうございますけれども、同じ仕事をしながらいろいろあるもんだなと、このように思うわけであります。

それで、呼び方としまして、定数内臨時教員という言葉があるそうでございます。定数内の臨時教員と。今の教育部長の説明でおおかたわかりましたけれども、要するに国も県もお金がなくなって、正規の先生を雇うといいますか、力量がなかなかお金がないと。だから同じ能力はあるけれども臨時で一つしのいでいくというような感じではなかろうかと思います。その裏づけとしまして「正規職員、教員ばかりでやっているのは東京都だけだ」という話も聞いているわけでありますし、財政力の弱い沖縄であるとか、言えばおかしくなりますけれども、財政力の弱い県については、やっぱり臨時教員が多いというような話であります。

教育長管轄外、このことは人事権を含めまして県のお仕事でありますから、教育長にお尋ねするのもいかがかと思いますけれども、校長をされた経験から、臨時職の担任というようなことは、その立場になれば非常につらいんじゃないかなというような思いがするわけですけれども、その辺の感じ方として、一つお話を願いたいと、このように思います。

○議長（山瀬義也君）　教育長、倉原久義君。

［登壇］

○教育長（倉原久義君）　臨時の県費の講師の先生が担任をされるということは、大変多うございます。学校がですね。ただ、同じ正規の先生も臨採の講師の先生も、学級でのやる仕事は一緒です。ただ、いろいろな学校には仕事の量、いろいろの校務分掌というのがありまして、いろいろな役割があります。責任あるもの、例えば学年主任とか教務主任、あるいはいろいろな主任等がございますが、そういう主任等にはできるだけ臨時の先生には負担軽減ということでさせない、力を持っておってもですね。できるだけ控えていこうというような配慮は各学校でされておりますし、またいろいろ教育課程をつくらなくちゃなりませんので、教育課程の編成をつくったり、いろいろな教科の年間指導計画、そういうのは正規の先生にやっていただいて、臨時の講師の先生はそういう負担軽減を、まず管理職のほうから全職員の中に分け隔てなく対等に扱わなくてはなりませんけれども、しかし、そうした仕事の量あたりでは軽減してもらうようなことを、いつも私は心がけてやってきておりました。また、校長会等でも、そうした負担軽減については特にお願いをしているというところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　ここで、１０分間暫時休憩します。

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

休憩　午前１１時０１分

開議　午前１１時１０分

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

○議長（山瀬義也君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、樋口正博君。

［登壇］

○１３番（樋口正博君）　議席番号１３番、自由民主党党員、樋口正博です。なぜ冒頭にこのような発言をしたかと言いますと、先日の議会報告会で無所属という立候補で、なぜ自民党の旗を持っているかというご質問がありました。私は議員になる以前から自民党の党員であります。しかしながら、選挙は公認候補ではないので保守系無所属として立候補しております。

その中で、まず質問を行いたいと思います。１点目、稼げる農業について。インターネットを利用しての販売戦略について具体的戦略の概要はということであります。この質問は前回もさせていただきました。その中で江頭市長のお答えは、私は農業全体の底上げの策としてどういうことを考えてきているかということをお伺いしたんですが、「小規模農家、そして高齢者の農業に関して、このインターネット戦略というのは非常に有効である」というようなお答えでありました。しかしながら私は、そのネットに乗せるまで、いろんな手間暇、そこら辺を考えたときに、そこまでおっしゃるのであれば、そのネットによる戦略の運営の母体はどこになるのか、運営方針はどのようなものがあるのか、または売上げの目標がどの程度あるか、これは具体的な方針が出ているのであれば、お聞かせをいただきたいというふうに考えております。

ネット販売については確かに農業全体の底上げとしては、私はなかなか難しいと思っていますが、農業者の所得向上にはつながる策だと思っておりますので、その概要をお知らせいただきたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　ただいま樋口議員からのご質問は、インターネット戦略の概要と現在の取り組み状況ということでございましたけども、まず、ネットショップの事業主体に関わるお話でございましたけども、これは、やり方がいくつかあろうかと思っていまして、一番簡単なのは、今、既存の楽天などのところに出店する方

式、それから、これは非常に数が多うございますから目立たなくなりますので、これの一変形として、今度は自治体がやっているネットショップがあるんですね。そちらの一つに出るというのは、ある意味一つ検討の余地はあると思います。それから全く自前でやる方式、それからその場合はＩＴの構築が伴いますので、そういう専門の業者がいますので、そこに委託をするというやり方、そのやり方によって、少しずつ異なってくると思います。今、そうしたことも含めて、通販ビジネス特有の問題とか課題とかございますので、そういったことの整理、調査と、それから運営方法ですとか運営体制に関して、十分に準備を整えて入る必要があるもんですから、こうしたことの専門の業者に業務委託を行うようにしておりますので、その結果を踏まえて、その中で検討していきたいと思っています。

それから、自治体が既にいくつかやっているところがございますので、そういったふうな先行の事例を、また一つ一つ聞いてつぶしていきたいというふうに考えております。

それから、農業所得者の向上につがなるのではないかというご質問で、私もそういうふうに思います。最初の段階では、やはり小さく始めていこうというふうには考えていますので、すぐにはいろんな目標等を付加していくということにはならないかもしれませんけども、特に、売上高を一つの指標にして農業への貢献ということを図っていきたいというふうに考えております。農業所得者の向上という意味においては、私はとりわけ前回でもお話したように、小規模で自営なさっている方々、この方々が、せっかく例えば低農薬ですとか、いい商品をお作りになっていても、なかなか販路をお持ちじゃないので、そういう方にとっては、いわば全国が非常に販路になってくるわけですから、非常に売上げが飛躍的に増えるんではないかなというふうに期待しているところでございます。

大体、今ご質問のところはカバーしましたでしょうかね。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　樋口正博君。

［登壇］

○１３番（樋口正博君）　お話、まだ途中ということですが、先般から出ている６次産業化等、僕はそれ自体を否定はしません。ただ、一方で江頭市長おっしゃった品質イメージを上げるところからまず始めたいというお話でしたよね。そうであれば、私は、やはり生産者というのは、ある意味匠（たくみ）にならなければならない。その分やっぱりいろんなことに手を出すことは非常に難しくなるというふうに思っているのです。別にネットを使わなくても、農業者の強い農業者というのはネットが構築される以前から、口コミで自分が作ったところは毎年注文がきて、もうそれ

で手いっぱいだというところで、しっかりした経営基盤を築かれているところもあるわけですから、新たにネットが構築されて、今のビジネスにつながっているんですけど、そこの部分はやっぱり生産者、匠（たくみ）の部分と売り側をどう分けていくか。

特に建築においては、もう何とかハウスとかいうハウスメーカーがダントツですよね、日本で。あれはなぜかというと、やはり一般の工務店の場合は作り込む匠（たくみ）、技術のほう修練に時間がかかって、営業がなかなか展開できないと。

今回は、生産者が作った物を市が運営をして、そこで営業をかけていくというやり方ですから、是非とも、市長はまず小さく始めたいと、楽天、自治体、自前、いろいろあるという話なんですが、私はこの事業に取り組むからには、そのモール自体に力がなければ何もならないというふうに考えています。そうであれば、私は市長自ら陣頭指揮のもとに、今ではネットモールの中でもキュレーターと呼ばれる専門知識の方等のいろんなアドバイスを入れて定期的に購入するとかいうやり方もあるんですよね。それが、野菜ソムリエなのか、グルメレポーターなのか、ある意味、そこのキュレーターといわれる人たちにはお金をかけなくてはいけないでしょうし、バイヤーの人間を雇い入れるのも一つの方法だと思います。そのような中でいえば、私はある程度予算も拡充すべきだというふうに思っております。

例えば、１年目２，０００万円、以降、江頭市長任期中各１，０００万円の投資をしてほしいと、都合５，０００万円ですね。ただ、市長自ら陣頭に立って、この５，０００万円の投資によって農業者所得を４年間で５億から１０億引き上げるということができれば、それは私は政策として理にかなうことだと思いますし、一般的に赤字と見るという感覚もありますが、私は農業者所得の倍増を訴えるのであれば、それは必要な経費として投資すべきものだというふうに考えております。

まだ簡単な方法で言うと、先ほども第三セクターの話が出ましたが、それでは、第三セクターの今手数料１５％を１０％にしたらいかがでしょうか。それぞれの会社でそれでは立ちいかないという話も出るかもしれませんが、合併合意事項、合併の調整事項からいえば、それでは持ち株をすべて統合して連結決算をすれば、私は１０％でも十分もつのではないかというふうに思います。そのぐらいのことを考えていかないと、簡単に農業者所得が上がるということはないと思うんです。この連結決算をやるだけで、要は農家の売上げは変わらないとしても、手取りは変わるわけですから。そのぐらい思い切った策を、市長にはご提案いただきたいと思いますが、心意気等がございましたらお願いいたします。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　質問の確認でございますけども、ネット販売にかける私の思いということのご質問かと思います。はい。

今、ご質問のあったことも少し踏まえながらお話をしますと、菊池には大変質のいい農産物がそろっておりますが、なかなか今までの販路のままでは、さっき特に申し上げたような小規模の、あるいは零細の規模の農業生産者の方にとっては、なかなか生産物が世の中につながっておりません。一方で、今、特に３．１１等が大きな契機になったんですけども、食の安全というものが大きくクローズアップされて、それに対しては、ある意味値段はあまり問わないような世相になってきております。しかもインターネットが普及したことで、市場を通じてじゃなくて、そういういいものほど実は最終消費者がインターネットで探し回っている、という状況になっているわけですから、これは菊池をつなぐ絶好のチャンスが来ているわけですね。

ただその際に、「そのサイト自体に強みがないとこれは売れないよ」とおっしゃるのは全くそのとおりでございまして、そこに特色がないといけないのですね。ですから、一番楽なのは楽天みたいなところに出店すればいいのでしょうけども、お金はかかりません。ただし、そこにはもう何万という商品が乗っかっていますから、その中の一つということになると、なかなかこの菊池のよさが訴えられないのですね。

ですから、やはりそこは委託なり、最低でも自治体連合であれば、まだそれなりに特色を出せる。そこら辺の中で戦略を決めていくべきだと考えていまして、その特色を出す際のもう一つのポイントは、やはり食の安全ということだと思うんですよ。菊池の場合は非常に熊本の定めているエコグリーンですか、それのさらに上を行く人たちがかなり集積しているのですね。無農薬であるとか、自然栽培をやっていらっしゃる方さえいらっしゃいまして、そういう方々の一つの大きな集まりもできているぐらいの集積度でございます。これを生かしていこうということで、実は、菊池基準というものを作って品質イメージを上げていくと、これが実は一番のうちの売りになってくるはずなんです。そうすることで、一義的には小規模、あるいは零細の生産者の方々に販路が一度に開ける。そこの所得が必ず上がっていくことだと思います。

それから二番目には、そのことを通じて、実は、菊池全体の農産物に対するイメージが相当上がっていきますのでね。実はそういうところから農業全体の底上げにつながるということを、僕はこれは中期的には必ず起きてくるだろうなと、あるいは狙っていかなくてはいけないというふうに考えております。ですから、ＪＡさんとも、実はそういう点においては十分に提携していける話だと思っておりますの

で、そういう形でネットショップというのが今後の菊池の農業を、付加価値を上げていく、「もうかる農業」につながっていく一つの大きな道だというふうに考えている次第でございます。

それから、さっき物産館の連結という話がございましたが、これはインターネットとはまた別の施策のことをおっしゃっているかと思いますが、実は物産館のところも、このインターネットのこの事業と大きく関連が出てきます。インターネットで売ると、例えば物産館の売上げが減るんじゃないかという、もしご懸念があるのであれば、それはある意味また逆だと思うのですね。といいますのは、ネットショップで買う人は、要するに基本的には店に来ないからネットで買うわけですね。ですから、そこで見つけた商品が、例えば、菊池に来たときにリアルショップであれば、そこでまた親しみもわきますし、あるいはリアル店舗で最初に買った物は、これはものすごくよかったと。旅行の方は帰ったあとで、そう何回も行けないわけですから、それをネットショップで探せば、同じ菊池、楽天の中で同じ商品が見つかるということで、リピーターにつながっていくということになるわけですから、大きな相乗効果もこれから期待できると思います。

それをやっていく上では、商品の品質ですとか、イメージ感を統一するとかいうことを、どんどん突き詰めていきますと、今おっしゃるような一つの連結決算というのか、一つの統合した運営ということは、またこれは別の課題でございますけど、そういうふうな前向きな発展的な展望というのは十分に描けるところかというふうに考えています。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　樋口正博君。

［登壇］

○１３番（樋口正博君）　積極的な措置をお願いしたいと思います。

次に移ります。観光振興戦略における具体的数値目標はということであります。戦略については、観光戦略会議がまだ開かれている状況ですから、結論を見ていないとは思うのですが、大まかで結構ですけど、観光客の宿泊の人数、または日帰り等の具体的な目標値の設定がいかになされているかということについて、お伺いをしたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　経済部長、平野國臣君。

［登壇］

○経済部長（平野國臣君）　樋口議員質問の本市への観光客入込数につきまして、最初にお答えをさせていただきます。本市への観光客入り込み数につきましては、もっとも多かった平成１９年の３９７万８，０８５人と平成２４年の３０８万１，９１４

人を比較しますと、８９万６，１７１人の減少となっております。特に宿泊客につきましては平成元年の４４万７００人をピークに年々減少し、平成２４年には１３万４，１７８人と、率にいたしますとピーク時の３０．４％と激減をいたしております。なお、平成２４年度からコンベンション等誘致事業に取り組んでおり、その効果も一つの要因となり、平成２３年度の宿泊者数１３万３，４４５人と、平成２４年を比較しますと７３３人とわずかではありますが増加をいたしております。また、菊池渓谷の入込客数におきましても、九州北部豪雨災害の影響はありますが、平成１７年の３８万２，８８５人と平成２４年の２４万７，８０８人を比較しますと、１３万５，０７７人の減で、率にしまして６４．７％となっております。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　ご質問は、観光振興戦略における具体的な数値目標はいかがということでございました。今、客観的な統計数字を部長のほうから申し上げたわけですが、今までの目標数値としましては本市の総合計画後期基本計画で、平成２６年度時点での観光入込客数ということで４３７万５，０００人、それから菊池渓谷への入谷者数が３８万５，０００人と設定しておったわけでございます。

先ほどのように、入込客数は、これは平成２４年の数字でございますけども、３０８万人でございますから、あと１年あるとはいえ、この４３７万人というのは非常に離れた数字になっております。入谷者数は平成２４年で２４万８，０００人でございましたから、これも３８万人とはまだ開きがあるという状況でございます。これから経済環境も変わってくるわけですから、これから少し希望が持てる部分はあるかもしれません。

これからの目標ということでの、ご質問の趣旨だと思うんですけども、やはりこれから観光業ですね、農業と同じく一つの成長分野にしていこうというわけですから、一つ私たちにとっての目標というものは必要でなかろうかと思います。今般菊池市における観光戦略会議というのを開催させていただいていまして、何回かの取り組みを行っております。この中には新しい取り組みとして、従来の観光協会さん、商工会さんだけではなくて、ＪＡ菊池さん等にもお入りいただいて、なるべく横軸で農業とのシナジー等も図りながら、自然を生かすことでやっていこうということをやっております。その中で、改めてどういう指標がいいか、それからどのぐらいに設定するかということを議論していきたいというふうには考えております。

ただ、大きなポイントは菊池が観光業を通じて、付加価値を上げていくということでございますので、観光客は、実は菊池渓谷でも来ていないわけではないわけで

す。ところがもう日帰りの素通りが大半なもんですから、お金が落ちていかないということでございますから、「菊池の自然の魅力をいろいろ商品化することで滞在型につなげていこう」と言っているわけでございますから、滞在がやはり付加価値を生み出すわけでございます。

ですから、入込客数は一つの参考値はなるのかなと思いますけども、目標としては、私は、今のところはやはり宿泊客数といったものが、非常に実効性のある目標になってくるのではないかなと、今のところはそういう想定でおります。これはまた戦略会議において皆様のご意見も聞いていきたいと思います。

先ほどの観光戦略会議というのは、ＪＡさん等も含めた、いわば総戦力で、これから菊池市自体の魅力を高めていこうと、それで集客をしていこうということでございます。やはり、今後ポイントになりますのは、この滞在型ということも考えますと、やはり宿泊されるところの旅館、ホテル業界の皆様、ここの受け入れ体制とか、例えば設備とか、それからおもてなしであるとか、そういうソフト、ハード両面の準備というのが非常に重要になってくるわけでして。

実は、この間に、旅館の数も残念ながら減ってきているわけですね。月華亭さんとか、それから月見殿とか、なくなってきております。つまり、宿泊、受け入れる数自体が、実は減ってきておりますので、一義的には少なくとも従来のピークを取り戻したいというのは、普通自然に考えるところでありますが、今、いわゆるベッド数と言っているのでしょうか。宿泊収容人数といいましょうか、これが菊池温泉では、１，４００人のようですね。１，４１５人という統計が、これは各旅館からのヒアリングベースですけども、ございます。これが、３６５日間１００％満室だったとしたときに５０万人なんですよ。ただ、そういうことはありえませんですよね。今、これもヒアリングベースですけども、大体どのぐらい稼働率があるかというと、そんなに実は高くないんですね。それは、平均の採算ラインをまだちょっと割っているぐらいなんですよ。ですから、せめてその採算ラインまで持っていくというのは、まずは最低限の目標になってくるわけですけども、その場合でも今が１３万人ぐらいですからね。ざっとその半分ぐらい２５万とか３０万という数字が必要になってきますので、そうすると、それを受け入れるための、さっき言った体制の問題、これは観光協会、商工会だけではなくて、旅館業界の方々でどういう体制をとっていただけるか、その時間軸と資金の問題等もございますんで、そこら辺をよく踏まえながら設定をしていきたいというふうに考えているところでございます。

以上です。

○議長（山瀬義也君）　樋口正博君。

［登壇］

○１３番（樋口正博君）　はい。具体的な答弁、ありがとうございました。打ち合わせ時では、まだ数値がはっきりしていないということだったもんですから、戦略も大事であるんですが、そこにはある程度目標数値がないと戦略が組めないと思いますので、それに向かって行っていただければと思います。

日帰りの場合は、実は地点調査なもんですから、地点が増えるといきなりすごいカウントが増えたりするものですから、あまり当てにはならないのですが、そこら辺はゆっくり見つめながら目標数値に向かって行っていただきたいと思います。

昨日もオリンピックの話があったのですが、今回のオリンピックというのは、僕は１９６４年のオリンピックとはちょっと意味が違うと思っています。それは、その当時は復興のシンボルでもあったんですが、実はまだ諸外国のＯＤＡに頼っていた時代だったのですね。前の年にできた年間３１億ＫＷｈを誇る黒部ダムも漏水等については、人的な海外土木技師の技術によって前年に完成をしたし、そのシンボルであった新幹線はＯＤＡ事業の中の国際復興開発銀行（世界銀行）からの無利子による融資によってその実現がなされていると。ただし今回は、先進国として真の価値を問われているオリンピックです。その中では、ボートという話も先日でましたが、ボートだけにとどまらず、世界中１００を超える国と地域の参加があるわけですから、是非とも市長を筆頭にさまざまな業界とロビー活動を行って、そういうお客さんの誘致も努めていただければと思います。

あと、コンベンションの話が出ましたけど、一応これは時限立法みたいな形で、５年間のめどということなんですが、江頭市長の任期中にその５年目を迎えますので、実はこのコンベンションがうまく利用されていて、さまざまなスポーツコンベンションが今実現していますので、是非ともそれについては５年と言わず延長も視野に入れた中で取り組んでいただければというふうに思います。

次に、「森の中のまち事業」について事業実施における具体的な概要はということであります。森の中のまち事業、いいことだと思うんですが、さまざまなエリアの設定であるとか、実施手法はどうなっているのか、市長は何度か木を植える部分の固定資産税を減免という話も出ましたが、私はちょっとこのやり方には反対でして、固定資産税を減免するというのですが、その庭の平米数を測って、それから固定資産税を減免するなんていうのは、職員さんにしてみればとてつもない無駄な手間だと感じますし、あとは既存の庭をどう扱うかとか、さまざまな問題があると思うんです。だからといって現金給付も僕はよろしくないと思うし、やってその苗木を市から補助すると、そのぐらいの程度かなとは思うんですが。

いろいろな場面で市長は口にされるのですが、なかなか具体的な部分が見えてこ

ないものですから、その部分が現時点で決まっているものをお教えいただければというふうに思います。

○議長（山瀬義也君）　建設部長、松野浩一君。

［登壇］

○建設部長（松野浩一君）　今の現状について、お話申し上げます。まち中の空き地など利用いたしました緑化を進め、癒やしの空間づくり、住環境の向上、ひいては観光資源にもなり得るような企画を、今進めているところでございます。その中には樋口議員がおっしゃいましたように、いくつかの課題が生じてまいります。当然地域の皆さんの同意、今回企画するまちづくり手法への参加、協働など、地元を含めました市民の皆さんのご理解とご協力を得ながら進める必要がございます。まずは地元説明会を開催いたしまして、意見や提案を出していただき、モデル地区など具体的に整備可能な基本構想を作成してまいりたいと考えているところでございます。課題を一つ一つ解決するために、現在スケジュールを組み立て、調整している状況でございます。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　樋口正博君。

［登壇］

○１３番（樋口正博君）　森の中のまち、ホタル、さくらプロジェクト、私は、これらのことについて反対ではないです。ただ、市長、これらの宣言は、現時点においては、センシビリティ、感性の宣言だったんですね。市長候補江頭実の時点では、私はこれでもよかったと思うんですが、菊池市市長江頭実というところになれば、これをいかに具現化していくかという手法が、やはり提示されなければならないというふうに思います。

実は、私はちょっと市長と違って、すごく狭いエリアなんですが、議員になって１３年間、桜でいえば、前回も言いましたが、城山の桜がどうにかならないかということで、若手と一緒にてんぐ巣の駆除をやったり、桜をどう生かしていくかということで、ライトアップ事業にも取り組んできました。その中で、今桜基金ができて、全市を進めているわけなんですが、これらのことをやるにしても、なかなか個人や団体でやるには限界が発生しています。

さらには、例えばホタルにしても、実は私が住んでいるすぐ近くに築地井手というのがあるんですが、ここに昔はホタルがたくさんいたんです。で、近年人が少なくなって、実は私が東京から帰って来た二十数年前に、松本さんっていう方がおいでです。銀行出身の方なんですが、この方が、ホタルの養殖に取り組まれて、一時、あの築地井手にホタルがたくさん出たんです。ただ、ある年、急にやめられま

した。私の同級生のお父さんだったんで、お話を聞いたんですが、なぜやめられたんですかという話の中で、息子さんが学校の先生なもんですから、「ホタルはどうしたらたくさんできるんだろう」という問いかけをしたときに、「養殖すればホタルは発生するんだよ」という答えが返ってきて、「私は環境を守るためにやっていたんだけど、何かちょっとショックで」というところで、そのちょうど２、３年後にお亡くなりになられたんですが、その復活をしたいと思いながら、さまざま実は築地での組合長と僕は話させてもらったことあるんです。じゃあ、ホタルを出すためにはコヒナ、餌をたくさんやんなきゃいけないんだけど、「じゃあ樋口君、そのコヒナは誰が飼って、どうやるんだ」と。なかなか答弁に困ったわけなんですが、そういう問題も発生しましたし、あとは合併する前のまちづくり総合支援事業の中で、あの築地井手のオープン化ができないかと。あそこに築地井手をオープンにして、ホタルがたくさん出るようになれば、ちょうど正観寺の交差点の観光協会の集合看板がありますよね。薄暗い中に、あそこのグレーチングの幅大きいですから、集合看板の前、薄暗い中をホタルが観光客をお出迎えする、そんなシチュエーションができないかと、そのことにも取り組みました。ただまち交事業（まちづくり交付金事業）の中で、井手の改修については、金額が大きすぎるのでどうしても取り組めないというところで、ワークショップの中でも話が出ましたが、断念せざるを得なかった。温泉街でいえば、山鹿のような、簡易埋設ができないか、そのことについてもまち交（まちづくり交付金事業）を１年遅らせてもらって県と協議もしました。ただ、その当時は九州電力、ＮＴＴともに「新八代駅に取り組まなくてはいけない」と、「その予算はないので、市のほうで請け負ってくれるのだったらやっても結構ですよ」と。その予算が１億円、それはとてもじゃないが出せないということで、そのことにも取り組めなかった。

ただし、その電線ばっかりで、上が見えないもんですから、できるだけ縦線にしようということで、横に行っている線を新しい電柱を立てて、縦に延ばして景観を整えた。実は、あの望月旅館から東側を見ると、本当は西原村のあの風力発電だって見えるんです。空が変われば景色も変わってくる、そんなことも取り組みましたが、いろんなことにぶち当たってくる。旅館街の取り組みについては、旅館組合の中で例え商店街が２０階建て３０階建ての大きな商業施設ができようとも、この温泉街の中はうっそうとした森に囲まれた、そんなところでもいいじゃないかということで、皆さん、足湯をつくってもらったり、そしてブロック塀を取り払って、見てもらえばわかるんですが、今では板塀がだんだんできてきています。歩みが遅いんですが、少しずつ前には進んでいる。

やっぱり一議員、一個人ではできることには限界があります。その部分について

は、市長自ら公約として掲げられたわけですから、執行権を持って、予算の提示権も持っておられる。是非ともその部分にはリーダーシップを発揮して、早急に取り組んでいただきたいというふうに思います。とにかくスピード感を出してやっていただきたいというお願いであります。

答弁はちょっと大変でしょうから、次に移らせていただきます。

合併特例債事業について、平成２７年から３１年度の取り組みについて、どのように考えるかというところです。

これも、前回聞きましたけど、そのときの質問では、１０年以降は決まっていないという市長のお答えでした。ただ、私は、この残り５年間が今後の菊池市を左右するほど大事な期間でないかというふうには思っています。どのぐらいのお金を使うかという話ではあるんでしょうが、今後というか１０年以降５年間の合併特例債の取り組みについて思いがあればお聞かせいただきたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　今のご質問は、合併特例債を活用すべきであろうと。とりわけこれから５年間の計画についてというご質問でございました。これは、同様の議論、ご質問を他の議員さんからもいただいておりまして、その際に回答したことになりますけども、この合併特例債というのは、非常にやはり有利な調達手段ではございますので、これが５年間延長になったということで、できるだけそのチャンスというのは、うまく使っていきたいというふうには考えております。

ただ一方で、ほぼこれを時期を同じにしまして、当市の財政が大きく変化してくるということで、一本算定に向けて、これから縮減が始まるというのは、もう間近になってきているわけでございますから、その両方をにらみながら、効果的なこの財政支出、それからリターンが生まれて来るように、そういうことで見直していきたいというふうに考えているわけでございます。もう一つの軸としては、昨日から申し上げています地区別の今の現状を、よく配慮しながら、そこのところを進めていきたいというふうに考えております。

ただいま現在、合併特例債の借り入れ自体が、この上限額２１３億円と設定されておるわけですが、それに対して２４年度末では９２億円というのが実績になっております。ただ、これから庁舎の建設等が開始されますと、ここに相当の部分が上乗せにもなってきます。それから一番大事なのは、先ほど申し上げた一本算定を迎えての大幅財源不足という時期が来ることが、確実に予想されますので、両面をにらみながら、本当に意義のある事業を取り上げていきたいというふうに考えておるところでございます。

以上です。

○議長（山瀬義也君）　樋口正博君。

［登壇］

○１３番（樋口正博君）　財政負担もあるという話です。今回、全般的にこのような質問をさせていただいたのはなぜかというと、市長には誠に申し訳ございませんが、私事でいうのは大変失礼な話かと思うんですが、民間出身の市長として期待をされた江頭市長。周りの捉え方、私の捉え方として、若干スピード感に欠けるという部分がちょっと感じているところです。前回もこの特例債のことについてはお聞きをしましたが、もうあと１年で１０年を迎える。ならば１０年以降のことについては、もう審議が始まっていないと間に合わないと思うんです。今回聞いたさまざまなことも１２月にはもう予算査定に入ります。そのことを考えると、もう骨子を決めるべきじゃないかというふうに思います。

確かに、官と民の違いの戸惑いもあると思います。私自身も企業に努めていたのは７年程度ですから、それほど民間、民間と声を大きくしては言えないのですが、明らかにやっぱりさまざまなことの決め方が、やっぱりスピードがどうしても緩く見えてしょうがないのです。

ご就任当初で、ワークショップで市民の意見を聞いたりとか、そのなかでボトムアップ方式でやると、それはいいと思うんですが、やはり二元代表制の中で、圧倒的な支持を受けて、市長に就任された江頭市長です。私は、最終的には政治的判断でトップダウンで庁内に言葉を発する。今回さまざまな質問をする中で、職員の方と打ち合わせをするんですが、先ほども申し上げたとおりに、なかなか数値目標、どこに何をやるかというのが決まらないので、職員の方もまだとまどっている部分があると思うんです。財政負担の話の点から言えば、庁舎が入ればとかいう話なんですが、俗にいう３割自治体であるこの菊池市、しかしながら一方で１０７億円のさまざまな基金を持ってる、こういう自治体も珍しいと思うんです。私は基金を守るのも一つのやり方かもしれませんが、合併１０年を迎えたこの新政菊池、そのことについては、私はその基金を取り崩してでも向かわなければならない方向性があると思いますので、そこら辺は是非とも市長のご判断をいただきたいと思います。

その中で、合併していろんなことがありました。有朋の里を目的とされた松岡前町長をはじめ、歴代町長さん、そして畜産主体の振興に努められた前石井村長を初めとした歴代村長、そして、農業と観光振興に努められた前七城の緒方町長、また文教菊池の復活を願った荒木市長、財政再建を目指された牧市長、福祉に重点を置かれた福村前市長、私はこれらの方々が評価はそれぞれあっていいと思うんですが、その方々たちの努力によりこの財政健全基金１０７億円を有する、この菊池市

が今あると思います。どうか市長におかれましては先人という言い方は、非常にちょっとよくないんでしょうが、これまで築かれたさまざまな市町村長さんの思いにリスペクトを抱いていただきながら前進していただければと思います。

とにかく是非ともスピード感を持って、政治的な決断、そのことを行って施政を運営していただければと思います。まあ、官の手法が非常になじまないということであれば、もう私は非常に有能な副市長を置かれたというところで、二人三脚で菊池市の発展にまい進していただければと思います。

以上、私の質問を終わります。

○議長（山瀬義也君）　ここで、昼食のため暫時休憩します。

午後の会議は、１時から始めます。

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

休憩　午前１１時５６分

開議　午後　零時５７分

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

○議長（山瀬義也君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、水上彰澄君。

［登壇］

○７番（水上彰澄君）　こんにちは。議席番号７番の水上彰澄でございます。通告どおりに質問をしてまいりたいと思います。午後一番ですが、少し眠くなるかと思いますので、頑張っていただきますようによろしくお願い申し上げます。

それでは、一番に、畜産悪臭公害ということで挙げておりますが、悪臭公害対策は、どのように考えているかということでございますけども、畜産経営においては、近年特に周辺生活環境に配慮した経営が必要となっている中に、各畜産農家においては、環境三法の施行もあり、これまで堆肥化施設等の整備を進めてきたところであります。しかしながら、現況においては、畜産経営に起因する悪臭等への苦情が発生していると聞き及んでおります。行政においては、畜産の悪臭公害対策として、何を考えているかということでございます。

また、ここ熊本においては、ご承知のとおり地下水が県民の生活や経済活動の基盤となっております。近年の地下水のくみ上げによる地下水位の低下や硝酸性窒素等による地下水の汚染が課題となっているところでございますが、県では県民が豊かで良質な地下水の恵を将来にわたって享受できるよう、地下水のさらなる保全を目指して、熊本県地下水保全条例も制定されております。昨年３月改正があっております。浄化処理施設においては、希釈水を必要とするものがあり、本市においても導入されておりますが、将来的な地下水の保全を考えたときに、新技術的なもの

も含め、何かほかの処理方法の導入も、考えることはできないかということを質問をいたします。

○議長（山瀬義也君）　経済部長、平野國臣君。

［登壇］

○経済部長（平野國臣君）　水上議員の質問にお答えします。平成１１年に施行されました家畜排泄物の管理の適正化及び利用の促進に関する法律により、一定規模以上の家畜等を飼育する畜産農家におきましては、堆肥化施設等の整備による管理の適正化が義務づけられ、堆肥の野積みや素掘り等の解消に向け、管内におきましても堆肥化施設等の整備が進められてきたところでございます。しかしながら、急速な飼養規模の拡大等を背景に、大規模経営の畜産農家におかれましては、堆肥の流通面に課題があり、問題解決には至っていない状況もあります。

特に、ご指摘のとおり、家畜ふん尿の畑地への還元につきましては、周辺環境への影響も懸念されるところであり、現に畜産経営に起因する悪臭や野積み等に対する苦情も寄せられているところでございます。本市としましても、これまで国、県の補助事業を活用しながら、堆肥化施設等ハード面の整備はもちろん、堆肥の広域的な流通についても検討を進めてきたところでございますが、十分な改善策が見つかっていないのが現状であります。

一方、住民の皆様からの苦情等に対しましては、直接個別の経営指導等も行っておりますが、事前の対応としましては、市のホームページや広報紙において、周辺環境への注意を喚起しながら、畜産農家の皆様への啓発を行っているところであり、今後も引き続き関係機関、団体と協力しながら、周辺環境と調和した健全な畜産経営が図られるよう推進してまいりたいと考えております。

また、希釈水を使う尿処理技術につきましては、本市におきましても既に導入されているところでございますが、この技術は処理の過程におきまして、畜舎から排出された原尿のＢＯＤ濃度を微生物の分解適度とされる濃度のに調整するため、地下水を希釈水として使用するものでございます。他の処理方法に比べてシンプルな処理技術として、県内外においても広く普及していると認識をいたしております。

なお、今後は県の地下水保全条例の趣旨に鑑み、排水基準に適合した処理水質の維持はもちろん、技術的に可能な限り地下水等の保全に関しましても、関係農家の皆様や施設の技術者を交え、検討を進めていくならばと考えております。また、今後の新技術等の導入につきましては、関係機関や団体の検証を進めながら、畜産経営に適合した画期的な新技術であれば検討してまいりたいと考えております。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　水上彰澄君。

［登壇］

○７番（水上彰澄君）　新技術の開発に関しましては、今後、市としても積極的に取り組んでもらいたいと考えておりますが、市長としての見解をお聞きしたいと思いますけれども。

特に、以前はふん尿処理施設整備のための環境対策予算も充実しておりました。国、県、旧市町村においては高額補助で対応していただき、畜産農家としても事業に取り組むことができましたが、今はほとんど対応されていないものと思われます。近年の畜産農家の厳しい状況もあり、特に県に対し、あらたな施設整備にかかる予算面の確保について要請はできないかということを申し上げるところでございますが、今までの処理におきましては、当然、国や県の条例等に適合したものでありますし、それでいいと思いますが、今後残された部分においては農家が取り組みやすい条件でなくてはなりません。特に、企業等におかれましては、大量の地下水をくみ上げておられると思いますが、国、県においては環境三法とか、地下水保全条例、これらで規制をかけますが、いろんな処理施設で農家負担が大きくなり建設がなかなかできないというのが現状であります。

そこで、以前の例を申し上げますならば、補助率が国が５０％、県が２０％、各市町村それぞれ違っておりましたけれども、私の旭志におきましては、旭志村が１３．５％という、８３．５％という非常に高い補助率を受けておりました。そういう関係もありまして、そのとき旭志においては、同じ年に４カ所も堆肥舎ができましたが、いずれも１億円以上のものばかりでした。

そこで、江頭市長は、畜産においては熊本県は全国で７番目であると、よく言われます。畜産王国を守り続けるためにも、国、県への補助金の力強い要請をしていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。市長の畜産振興の思いは、どのようにお考えでおられるか、お聞きをしたいと思います。よろしくお願いします。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　畜産のふん尿処理に関する新技術への対応ということでございますが、畜産経営における堆肥化処理における新技術の導入ということにつきましては、畜産農家の皆様にとりまして、市に効果的な処理技術が確立された場合には、市としましても十分に検証して見極めながら、それらの新技術導入について検討してまいりたいというふうに考えております。

また、畜産農家における堆肥化施設等の整備につきましては、管内におきましては、ほぼ完了しているものと認識しておりますけども、現状における苦情等々、聞くところでもございますので、まだ不十分な面も懸念されるところでございますの

で。生活環境と調和した、この健全な畜産育成というのを図る必要があると思いますので、それを実現する上で必要な事業メニューの充実、あるいは予算等につきまして、県のほうとも協議しながら、必要に応じて要請してまいりたいというふうに思います。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　水上彰澄君。

［登壇］

○７番（水上彰澄君）　なかなかいい答弁であったかとは思います。全市において、施設等が十分出来上がってしまいますようにお願いをして、次の質問に入りたいと思います。

公園整備についてということで、お聞きをいたします。旭志にも公園をつくる考えはないかということでお聞きしますが、この件につきましては、１、２度、私質問したと思います。執行部から、あまりよい返事はもらえませんでしたが、また一部の皆さん方から、「旭志は鞍岳をバックに自然が公園たい」と言われまして、なかなか私もやりづらいということでありますけれども、そういう冷やかされ的なことをお聞きしますが、今回は先の議会の報告会で質問されたもので、旭志には「湯舟ん堤」と私たちは言っておりました。湯舟のため池と申しますかですね。湖にはちょっと小さいかもと思いますけれども。土地改良区の管轄かとも思いますけれども、非常に絶景なところがあります。写真でも撮るなら、池がバックで池が写り、その先に、周りにいろんな木々があります。そして、バックには皆さん方、いつも見ておられる鞍岳の男山、女山といいますがあれがきれいに鞍岳が写るようなところであります。これまた市長の言われる桜を周り一面に植えて、真っ白な花が湖面に映るんじゃなかろうかと、そのように思います。市長は菊池から玉名までの河川の堤防に、桜を植えたらどうかと、夢を見ておられるようでございます。

まず、足元の旭志の湯舟の池を、周りに桜を植樹して、旭志に１カ所ぐらい、菊池市が指定できる公園づくりをしていただきたいと、そういうことを考えていただきたいと。

ちなみに、ほかの菊池、七城、泗水に公園と名の付くものは何カ所ずつあるか、これをお示ししてもらいたいと、そのように思います。

新市計画の中では考えられないかということでございますが、旭志において配分率があるわけでございますが、今までの執行の残り、この辺で事業計画ができないかと、そのように思います。もちろん優先順位等あろうけれども、あと残りにおいてどういうものが計画されているのか、決定的な計画がないとするならば、残りの事業でできるということであるならば、是非とも公園という指定できるような公園

にしていただきたいと。そういうことを思いますので、桜だけでなくても、桜の下には真っ赤なつつじとか、そういうものも考えられると思いますけども、そういうことで１つぐらい旭志に公園をつくっていただきたいというのが質問であります。よろしくお願いします。

○議長（山瀬義也君）　建設部長、松野浩一君。

［登壇］

○建設部長（松野浩一君）　それではご質問のほうにお答えいたします。旭志地区におきまして、公園に準じました施設といたしましては、四季の里や道の駅がございます。また、旭志地区につきましては、大字伊坂、川辺の一部地域におきましては、都市計画区域でございますが、ほかの地域は都市計画区域外で、ということでございまして、市の公園といたしまして補助事業で取り組むためには、都市計画区域であれば、都市公園といたしまして整備をできるところでございますが、区域外であれば、別の事業で取り組まなければなりません。これらの条件から市で計画しております公園としては、現在のところはございません。

次に、議員がおっしゃいました「湯舟の堤」と呼ばれているため池につきましては、議員がおっしゃいましたとおり鞍岳を背景といたしました景観が素晴らしく観光の資源の一つでもあり、誰もが潤いの場所であると認識しているところでございます。既に艇庫周辺にはりっぱな桜がございまして、花見の名所になっているというふうに聞いておるところでございます。また、ホタルの時期におきましてもホタル鑑賞ができ、豊かな自然が残っている貴重な場所でございます。

ご提案の整備でございますが、ご存じかと思いますが、湯舟の堤周辺の土地に関しましては、ほとんどが民有地等でございます。現在のところ、具体的な整備計画がございませんが、民間のレベルで地元の活動の一環といたしまして計画を立てられ、用地等の協力がございますならば、自然を壊さない範囲で植樹は可能だと考えているところでございます。

次に、新市建設計画の中でのお尋ねでございますが、これも現在のところは計画としてはございません。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　水上彰澄君。

［登壇］

○７番（水上彰澄君）　予想通りできないということでありますけれども、都市計画地域でないということ、新市計画にはもちろん挙がっていないと。私が言ったのは、新市計画の中の残りの執行されている残りのものに入れたらどうかと、いうことを言ったつもりでありますが、ちょっと言葉の表現がうまくできませんでしたので、

部長にその辺がわからなかったかもしれませんが、その辺も含めまして、この市長の思い入れである桜をいっぱい咲かせようという思いを全市に行うとするならば、こういう小さいところを先に手がけておくと、絵に描いた餅で終わらないと、一つずつ解決していくということにもなりますので、市長の考えもちょっとお聞きしたいと思いますが、よろしゅうございますか。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　ただいまのご質問は湯舟の堤というのは、一つの例でお出しになったというふうに捉えて、できるところから少しずつやったらどうかというお話かと思いますので、その意味では、こういうものはあまり構えてやるよりは、確かにできるところからやっていくというのは一つ有効な方法かもしれないなというふうに考えております。ただ、やはり何十年の計で、菊池を桜の名所にしていくという意味でのやはり予算と、それから効果を考えたときには、一つ大きなグランドデザインをもってやっていくことが適切であろうと思いますので、基本はそちらのほうで進めていきたいと思いますけども、湯舟の堤のように民有地において、その所有者の方、それから地域民の方が、その趣旨にご賛同されて、自分たちでもその菊池のさくらの里の構想の中の一つとして協働してやっていきたいというお話あれば、例えば苗木等々の提供とか、そういったところを工夫できないか、これから検討してまいりたいというふうに思います。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　水上彰澄君。

［登壇］

○７番（水上彰澄君）　はい。わかりましたけども、一つぐらいは私も公園をつくっていただきたいという思いから、何回も申し上げますけども、これで終わるかもしれません。これは、これで次に入りたいと思います。

小水力発電についてということでございますが、このことにつきましても、一度質問をしました。議会報告会で出ましたもので、もう一度質問をしたいと思います。

菊池市と旭志の中山間地において、なかなかいいところがあると思っております。旭志には合志川、矢護川があります。これを一度見てくれということでございましたので見に行きました。何カ所かあるようでございます。東北の原発事故があって以来、自然エネルギーが言われる中に、この菊池市の中を一度ぐらい全域で調査ぐらいして、小水力発電も考えておくべきではないかと、そのように思いますもんですからお尋ねをするわけであります。よろしくお願いします。

○議長（山瀬義也君）　市民環境部長、下田俊一君。

［登壇］

○市民環境部長（下田俊一君）　水上議員のご質問にお答えいたします。小水力発電につきまして、今までの取り組みを若干ご説明させていただきたいと思います。

小水力発電につきましては、本市の特性を生かし、自然の恵みを活用した循環型社会を目指すための一環として、中期的な取り組みとして考えております。そのため本年度は、担当課だけでなく幅広く庁内の関係各課で組織する検討委員会を立ち上げる予定としております。

現在の取り組み状況といたしまして、６月に大分県竹田市と阿蘇市のマイクロ水力発電施設の施設研修を行っております。７月にはきらり水源村におきまして開催されました、棚田における小水力発電の可能性についての講演にも参加しております。また、何度か県エネルギー政策課に出向きまして、小水力発電に関する補助金の有無とか検討委員会の立ち上げの際の助言、また講師派遣等の要請も行っております。今後、早急に庁内で検討委員会を立ち上げまして、小水力発電のどのような規模とか発電の用途の、そういうものを調査とか研究を行い、早く方向性を定めてまいりたいと考えております。

議員お尋ねの市内全域の河川を対象とした小水力発電に適した場所の調査はできないかということでございますけども、それにつきましても、方向性が定まり次第河川や水路を対象にエネルギーの賦存量調査を行ってまいりたいと考えているところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　水上彰澄君。

［登壇］

○７番（水上彰澄君）　だいぶ前向きに調査等、勉強もされておるようでございます。１つぐらい菊池市にやっぱり小水力発電モデルになるようなものが１つぐらいできたらいいんじゃなかろうかと思いますので、これも一つ前向きにずっと検討していただきたいと、そのように思っております。

次に、農産物のインターネット販売についてをお聞きしたいと思いますが、これは、中山議員も言われました。もちろん樋口議員も言われましたが、最近いろんなものがネット販売、また購買される時代になっております。私はあまりインターネットにおいては無知でありまして、わかりませんが、いろいろ話を聞きますと、何でもかんでもネット販売ができると聞き及んでおります。そこで市長が言われる菊池ブランドとか、菊池楽天とか言われますが、これらを行政が音頭をとってＪＡ菊池や各種団体、これらと一緒にネット販売の仕組みをつくったらどうでしょうかと

いうことでございますが、これを、販売を強力なものするには、今、菊池には水田ゴボウとか、七城のメロンとか、旭志にはネギが県の産地指定を数年前に受けておりますが、そのほか一つずつ農産物の産地指定をつけると、つけるということじゃありませんが、産地指定を、県の指定を受けるということをしていきながら、強力なネット販売に力強いものにしていくということを思っております。販売戦略はどのように考えておるかということでお尋ねをいたします。

○議長（山瀬義也君）　経済部長、平野國臣君。

［登壇］

○経済部長（平野國臣君）　質問にお答えします。農産物や加工品などのインターネット販売につきましては、消費者が直接産地に足を運ばなくても、手軽に地域の産物が安心して購入できることなどから、年々需要も高まって来ており、最終消費者と生産者が直接つながる仕組みでございます。

ご承知のとおり、本市は、日本名水百選に指定されております菊池水源をはじめとした豊富な水資源と肥沃な土壌から生産されました農林畜産物は、消費者の皆様から大変好評を得ているところでございます。

本年度におきまして本市農林畜産物の販路拡大につながる、より効果的なインターネットショップの開設に向けて、全国の自治体などを含む通信販売事業の事例収集等を整理、売れる物と売れない物のマーケット調査、ネットショップの運営研究などの調査を行うようにいたしております。また、８月にはインターネット販売の構築を含めました稼げる農業の実現に向けて、市内農業者組織、各物産館、ＪＡ菊池、商工会など関係機関団体で構成します「菊池市ブランドづくり実行委員会」を設立いたしまして、安心・安全な農産物の生産、インターネットによる販路開拓、６次産業化推進、地産地消の推進などの業務を進めてまいりたいと考えております。

なお、インターネットによる販売につきましては、本市独自の農産物の安心・安全のための認証制度について、くまもとグリーン農業との整合性をとりながら、環境保全型農業の実践者や市内農業者組織、県、ＪＡなど関係機関、団体と協議を行いまして、本市農産物や加工品が消費者志向の産品としての販売が見込まれるように、早急に確立をいたしまして、小規模生産農家や高齢者農家を含む農業者全体が手軽に取り組めるシステム構築により全国販売につなげてまいりたいと考えております。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　水上彰澄君。

［登壇］

○７番（水上彰澄君）　はい。なかなか前向きな考えでおられるということで、安心しておりますが、物産館、これを民間委託というふうな考え方があるようでございますが、今、手前に申しましたように、市が、行政が音頭をとってと申しますか、そういうことをする考えでおるとするならば、これは民間委託すると相反するものが起きると。行政が一つぐらい第三セクターに参加しながらもっておくのが大体はいいんじゃなかろうかと思います。もしそうでなければ、旭志の場合は、特にＪＡが本所そばにありますので、民間委託もＪＡあたりでしていただくならば、このネット販売も行政と一緒になって販売できると、そのように思いますので、これは答弁をもらうということにはしておりませんけれども、その辺も検討をしていただきながら、このネット販売においては力を入れてもらいたいと、このように思いまして、私の質問を終わりたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　ここで、１０分間暫時休憩します。

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

休憩　午後１時３３分

開議　午後１時４３分

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

○議長（山瀬義也君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、柁原賢一君。

［登壇］

○２番（柁原賢一君）　こんにちは。柁原です。よろしくおねがいします。菊池平野も緑色から黄色く色づきはじめ、日中に比べ朝夕は秋の訪れを感じます。私は、こんな四季の訪れを感じる菊池平野が大好きです。

さて、今月９月２２日に国指定の登録有形文化財として次の４カ所が登録されました。その認定授与式が県振興局においてとり行われます。１つ目は、菊高前（菊池高校前）の御所通りの高木医院、２つ目、同じく御所通りの松倉邸、３つ目、南古閑の宮村邸、同じく宮村邸の石垣、以上の４軒でございます。この登録有形文化財の認定にあたりましては、建物の所有者の方のご協力をはじめとして、設計士や大工、左官さん等の建築関係の技能集団の集まりであります菊池建物応援団や菊池市教育委員会の文化振興係、また菊池市が文化資源の調査を依頼しております九州大学の藤原惠洋教授のご尽力や、そのほか多くの市民のご協力によって有形文化財として国の認定を受けることができました。２２日には、それらの資料パネル展が１週間程度松倉邸において展示公開されますので、議員各位をはじめ、多くの市民の皆様のご来場をお願い申し上げます。

さて、江頭市長は、６月の施政方針の中で、安心・安全の癒やしの里づくりを目

指し、眠っている菊池の宝を掘り起こし、農業と観光に力を入れ、経済の活性化を図っていく旨の方針を示されました。まさしくこれらの有形文化財は菊池の宝であり、今後の菊池の観光に大きく貢献していくのではないでしょうか。これから力を入れていかなければならない観光からの視点と、また高齢化を迎える交通弱者の視点から、交通網の対策について質問いたします。次の３点について質問いたします。

８月に大津方面から、国道３２５号の伊坂・グリーンロード森北間の開通がなされましたが、国道３２５号の４車線化の今後の工事の予定ならびに今春一部区間を残して開通いたしました隈府中央線との連結について、市としてどのような方針で進めていくのか質問いたします。

二番目として、熊本県内の交通拠点、空港、高速道路、ＪＲ、新幹線等から菊池市までの公共交通機関の運行状況と、市としての今後の対策をどう進めていくのか、２点目として質問いたします。

３点目として、交通弱者の視点から、市のコミニュティバスの利用状況、またその問題点に有無について。また、芦北町等の他の市町村では、スクールバスがコミュニティバスとして使用され始めている状況にあります。菊池市ではこういうことができないか。以上の３点について交通網対策としての質問といたします。よろしくお願いします。

○議長（山瀬義也君）　建設部長、松野浩一君。

［登壇］

○建設部長（松野浩一君）　それでは、ただいまのご質問にお答えいたします。国道３２５号４車線化の事業につきましては、県の管理道路でございますので、菊池地域振興局土木部へ伺ってきたところのお答えをいたします。

旭志拡幅区間、菊池市森北から菊池郡大津町杉水約４．２㎞が本年８月に全線共用開始となりました。その延伸区間といたしまして菊池拡幅期間、菊池市大琳寺から森北約３．６㎞が平成２１年度から事業に着手されているところでございます。これまで環境調査道路詳細設計、用地測量等を行い、昨年度末には用地説明会を開催いたしまして、今年の夏から個別の用地交渉に着手しているということでございます。今後の開通予定の時期につきましては、本事業の区間が長く、沿線には建物等の補償物件が多数ございます。橋りょう等の大規模工事も将来に予定していることでございますから、今後の予算や用地取得等の進捗によって、工事期間というのは変わってくると伺っているところでございます。

県のほうでは、まず消防署付近から森北交差点、現在４車線化になっているところでございますが、そのバイパス及び山岳区間を先行して整備するため、当該区間

の事業用地取得のほうを重点的に進めてまいりたいということでございます。

また、国道３２５号と市道隈府中央線との接続でございますが、市道大琳寺木庭橋線から亘深川線につきましては、今後計画的に事業を進めてまいりたいと考えております。市道亘深川線から亘甲森１号線につきましては、現在用地取得に向けた協議を行っているところでございます。その先につきましては、当面、今橋を経まして、今出田線から国道３２５号に接続したいというふうに考えているところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　総務企画部長、野口祐成君。

［登壇］

○総務企画部長（野口祐成君）　それでは、柁原議員の２点、３点目のご質問にお答えいたします。これまで、観光客の利便性の向上のために主要な交通拠点から菊池市までの交通アクセスの確保としましては、九州新幹線対策としまして、熊本市内の交通拠点から菊池市を訪れられる観光客向けに、熊本駅から菊池温泉間の特急運行を行う路線バス「きくち温泉ＧＯ！」の運行を行いました。この運行につきましては、平成２３年４月から平成２５年２月までの期間に行ったところでございますが、およそ２年間での利用者は３万５，４７５人であり、１便あたりの利用者は８名でございました。また平成１９年４月から９月までの間、バス事業者３社による福岡～山鹿・菊池間の直行便として、高速バスの運行を行いましたが、こちらの１便あたりの利用も８名でございました。このほか民間で行われているものとしまして、年間５，０００円の会員制で乗り放題の「ＹＯＫＡＲＯバス」がございます。このバスは九州を縦軸で横断するバスとして８ルートがございまして、その中の博多～阿蘇を結ぶルートとして菊池を通られております。このルートは往復で４便の運行ですが、市民広場を停留所とされており、この２４年度の菊池での乗降は９，２５６人でございます。このような取り組みの中で考えられますのが、近年の旅行形態は、自家用車で少人数の観光が多いことが挙げられると思います。また、特急バス、高速バスでの観光戦略でしたが、このような交通を使わなくても既存の交通機関で菊池へ来ることができるため、低い利用にとどまっているものだと思っております。事業者においても、福岡などの都市圏との交通アクセスを確保したいとの認識はあるものの採算ラインに届かないリスクがあるため運行を懸念されているのではないかと思います。

次に、公共交通の平成２４年度の実績といたしましては、あいのりタクシーの利用者は１万１，４９５人、運行補助金が９８１万７，０００円、観光あいのりタクシ

ーの利用者は２７８人、運行補助金が２８万円でございます。べんりカーの利用者は２万９１２人、運行補助金は６１２万１，０００円でございます。このような交通体系は中山間地域を含む本市に見合ったものと考えておりまして、あいのりタクシーにおいても財政負担を考慮しながら、泗水西部及び東部、旭志東部地域といった公共交通空白地帯に順次導入し、住民サービスを向上させているところでございます。

また、スクールバスを活用した公共交通でございますが、学校の統廃合により全国的に増えているようでございます。スクールバスをコミュニティバスとして活用する場合、新たに国の許可が必要となること、路線によっては停留所を増加することで通学時間の長時間化や学校行事とのスケジュール調整が難しくなるといった課題がございますので、現状としましては厳しいものがあると思います。島根県の「地元創り直し術」についても、過疎化や高齢化に歯止めがかからない中山間地域を危惧されている中、地域再生には循環の経済を提言されているようでございまして、島根県をはじめ、全国には地域の実情にあったさまざまな交通体系がございますので、本市におきましてもそれらを学びながら市民のニーズに応じた交通体系の構築に努めてまいりたいと考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　柁原賢一君。

［登壇］

○２番（柁原賢一君）　今、国道３２５号の４車線化についての、大体大まかな話はありましたけれども、大体目標として何年ぐらいを目指しているのか、消防署まで何年ぐらいを目指しているのか、そういうある程度の目標というのはほしいんですが。私は、平成１４年に３２５号の検討委員会に出席して、その中の発言で、その当時の行政の方が、大体平成１９年ぐらいには消防署までは来るんじゃないかと、そういうふうな話はございました。ある程度、地元の人たちとしては、やっぱり何年ぐらいにこれが来て、これからどういう方向にやっていくだというような、そういう目標的なものは、やっぱりある程度必要になってくると思いますので、非常に行政の予算が厳しい、県あたりの予算が厳しい、用地買収が厳しい、そういうことで遅れるというのはある程度わかるでございますけども、やっぱり事業をやっていく上では、大体何年をめどに事業を進めるということを、やっぱり県と一緒になってやっていただくと思いますので、一応大体めどとして何年ぐらいにできるのか、そういうことをちょっとお答えいただきたいんですが。

○議長（山瀬義也君）　建設部長、松野浩一君。

［登壇］

○建設部長（松野浩一君）　柁原議員がおっしゃいました消防署までのところでということでございますでしょうか。はい。ご存じのとおり、消防署までの山岳区間につきましては、用地もございますし、あと、一番の問題は予算の問題かと思われます。用地取得が進捗しなければ工事のほうも進捗はいたさないものですから、一番最初に考えられるのは用地交渉の進展によって年数が変わってくるということでございます。県のほうもなるべく早く完成にこぎつけたいという気持ちは持っていらっしゃいますけども、あと、やはり用地取得というのが一番の問題という形で、年数、何年までにという思いは、ちょっと今のところはわからないということでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　柁原賢一君。

［登壇］

○２番（柁原賢一君）　非常に、何年までというのは非常に難しいのかもしれません。確かにそれはわかりますけれども、現在、隈府中央線と連結区間のキャニオンから今村橋までの区間の一帯は、８月の都市計画用途地域の変更により、低層二種住居地域となり、農地の宅地化を進め、定住人口の増加が期待され、一刻も早い道路整備が必要であると考えております。この間は、都市計画の道路としての決定はどうなっていたのか、これまでの状況について、ちょっと質問いたします。

○議長（山瀬義也君）　建設部長、松野浩一君。

［登壇］

○建設部長（松野浩一君）　議員のご質問は、今の大琳寺木庭橋線から今橋の延長ということでございますでしょうか。今のおっしゃいました亘深川線のところがもう一本中に入っております。それから今橋までの道路でございますが、これは都市計画道路として現在は計画は打ってございません。市道としての改良工事という形で取り組んでいるところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　柁原賢一君。

［登壇］

○２番（柁原賢一君）　じゃ、これは市道として、これからどういうふうに進めていくのかという、そういう質問したいのですが。

○議長（山瀬義也君）　建設部長、松野浩一君。

［登壇］

○建設部長（松野浩一君）　今現在、橋りょう今橋から途中までは改良ができております。亘深川線までのところに１件用地ができていない部分が、これも今用地交渉を

行っている段階でございます。用地交渉が終わり次第、工事のほうに早速入りたいと考えております。それと、今後はその道路から大琳寺木庭橋線までの区間でございますが、これにつきましても順次計画を進めてまいりたいというふうに考えているところでございます。これも補助等の事業が確定次第すぐ行ってまいりたいと思っております。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　柁原賢一君。

［登壇］

○２番（柁原賢一君）　やはりこの間の道路が完成しませんと、これまでに莫大な金を投資した隈府中央線というものが生きてまいりません。非常に市民からのいろんな意見がございます。「何であああいうところに、あんな広い道をつくったんだ」と、そういうことを言われておりますので、是非早急に、木庭橋線から今村までの道路の整備を行っていただきたいと思います。それを要望しておきます。

またそれは同じく隈府中央線に関してなんですけれども、隈府中央線の工事に残存区間というものがございます。非常に、開通後隈府中央線が今年の４月だったですか、開通してから非常に隈府中央線と中央通り立町線の間で交通事故が多発しております。これは、一部は妙蓮寺のお寺の、要するに残存区間の部分があるために、非常に見通しが悪いということと、もう一つは、隈府中央線のほうが大きいものですから、どうしても今までの優先道路である立町中央線のほうが、交差している部分で若い人たちは直進で、要するに車同士の衝突が多発しております。昨日もまた起こっております。これは８月の時点で、都市整備課ならびに警察のほうにも要望を上げておりますけれども。私が考えますに、用地交渉が終わっていない、要するに妙蓮寺の一部のその角のところに住宅が１戸ございます。その部分だけでも買収して、交差点の改良を図れば、この事故は減ってくるんじゃないかと思います。残りの部分についてはお墓でございますので、非常に用地交渉が進まないというのはわかっておりますけれども、それだけでもやっていただけないかと思って質問いたします。

○議長（山瀬義也君）　建設部長、松野浩一君。

［登壇］

○建設部長（松野浩一君）　柁原議員がおっしゃいましたように、最近開通いたしましたから、接触事故等が多発しているということは伺っております。そのため、市といたしましても警察と協議をいたしまして、まずは看板のほうを設置いたしました。今回道路に関しましては、「止まれ」という文字を入れるようなことで、今、対応をしております。柁原議員がおっしゃいましたように、また接触事故があった

という形で、本日も都市整備課の職員と警察のほうでは立ち会いを行っているところでございます。見通しがどのようによくなるかということに関しまして、角の用地の件でおっしゃいました。あそこに関しましても、用地の権利関係が複雑でございます。底地と建物と住んでいらっしゃる方が違うという形になりますもんですから、その点につきましても交渉が少し長引いているところではございます。今後、できるならば、なるべく交差点改良ができるように、警察と一応協議をやった上で進めてまいりたいと考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　柁原賢一君。

［登壇］

○２番（柁原賢一君）　非常に難しいところではあると思いますけれども、交通事故が多発しており、またこれが歩行者が巻き込まれたら、ちょっと非常に重大な事故につながってくると思いますので、早急な対応というのはお願いしたいと思います。

次に、３点目のコミュニティバスについて、ちょっと質問いたします。少子高齢化によって過疎が始まっている。こういう状況では、公共交通機関にその足を頼ることしかないんではないかと考えております。そしてまたこれから観光の発展を考えると、その場合に確かに車社会ではありますけれども、交通の足を持たない方にとっては例えば菊池を訪れたいと思っても、空港からの連結が悪かったり、ＪＲで熊本駅から１時間かかってきて、これからまた菊池渓谷へ３０分なりそれぐらいの時間がかかると。そういうことであれば、やっぱりなかなかこれからの観光にとっても、観光戦略にとってもこの交通の機関というのは非常に厳しい問題があるんじゃないか、マイナスの面があるんじゃないかと思います。

そこで、ちょっと提案なんですけれども、菊池はいろんな遺跡がありますし、菊池遺産というのもたくさん認定されております。こういうものを、先ほど島根県の地域活性化の例を申しましたけれども、いろんな史跡めぐり、巨木めぐり、菊池の遺産めぐり、そういうものを菊池の人にまず知ってもらう。そのために、これはそのコミュニティバスを使えということではないのですが、そういう方策をちょっと練る必要があるんじゃないか。域内にあるいろんな観光施設を地元民知ってもらう。その中で、その地元の中で地元民が回ってそれを知ることによって、逆に言えば、それが観光客に対して、いろんな地元の人が説明ができる。そういうふうな観光のまちというのが、これからの「癒やしの里づくり」の根本になってくるんじゃないのだろうかと思うのです。やっぱり市民の皆さんが、菊池にどういうものがあるというのを知らなかったら、どんなによそから来られたお客さんが、「これはどこにありますか」と聞かれたときに、すぐぱっと答えられる。「これはこういうふ

うな交通手段を使って行けばいいですよ」とか、そういうことがなかったら、なかなか観光には結びついていかないと思います。だから、そういうルートづくりなり、その巨木めぐりであったり、例えば、コミュニティバスを使って、２週間に１度なり、そういうものをルートをつくって、観光ルートをつくる。巨木めぐりの観光ルートをつくる。菊池遺跡の観光ルートをつくる。例えばそういうような竜門ダムから渓谷を回って、四季の里を回るとか、そういうふうな観光ルートをつくる。そういうのがこれからの観光にとって非常に必要になってくると思うんですよ。県の振興局が、この間、泗水町、それから七城町のフットパスですかね、そういうパンフレットをつくられて、そういう計画をされ、私も「ああ、ここちょっと行ってみたいな」と、３０分コースだったり、１時間コースだったり、そういうものに行ってみたいなと思いました。やはり地元のほうが地元にある遺産なり、そういう史跡なりを知らなかったら、どんなに観光部門だけで、旅館だったり、行政だけで頑張ってみても、非常に観光というのは恐らく成り立たないと思いますし、また癒やしの里づくりにもなっていかないんじゃないかと思うんですよ。だから、是非、やっぱり菊池市民を上げて、人・物・金・情報、そういうものを域内で動かす。それをまた他の近隣町村に広げていく。そういう視点が必要にくると思うんです。だから、これについて、そういういかに菊池市内で活性化していくかとう検討を、やっぱりつくっていく必要がこれからあるんじゃないかと思うのですよね。こういうことについて、ちょっと企画室なり、そういうところで戦略的な検討をお願いしたいと思うんですが、これについていかがでしょうか。

○議長（山瀬義也君）　総務企画部長、野口祐成君。

［登壇］

○総務企画部長（野口祐成君）　再質問にお答えいたします。観光を含めた、まず市民がそういう観光資源を知るというか、そういう回るようなお話かと思います。合併当初でございましたけれども、合併して、それぞれの自治体、それによりまして、たくさんの観光資源ができました。ストーリー性のある観光ルートというような形で、いろんな形でそれぞれの地域を知ってもらって全体で盛り上げるというか、当時商工観光時代でしたけど、私、そこに在籍していまして、そういう議論の中で話があったことは事実でございます。また、テレビ報道等を見ていましても、いろんな観光的なバスでそれを巡回して、していくというか、大体料金的に５００円くらいのもんだったかと思いますけども、そういう部分で行われているような番組あたりをよく目にします。

　また、一方では、そうやって行っていた部分が、どうしても利用者がないということで、消えて行かざるを得ない部分のございます。ただ、菊池市もやっぱりこれ

だけ広大な面積でございますので、それぞれの観光商品に合わせて、ルートの組み合わせはあるかもしれません。先ほどの県のパンフあたりもそうですけども、ああいう企画あたりも合併当初いろいろ行ったことは、私も記憶しております。そういう中におきまして、予算的なものはありますけども、実際に走らせた場合、どれだけの利用者があるかというのも、またいろいろ問題がございます。企画のほうでは、菊池遺産の認定ということで、昨年も一昨年もそうですけども、３０、４０という、そういう協議案件が上がってきますので、それは私も昨年はできませんでしたけど、一昨年一緒に、朝７時くらいから夕方までかかって、全部のそういう申請が上がっている部分を回ったりした。まさにそれが、先ほど議員がおっしゃるそういう部分のことかなと思います。それによりまして、私どもも全然知らない部分を、いろんなところに入って行って、そういう形で知ることができました。そういう部分においては、十八外城あたりもそうですけども、そういう部分もやっぱし実際のほとんど埋もれてしまっていて、確か昭和３０年前後ですかね、戦後というあれだったと思いますけど、映画会社のほうで、そこにそれぞれ十八外城の石墨といいますか、そういう部分が立っていますけど、そういう部分におきましても、私も何カ所かいろいろ回ったことございますけど、やっぱりそういう部分の案内というというのは確かに大事だと思います。

議員おっしゃるように、まず案内する立場の職員、市民ですけども、観光ボランティアもそうですけど、自分たちがやっぱり菊池のいいところを知らないと、よそから来た人にもいいご案内ができないというか、伝えることができない。人に聞かれたときに地元の人が「知らない」というような回答がかえってきているのは、よく私も耳にしております。いろんな問題がございますけども、そういう形ができるならば、いろんな形でストーリー性のある観光ルートといいますか、そういうものを足を付けた形でできるような方向性が見れれば、そういう部分も、以前もちょっと話が上がって、壊れている部分もありますけど、今後ともいろんな形でそれぞれの部署で検討してまいりたいと思います。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　柁原賢一君。

［登壇］

○２番（柁原賢一君）　是非、若い人の感覚で検討していただきたいと思います。またべんりカーをこれから旭志に、また泗水地区で走らせる予定だと、そういうふうに伺いました。是非、一つお願いがあるんですが、今、泗水の桜山地区は非常に交通の便が悪い、そういうふうに伺っております。桜山地区から、逆にいえば光の森へは１５分から２０分程度で行ける。逆に熊本駅に行くよりも近いルートであると、

そういうことを考えた場合に、逆に光の森から菊池への観光ルートとして、べんりカーを使ってお客さんを呼び込むと。そういう考え方はできないのでしょうか。そういうルートの検討というんですか。コミュニティバスというのは、菊池の市内だけなんでしょうけれども、菊池市から、逆にいえば合志市が持っているコミュニティバスとの連結をするとか、これからそういうのが非常に必要になってくるんじゃないかと思うんですよね。そういう考えというのは行政のほうにはございませんでしょうか。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　ＪＲ光の森へのバス路線をつくることで、観光客を取り込めないだろうかというふうなご提案でございましたけども、この菊池市内からＪＲ光の森駅まで、この路線バスをもし運行するということになりますと、市内の各所から隣接する自治体の駅や交通拠点施設を結ぶ路線について、事業所との相談ということになってまいります。当然、その中で運行事業者の採算性という問題もございますし、それから隣接の自治体を運行している既存事業者というのがございますから、そことの競合という問題がまた出てくる可能性が非常に高いというふうに思います。それが一つと、それから今度は私どもの市の中の問題ですけども、当市の交通体系の構築に際しては、公共交通機関が空白の地域に対して、通院ですとか、買い物等の、いわば日常生活に必要な生活交通の確保ということを目的に事業を行っております。ですから、この目的のところが曖昧になると、莫大な財政負担ということにもつながりかねないということで、やはりこうした市民の交通インフラというのは持続可能でないといけないと思うわけですね。そういったところが非常に難しくなる恐れがあるということでございます。こういったことがございますので、今のお話の菊池市内からＪＲ光の森駅まで、これを観光というねらいでということにつきましては、そもそも光の森をつなぐことで、観光面でどういうふうな効果が期待できるのかというところの分析も一つございますし、それから今申し上げた運行事業者の採算性、それから市の補助金、競合先との関係等々ですね、そういったさまざまな検討を行う必要がございますので、関係機関とは少しこの点について協議を進めてみたいとは思います。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　柁原賢一君。

［登壇］

○２番（柁原賢一君）　非常に難しいという話でございます。先ほどのスクールバスの件につきましても、確か、これを最初検討する当初においても、スクールバスとコ

ミュニティバスという使い方は非常に難しいと。確か、最初の検討委員会のときでしたか、そういうふうなお話がございました。ところが、芦北町とかそういうところでは、やはりスクールバスを、そういうようなコミュニティバスとして運行しているということは、やっぱりだんだんそういうふうな状況に菊池市もおかれてくると思います。だから事前にそういうふうな状況というのは検討して計画しておいていただきたいと思います。

以上で、この点についての質問は終わります。

続きまして、２点目の各種審議会の運営状況についてお尋ねいたします。この各種審議会というのは、意外と菊池市の今現在やっている状況、菊池市がこれからどういうことをやっていくかと、そういうことの市民への周知徹底に非常に役に立つようなものではないかと思います。なかなかこの審議会というのは、恐らくこの議員さんたちも一緒でしょうけど、各部門においてはご存じでしょうけれども、市の全体についての状況というのは意外とご存じないのではないかと思います。この点につきまして、行政が市民の意見を聞く審議会の平成２４年度の運営状況について、広く市民に周知する必要があると考えるので、行政の考えについて質問いたします。

○議長（山瀬義也君）　総務企画部長、野口祐成君。

［登壇］

○総務企画部長（野口祐成君）　各種審議会の運営状況についてお答えいたします。地方自治法１３８条の４第３項の規定により、本市の付属機関として設置してる審議会等は、４８となります。各部ごとの内訳で申しますと、総務企画が１２、市民環境部が５、健康福祉部が１３、経済部が３、建設部が５、教育部が１０となります。

また、平成２４年度に開催されました審議会は全部で３７ありました。各部ごとの主な審議会とその数は、総務企画部が合併後のまちづくりについて審議する地域審議会など８つの審議会を開催しています。市民環境部は防災会議やレジ袋削減推進協議会など３つの審議会を開催し、健康福祉部においては国民健康保険運営協議会や、市民の健康づくりを積極的に推進する健康づくり推進協議会など１０の審議会を開催しております。経済部においては農業振興地域整備計画促進協議会など２つの審議会を開催し、建設部は都市計画に関する審議を行う都市計画審議会など５つの審議会を開催しております。さらに教育部は学校運営協議会や社会教育委員会など９つの機関で審議会が開催されました。

また、４０歳以下の委員は、１０の審議会において２３名の委員が委嘱されております。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　柁原賢一君。

［登壇］

○２番（柁原賢一君）　４０歳以下の委員が１０の審議会において設置されているということですけれども、３０歳以下、２０歳以上はどれぐらいいらっしゃるのですか。ちょっとわかりませんか。わからなかったらいいです。というのが、市長と語る会、それから議会報告会、これにおいてそのアンケートの結果からなんですが、非常に若い人の出席が少ない。例えば、市長と語る会においては２０代ゼロ、３０代３人、４０代２人、５０代２７人、６０代７６人、７０以上４８人、また議会報告会においては、２０代１人、３０代１人、４０代７人、５０代２４人、６０代７２人、７０代３６人、こういうふうな結果になっております。非常に２０代から３０代、４０代にかけての若い人の意見というのを、行政というのはどういうふうにして取り込んでいらっしゃるんでしょうか。これについて、ちょっとお答えいただきたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　総務企画部長、野口祐成君。

［登壇］

○総務企画部長（野口祐成君）　４８の審議会の中には、これまでの経験や知識など学識経験が必要な審議会もございますが、ご質問のとおり若い人たちの意見が多く反映されれば、市政に参画する一員との認識も高くなり、未来へつながっていくことも確信しております。

若い人たちの委員登用につきましては、各種協議会などの指名している審議会もございますので、容易ではございませんが、これまでも男女共同参画により女性の登用をお願いしてきましたので、同時に、これからは幅広い年齢層の審議会になるよう推進していきたいと思います。それも審議会の内容によりまして、いろんな形で制限はあるかと思いますが、組織の中にお願いする場合、今までででもなるべく女性の方を推薦でお願いしますとか、それぞれの組織によりまして、どうしても会長さんが出て来られたりとか、いろんな形がございますけど、ただ、なかなか、実際若い人を指名した中で、青年団とかそういう形の方がいらっしゃっても、現実的に開催しますと、出て来られないようなケースが多いかと判断しております。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　柁原賢一君。

［登壇］

○２番（柁原賢一君）　やはり、確かに、若い人はやっぱり仕事を持っていて、なかなかこういうふうな審議会とか、そういう場に出にくい、そういう状況の中にあるの

は現実だろうと思います。そしてまた、これから少子高齢化が進むにあたって、いかにやっぱり若者の意見を取り入れて、これから定住に向けて進めていくのか、そういう課題がやっぱりあるんじゃないかと思います。こういう面から若い人の意見をどういうふうに取り入れればいいか、先の市長選におきまして、若い人の非常に支持を集めました江頭市長に、これからの若い人の意見の取り込み方、そういうものについての、ちょっと見解なり抱負をちょっと質問したいと思います。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　若い人たちの意見を市政にどう取り込めるだろうかという問題意識かと思います。確かに若い方、なかなか市政のところに関係してくる機会というのは非常に少ないように思いますし、実際にそういうところに登場される方、非常に少ないと思います。ただ、皆さんが関心がないかというと、いろんなお話聞いていますと、やはりこの菊池市の今の現状については、さまざまな不満とかあるようですし、それについての自分たちなりのお考えというのもあるようにお見受けしております。こういった方々を、是非ご提案のように審議会のようなところで活用していきたいと考える次第なんですが、確かに、実際的には今おっしゃったように平日の昼間の開催ということなもんですから、なかなか難しいというところがネックになっているようでございます。

では、これを夜間にしたときに、少しは大丈夫だろうかということになりますと、これもご指摘があったように、先般の市長と語る会という初めての試みをやったわけで、これはもう全市民にオープンにした会だったわけですね。皆さんが集まりやすいようにということで、夜の開催であったわけですけども、それでも先ほどの数字のような形でございました。

実は私、この市長と語る会とは全く別に、各地域ごとに、若手との懇談会というのを企画しまして、これはみんなが出やすいようにということで、市としての行事ではなくて、私の私的な会合ということで呼びかけたところ、全く自発的な意志でございますけども、各４地域において、大体二十数人、２４、２５人から３０人以上の方がお集まりになりまして、いろいろと活発な意見が出てきたと記憶しております。ですから、是非こうしたことを取り組んでいくためには、必ずしも審議会とか、決まった形じゃなくてもいいかもしれないなという気もしていますので、もう少し緩いつながりといいましょうか、フリーな形で自由に意見が言えるような、で、若い人は、多分若い人だけでやったほうが、何か活発に意見が出てくるような気がしております。そういった形で、例えば若者と語る会のようなものを、少し続けてみたいなと思っています。場合によっては、それをテーマごとにやってもいい

と思いましてね。観光に関するテーマですとか、町おこし、あるいは教育、こういったことで少しトライアルといいましょうか、やってみることで意見を吸い上げていくということもあり得るかと思いますので、こういったことも含めて、少し検討してみたいというふうに考えます。

以上です。

○議長（山瀬義也君）　柁原賢一君。

［登壇］

○２番（柁原賢一君）　はい。是非検討のほうよろしくお願い申し上げます。

それからやっぱり、若い人の政治離れ、これが非常に行政あたりにおける正当な評価というんですか、そういうものがされていないんじゃないかというふうに思うのですけども、特に、政治に参加するという意識を、やっぱり教育の時点で、やっぱり非常に難しい問題なのでしょうけど、教えていく、選挙に行くのは義務なんだと、そういうようなことが、やっぱり教育で教えるしかないのかなというふうに思うのですけども、そういう面についてちょっと、教育長の意見をお聞かせいただきたいと。

○議長（山瀬義也君）　教育長、倉原久義君。

［登壇］

○教育長（倉原久義君）　これは、子どもたちがどれだけ今の菊池にまず興味を持っているか、愛着があるかということにつながるのじゃないかなと思います。そういう意味では、小学校の時から、総合的な学習の中で、地域を学ぶ学習をやっておりますし、また高学年になりますと、社会科の公民、あるいは中学校の公民的分野の中で政治について学んでおります。特に、中学生のおきましては、８月に行っております子ども議会を経験しておりますし、そういう中で政治についての興味関心も見いだせる一つのきっかけになっていくのではないかなと思っております。中学生にはそうした目標がありますので、小学生のうちから、そういうことにも目を向けさせて、政治についても社会科の授業だけではなくて、普段の日常生活、あるいは家庭の中でも菊池のことについて話し合える、そうした家庭での場を持っていただけるように、またこれは生涯学習課とのほうも、相談しながら今後進めていきたいと思っております。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　柁原賢一君。

［登壇］

○２番（柁原賢一君）　はい。どうも突然に質問を振りまして申し訳ございません。非常に８月の子ども議会のほうでも、菊池のことを知りたい、それでいろんな漫画の

本とか、そういうものはないか、そういうような非常に菊池に興味を持つ、そういうふうな発言もございました。私たちもやっぱり、私たちの家庭の中で、選挙というのは大事なんだよと、そういうふうなしつけというのも必要になってくるんだろうなというふうに思います。是非、菊池の選挙においては非常に投票率が高い、そういうふうな地域にできれば、また逆に菊池を愛するというような風土が生まれていくのかなというふうにも思いますので、是非、行政の皆さん、それから議員の皆さんも、そういうふうなご努力をよろしくお願い申し上げまして、私の質問を終わります。どうもありがとうございました。

○議長（山瀬義也君）　ここで、１０分間暫時休憩します。

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

休憩　午後２時３４分

開議　午後２時４３分

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

○議長（山瀬義也君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、坂本昭信君。

［登壇］

○１６番（坂本昭信君）　坂本でございます。本日は最後だそうでございますので、時間ぎりぎりいっぱい頑張りたいと思います。私は、実は旭志出身でございまして、でも、菊池市議会議員でございますので、菊池市全般お聞きいたしますので、執行部のほうはよろしくお願いいたします。

それでは、通告に従いまして、一般質問を行います。最初にローカルバスと交通弱者についてお尋ねいたします。この交通弱者ということにつきましては、私もそうでございますけれども、皆さんもいずれは交通弱者になるわけでございますので、よろしくお願いしておきます。

それでは、最初に市からの産交バス、菊池大津間にありますが、それに対する助成はどれだけ行われていますか、お尋ねします。

それから路線バスとべんりカーの話し合いはどうなっているかお尋ねします。

それから、中山間地にはあいのりタクシーが利用されていますが、市内の利用費用はどれだけかお尋ねします。よろしくお願いいたします。

○議長（山瀬義也君）　総務企画部長、野口祐成君。

［登壇］

○総務企画部長（野口祐成君）　坂本議員のご質問にお答えいたします。菊池産交から矢護川を経由し大津高校前までの大津線につきましては、全長が２６キロでございまして、産交バスが運行しております。本路線は、平日が８便、土、日、祝日が６

便ございます。また、本路線の乗降場所としましては、菊池地域に５カ所、旭志地域に６カ所ございます。この大津線における平成２４年度の補助額でございますが、全体で１，８２７万円ですが、大津町との距離案分によりまして、菊池市からの補助額は９４８万６，０００円でございます。

平成２４年度の本路線の乗降調査を行っておりますが、その調査によると、菊池市から大津町の上りについて、平日１日あたりの利用者は、菊池市内で２３名、大津町内で５６名でございます。下りについての利用者は、菊池市内で２５名、大津町内で４１名となっており、年間で３万９，４００人の利用があっておりますが、平成１７年度の利用者が、５万３，１９５人から比べますと、７年間で１万３，７９５人の減で、２６％が減少しております。

あいのりタクシーを導入するためには、菊池大津線の存廃を検討しなければなりませんが、まずは現在の利用状況の把握を行わなければならないと思います。利用者数、利用時間、乗降場所など正確に分析を行う必要がございます。

また、本路線は通学路での利用もあることから、地元や利用者の声を聞く必要があるかとも思います。地元協議が整ったならば、本路線については大津町のほうも利用されておられますので、大津町との協議や、関係者による菊池地域バス対策ブロック協議会を開催し、協議することになります。このほか並行して、運行事業者との協議や代替案などの検討も行っていく必要がございまして、このようなすべての協議や調整を行わなければなりません。

次に、市街地を巡回するバスとして運行しておりますべんりカーでございますが、市街地の住民の皆様の一次交通ばかりではなく、沿線には医療施設や店舗などが集約しておりますので、市街地以外の地域から来られた方や観光で来られた方の２次交通の手段としてもご利用いただいているところでございます。本市では路線バス、あいのりタクシー、べんりカーによる交通体系により、公共交通空白地帯での生活交通の確保を目的としておりますが、すべての地域を網羅しておらず、不便さを感じられている方もいらっしゃるかと思います。

このようなことから、少し時間はかかると思いますが、地元、関係自治体、運行事業者との協議、調整を行い、菊池市全体の交通体系の再検討を進めてまいりたいと思います。特に、べんりカーの農村部への導入、検討にあたっては、多大な財政負担が考えられますので、利用者の需要と財政負担を伴う供給のバランスを考慮しながら進めていかなければならないと思います。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　坂本昭信君。

［登壇］

○１６番（坂本昭信君）　それでは、質問します。産交バスへの助成が９４８万円だったですかね。これに対しまして、やはり９４８万円やっているということは、それだけあいのりタクシーも使えない状況ですね。その路線バスの話し合いで、路線バスから停留所とかそういう路線が何キロか離れておかないと、あいのりタクシーなんかされんとじゃなかですか。ですね。そうですよね。年寄りの方が「市役所にどんこん行かんけんあいのりタクシーを回してくれ」と、「お宅は路線バスが走ってますから駄目です」、そのようなことでございますので、やはりそこのところはある程度考えながら対応してもらわんと、私が思いますに、合併して１０年になりますね。それで１０年して、やはりその垣根をとろう、垣根をとろうとしても、そういうことがあっては、やはり住民に平等なサービスを与えることによって垣根はとれていくこともあると思いますね。「何で菊池市内ばっかり、何で菊池市ばかり」と、みんながそういう気持ちになってしまうんですよ。だから、細かい地域、地域を考えて、例えば、のりあいバスがあっても、のりあいバスの停留所まで何ｍか、暑いのに歩いていかなん、何キロか歩いていかなんところもあるですよね。そのことを考えるときに、やはり空白地帯、路線バスが通っていても空白地帯はあるはずですよ。そこも、やはりあいのりタクシーなら、「あいのりタクシーを使ってください、どうぞ」と言わないと、年寄りの方は足も不自由だったり、いろいろします。そして、やはり老人の方々が市内に出てくることによって、市内の集客、お客さんも増えてくるだろうし、年寄りの方も、たまには隈府に温泉に行きたいな、こうしたいなという考えもあろうと思いますけれども、やはりのりあいバスのところまで、１㎞、２㎞歩いて、「もう私足の悪いけんやめとこ」とそうなってくるんです。そういうことを考えるとき、やはりいかに綿密な網羅して、やはり不便がないように、少しでも住民が、少し足が悪くても行かれるような体制をとってやってもらいたいと思うわけでございますけれども、その点について、やはりこれからの問題と思いますけれども、どのように行われる考えかお尋ねいたします。

○議長（山瀬義也君）　総務企画部長、野口祐成君。

［登壇］

○総務企画部長（野口祐成君）　坂本議員の再質問にお答えします。今ご指摘いただいたような点は、市長と語る会の中でも、そういう意見が実際ございます。それ以外でも、今までもそういうお話はあっております。ただ、「菊池ばかしが」というようなお話もございましたけども、菊池地域もやっぱり全部をそういう形で行っているわけではありませんので、ただ、あいのりタクシーにつきましても、実際ここ数年あたり、数年というか、ここ１、２年ですけども、全体的に中山間地域も利用者が少し減ってきているような状況です。それにつきましては、理由として考えら

れますのは、以前は最初から免許を持たなくて、そのまま高齢者になられた方も、現在は、ある程度の方が免許を取っておられますので、免許証の返却というのが、そういうのも自主的部分もございますけれども、一定の年齢までは車で移動するといいますか、そういう方が増えてきているもんですから、その部分におきましては、今の時期が微妙なそういう時期に来ているかなとも思います。それぞれ１次交通、２次交通ございますけども、路線バスが走っていても、そこから降りたらまたどうしても動けないといいますか、それは議員お話しのように、旭志地域だけではなく全地域で言えることかと思います。

ただ、実際あいのりタクシーを、じゃ、皆さんが全部でそうやって使い出したら、それが回っていくかというと、台数にも制限がございますので、早く申し込んだ方は乗れても、利用できても、それができないというようなケースも当然あると思います。

それと、この大津までの路線につきましては、基本的には朝夕の通勤、大体通学が主かと思いますけど、これは大津町との先ほど案分の中でという数字の面もございましたけども、そういう中で行っておりますので、こちらから一方的に廃止しますというような話でもございませんし、いろんな協議、大津町の協議の中で、そういう部分が自治体を超えて連携が図れるようなことがありましたら、そういう方向性も一つあるかと思います。ただ、いろんな形で定期バスというか、そういうのにしましても、また観光的に使う部分でも、相当以前ですけども、山鹿のほうから空港まで一緒にというか、要するに空港からの基本的には観光の受け入れかと思いますけど、そういう部分で一緒にやりましょうということで、バスを走らせた時期がございましたけども、実際要望によって、そういうバスを行政のほうからお願いして運行させた場合で、現実的には利用者がなくてどうしてもやっぱりなくなったというようなケースもございます。現在でも通常の定期バスでもそうですけど、朝夕のラッシュ時は多いんですけど、熊本市内も一緒ですけども、なかなかその間の利用者がいなくて採算性の部分というのが言われておりますので、いろんな形で少子高齢化の中でますます中山間に限らず、高齢化が進んでいくと思いますけども、そういう部分もどういった形が一番いいかというのも、今後十分に考えて進めていかなければならないと思います。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　坂本昭信君。

［登壇］

○１６番（坂本昭信君）　いろいろ言い訳は、言い訳と聞きますけれども、言い訳はいろいろでいます。ですね。今、「前からそういう指摘はあった、そういう指摘があ

った」と。何もしてきとらんで、指摘のあっただけで、何もせんでおったって、何もできんけんですね。やっぱ前さん進むほうさん考えんと、何件もその話ききました。それは住民は言うですよ。それは、それば受け止めて返してやっとが行政じゃなかですか。その指摘のあったなら、指摘のあったごと、ぴゃんとこうこう考えて明日からでも回しますとか、そがん早かとはできけん半年待ってくださいとか、そういうぐらいのことはしていかなければ、住民は本当にもう「少子高齢化、少子高齢化」と。もう少子高齢化って、高齢化が進むことはわかっとるでしょうが。だけんそれに対して私も一番目に言ったようにみんな行く道ですよ。部長さんあたりも、そのうち免許証を返還して、・・・して乗んなはるかもしれんですよ。ごめんなさい。今失礼しました。不穏当発言になりますので、そんなこと言えませんけど、・・・して。申し訳けありません。そういうことにみんななるんですよ。それでやはり先のことを読んで、この次はこがんなる、こがんなる、そうでしょう。それで七城あたりも、特に下のほうで路線バスもたくさん走っていますし、いろいろあります。でも、あいのりタクシーもなし、べんりカーも行かないし、そうするとやっぱりそこら辺には停留所まで遠い距離の方もいらっしゃろうし、そんなことを考えるとき、やはりその地域地域の谷間があるんですよ。路線バスから５０ｍ離れとる家ばかりじゃなかけんですね。１㎞離れたり、特に田舎になると部落部落が離れています。道路は１本しかありません。すごく離れたところからそこまで歩いてくるためには、特に暑い夏の日とか、そのとき日傘さしてぼちぼち行きよるなら、もう日射病にかかって救急車でいかなんごとになるような感じでございますので、そういうことは、やはり行政として、やるべきことはきちんと住民が安心して、安心・安全な菊池市と申しますので、そういうことをやっぱり肝に銘じてやってもらわないと、なかなか満足するような社会は築けないようでございます。

さっき、大津と話し合いとおっしゃいました。やはり産交バスをするには、大津と話し合いも必要です。大津のほうにものりあいバスはあるんですよね。それと大津は「停留所から５００ｍ離れたら、乗合タクシーでも使っていいですよ」と、そういう決まりがあるんですよ。距離を。「停留所から何㎞ならば乗ってよし。それ以外はそこの停留所まで歩いてください」と。ちょっとその知恵でしょうが。それをすれば、もう大体範囲は決まってくるから、すぐできるでしょうが。それも、考えないでありました。協議が必要だからできません。協議もせんならできません。そうでしょが。そこも考えて距離をちょっと５００ｍにしろ、３００ｍにしろ、１㎞に、１㎞は長かけん、それくらいにしても、やはり行政が、いかにそれに真剣に向き合っていくかの問題なんです。新市長も一生懸命菊池市のために頑張っておられます。そういうことを考えると、やはりそれくらいのことはしてくださいよ。た

だじゃないんですから。利用者もお金払うんですから。そのどれだけかの補助してやるんですから。よろしくお願いします。

そのようなことで、やはり私もあまり気の長いほうじゃございませんので、いつごろから、そういうことにうったちますか。ちょっと検討でいいですから。よろしくお願いします。

○議長（山瀬義也君）　総務企画部長、野口祐成君。

［登壇］

○総務企画部長（野口祐成君）　検討は進めるということで、先ほど議員ちょっとおっしゃいましたけど、べんりカー、あいのり、そういう形で。あいのりタクシーあたりそうですけど、泗水、旭志、七城地域だけが現在のところまだいろんな条件がございまして入っていませんけど、そういうことを含めまして、いろんな形で市民の皆様が利用しやすいように進めていくようなことは、担当部署と一生懸命、実際検討は行っております。ただ現実的に、ただそれが結びついていかない部分がございますけども、発足した当初からすると、少しではございますがクリアできた分はクリアしてそういう形で実行に移しておりますので、いろんな形で検討していないわけではございませんので、そこのところはご理解をいただきたいと思います。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　坂本昭信君。

［登壇］

○１６番（坂本昭信君）　実は、あいのりタクシーだけ言っていましたけども、これから先、やはり菊池はなかなか面積が広うございまして、四町分線、水源線、龍門線、いろいろあります。それを考えるときに、やはりせっかくならばあいのりタクシーも使いたいんですけれども、１日３回、朝、昼、晩でもいいですからね、べんりカーをちょっと回してもらうと、その点やっぱりまとまってみんなが乗れるから、時間を切って回してもらえればとは思う面もございます。やはり、隅々までは無理と思いますけれども、やはり、老人の方々が市内に向かって足が向くように、なるだけやっぱり菊池市のほうにお客さんに来てもらってですね。よかったらそのような方法も一応考えていただきたいと思います。よろしくお願いしておきます。これは要望でございますので、よろしくお願いします。

それでは、次の通告に入ります。第三セクターの指定管理についてお尋ねします。第三セクターは、このたび公募されます。施設の初期の目的に沿った地域の活性化と、市長がさっきおっしゃいました。これは、非常に大切なことでございまして、やはり合併して１０年目を迎えたわけでございますけれども、この生産出荷者の手数料です、販売手数料。これが今、大体私が調べて、どこが何％とわかってお

りますけれども、１２％から１５％の間が手数料ですよね。それは、さっきもいろいろ話が出ていましたけれども、要するに老人の方々が野菜をつくられ、このことはやはりお金に代え難いことがあるんですよね。健康の維持に対して、一番目は健康の維持、それと国民健康保険の使うお金もだいぶ落ちてきますし、それを考えるときに、やはりこの第三セクターがいかに大切かということがわかるわけですね。ほとんど私もたまには第三セクターを見とって、ふれあいセンターに行きますけれども、職員が来るのが７時ですよね。そうすると、やっぱりその中に年老いたばあちゃんが１０人ばかり６時半ごろから来て並んで待っとるわけですよね。勝手口が開くのを。そのようにして毎日毎日自転車で、後ろに荷物を積んで、ごろごろ踏んで、坂を押して来てですね。ほんなこて生きがい、年寄りの生きがいといいますか、そのようなことを毎日毎日来ていらっしゃるんですよ。雨が降ろうが風が吹こうが。これには感心します。このようなことを受けますとき、やはり品物はたかが、たかがと言うと失礼ですけども、１００円か１０５円でございます。それに手数料１５円引かれますと８５円になるわけですね。この１円、２円とは言いますけれども、その１円、２円、そうすると２円下がったっていうと、老人の方々は喜ばれるんですよ。そんなに一生懸命して来ているのに。

本題に入りますけれども、手数料の菊池市内の第三セクターの手数料の統一、もうこれは低いほうに合わせるしかありませんのでですね。低かつば上ぐっとよりも、高かかが下ぐるほうがみんな喜ぶわけでございますので。このようなことにつきまして、どのように考えておられるかお尋ねします。

○議長（山瀬義也君）　経済部長、平野國臣君。

［登壇］

○経済部長（平野國臣君）　坂本議員の質問にお答えします。出荷手数料につきましては、出荷協議会と第三セクターとの間で、それぞれに取り決めがなされ構築されたものであり、手数料は出荷者の所得と会社の収入との両方に直接結びつく部分であります。特に、会社の収入の主たるものでありますので、会社側の採算性も配慮しなければなりませんので、統一化に向けた積極的な取り組みや協議は、現在のところまでは行っていないところでございます。市外からの出荷に対する手数料率につきましても、それぞれの第三セクターごとに手数料率の取り決めが定めてありますので、統一化はできていないところでございます。また市内４つの物産館におきましても、それぞれの経営に関係するものであることから、これまで具体的な統一の協議はなされておりませんが、農産物の円滑な流通のため、競合しない作物や不足する作物につきましては、市内の他の物産館からの取り扱いができる出荷体制も、現在各物産館においては取り組まれているところであります。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　坂本昭信君。

［登壇］

○１６番（坂本昭信君）　執行部のほうは、わかっていらっしゃると思いますけれども、議員の方々にもお知らせしたいことがございますので。市は第三セクターの筆頭株主ですよね。特に、菊池物産館に対しては出資の割合は５４．２％でございます。七城特産品センターは８６．９％が市の資本が投入されております。ふれあいセンターに限っては、６２．８％、泗水友朋の里は５１．３％という出資率でございます。このようなことを考えるとき、各第三セクターの当期純利益を見てみますと、きくち観光物産館が１４１万7,８８２円でございます。それと七城町特産品センターが９４０万5,７４２円でございます。それと、ふれあいセンターが５６７万8,５６２円、それに友朋の里泗水が３１５万4,５４９円となっております。これだけの純利益があるわけでございまして、これはすべて経費は引いた最後でございます。これから農家出荷額２円引いたことにします。これは２円引くことは、２円というこの農産物販売のそれから２円ですから、１００万円にもならないわけですよね。７０万円か８０万円ぐらいにしか、２円引いても、この純利益にさわることはありません。それと、一般株主の方もほとんど農家の方々が株主だと思います。それを考えるときに、やはり農家歩み互い、配当金の１口2,０００円か2,５００円ぐらいの配当でございますけれども、１万円に対してですね。それくらいかな、それくらいと思いますけれども、やはりその配当金目当てに出資しているとは思えないんですよね。やはり地域を活性化したい、農家を元気にしたい、どうにかつくった野菜が売れるようにしていきたいということでございます。このようなことをするときに、やはり手数料の引き下げということは大事なこと、年寄りに対してはですね。老人の方々には一生懸命していらっしゃる方々に対しては、大変な朗報だと私は思うわけでございます。

それで、いろいろありますけれども、この第三セクターの出荷手数料の尋ねも一緒でございますけれども、現在各施設における指定管理料もあると思います。それと、財産使用料、これもあると思います。これはどのようになっていますか、お尋ねいたします。

○議長（山瀬義也君）　経済部長、平野國臣君。

［登壇］

○経済部長（平野國臣君）　再質問にお答えいたします。各第三セクターにおける出荷手数料率につきましては、先ほどお答えしましたとおり、出荷協議会等と第三セクターの間で取り決めがされておるところであり、それぞれの施設において、農産物

や農産加工品など出荷品ごとであったり、冷蔵庫使用の有無であったりと、手数料率の取り決めは、さまざまで細かく定められております。なお、先ほど議員のほうからも言っていただきましたように、市内の出荷者であれば１２％から１５％の間で現在取り決めがなされております。また、現在の指定管理施設における管理委託料につきましては、本年度は年額できくち観光物産館が３００万円、七城町特産品センターメロンドームが７００万円、旭志ふれあいセンターほたるの里が５７６万８０円、泗水町特産物センターが４６万９，０００円、泗水町第二特産物センター養生市場が１８５万２，０００円、合計で１，８０８万１，０８０円となっております。

また、行政財産使用料につきましては、年額できくち観光物産館が１９８万７，２００円、七城町特産品センターメロンドームが、８５１万４００円、旭志ふれあいセンターほたるの里が４０５万円、泗水町特産物センターが１１２万３，２００円、泗水町第二特産物センター養生市場が２２２万４，８００円で、合計で１，７８９万５，６００円となっております。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　坂本昭信君。

［登壇］

○１６番（坂本昭信君）　第三セクターに関することではございますけれども、一般出資者の方々には、配当がどれだけかあっているわけでございますね。市に対しての配当はどれくらいあっていますか。

○議長（山瀬義也君）　経済部長、平野國臣君。

［登壇］

○経済部長（平野國臣君）　市に対しましての配当については、手持ち的に資料を持っておりませんので、ちょっとあとでお答えさせていただきます。

○議長（山瀬義也君）　坂本昭信君。

［登壇］

○１６番（坂本昭信君）　どうしても、やはり行政が筆頭株主となりますので、やはり第三セクターの肩を持つのか、農家の年寄りの肩を持つのか、それにかかってくると思いますね。やはり、指定管理公募スケジュールの中にプレゼンテーションで判断をすると書いてあります。その中で、やっぱり市としての聞き方として、プレゼンテーションの中に「指定管理料はどうするのか」というその文言を一言くわえるだけでも、かなりの効果があると、指定管理に対しては効果があると思います。やはり行政もある程度指導をしないとですね。指定管理業者に任せておいて、さっき言ったように純利益もありますし、その配当もあっていますので、１００円に２円

下げるぐらい２％ですよ。それぐらいのことぐらい、やっぱりやってもらわないと困るんですよ。

実は、この指定管理候補選定委員会条例というのがあります。５条に「事業の計画書の内容が住民の平等な利用を確保することができるものであること」とあります。２項に「事業計画の内容が当該公の施設の公用を最大限に発揮させるとともに、管理の義務に係る経費の縮減が図られることである」とあります。やはり商売するからには、縮減、経営努力、これもしていかないと、やはりこの公の立場にあるそういう施設は何と申しますか、昔なりに言えば「親方日の丸、あとはどうなときゃあなろたい」というようなことが多々あるわけでございまして、このようなことではやっぱり受ける資格はないと思います。やはり生産者にどれだけサービスを還元してやるか、そして自分たちはどれだけ利益を上げるか、そこが起点ですよね。そこを乗り越えてこそ立派な第三セクターといえるわけでございまして、やはりさっき、私とこの四季の里あたりも出ましたけれども、ああいうところも失敗の例の一例であって、やはりああいうところは類似施設がたくさんできて、やっぱり場所もそうなかったし、最初のころはよかったんですけれども、そのようなことになりましたが、やはり経営努力とその生産者に対する愛情、理解、そのことをしていかないと、やはりなかなか長続きはしないのじゃないかな。

今は法人、法人、専業、専業と言います。だが、その小さいものが集まって大きくなるんですよ。熊本城の石垣も下から見れば大した石垣でございます。前に見えるのは大きい石ばかりに見えますけれど、その裏には小さい石がたくさん入っているんですよ。崩れないように。それを考えたときに、やはり小さい力がいかに大事か、それを支える、みんなで小さい力で支えるということは、小さい力でもたくさんやれば力が強くなるんですから。このようなことを考えるときに、やはりそれくらいの２円ぐらいのことでバタバタするかというような、ど根性を持って経営をやってもらわないと。やはり、その２円ば惜しんで会社がつぶれますからと。そんなことはもう一番からしないほうがよかです。さっき申しましたように、やっぱり小さい裏石があってこそ日本の食糧を守っていくし、大きい法人とかいろいろできて、今大きくなっていますけれども、やはり今まで支えてきた日本の農業は、小さい裏石があってこそ、小さいものが集まって、五反百姓、三反百姓がおって支えてきたんですよ。それを考えるとき、やはり昔の人の知恵と申しますか、それを組み込みながら現代の経営に生かしていっていただきたいと、このように思うわけでございますので、あまりあごばかりたたくといけませんので、最後に、市長の見解をお尋ねいたします。よろしくお願いいたします。

○議長（山瀬義也君）　経済部長、平野國臣君。

［登壇］

○経済部長（平野國臣君）　先ほど坂本議員より、配当金はいくらかということで、ご質問があっておりました。４施設合わせまして配当金は２９５万５，０００円ということで答弁をさせていただきます。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　第三セクターに関する考え方でございますけども、もう何回か述べさせてはいただいておりますけども、あくまで収益性だけではなくて、特に設立の原点であります地元の農業生産者への貢献、地元農業の振興、そして地域経済の活性化ということにどれだけ貢献できるかと、それと収益性とのバランスということになります。ですから、収益だけで逆に地元の農業生産者の方が疲弊するというようなことでは、これは私どもの目指すところではございませんので、そういうバランスのとれた運営ができる力を持ったところというところで、今回の選定にあたる所存でございますので、よろしくお願いいたします。

○議長（山瀬義也君）　ただいまの坂本昭信君の質問の中で、一部不穏当発言がありましたので、後日会議録を調査し、善処いたします。

以上で、本日の一般質問は終わりたいと思います。

明日も、引き続き一般質問となっております。

本日はこれにて散会します。

全員起立をお願いします。

（全員起立）

お疲れさまでした。

――――――――――――――――――○――――――――――――――――――

散会　午後３時２４分

第　５　号

９ 月 １１ 日

平成２５年第３回菊池市議会定例会

議事日程　第５号

平成２５年９月１１日（水曜日）午前１０時開議

第１　一般質問
第２　議案第１１８号　財産の取得について
　上程・説明・質疑・委員会付託

―――――――――――――――○―――――――――――――――

本日の会議に付した事件

日程第１　一般質問
日程第２　議案第１１８号　財産の取得について
　上程・説明・質疑・委員会付託

―――――――――――――――○―――――――――――――――

出席議員（２３名）

１番	荒木崇之　君
２番	柁原賢一　君
３番	工藤圭一郎　君
４番	城　典臣　君
５番	大賀慶一　君
６番	岡﨑俊裕　君
７番	水上彰澄　君
８番	東　英俊　君
９番	東　裕人　君
１０番	泉田栄一朗　君
１１番	森　清孝　君
１２番	中原　繁　君
１３番	樋口正博　君
１４番	中山繁雄　君
１５番	怒留湯健蓉　さん
１６番	坂本昭信　君
１７番	隈部忠宗　君
１８番	葛原勇次郎　君

１９番	木　下　雄　二　君
２０番	坂　井　正　次　君
２１番	森　　隆　博　君
２２番	山　瀬　義　也　君
２３番	境　　和　則　君

―――――――――――――――○―――――――――――――――

欠席議員（なし）

―――――――――――――――○―――――――――――――――

説明のため出席した者

市　　長	江　頭　　実　君
副　市　長	木　村　利　昭　君
総務企画部長	野　口　祐　成　君
市民環境部長	下　田　俊　一　君
健康福祉部長	宮　本　誠　一　君
経　済　部　長	平　野　國　臣　君
建　設　部　長	松　野　浩　一　君
総務企画部統括審議員	西　浦　一　義　君
七城総合支所長	岩　下　利　昭　君
旭志総合支所長	水　上　菊　也　君
泗水総合支所長	松　岡　千　利　君
財　政　課　長	小　川　秀　臣　君
総務課長兼選挙管理委員会事務局長	伊　藤　道　俊　君
市長公室長	倉　原　良　則　君
教　育　長	倉　原　久　義　君
教　育　部　長	中　村　鉄　男　君
農業委員会事務局長	松　永　隆　則　君
水　道　局　長	原　　和　徳　君
監査事務局長	宮　村　公　男　君

―――――――――――――――○―――――――――――――――

事務局職員出席者

事　務　局　長	城　　主　一　君
議　事　課　長	宮　川　啓　子　さん
総　務　審　議　員	徳　永　裕　治　君

○議長（山瀬義也君）　全員、起立をお願いします。

（全員起立）

おはようございます。

着席をお願いします。

――――――――――――――――○――――――――――――――――

午前１０時００分　開議

○議長（山瀬義也君）　これから本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。

――――――――――――――――○――――――――――――――――

日程第１　一般質問

○議長（山瀬義也君）　日程第１、一般質問を行います。

はじめに、大賀慶一君。

［登壇］

○５番（大賀慶一君）　皆さんおはようございます。

いよいよ一般質問もきょうが４日目ということで最終日でございます。最終日の１番バッターということで質問をさせていただきます。議席番号５番の大賀慶一でございます。どうかよろしくお願いいたします。

初めに、児童生徒の健全育成について質問いたしたいと思います。

長かった夏休みも終わり、本市の小中学校では前期の後半の授業が始まっております。この長い夏休みは、自立した生活が工夫できる反面、気が緩みやすく子どもたちの生活のリズムが乱れ、非行に陥りやすい時期でもあると言われております。元の落ち着いた雰囲気を取り戻し、一日も早く楽しい学校生活を送ってもらいたいものでございます。

最近の子どもたちを取り巻く社会情勢は、メディアなどの発達により新しい情報が目まぐるしく展開されます。そのようなことから、対応を一歩間違えるととんでもない事故や事件に巻き込まれたり、犯罪を引き起こす当事者になってしまうことも十分考えられます。また、いじめ問題が深刻な問題ともなっております。全国ではいじめを苦に自ら命を絶ってしまうという本当に痛ましい事件も発生しております。そのような問題は携帯電話やインターネット等によることも多々ございます。これらのことは、親や学校、関係者も非常に把握しにくく、非常に心配をされている問題だと思っております。将来を担う本市の子どもたちがそのような問題に巻き込まれることなく、豊かな学校生活が送れることを祈って質問をいたしたいと思います。

まず初めに、教育委員会にお尋ねいたします。教育委員会は、携帯電話やスマー

トフォンなどを本市児童・生徒が所持することによる影響について、どのような認識をもっておられますでしょうか、お尋ねいたします。

次に、７月、８月は県下一斉、夏の青少年健全育成県民総ぐるみ運動が実施されました。その中の重点課題として、主にインターネットに関わる非行及び犯罪被害防止対策やスマートフォンの普及に伴い発生しているアプリに起因する犯罪から、子どもを守る対策、取り組みがなされてきました。本市ではどのような取り組みが行われてきたのでしょうか。

そのようなことを踏まえまして、今、本市の青少年健全育成の実態についてお伺いしまして、１回目の質問といたします。

○議長（山瀬義也君）　教育部長、中村鉄男君。

［登壇］

○教育部長（中村鉄男君）　おはようございます。それでは、大賀議員のご質問にお答えをいたします。

携帯電話やスマートフォンなどは、現代の生活に欠かせないものとなっております。これらの多様なメディアをうまく活用していく力、すなわち情報活用能力の育成も大切なポイントであると認識をいたしております。

携帯電話やスマートフォンなどは、便利で有効な情報収集・発信機器である一方で、これらのメディアには、表面的には見えない危険性も含んでおります。

教育委員会としましても、菊池教育事務所や関係機関と連携をとりながら、生徒指導の中で、犯罪被害防止として児童・生徒に対して携帯電話・スマートフォン等の安全利用やインターネット利用の危険性等について指導するとともに、保護者に対してフィルタリング活用や携帯電話利用のルール作りの取り組みをお願いをしているところでございます。

各学校においては、各教科等や道徳における指導を通じて、児童・生徒がコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段に慣れ親しみ、基本的な操作や情報モラルを身に付け、適切に活用できるよう指導しているところでございます。

次に、本市で実施しております児童・生徒の健全育成事業についてお答えいたします。

本市では「地域の子どもは地域で育てる」のスローガンを青少年の健全育成の柱に据えた事業を展開をいたしております。その趣旨は多くの人との関わりの中で子どもを育てることで、子ども自身の自立性、競争心、やる気、協調性等の向上を図るほか、社会の構成員としての自覚を高めるために実施をしているものでございます。

具体的には、小中学生を対象とした事業として、童話発表大会、青少年育成キャ

ンプ、わくわく体験教室、わんぱく広場、菊池ふるさとかるた大会、子ども議会、夕方トランペット放送などのほか、地域活動の一環として青少年一日一汗運動や社会を明るくする運動の作文発表等を実施しているところでございます。

また、高校生につきましても、社会人として自立する第一歩としての意識を高めてもらうために、青少年育成事業時のボランティアスタッフとして参加をお願いをしているところでございます。

青少年育成事業の実施については、区長会をはじめとする青少年の育成に関係する１６団体より構成した菊池市青少年育成市民会議で内容を検討し、推進を図っているところでございます。

こういった市内全域で一体となって実施する事業のほか、各地区には合併前からそれぞれにさまざまな事業が行われております。

合併後、旧市町村ごとの取り組みが縮小されていないかというご懸念もあるかと思いますけども、以前は各行政区に推進員を設けている町村もありましたが、現在では活動の統一化とスリム化を図るため、市内全域を対象に小学校区単位で推進員を設けているところでございます。

現在の推進員は全部で３５名おられまして、各小学校区より男女各１名の合計２名を基本にしておりますけども、学校規模の大きい隈府小学校区が４名、小学校が１校であります旭志小学校区及び七城小学校区が男女各２名ずつの４名をそれぞれの校区で選任いただくなど、推進員の数には配慮しているところでございます。

また、今年度は各地域の取り組みと成果をお互い研修できるよう、仮称ではございますが、「青少年健全育成集会」の開催を計画をいたしております。

以上、申し上げましたように、青少年育成推進事業には、さまざまな取り組みをいたしているところでございますが、さらに青少年育成市民会議で事業内容とその推進方法について協議してまいりたいと考えております。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　大賀慶一君。

［登壇］

○５番（大賀慶一君）　部長の答弁にございましたように、本市でもさまざまな青少年に対する取り組みはなされております。ひとつその中でも私、非常に有効的と思うものがあります。これは今、本市の旧市町村で行われております年間を通じての青パトによる「安全・安心パトロール」でございます。これは、隊員といいますのは市の職員の方々、あるいはボランティアでなられている方々を中心に、大体週１回夜間あるいは夕方のパトロールが行われております。非常に私は青少年健全育成のためにも、啓発や防犯面でも大変有効な取り組みだと思っております。ぜひとも今

後継続されることを願ってやみません。

今、部長のほうから言われましたように、本市の取り組み、私もちょっと懸念をしていたところもございました。以前は先ほど言いましたように、部長の答弁にありましたように、各市町村、旧市町村でもあっておりましたし、今どうなのかなということを思っておりましたけども、大変いろいろな取り組みがなされていることにちょっと安堵感を感じております。

そこでまた質問をしたいと思います。

携帯電話やスマートフォンは今申されましたように、大変これは便利な手段でありまして、現代社会におきましては必需品とも言えるものでございます。しかし便利であるが故に好奇心の強い子どもにとりましては、対応を間違えると最初に述べましたように、事件に巻き込まれる可能性が非常に高いこともあります。

そこで、本市教育委員会ではどのような取り組みが行われているのか、３点についてお伺いをいたしたいと思います。

１点目に、本市の小中学校において、携帯電話やスマートフォンをどの程度児童が所有しているのか調査をされておりますでしょうか。実施されているとしたらその実態をお聞きしたいと思います。

２点目に、メールやライン、チャットという非常に便利でありますし、通信手段がございます。それらを利用した不正アクセス、出会い系サイトに関わることで、子どもたちが非常に事故に巻き込まれることが全国で大きな問題となっております。そのような事件を未然に防ぐためには、子どもが携帯電話、スマートフォンを使うときの指導やインターネットを利用する際にも、親が責任を持ってフィルタリングを行う、通信の制限を行うということが子どもを守ることの中で重要なことだと私は思っております。また、これは親の責務でもあると思っております。

そこで教育委員会では、フィルタリングに対する保護者や子どもへの指導をどのように取り組まれておられますか、お尋ねをいたします。

３点目に、今日まで学校や教育委員会では、ノーテレビデーやノーゲームデーなどの運動を通して、親子の対話、ふれあい、読書等を呼びかけてこられました。一方で、最近では親子でスマートフォンや携帯電話に熱中して、家族の会話が少なくなったとよく耳にいたします。

先日、私は東京に行く機会がございましたが、若い人たちがですね、電車の中で、電車に座るないなやすぐスマートフォンを取り出して、指を動かし始めるわけですね。本当に若い人たちがそういうのが多いのに、私はちょっと違和感を感じたわけでございます。このようなことが家庭内にも起きているのではないかと想像いたしたわけでございます。

ちなみにですね、９月３日の新聞報道での総務省の調査によりますと、高校１年生のスマートフォンの所持率が、７月の調査で８４％にのぼり、特に第１回の調査、昨年あったんですが、これはこのときは５４％であったと、この１年間で３０％が伸びているということが報道されておりました。また１日２時間以上使用することも、前年比の４７％から５８％に上昇しているということです。また、スマートフォンからの個人情報の流出の恐れがあることを知らないと答えた子どもたちが３３％ありました。総務省の見解では、スマートフォンが普及することで、普及するスピードに対して、その危険性について認識が追いついていないという分析でございました。

そのようなことで、私は家庭内での会話がますます減っていくことを懸念しております。そこで、今後実態調査等を実施した上で、ノーテレビデー、ノーゲームデーのみならず、携帯電話やスマートフォンを自粛するノーメディアデーの働きを実施したらというのを質問したいと思いますが、いかがお考えでしょうか。

○議長（山瀬義也君）　教育部長、中村鉄男君。

［登壇］

○教育部長（中村鉄男君）　再質問にお答えをいたします。

携帯電話等に関する調査につきましては、毎年アンケートを実施しておりますが、所持につきましては、子どもが携帯電話等を持っている家庭もあれば、親が持っている携帯電話等を利用する家庭もあるため、アンケートでは、自由に使える携帯電話やパソコンがあるかどうかを尋ねております。

その中であると答えた児童・生徒は、平成２２年度は、小学生が３６．８％、中学生は７７．７％で全体としては５１．４％でございます。平成２３年度は、小学生が３８．１％、中学生が８０．８％で全体としては５３．０％でございます。平成２４年度は、小学生が４６．１％、中学生が８０．８％、全体としては５８．３％となっておりまして、平成２４年度で申しますと、小学生は１０人のうち５人、中学生は１０人のうち８人は自由に使える環境にあるということがわかります。

そのうち、家庭内においてルールを決めて使用しているものは、５２．７％と約半分で、ルールの内容については、多い順から申し上げますと、①閲覧制限のフィルターをかける。②使用する時間数、時間帯を制限する。③メールのみなど機能を制限する。④使用料金の上限を制限する。⑤自分の部屋では使用しない。といった順番になっております。

また、掲示板等への書き込みについては、平成２４年度のアンケートでは、まだ少数ではございますが、今後はフェイスブックやツイッター、ラインなどのソーシャルネットワーキングサービスの普及に伴い、その使い過ぎや依存による生徒の生

活習慣の乱れや間違った使い方をしたことで、生徒間や見知らぬ人とのトラブルに発展するなど、問題になる恐れもあることから、利用時の注意点や危機回避など、情報の正しい安全な利用を含めた情報モラル教育を家庭と連携しながら行っていく必要があると考えております。

学校におきましては、生徒・保護者を対象に、携帯電話等の危険性について警察署より講話をしていただいたり、その危険性を指摘し回避するための具体的な話をするなど、学校生活の節目ごとに繰り返し取り組んでおります。

また、熊本県ＰＴＡ連絡協議会においても、保護者に対してフィルタリング利用促進を平成１９年度から周知するため「親子で学ぼう情報メディア」講座を開いて研修を深めているところでございます。

さらに、議員ご指摘のとおり、ノーメディアデーの設定も、失われつつある家庭内の会話を回復することで家庭教育を充実する有効な方法であると考えます。

現在、同じような趣旨で、各中学校区の幼・保、小、中連携推進協議会において、「ノーテレビ・ノーゲームデー」をそれぞれの実情に応じ、曜日等を定めて取り組んでいるところでございます。平成２３年度からは、これまでの各中学校区での取り組みの成果を一層高めるために、１１月に市内一斉のノーテレビ・ノーゲーム週間を実施したことで、それぞれの学校や園でテレビ、ゲームの視聴時間が短くなるなどの成果も上がっているところでございます。

子どもや保護者からも「会話が自然と増えた」「時間に追われなくなり、気持ちにゆとりが持てた」などの感想が出されており、家庭でのコミュニケーションが増えたのではないかと感じております。

テレビやゲームだけでなく、パソコンや携帯電話などのメディアは現代の生活に欠かせないものですが、これらのメディアと上手に付き合い、子どもたちの心が生き生きと成長できるように、今後も市内一斉ノーテレビ・ノーゲーム週間等を実施し、成果についても広く周知をしていきたいと考えております。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　大賀慶一君。

［登壇］

○５番（大賀慶一君）　今、答弁いただきました。

小学校においても既に、５０数%の携帯電話あるいはパソコンを自由に使えるということでございます。本当にこれは子どもたちの教育にとっても重要なことではございます。それをしかし、それを野放しにするというと大変な先ほどから言っておりますように、やっぱり犯罪に巻き込まれたり、そういういじめ問題に発展することもございますので、ぜひとも今後そういうしっかりした教育委員会の指導とい

いますか、そのことをお願いしまして、３回目の質問をいたしたいと思います。

本県では、蒲島知事が鹿本町の農協職員からアメリカに渡り努力の末にアメリカの名門校でありますハーバード大学を卒業され、東京大学教授を経て熊本県知事に就任をされました。このことはもう皆さん既によくご存知のことだと思いますが、蒲島知事が各地に出かけていって「人間はやる気があれば夢は実現する」ことを各地の学校に、生徒たちに熱く語られてきました。学校の子どもたちからすれば、本当にやる気さえあれば何でもできるんだと思わせる夢がある話であり、希望を持たせるすばらしい企画だったと思っております。

そこで江頭市長にお尋ねをいたします。私は江頭市長におかれましても、すばらしい経歴の持ち主であり、今までの大手企業での海外勤務の経験や市長を目指された熱い思いや、これからの菊池市づくりに対する夢や希望なども、本市の中学校・小学校に出かけられて、子どもたちにぜひ、私は直接語っていただきたいと思っております。そのことについて市長はどのようにお考えでしょうか、お尋ねをいたします。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　皆さんおはようございます。

それでは、大賀議員のご質問であります、子どもたちに夢や希望を語るような出前授業を行う考えはないかということでございますけども、今、議員がご指摘されましたようにですね、子どもたちに夢や希望、それから海外でのいろんな事情ですとか、世界の動きとかですね、こういったものを私のつたない経験に基づいて想いと一緒にですね、話すということは非常に大切なことだなというふうに思います。私としても願うところでございますので、今後、教育委員会と協議もしながらですね、学校からの要望に応じて講話など、積極的に取り組んでいきたいというふうに考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　大賀慶一君。

［登壇］

○５番（大賀慶一君）　先日の東裕人議員の答弁の中でも、市長は人づくりは非常に大事なことであるというふうな答弁でございました。私も本当に人づくりや地域づくりというようなふうに、菊池市の発展を願うためにはやっぱり子どもたちに対する人づくり、これが一番重要なことではないかと思っております。ぜひ、実現されてその思いを語っていただきたいと思います。よろしくお願いします。

続きまして、環境と観光についてお伺いをいたします。

本市は、皆さんご存知のように、西日本一の畜産地帯であり、出荷額においては市町村別に全国で７番目という有数な畜産の生産量を誇っております。

中でも私たちの住みます旭志地区は、以前から酪農、肉牛の一大産地でもございました。そこで当然、牛などの排泄物も大量に発生いたします。ふん尿の処理については、畜産農家の方々も大変苦慮をされております。昨日も一般質問で水上議員が述べられましたように、本市の畜産農家のふん尿問題については、ぜひとも解決をしていかなければならない問題であります。特に、臭気だけでなくスラリーについては、圃場へ大量散布することにより地下への浸透で地下水への影響が非常に心配されるところでございます。旭志は熊本空港あるいはＪＲ豊肥線からの本市への南の玄関口でございます。ホタルの時期には県内外から多くのお客様も見えられます。今後、市長が提唱されておりますホタルプロジェクト等を進めていかれる中で、悪臭や地下水汚染問題は、本市としてもぜひとも解決していかなければならない問題ではないでしょうか。

そのことを念頭におきまして、質問をいたしたいと思います。

まず１点目、旭志地区において今日までに地下水の汚染やあるいは臭気等についての調査は、本市として実施されたのでしょうか。

２点目、最も環境を危惧しておりますスラリーの発生状況とその処理状況はどのように行われておりますでしょうか。

３点目に、スラリーを利用したバイオマス発電所の建設についてお尋ねいたします。

一昨年、９月の中山議員が質問されております。その答弁の中で部長は、１９年度にバイオマス資源利用活用調査で、バイオマス発電導入の試算をしたという答弁でありました。試算の結果、多額の資金が必要であり、スラリーふん尿を対象とした施設建設は一部の農家のためであるということで、建設には課題があると。また、２３年の２月に総務省でも公表した評価で、可動性や生産性が低いという理由で建設は無理だという答弁がございました。

しかし、私が考えますに、１９年度の試算時よりももう数年経っておりますし、技術的にも非常に現在進歩をいたしております。また政権も変わり、こういう問題に対しての考え方も変わってきております。昨年、農水省の関係者の方とお話しする機会がございましたけれども、バイオマス発電については、非常に前向きな意見でございました。

また、それから平成２３年８月に再生エネルギー特別措置法が成立し、国の電気再生エネルギーに対する対応も随分と考えが変わってきております。建設をするメリットとしてですね、スラリーふん尿を発電することで、圃場への還元も減少され

る。環境改善にも役立つ。環境に取り組む本市のアピール効果も期待できると思います。さらに、発電で発生した熱を利用した農業や他の産業を生み出すことも考えられます。

また、日本一のバイオマス発電所の建設を観光へ利用活用することも私は考えられると思っております。今まさに再生エネルギーの時代へと向かいつつあります。そういうことを考慮しますと、私は市民の方々の建設に対する理解は得られるものではないかと考えておりますが、いかがお考えでしょうか、お尋ねをいたします。

４点目に、ホタルは環境のバロメーターと言われております。昭和６１年にですね、旭志の小原地区で大量発生いたしまして、そのとき専門家の方から「これは日本一のホタルだ」とのお墨付きをいただいております。それから３０年近くになっておりますが、県内外におきましても旭志にホタルは大変広く知れ渡っております。今年はホタルフェスタも新たな形で実施をされました。スムーズな運営がなされたと私は考えております。運営にあたられました皆様に心から感謝をいたします。

そこで先ほど述べましたように、環境のバロメーターでもありますホタルの本市における経済効果についてはどのようにお考えでしょうか。

以上の点についてお尋ねをいたします。

○議長（山瀬義也君）　市民環境部長、下田俊一君。

［登壇］

○市民環境部長（下田俊一君）　おはようございます。それでは私のほうから１点目の旭志地区におきます地下水、悪臭の調査実施とバイオマス発電に関することについて答弁させていただきます。

地下水の調査としましては、毎年、県のほうで「地下水の水質測定計画」に基づく調査が実施されております。この地下水調査は、水質汚濁防止法１５条の規定に基づく地下水の水質汚濁状況の常時監視を目的として行われているもので、市内全域で１７地点、そのうち３地点が旭志で行われております。

近年、重金属や揮発性有機塩素化合物による地下水汚染は県下ではほとんど見られないとなっておりますが、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素により汚染された井戸が地域によって確認されております。しかしながら、旭志地区の数値は１ℓ当たり１０ｍｇ以下であり、基準値をクリアしているところでございます。

地下水は一旦汚染されると、汚染対策には膨大な時間と多額の経費を必要とすることから、効果的な対策も限られているなど、計画的なモニタリングと汚染の未然防止に向けた対策が必要となりますので、県と協力しながら引き続き取り組んでまいりたいと考えております。

臭気については、畜産施設で悪臭問題が生じたとき、市が持っております簡易の臭気測定器がございますけれども、これで実施しておりますが、なかなか簡易でございますので、正確な数値が出ませんので、結果的には業者委託でお願いするという形になっております。

また、圃場、農地等の臭気測定に関しましては、先ほど言います市の測定器では正確な測定ができませんので、現在のところ実施してはおりません。

次に、バイオマス発電でございますけれども、先ほど議員がおっしゃいましたとおり、平成１９年度に「菊池市バイオマス資源利活用調査」を行っております。その中で、本市にどのようなバイオマスの資源と賦存量があるか。また、どのような導入方法があるかなどを検討し、その実現性や課題について調査しております。

その調査では、バイオマス資源として最も多いのは、やはり家畜排泄物でございます。その次に下水道汚泥、稲わらの順になっております。本市ではバイオマス発電を検討する場合は、この最も賦存量が多い家畜排泄物、中でもスラリーふん尿の処理が重要なものだと考えているところでございます。

また、先ほど議員がおっしゃいましたように、平成１９年度のバイオマス資源利活用調査で、バイオマス発電の導入について試算をしております。そのときの内容では、１日５０ｔの処理能力のバイオマス発電の建設で約１５億円、ランニングコストが年間約６，０００万円かかり、その当時、売電しても年間約３，０００万円の赤字となっております。現在は、売電の購入価格が高くなっておりますけども、それを考慮してもやはり赤字になるのではないかと考えられます。

このように、バイオマス発電は効率が悪くコスト面で不利とか、安定的にガスを発生するのが非常に難しい状況でもあります、また、発電した後のバイオマスも汚泥が出ますので、その汚泥処理とか液肥処理、このようなものが多くの問題を抱えている状況でございます。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　経済部長、平野國臣君。

［登壇］

○経済部長（平野國臣君）　おはようございます。大賀議員質問のスラリーの発生状況と処理状況及びホタルの経済効果につきまして、お答えをさせていただきます。

管内の畜産農家から排せつされます液状きゅう肥、いわゆるスラリーの発生状況につきましては、畜舎の構造や飼養形態により異なりますが、主に酪農経営から生ずるものと認識をいたしております。中でも特に牛舎の構造において繋ぎ飼い方式による自然流下式の畜舎から発生をいたしております。

近年、酪農経営におかれましても、飼育規模の拡大や牛舎の老朽化に伴う建て替

え等により、放し飼い方式によるフリーストール牛舎等の普及が進んでおり、自然流下式の牛舎は現在、減少傾向にあります。

なお、現状の家畜飼養頭数からスラリーの発生状況を推計しますと、年間約７万５，０００ｔが発生しているものと思われます。このスラリーの処理形態としましては、各農家におかれましてもバキュームカー等によりほぼ全量を圃場へ散布している状況にあります。なお、散布時の消臭対策としまして、牛舎内の尿槽内にブロアー等の送風機を設置し、曝気処理を行いながら畜産環境保全に努めておられるところでございます。

次に、ホタルの経済効果ということでございます。

本年６月２日に開催をいたしました「ホタルフェスタｉｎ旭志」は、昨年まで小原グラウンドで開催しておりましたが、今年は会場を道の駅ふれあいセンターのイベント広場に移して開催をいたしております。

イベント会場が国道沿いの道の駅ということもありまして、当日は約７，０００人の集客があり、大変賑わったところでございます。

また、ふれあいセンターにおきましても、営業時間を通常より３時間延長しまして、午後９時まで営業されたということで、昨年開催日の売上高と比較しますと、約７０万円の売上増があったと聞いております。

また、会場では出店として商工会青年部をはじめ、地元の方々が出店をされておりましたが、こちらも準備された品物は早々に完売するなど、イベント効果と併せ経済効果も大きかったものと捉えております。

シーズン中の観賞者につきましては、昨年の九州北部豪雨災害により二鹿来川のホタルがほとんど発生していない状況でございましたが、渡瀬川におきましては、例年に比べ若干は減ったものの乱舞も見られたことや電話等の問い合わせ件数などを総合的に勘案をしますと、イベント来場者数を含めた観賞者数は昨年とほぼ同様の約２万人の方々が訪れたものと推測をいたしております。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　大賀慶一君。

［登壇］

○５番（大賀慶一君）　旭志の水質については、１０ｍｇということで、良好であるということで安心しましたけれども、これは多分、畑、畑地、スラリーをまく畑での調査ではなかったんじゃないかと私は思っております。そういうことも今後ですね、地下水や土壌、圃場における地下水調査とか、土壌検査とかを本市はどのように考えておられますでしょうか。

また次に、スラリーふん尿の圃場に散布する量としましてですね、１０ａ当たり

どの程度が適当であるのか、酪農家の作付面積に対して、本市のスラリーふん尿発生は量的にはその範囲内なのか、そういうことがわかりましたら、ちょっとお教えいただきたいと思います。

次に、バイオマス発電所の建設につきましては、一昨年度の答弁とほとんど変わらなかったと思っております。私はですね、今一度ですね、国の関係省庁と協議をされましてですね、これは国の動向を推察して、国のモデル事業としてですね、建設できないかと考えております。その点についていかがでしょうかお尋ねいたします。

次に、ホタルの経済効果につきまして再度お尋ねいたします。

ホタルでの集客力は非常に高いものだと私は思っております。市長もホタルの里づくりを公約に掲げられており、ホタルプロジェクトが進行していると伺っております。そこで、私はホタルの里づくりの中でですね、ホタルを見る期間をもっと長くできないかと考えております。本市のゲンジボタルは早くて４月の下旬から６月中旬ぐらいまでが、自然界では見られる期間でございます。そこでより長い期間、できれば１年中見られるようなことはできないものかと考えておりました。

そこで、ちょっと調べてみますとですね、群馬県にあります前橋工科大学の梅津教授の研究グループが、ホタルを通年飼育して飛ばせることができる「ホタルの通年飼育システム」の開発に成功された、製品化されているということがわかりました。これはこの辺に飛んでおりますゲンジボタルではございませんか、ひとまわり小型のヘイケボタルでございます。それも飼育室の中ということに限られておりますけれども、これも利用すればですね、菊池に行けば年中ホタルが見れるぞという、観賞できると全国に先駆けてやってはいかがでしょうか。

また、飼育室を兼ねたホタル資料館の建設は観光に結びつくものと私は考えております。ホタルでたった何日間でこれだけ２万人の方がお見えでございます。これを年間平均してこれだけの客が来るとは限りませんけども、ひとつの菊池市の売り物としてですね、この資料館、飼育室を兼ねた資料館をつくればですね、私は非常に経済効果がますますあるんじゃないかと思っております。

それから次に、これも昨日、水上議員が述べられました。旭志にはですね、公園という名のつくものがございません。昨日の建設部長の答弁の中で、これは都市公園といいますか、そういうような感じでは旭志はできないということでございましたけれども、私はですね、こういうホタルの資料館などを利用してですね、ぜひ、資料館を併設したホタル公園をつくっていただきたいと。

非常にですね、旭志の人たちも旭志には公園がないということを非常にいつも強調されます。そういう非常に地元の方も望んでおられますので、何とか、私はホタ

ルプロジェクトの一環の中でですね、これを一つぜひ、展示室、資料館を併設して環境の地をアピールするためにも、これは意義があることだと思っております。ホタルをですね、年間通して、環境を学ぶ拠点としての資料館、これを備えたホタル公園づくりは、もうぜひ私は、今、市長が進められますホタルプロジェクトに、私はぴったり考えが合うんじゃないかと思っております。市長が述べられております全市的なホタルを飛ばすというイメージも、これはもう本当に重要なことだと思っておりますけども、その拠点としてですね、ひとつ旭志にですね、ホタルの資料館、そういう年間を通じた飼育ができる飼育箱を利用したその資料館とホタル公園を併設したものをぜひ、つくっていただきたいと思いますけれども、どのようにお考えでしょうか、お伺いいたします。

○議長（山瀬義也君）　市民環境部長、下田俊一君。

［登壇］

○市民環境部長（下田俊一君）　私のほうから２点。１点は圃場における地下水調査を考えられないかということと、もう１点は、国のバイオマス発電に関してモデル事業を実施する気はないかという形について答弁させていただきます。

まず、圃場における地下水調査でございますけども、現在は民家の個人の井戸を調査しております。ですから圃場を調査する場合は、圃場にボーリングして調査することになりますので、かなりな費用がかかりますので、例えば、圃場の近くにある民家の井戸を調査するとか、そういうのは一緒に検討させていきたいと考えております。

それとバイオマス発電に関します国のモデル事業としてできないかというお尋ねでございますけれども、これに関しましては、確かに先ほど議員がおっしゃいましたように、バイオマス発電に関します技術力も向上しておりますし、再生エネルギー法もありまして、民間企業がそういったのに参入するという動きもあっております。この場合、国・県の補助事業がどういうものがあるかと、そういうものも調査しますとともに、本市の賦存量の中で家畜排せつ物が１９年度の調査で、約年間７８万トンと膨大な量でございます。そういうのを解消するために相当規模のバイオマス発電の施設が要りますので、そうなりますと費用的にもかなりかかりますので、そういった意味でも費用対効果、先ほど言いましたように汚泥の、これも一緒でございます処理は。バイオマスを発電しても汚泥とか液が出ますので、解決にはかなり難しいのがございますので、そういったトータル的に調査してまいりましてですね、ちょっと研究調査を引き続き行いたいと思います。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　経済部長、平野國臣君。

［登壇］

○経済部長（平野國臣君）　本市における作付けに対するスラリーの適正な施肥量はということについてお答えをさせていただきます。

管内でスラリーを散布します酪農家の飼料作付け面積につきましては、平成２５年２月に実施されました県畜産統計調査によりますと、田・畑を合わせまして、延べ約１，３００ｈａとなっております。これは最初の答弁で申し上げましたスラリー発生量の約７万５，０００ｔで試算をしますと、１０ａ当たり約５．７ｔが圃場に散布されていることになります。なお、県が本年３月に示しております牧草・飼料作物奨励品種の一覧によりますと、液状きゅう肥、いわゆるスラリーの１０ａ当たりの施肥量としましては、飼料作物の種類により若干は異なりますが、飼料作物当たり５ｔから６ｔの施肥基準となっておりますので、本市の場合、概ね県の施肥基準に適合しているものと認識をいたしております。

しかし、耕作場所次第では、散布条件によりまして施肥量も変動することも予想されます。過剰投肥が懸念されますので、今後とも県や農業団体等の関係団体と連携を深めながら、適正な施肥量につきまして啓発推進を行っていく必要があると考えております。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　それでは私のほうからご質問の中でのバイオマス発電に関する考え、それからホタルに関する展望ということでお答えしたいと思います。

まずはバイオマス発電の件でございますけども、先ほども数字でおっしゃったように、当市というのは一大畜産王国というべき性格を有しておりまして、それは当市の一つの強みになっているわけでございますけども、反面、そのにおいの問題ですとか、硝酸窒素の懸念等が浮かび上がってきているわけでございますね。ですから、これから私どもが力を入れていこうとしてます農業、それから観光業、これを推進する上でもですね、やはりこの根っこにありますのは、水のよさということがいわば生命線でございますので、この水というのは一度汚染されると大変ダメージも大きくてですね、畜産だけではなく農業、観光、それぞれに与える影響は大変大きいということでございますので、私としてはこのふん尿対策というのはですね、本気でいろいろ研究してみたいというふうに考えておるところでございます。

もし、このバイオマスというのが本当にこの活用可能な状況になっていればですね、かなりこの菊池市の戦略にとっても大きな展開が開ける可能性があるというふうに感じております。ただ、先ほどから部長の答弁にありましたように、直近まで

のいろいろな研究ではですね、コストの問題等々いろいろあるということでございますけども、ご指摘のようにその後の技術進歩ということが起こっているかもしれません。ということで、県ともですね、情報交換を進めながら再度調査研究のほうを少し続けていきたいということを指示しているところでございます。

それからホタルの件でございますけども、大変興味深いご提案であるかなというふうには思っております。このホタルが長期間観賞ができるということはやはりこのきれいな水それから美しい環境、自然ということをイメージさせますので、環境農業に対して非常にプラスのイメージになるわけで、「癒しの里」の大きな一翼を担っているというふうに言えるかと思います。

ご提案の通年飼育ということでございますけども、ちょっと私はまだ専門的な知識、予見を持っておりませんけども、話題性というのはあるかもしれないなと思いますが、これは感想でございますけど、多少、人工的に過ぎるというふうに受け取る方もいらっしゃるかもしれません。それから、当市のこの進め方としてはですね、旭志のせっかく持っている強みをこの全域に、菊池全域に広げるということで、一つのこのインパクトを出していきたいなというふうなステップで考えておりますので、まずはですね、このありのままの菊池と、菊池の自然ということを前面に打ち出しながら、地域を広げていくということをまず第一ステップとして考えたいというふうに思ってます。

また、ご提案のありましたホタル資料館、公園等については、ただいま現在では計画をしてないところでございます。また念頭において、時々ご意見をですね、伺っていきたいというふうには思っております。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　大賀慶一君。

［登壇］

○５番（大賀慶一君）　ホタルの公園につきましてはですね、地元、小原区の人たちでも有志で、今、自分たちでやろうということで、山を利用して木を植えたり、そういう公園作りに一生懸命やっておられます。例えば、大規模な公園と申しませんけれども、やっぱりそういう旭志のホタルをアピールする、本市のホタルをアピールするためにもそういう拠点づくりとしてですね、ぜひ、市のほうから支援をしていただいてですね、地元の人たちも長い年月にわたってホタルを守ってきておられますので、一生懸命になっておられます。そういうことを思いましても、市のほうからそういうアドバイスなり、あるいはまたご助言、支援をいただきたいと思いまして私の質問を終わります。

ありがとうございました。

○議長（山瀬義也君）　ここで１０分間、暫時休憩します。

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

休憩　午前１０時５５分

開議　午前１１時０３分

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

○議長（山瀬義也君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、木下雄二君。

［登壇］

○１９番（木下雄二君）　皆さんおはようございます。一般質問も４日目となり、市長をはじめ、執行部の方々も大変お疲れでございます。特に市長におかれましては、６月の初議会と同じく質問者も多く、また市長自らが丁寧に答弁をされておられますので大変だと思いますが、市民も大変期待しておりますので、頑張っていただきたいと思います。

それでは通告の順に従いまして、質問をさせていただきます。

まず、道路整備について、県道原立門線の整備の進捗状況をお尋ねいたします。

この路線につきましては、地域住民の生活道路はもちろん、菊池高原ゴルフ場、オートポリス等の観光ルートとして重要な路線でありますので、これまで何度も質問、要望を続けておりますが、これまでに地元区長会、地権者そして県道でありますので、地元県議のご協力により、老朽化しておりました原味橋の架け替え事が完了いたしました。

しかしながら、この原立門線はまだまだ未整備の部分が多く、継続して整備をしていかなければなりません。特に原味橋から伊野橋までの部分は道路幅員が狭く、対向車との離合も困難な状態であり、早急な整備が必要であります。

市としても県に対して引き続き熱心に要望をしていただいていると思いますが、原味橋完成後、原立門線特に伊野橋までの道路改良の進捗状況をお示しいただきたいと思います。

次に、市道亘甲森１号線についてお尋ねをいたします。

これまで今村橋の老朽化に伴い、現在は新しく橋は架け替えが終わっておりますが、亘深川線の交差点の部分までの連結ができていないのが現状であり、特に今村橋が新しくなってから、随分年月が経過しており、利用者、地元の方々からも私に問い合わせがございます。

そこでお尋ねをいたしますが、これまでの亘甲森１号線の経緯、今後の整備の見通しについてお示しをいただきたいと思います。

以上、１回目の質問とさせていただきます。

○議長（山瀬義也君）　建設部長、松野浩一君。

［登壇］

○建設部長（松野浩一君）　それでは木下議員のご質問にお答えいたします。

まず、県道原立門線につきましては、県の管理道路でございますので、菊池地域振興局土木部からお聞きした内容についてお答えいたします。

県道原立門線の原味橋から伊野橋までの狭さく区間、約４００ｍの整備につきましては、これまでに基礎調査や測量設計が完了しているところでございます。平成２４年度には用地測量のための立ち会い等の作業を実施しているということでございます。

今年度から用地取得を本格的に開始するに当たりまして、建物の補償物件がある箇所につきましては、８月から建物調査に着手されており、年内には個別の用地交渉に着手する予定と伺っているところでございます。

また、市道亘甲森１号線の今村橋から亘深川線までの改良区間につきましては、長期間にわたり休止状態でございましたが、平成２５年度におきまして、関係者のご理解とご協力を得ることができまして、現在、土地及び建物の鑑定を行っているところでございます。

今後につきましては、用地取得に向けました協議を行いまして、取得ができましたなら工事のほうに着手してまいりたいと考えているところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　木下雄二君。

［登壇］

○１９番（木下雄二君）　はい、ありがとうございました。

原立門線につきましては、いよいよ用地交渉に入っていくということでございます。地元としてもですね、念願の道路でございますので、ぜひともよろしくお願いいたしたいと思います。

それで、この件につきましては新しくですね、市長も変わられましたので、これは県のほうにもですね、やっぱり強い要望が必要だと思いますので、ちょっと市長のほうからも答弁をいただきたいと思います。

それと、市道亘甲森１号線につきましては、本当にこれまで確か橋が架け替えになってですね、７、８年経っているんじゃないかと思いますけれども、これまでですね、私どもの地元のほうでも非常に何で交渉ができないんだろうかというふうに思っておりましたけど、今、答弁を聞きましたらちゃんと対応ができるということでほっとしたところでございます。早急にですね、きちんとした道路が完成していくように、よろしくお願いしたいと思います。

それで、原立門線だけ市長にちょっと答弁をいただきたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　県道の原立門線についての私の見解ということでございます。

県道の原立門線につきましては、ただいま建設部長が答弁しましたとおり、本年から用地買収に入るということでございます。地権者の皆様へのですね、用地交渉に際しましては、市としましても積極的に関わってまいりたいというふうに考えております。

工事の早期着工のためにも、関係議員の皆様をはじめ、関係者の方々のご協力をお願い申し上げる次第でございます。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　木下雄二君。

［登壇］

○１９番（木下雄二君）　はい、ありがとうございました。

いずれにしてもやっぱり皆で協力してやらなければですね、こういったものはできないと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは次に、菊池市老人福祉センター跡地の対応についてお尋ねをいたします。

この件につきましても、これまで何度も質問・要望を続けておりますが、当初は、高野瀬区としては、老人福祉センター跡地の活用については、市の老人センターが高野瀬区から移転するということを踏まえ、平成２４年２月にはその当時の区長名による「老人センター跡地に関する要望書」が改めて市長に対して提出されております。

要望書には、現在の老人センターの建物及び土地を無償で貸していただき、高野瀬区の公民館として利用したいと、主な理由を列記して要望書が出ておりましたが、前市長の私の質問に対する答弁は、「老朽化しており改修もできないので、解体する方向で進めていくので理解をお願いしたい」とのことでありました。その後、地元高野瀬区との協議をされ、現在、老人福祉センターの解体もほとんど終了しております。

そこで改めてお尋ねをいたしますが、菊池市老人福祉センター跡地のこれまでの対応と今後の計画をお示しいただきたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　健康福祉部長、宮本誠一君。

［登壇］

○健康福祉部長（宮本誠一君）　おはようございます。お答えします。

菊池老人福祉センターの建設に関しましては、約１０年にわたり協議を重ね、議員の皆様におかれましても慎重にご審議いただき、昨年の４月に運営を開始したところでございます。

利用の状況といたしましては、１日平均約１６０人ものご利用があり、旧老人福祉センターと比較しますと約3倍もの伸びとなっております。

施設建設に至るまでの経緯としましては、高野瀬区にありました旧老人福祉センターが昭和４７年に建設され、４０年余り経過しており、平成１３年に旧菊池市の老人クラブ連合会長名で老朽化による改築の要望が提出されました。その後、建設に関する本格的な検討に入り、市民ワークショップや市内協議及び庁内協議及び建設検討委員会での協議を重ねておりましたが、平成１７年３月の市町村合併に伴い、改めて新市で検討することになりました。新市におきましても建設検討委員会や議会との審議を重ね、平成２２年９月の建設予算の可決まで５年余りの検討がなされ、工事着工の運びとなりました。その間、用地問題や温泉の供給方式等の審議につきましては、議員の皆様方にも大変ご心配をいただいたところです。

また、旧老人福祉センターに関しましては、平成２１年１１月に「旧老人福祉センターの存続に関する請願書」が議会議長宛に、さらに議員の質問の中にもございましたけども、平成２３年３月と平成２４年２月に高野瀬区長から旧老人福祉センターの建物及び用地を高野瀬区の公民館として無償で借用したい旨の要望書が市長宛に提出されました。

しかし、施設につきましては、毎年多額の修繕経費を費やしており、老朽化による今後の安全性を考慮して解体する方向で進めているということで、高野瀬区には回答し、ご理解をいただいたところです。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　木下雄二君。

［登壇］

○１９番（木下雄二君）　はい、ありがとうございました。

この老人センター跡地についてはですね、その後、地元の高野瀬区の公民館として活用したいということで、聞くところによりますと、コミュニティ事業ですか、宝くじ、あのほうで申請をしていくということでございますけれども、市としてですね、その申請の状況についてわかっていればお示しをしていただきたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　総務企画部長、野口祐成君。

［登壇］

○総務企画部長（野口祐成君）　おはようございます。木下議員の再質問にお答えいた

します。

コミュニティセンター助成事業についてお答えいたします。

コミュニティ助成事業とは、財団法人自治総合センターが宝くじの社会貢献広報事業として、集会施設やコミュニティ活動備品の整備等に対して助成を行っています。

地域コミュニティ活動の充実強化を図ることにより、地域社会の健全な発展と住民福祉の向上に寄与するもので、その事業の一つとしてコミュニティセンター助成事業がございます。

助成事業申請要件としまして、用地の確保が前提条件となっており、解体後の老人福祉センター跡地を予定されております。なお、跡地の借用につきましては、行政財産となっておりますので、普通財産への用途変更が必要となります。

申請から採択までの手順は、近年時期が不定期になっておりますが、１０月から１１月頃、自治総合センターから都道府県を通じて市町村にコミュニティ助成事業の募集が通知されます。

例年１０月に翌年度のコミュニティ助成事業の募集を行い、行政区などからの申請を受け付け、１１月に県を経由して自治総合センターへ申請書を提出いたします。

自治総合センターでは、緊急度や地域のバランスなどの諸事情を踏まえ、全国からの申請を審査し、翌年１月から４月に採択または見送りの判断をして、都道府県経由で市町村へ連絡が来る手順でございます。

申請状況ですが、昨年１０月に募集した平成２５年度助成分には、コミュニティセンター助成事業２件、一般コミュニティ助成事業７件の申請があり、採択されたのは、一般コミュニティ助成事業の１件のみでした。

コミュニティセンターの助成事業は、総事業費の５分の３で上限が１，５００万円であること、また各都道府県において原則上限３件の申請であることから、土地、財源、住民の総意等において助成決定後、事業実施が確実なものに限られています。

菊池市では、平成２０年と平成２３年に採択されていますが、昨年申請があった２団体は既に４年待ち、５年待ちの状況となっております。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　木下雄二君。

［登壇］

○１９番（木下雄二君）　はい、ありがとうございました。

コミュニティ事業は、今、部長が申されましたように、非常に基本的には宝くじ

ですから、なかなか厳しいと思うんですよね。私どもも去年ですが、稗方区の公民館の落成のほうにまいりましたけれども、あそこが１，２００万円だったと思いますが、１０年近く申請をしてようやくいただいたということでございました。

高野瀬区はある程度の地域でもございますし、また今まで老人センターがあったということも踏まえてですね、そういうことも踏まえて、できればコミュニティ事業ももちろんでございますけれども、またほかのいろんな方法も考えられないかということも含めて、この件については市長のほうにちょっと答弁をいただきたいと思いますけど、よろしくお願い申し上げます。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　今の現状につきましては、先ほど部長のほうから説明をしたとおりでございますけども、私もこの件自体については大変関心を大きく持っておりますので、何とかこの地元のためにですね、実現できるようにというふうに考えております。

昨年の実績から見ますと、大変厳しい状況であるということは承知しておりますので、どういったことが可能かをですね、ちょっとこれからよくご相談しながら努力していきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願いいたします。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　木下雄二君。

［登壇］

○１９番（木下雄二君）　はい、ありがとうございました。

先般、夏祭りが今の既存のほうの高野瀬公民館の前でございましたけれども、市長も参加されておられましたのでわかると思いますけれども、道路の傾斜のあるところにみんな席をつくってですね、非常に危険な状態でもありますので、一日も早いですね、改善が望まれますので、その点も含みおきをいただきたいと思います。

それでは次に、ポケットパーク足湯の対応についてお尋ねをいたします。

この件につきましては、６月の定例会において、江頭新市長に質問させていただきましたが、市長は市民の方々の足湯に対する反対は非常に厳しいものがあるということを認識した上で、私の質問に対して、「一回お湯を止めてみて、運用をお休みして、それでどういったふうな不都合があるのか、それを市民の皆さんに直接お伺いしてはどうだろうか」という、そういうことでまず民意を問いたいと答弁をいただきました。

アートポリス事業で施設ができておりますので、運用方法また施設等の変更にはさまざまな条件があると思われますが、市民の反応、今後のランニングコスト等を

考えますと、早急な改善策が必要であります。先送りすればするほど市民の不満が募るばかりであり、市長の決断にかかっております。

そこでお尋ねをいたしますが、市長は一回お湯を止めるということでしたが、その時期はいつ頃になるのか、具体的にお答えをいただきたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　ポケットパークの足湯の対応についてというご質問でございます。

足湯につきましては今、ご指摘のとおりですね、市民の方々からのさまざまな意見が聞こえてまいりまして、特にこの目的等をですね、目的それから効果等について疑問視なさる声が多数届いておるところでございますので、それを受けまして、これは県の事業として進めてきたものでもございますので、慎重に進める必要がございますので、まずは１回試験的にですね、運用を止めてみて、そこでの実際どのような不都合があるのかないのか、ユーザーである市民の声を聞いてみようという趣旨でございました。

前回議会が終わりました後ですね、すぐにでもと考えておったんですが、夏場のポケットパークというのは、もともと夏場の足湯というのはですね、もともと暑い猛暑の時期でございますので、利用者自体は大変少ないということが考えられましたので、その様な時期の実施ということで本当に検証効果が上がるのだろうかという点がございましたので、時期的にはもう少し後でということで考えております。

ただ、一方でですね、今般「森のまちづくり」という整備計画を具体化しつつありますので、この「森のまちづくり」が進んでいけば、この中にポケットパークというのは恐らく有用な形で位置付けられるだろうなというふうに考えているところでございますので、こうしたことも踏まえながらですね、また一方で観光シーズン等のお客様の来訪状況なんかも考えまして、今年度内をひとつの目処として実施したいというふうに考えております。また、これにつきましては当然に、十分な期間をもっての市民への通知ということも必要かと思っておりますので、こういったことを踏まえて、恐らく秋から冬にかけてということになると思いますが、そうした形で少し具体化を図っていきたいというふうに考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　木下雄二君。

［登壇］

○１９番（木下雄二君）　はい、ありがとうございました。

今年度内には１回止めてみるということでございます。ずっと止めるというより

も１週間のうちに何日か止めるとか、試験的にでもやられてみたほうがいいんじゃないかと思います。

それと、私たちの議会報告会の中でも足湯の問題というのはやっぱり質問等があっておりましたように、やはり最終的にはランニングコストの心配だと思うんですよね。やっぱり年間の清掃とか下水道、それといろんな維持管理的に２３５万円でしたか、かかっておりますので、それに対する市民の思いっていうのがあると思いますので、なるだけ早くですね、試験的にでも期間を区切ってでもいいと思いますので実施していただきたいと思います。これはもうある面では強く要望したいと思います。よろしくお願いしておきます。

それでは次に、地場産業育成の現状についてお尋ねをいたします。

この件につきましては、平成２４年度６月の定例会において質問、要望させていただきましたが、今回は市長、副市長も変わられましたので、確認と要望も含め質問をいたします。

まず、本市において平成２０年４月より施行されております「中小企業振興基本条例」について、現在この条例が中小企業の工事入札等、下請けも含め、どれだけ活かされているのかお尋ねをいたします。

また、今回は福祉関係についても、昨年福祉厚生常任委員会で平成２３年度中のサービス種類別の利用状況について確認したところ、「中小企業振興基本条例」が活かされていない状況でありました。特に居宅介護サービス費、福祉用具対応においては、８７４件のうち菊池市内は１４５件１６．６％、菊池市外が７２９件８３．４％であり、熊本市３９１件４４．７％、山鹿市が１６３件１８．６％であります。

次に、住宅改修においては１２５件のうち、菊池市内が３０件２４％、菊池市外が９５件であり７６％であり、熊本市が５３件で４２．４％であります。この数字から見ても地場産業育成にはなっておりません。なぜこのような結果になっているのか、委員会で指摘、改善をお願いしておりましたので、この点も答弁をいただきたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　総務企画部長、野口祐成君。

［登壇］

○総務企画部長（野口祐成君）　平成２４年度の入札数、落札率を工事、委託、物品ごとに申し上げます。

工事関係は２７０件の入札を行い、発注総額約４２億３，０００万円、落札率は９７．３％となっております。そのうち２５２件、金額にして約４０億円は市内業者に発注をしております。

委託関係は１３２件の入札を行い、発注総額約４億４，０００万円、落札率が８

４．９％となっております。そのうち７０件、約１億８，０００万円は市内業者に発注をしております。委託関係については、菊池市内に該当する業者がいないまたは少ない業務もあるため、市内業者の受注が工事よりも低くなっております。

次に、物品関係につきましては、２７３件中２４３件が市内業者への発注となりました。

工事・委託とも、元請としては地元企業優先ということで、特に工事においては毎年９０％以上の工事について地元業者が受注しております。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　健康福祉部長、宮本誠一君。

［登壇］

○健康福祉部長（宮本誠一君）　お答えします。

介護サービスにおきます事業所の利用状況ですが、平成２３年度の利用総数は６，５２０件で、そのうち市内事業所の利用は４，２３８件、利用率は６５％となっております。

平成２４年度中につきましては、利用総数６，９２４件のうち市内事業所の利用は４，５９３件で、利用率は６６．３％となっております。

比較しますと、市内事業所の利用率が１．３％上昇した結果となっております。

サービスの利用につきましては、利用者が希望するサービス提供事業所との契約になることが基本ですが、特に市外事業所の利用が多いものとして、市内に事業所が少ない、訪問リハビリテーションや介護老人保健施設での短期入所医療介護など、医療関係に関わるサービスの利用が多い状況となっています。

さらに、福祉用具の貸与や購入についても市外事業所の利用が多い状況となっておりますが、これも事業所が市内に少ないことが一つの要因ではないかと思われます。

市としましても、市内事業所の紹介等、機会を捉えて周知をしておりますが、今後も「介護保険サービス事業所ガイドマップ」を利用し、周知を図ってまいりたいと思っております。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　木下雄二君。

［登壇］

○１９番（木下雄二君）　はい、ありがとうございました。

総務部長の答弁で９７．３％、非常に高い、高止まりの入札率でありますし、なかなか下請け等についてはですね、私どももいろんな方々から相談、お願いを受けるんですけども、地元の企業にある程度高い入札率で入ったのに、下請けのほうは

なかなか地元を使っていただけないとですね。地場産業育成ですから、ある程度の入札率で取ればそれだけの利益の確保はできると思いますので、自ずと下請けのほうについては地元を使えるんじゃないかというふうに私どもは理解しますけど、それがなかなかできていないと。その下請けについてはなかなか市のほうでですね、強制はできないと思いますけれども、分離発注とかいろんな方法も含めてですね、やっぱり今後は一生懸命考えていかないと、このせっかく「中小企業振興基本条例」を作りましたけれども、全然ですね、やっぱり末端のほうまでその価値観といいますか、そのあれが行き渡っていないというのが現状なんですね。

それと、福祉関係のほうの答弁をいただきましたけれども、１．３％ちょっと改善されたみたいな形ですけれども、私もホームヘルパー２級をとっておりますので、ある程度福祉についてはちょっと勉強をさせていただいておりますけれども、住宅改修というのは基本的にですね、そんな難しい仕事でもありませんので、私も委員会で述べましたけれども、やっぱりケアマネージャーさんとかですね、そういう紹介する人たちによってその業者が決まってしまうようなところもなきにしもあらずと、そういうのが私の実態でございます。

地元にそういう事業主がないとかそういうことも考えられるとおっしゃいましたけども、地元にはたくさんございます。ですから、やっぱり結果がやっぱり数字的なものも含めて、結果が一番だと思うんですよね。やっぱり地場産業育成というのが、やっぱり基本となってやっていかなければいけない状況だと思います。特に福祉関係については、よそに逃げていくということは、それだけ市の負担が増えてくるというのが基本になってくるんですね、はい。ですから本当に地元にそういうのがなければですけれども、地元にちゃんとございます。

それと、私も母が高齢ですので、やっぱりいろいろ話を聞くと、もうある面ではケアマネージャーさんにお任せになってしまう点があるんですね。ですから、やっぱりそういうところも含めてですね、もう細かいチェックが今後は必要だと思います。

ここで改めてですね、市長なられたばっかりですから、今後ですね、そういう地場産業育成また中小企業振興基本条例に基づいてですね、地元の業者をどうやって活性化していくかということが大問題だと思いますので、この点につきましては、副市長もですね、指名審査会の委員長という立場でもございますので、市長、副市長に答弁をいただきたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　中小企業の育成ということと、入札との関係に関する考えとい

うことでございますが、市の工事等の発注に際しましては、中小企業振興基本条例に示されておりますとおり、地元企業の受注機会の拡大にこれまで努めてきておりますし、これからもこの点を非常に意識においてですね、努力していきたいというふうに考えております。

また一方で、建設業法などの関係法令も遵守しなければいけません。このためすべての工事等をですね、地元企業に発注することはできないという状況はございますので、この点は何とぞ、ご理解をいただければというふうに思います。

地元企業の育成ということにつきましては、基本条例における基本的な方針をもとに、中小企業者それから市、それから市民も一体となってですね、推進する必要があると思っております。これからも今の入札状況等の結果をですね、注視しながら、またご意見をお聞きしながら、この中小企業育成ということに邁進していきたいと思っておりますので、どうぞご理解のほどをよろしくお願いいたします。

以上です。

○議長（山瀬義也君）　副市長、木村利昭君。

［登壇］

○副市長（木村利昭君）　おはようございます。木下議員のご質問のほうにお答えをいたします。

まず、地場産業の育成につきましては、中小企業振興基本条例第４条におきまして基本的施策が示されておりますけれども、そこに記載のとおり、本市の中小企業者の受注機会の増大に努めながらその振興を図ってまいりたいと、このように考えております。

また、審査会の開催にあたりましては、市が発注します工事、委託、物品関係の指名等において、地方自治法をはじめ関連法規の遵守はもとよりでございますけれども、菊池市工事入札参加者等審査要領に示されております運用基準により、公平公正に対応をしてまいる所存でございます。

よろしくお願いいたします。

○議長（山瀬義也君）　木下雄二君。

［登壇］

○１９番（木下雄二君）　はい、ありがとうございました。

いずれにしましても、最終的には結果だと思うんですね。やはりそういう中小企業振興基本条例がございますので、それに基づいて地元の人たちが、やっぱりこの条例ができたおかげで仕事が増えたなと、そういう実感的なものがないとなかなか厳しいものがあると思います。

先般もこの中小企業振興基本条例について質問したときにですね、過去の工事で

葉山住宅の設計というかリフォームの改修のときには設計の委託が年度ごとの、いうなれば発注だったと。ところが今度、北宮住宅が今、工事のほうに入っているんですかね。その設計委託のときには、もう一括で発注されたと。基本的に分離発注でもできるようなことをわざわざまとめてですね、発注したという、そういう市民が感じるようなことが行われているのがちょっと現実的な問題もありますので、今後はですね、一つ一つそれぞれの企業の能力、そういうのももちろんございますけれども、やはりなるだけ市民がですね、受注の機会が増えるようなやっぱり発注的なものを意識してやっていただきたいというふうに思います。

新市長、また副市長もですね、新しくスタートされておりますので、そのことについてはよろしくお願いしておきたいと思います。よろしくお願いします。

それでは次に、小川基金についてお尋ねをいたします。

この小川基金につきましては、入学準備金を含む、奨学金への活用を含め、これまで何度も質問、要望させていただいておりましたが、特に６月の定例会においては、江頭新市長に早急に、故小川水寶様の娘さんの小川恵美様と会っていただいて、基金に対する意思の確認をお願いしたところであります。

先日、工藤議員の質問に対する答弁で、市長が故小川水寶氏の娘さん、小川恵美様の意思を直接東京で会って確認され、菊池市の将来を担う子どもたちのために活用したいと述べられ、物とか、箱物ではなく、人に投資をしていきたいとのことでありました。市長の考えは十分確認はできておりますが、改めて質問をしていきたいと思います。

小川基金については、私も小川恵美様と平成２１年１２月に東京で直接お会いし、故小川水寶氏の意思は娘さんの小川恵美様にしっかりと受け継がれており、基金は青少年の健全な育成のために使用することを願っておられ、故小川水寶氏の意思に沿った奨学金制度創立等の具体案が決定されることを要望されておりました。このように小川恵美様の意志は固く、菊池市の将来を担う子どもたちのことを思っていただいていることに敬意と感謝を申し上げてきたわけでございます。

その後、これまで前市長に対して、入学準備金を含む奨学金の制度充実をお願いしてまいりましたが、前教育長の田中教育長が「小川基金人づくり事業、夢実現応援プラン」として案を作成され、予算化を提案されましたが、実現化していないのが現状であります。

そこで改めて市長にお尋ねをいたしますが、市長も小川恵美様と会われて、十分故小川水寶氏の意思は確認されておられると思いますが、具体的な今後の活用方法も含め、改めて答弁をいただきたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　お尋ねのむきは小川基金の活用に関する基本的な考えということでございます。

まず、工藤議員への回答内容とやや重複することにはなりますが、もう１回述べさせていただきますと、私がこの小川基金の提供者であります故小川水寶さんのお嬢さんでございます小川恵美さんとお会いしまして、その際に、明確に承ったことをもう１回整理しますと、「物ではなく人、すなわち教育に使ってください」と「なかんずく経済的事情で進学が困難な子どもたちに支援を差し伸べて欲しい」と。それから「この基金は、どんどん使って減っても構いませんよ」ということもおっしゃっておりまして、「こうした経済的に恵まれない子に使うということが生前から私が父から聞いておった父の意思に叶うものである」ということをおっしゃっておりました。

それで私のほうとしては、また改めてですね、「具体的にこういったことでいかがでしょうかという案を後日お示しさせていただきます」とこういう話をしてお暇したところでございます。その時点で、私この「夢実現応援給付金条例」ですか、この詳細をちょっと承知しておりませんでしたので、これをもう一回ベースにですね、見直しの必要があるかないかを検討した上で、改めて小川恵美さんのほうに確認をさせていただきたい。できるだけ早急に執行できるような形にもっていきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（山瀬義也君）　木下雄二君。

［登壇］

○１９番（木下雄二君）　はい、ありがとうございました。

私もですね、先ほど申しましたように小川恵美さんとは直接会って、そのお話は聞いておりますので、市長と同じ意見でございます。本当にですね、早く使ってくださいと、子どもたちのためにと本当に懇願されておりました。ですから私もその思いを前市長にも大分ぶつけましたけども、なかなか実現化していなかったのが現実でございます。

やっぱり菊池市においては、とにかくそんなに豊かな地域ではございませんので、やっぱり苦しい子どもたちがたくさんいると思います。そういう中でやっぱりチャンスを与えていただきたいと、そういう気持ちでずっとお願いしてまいりました。もう平成２０年ぐらいからずっと申し上げておりましたけども、もう２５年でございます。その間に大学に行けなかった子どもが何人かいるんじゃないかということで思っております。とにかくですね、この小川恵美さんについては、いろんな

泗水の方々の思いもあるかもしれませんけれども、菊池市にも打出五月さんという方が１億４００万円ぐらいですかね、寄附をされて、それもいうなれば市の奨学金に外れた分のその申し込みがあった分についての補充といいますか、それで打出基金というのが、これも平成２０年からずっと使われております。もちろん菊池市全体の奨学金でございますのでずっと活用されております。打出さんの思いは、やはり小川さんと同じような思いの中で活用されているというのが現実です。

今度は小川基金というのが本当に娘さんの意思はもうとにかく青少年のために一日も早く使っていただきたいというのが思いでございますので、ぜひともですね、来年度の奨学金制度の中にですね、組み込めるようにもうしっかりお願いしておきます。

それと、私ずっと前から入学準備金という形の中で申し上げておりますけれども、実際奨学金というのは、やっぱり大学に行き始めてからいただく奨学金だもんですから、非常にですね、その前の入学金というのが非常に保護者にとっては負担なんですね。ですから確か湯前町と熊本市ですか、熊本県下では２カ所ぐらいそういう入学準備金という形の制度を作っております。本当にですね、菊池市もそういう子どもたちのために先駆けてですね、ある程度金額も含めて、しっかり入学準備金については検討をしていただきたいと思います。よろしくお願いしときます。

それでは次に、空き店舗の対策について、特に温泉街の空き店舗の状況と対策についてお尋ねをいたします。

菊池市の温泉街の状況については、もう皆様も感じておられるように大変寂しい現状であり、非常に空き店舗が目立つようになりました。一度空いてしまうと何年も次の店が入ることがない状況が続いております。市としても商工会と連携をしながら、空き店舗対策に取り組んでいただいているようですが、現実は厳しいと思われます。

そこでお尋ねをいたしますが、空き店舗の対策の現状を示していただきたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　経済部長、平野國臣君。

［登壇］

○経済部長（平野國臣君）　木下議員の質問にお答えします。

空き店舗対策につきましては、商業地の活性化及び商業の振興を図ることを目的として、「菊池市空き店舗対策モデル事業補助金交付要綱」を定め、空き店舗を利用して新規出店される事業者またはコミュニティ施設及び共同施設として運営しようとする事業者に対しまして、補助金を交付しているところでございます。

補助金交付要綱で、借家料の２分の１以内で月額最高５万円、店舗の改修に要し

た費用の２分の１以内で限度額５０万円、その他借入金の利息や信用保証料の全部ということで補助内容を定めているところでございます。

補助金の交付実績につきましては、年度別の新規出店者に限って申し上げますと、平成２３年度は１店舗で１０５万円、平成２４年度は５店舗で２９２万１，９１７円、本年度は８月末現在で３店舗の交付額は３１２万９，８７９円と見込んでおります。その中で温泉街の飲食店につきましては、昨年度と本年度におのおの１店舗が本制度を活用されまして新規開業をされております。

長引く景気低迷や後継者不足などにより、街中には多数の空き店舗が存在しており、本制度の活用は商店街の活性化を図る上で有効な手段となりますので、今後とも引き続き商工会や商工会連合会などの関係機関と連携をいたしまして支援をしてまいりたいと考えております。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　木下雄二君。

［登壇］

○１９番（木下雄二君）　はい、ありがとうございました。

市の取り組みについてはですね、今、部長が報告がありましたので大体理解できましたけれども、しかし現実はですね、非常に国道沿いといいますか、メインストリートですね、そこが非常に空き店舗が多くて、夜は本当に火が消えているような状態でございます。だからある面ではこういう一般的なモデル事業とかそういうのももちろん必要ですけれども、やはりそこに、その地域に的を絞ってですね、何か具体的なですね、やっぱり施策をしていく時期がきていると思います。

それと来年は、温泉湯出６０周年とか、全国のさくらシンポジウムとかそういうのが控えておりますので、せめてチャレンジショップ的なものであってもですね、やっぱりその店舗に明かりがつくようなですね、やっぱりそういう仕掛けといいますか、そういうのが必要じゃないかというふうに思っております。この点についてはですね、市長もいろんなアイディアもあると思いますので、その点はちょっとお答えをいただきたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　空き店舗対策を通じた市の活性化ということと理解いたしました。空き店舗は街中に数多く存在している状況は、残念ながら私も認識しているところでございます。特に議員がご指摘なさいました国道沿いの温泉街周辺について、最近は空き店舗が非常に目立ってきておりまして、お泊まりの観光客の皆様には、大変寂しい印象を与えているだろうなと懸念もしておりますし、また菊池市全

体の雰囲気というものもですね、やはり活力がなかなか上がってこないというふうなことにつながるんだと思っております。

そういった意味ではですね、この空き店舗対策というのは市の活性化のひとつの大きな目に見える部分でございますので、市としても十分に力を入れて支援してまいりたいというふうに思っております。

経済産業省においてもですね、空き店舗対策についてコメントがございまして「単なる個人商店の対策としてだけではなく、商店街の活性化を含むまちづくりとして対策を講じなければならない」というふうに示してございます。私も全く同感でございます。そういう意味ではですね、「森の中のまちプロジェクト」というのは、それを一商店街というよりはもう少し幅広い単位でですね、付加価値を付けて人を呼び込む魅力作りにつなげていこうという、こういう構想でございます。ですから個別商店に出ていこうという方々に対してはですね、ぜひ、この背中を押してあげる支援策を続けていきたいと思いますけども、あわせまして、その商店会ないしは商工会等の皆様方ですね、どうすればその街全体が魅力ある商店街になるのか、そういったことにもぜひ自らより一層取り組んでいただくということが重要であろうと思いますので、こうした取り組みがございましたらですね、市としてもこの空き店舗対策と加えてですね、ぜひ、いろいろな強力、支援をしていきたいというふうに考えている次第でございます。

以上です。

○議長（山瀬義也君）　木下雄二君。

［登壇］

○１９番（木下雄二君）　はい、ありがとうございました。

山鹿がですね、八千代座に行く途中の空き店舗対策というのを大分前にやられたんですけれども、最初、１年目はとにかく家賃は全額補助と、その後だんだんだんだん減っていくと、自力が付けばもうその補助はなくなるとそういったいろんなアイディアもあると思うんですね。一律的に最初に補助するというのも、もちろん方法としていいかもしれませんけれども、やはり柔軟性を持ったですね、家賃補助も含め、それと今、オーナーの方々が空き店舗のままずっと何年も放置されておりますので、市としてもですね、やっぱりそういうオーナー様と交渉したり、いろんな方法を考えていただいて、できればですね、来年の温泉湯出とかそういうのに来られたときに、あの国道を通ったときにですね、ある面では空き店舗の看板だらけじゃなくて、１店舗でもですね、それがお店ができるように私どもも一生懸命協力してまいりますので、どうぞよろしくお願いしておきたいと思います。

それでは次に、学校統合のスクールバスの対応についてお尋ねをいたします。

今年の４月に大変残念でございますが、菊池北小学校に迫水小学校、龍門小学校、水源小学校が統合をいたしました。また隈府小学校に河原小学校も統合をいたしました。今回は特に菊池北小学校に通学している子どもたちのスクールバスの状況についてお尋ねですが、統合後初めての夏休みとなり、７月２２日から７月２６日までＰＴＡの地区懇談会が行われましたので、私も学校評議員として参加させていただきました。

保護者から意見の中にスクールバスの運行に対する苦情、要望が出ておりました。特に、スクールバスにクーラーが付いているのと付いていないのがあるとの意見がありましたので、びっくりして執行部のほうに確認しましたら、現実に付いてない車があるということでございました。

そこで、改めてお尋ねをいたしますが、統合後のスクールバスの運行の現状についてお示しをしていただきたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　教育部長、中村鉄男君。

［登壇］

○教育部長（中村鉄男君）　木下議員のご質問にお答えをいたしたいと思います。

お尋ねの統合後のスクールバスの運行状況でございますが、マイクロバスによる運行路線が１１路線、タクシーによる運行路線が３路線の合計１４路線で運行をいたしておりまして、小・中学生合わせまして２４６名の児童・生徒が利用をいたしております。学校統合によりまして前年の平成２４年度と比べ３路線が増加しているような状況でございます。

学校ごとの路線数で申し上げますと、菊池北小・菊池北中関係が１０路線、隈府小学校が１路線、旭志小・旭志中が２路線、七城小が１路線の運行となっております。

また、運行の委託先としましては、菊池市内で営業をされている５つの業者への委託で、委託料といたしましては６，３２２万７，０００円となっております。

本年度は、学校統合により初めてスクールバス等での登下校となる子どもたちもいることから、安全で安心して利用ができるよう、保護者や学校と協議を行いながら統合前の校区単位を基本とし、路線や乗降場所の決定を行ったところでございますが、現在までの運行につきましては、概ね順調に運行をされているところでございます。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　木下雄二君。

［登壇］

○１９番（木下雄二君）　はい、ありがとうございました。

教育部長は順調に運行されているということの答弁でございますけれども、私が先ほど指摘しました、エアコンが付いてる、クーラーが付いてる、付いてないということについての改善的なものについてはどうでしょうか。

○議長（山瀬義也君）　教育部長、中村鉄男君。

［登壇］

○教育部長（中村鉄男君）　再質問についてお答えを申し上げますが、エアコンが付いてないというバスにつきましては、以前、市のほうで所有をしておりましたマイクロバス、スクールバスに使っておったマイクロバスでございますが、それを譲渡したバスを利用されている関係で、本年度はエアコンがついてない状態で市のほうも利用しておりましたので、それをそのまま使っているということで、そういう事態が生じているところでございますので、来年度以降の入札にあたりましては、仕様書の中にエアコンあたりの設置を義務付けまして、すべての車両でエアコンが設置されたバスで運行できるようにもっていきたいというふうに考えております。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　木下雄二君。

［登壇］

○１９番（木下雄二君）　はい、ありがとうございました。

もうぜひともですね、改善をきちんとやってください。いずれにしても民間委託でございますので、きちんとしたマニュアルをもとにですね、子どもたちの安全確保が一番でございますので、そういうことについては緊張感を持ってやっていただきたいと思います。

これで質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。

○議長（山瀬義也君）　ここで昼食のため、暫時休憩します。午後の会議は、１時に再開します。

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

休憩　午後零時０４分

開議　午後零時５８分

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

○議長（山瀬義也君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

ここで執行部より発言の申し出があっておりますので、これを許します。

総務企画部長、野口祐成君。

［登壇］

○総務企画部長（野口祐成君）　議長のお許しをいただきましたので、一昨日の城議員の限界集落の現状についてのご質問の中で、高齢者比率の各地域ごとのご質問がご

ざいましたけども、私のほうで手元に資料がないということでお答えしておりましたので、まず、そのことについてお答えさせていただきます。

旧菊池地域が２万５，６２８人の人口に対しまして、７５歳以上の人口が７，６７８人、比率としまして２９．９６％でございます。それと七城地区が５，５７１人に対しまして、１，６１８人の２９．０４％でございます。それと旭志地域が４，９７４人に対しまして、１，５１３人の３０．４２％でございます。それと泗水地域が１万４，９９７人に対しまして、３，６２６人の２４．１８％でございます。

合計で申しますと、５万１，１７０人に対してまして、７５歳以上の人口が１万４，４３５人の２８．２１％でございます。

それと、先ほどの市長の木下議員のポケットパークについての質問に対しまして、県事業で行われたという答弁がございましたが、これにつきましては、菊池市都市再整備事業で国の補助を受けて整備された公園でございます。

以上、訂正をさせていただきます。申し訳ありませんでした。

○議長（山瀬義也君）　建設部長、松野浩一君。

［登壇］

○建設部長（松野浩一君）　先日、坂井正次議員のご質問の中で、本庁土木課が実施しております旧菊池市の工事路線の本数が、資料がございませんでお答えしておりませんでしたので、お答えさせていただきます。

本庁土木課が実施しております旧菊池市、平成１７年度から平成２５年度までの工事路線の本数につきましては、３４本となっているところでございます。

支所の分といたしまして２０本を本庁の土木課でやっているというところでございます。

○議長（山瀬義也君）　総務企画部長、野口祐成君。

［登壇］

○総務企画部長（野口祐成君）　先ほどのちょっとお答えした中で大変失礼いたしました。

私、７５歳以上と申しましたけど、６５歳以上の間違いでございます。

大変失礼いたしました。申し訳ありませんでした。

○議長（山瀬義也君）　建設部長、松野浩一君。

［登壇］

○建設部長（松野浩一君）　先日行いました城典臣議員のほうのでご質問がございまして、空き家を売りたい、貸したい方の情報は市に登録されているかということでございます。資料がございませんでしたので、そこについては後ほどお答えいたしますということで申し上げておりました。そのところについて、答弁のほうを申し上

げたいと思います。

空き家を売りたい、貸したい方の情報につきましては、市で登録をいたしまして、そして仲介者を希望される方には、市が協力提携している業者の方に紹介するというところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　一般質問を続けます。

次に、隈部忠宗君。

［登壇］

○１７番（隈部忠宗君）　お昼からの一番の質問でございますけれども、よろしくお願いいたします。

議席番号１７番、隈部でございます。議長より許可をいただきましたので、一般質問を行います。既に１７名の議員さんがそれぞれの質問の中で重複するところがあると思いますが、よろしくお願いをいたします。

本日、お昼のＮＨＫの番組で、ひるブラという番組がありますけれども、３０分の番組でした。菊池渓谷が放映されまして、改めて菊池のすばらしさを感じたところでございます。私は、朝今日７時５０分頃からですね、実は今日公民館講座の高齢者大学というのが七城であっております。私も大学生の一人ですので、朝早くからマイクロバスに乗りまして、七城をそれぞれの受講生の皆さん６４名の方をですね、マイクロバスで巡回して集めていきましたので乗りました。最高齢の方が９５歳でした。改めて感じましたことは、マイクロバス運行のありがたさ、それからそれによってお年寄りの方々の生き生きとした目、これを感じましてやっぱり高齢者の交通というのは、今後ぜひとも考えなければならないことだなということを感じました。

それでは、通告に従いまして一般質問をいたします。

今回の私の一般質問は、市長の公約でありました「市長と語る会」について出されました事柄について主に質問をしたいと思います。

まず、公約でありました「市長と語る会」についていち早く取り組まれたことを高く評価をしたいと思います。各地域でどのような意見・要望が出されたか、まず、お聞きをいたします。

次に、アンケート調査が行われておりますけれども、アンケート調査からアンケート調査の精査はどのように行われたかについて、２番目にお聞きをしたいと思います。

それから３番目以降につきましては、これは「市長と語る会」で出ました七城の会場で出ました意見の中で、これは重要だなということにつきましてお聞きをした

いと思います。

西郷地区における周辺整備はどうなっているか、これにつきましては平成２２年１２月砂田地区の５つの区から、区長さんから出されております西郷地区に周辺整備、特に駐車場、資料館、銅像を建設する。菊池源吾の銅像ですね、要望が出されております。地元区長さんからは、「その後何の連絡もないが、どうなっているんだろう」というようなご質問がありました。西郷地区は皆様ご承知のように、菊池一族の末裔で、西郷隆盛祖先の発祥の地でございます。

４番目に七城地区における高齢者の交通手段についてお伺いをしたいと思います。特に、七城地区だけ「べんりカー」あるいは「乗り合いタクシー」が運用されておりません。今日も高齢者大学で非常にそれを痛感し、高齢者の方々もぜひ何らかの形で運用して欲しいというような意見が出されておりました。

それから５番目に、これは私もショックでしたけれども、県外から定住した方の意見でした。菊池は「水はきれい」「環境はよい」ということで定住をしたけれども、「水は悪い」「１週間に１回前川水源に水を汲みに行っている」「環境もいいとは言えない」というような発言がありました。この対応についてどうするか。

まずは水についてでございますけれども、七城地区には飲料水の不適地域というのが、旧七城町のときからございましたけれども、それにつきまして浄水器の助成ですね、浄水器の助成は何戸で幾らされておるかをお聞きしたいと思います。

それから特に環境が悪いという中で、先ほども何人かの議員さんから質問があっておりましたけれども、畜産の公害ですね、これについては菊池市は定住を増やす場合、これ畜産農家との共存共栄というのは不可欠であります。私も畜産農家でありますが、サイレージのにおい等は特有のにおいがあります。やっぱり市外から来られた方には違和感があると思いますけれども、今後、共存共栄するために何が必要か、また先進地の事例等があったら紹介をしていただきたいと思います。

６つ目に、スーパー公務員とはということについてお聞きをしたいと思います。スーパー公務員とはマスコミが付けた名前かもしれませんけれども、質問の中で市役所にいろんな電話をすると「できません、できません」ということで、できないのをできるようにするのが公務員の役割じゃないかというようなことをおっしゃいました。ユーチューブにですね、スーパー公務員というのが２時間ぐらいであるそうであります。私も聞きましたけれども、市長は大変お忙しいので聞いてはおられないかとも思いますけれども、その中で羽咋市職員のですね、高野誠鮮氏かな、神子原米ということで載っておりました。それからもう一人、副市長と同姓同名の方ですけれども、木村俊昭氏の例が載っておりました。もし市長お聞きでございましたら、感想をお願いしたいと思います。

以上、第１回目の質問にいたします。

○議長（山瀬義也君）　総務企画部長、野口祐成君。

［登壇］

○総務企画部長（野口祐成君）　隈部議員の「市長と語る会」を通じてのご質問にお答えいたします。６点のご質問であったと思いますけど、私のほうから５点につきましてお答えさせていただきます。

まず、各地域でどのような意見・要望が出されたかというご質問でございますけども、８月に実施いたしました「市長と語る会」では、出席された市民の皆様からたくさんのご意見、ご要望をいただきましたが、すべて紹介することはできませんので、その一部をご紹介させていただきます。

まず、泗水会場の意見としましては、「市長の施策を推進するためのメンバーはどうするのか」「企業の経営手段ＰＤＣＡを具体的に聞かせてほしい」「高校が発展するためにどのような施策を行うのか」「菊池の文化を知るための副読本を作ってほしい」「田島工業団地の企業誘致を今後どうするのか聞かせてほしい」などがございました。

次に、七城会場でのご意見は、「菊池に見切りをつけている人が多い、どのように解決していくのか」「拠点間の結びつきを円滑にして、スポーツ・教育・学習の場としての施策を講じてはどうか」「市長の施策に対する途中経過報告がない」「合併前のイベントを復活させてほしい」「なぜ七城だけが、乗り合いタクシーがないのか」などがございました。

旭志会場でのご意見は、「ＲＤＦ施設の延長について説明をしてほしい」「桜だけではなく、花などを利用し年間を通して観光客が訪れる施策をお願いしたい」「小水力発電について市長の考えを聞きたい」「ホタル公園を整備できないか」などがございました。

最後の菊池会場での意見は、「庁舎建設や職員の数、市の無駄遣いについて」「市内に残る銘樹巨木を、市の観光に活かしてほしい」「菊池遺産の有効活用を」「菊池を愛する心を育てるため、教育に力を入れてほしい」などでございました。

今後、これらのご意見につきましては、市ホームページや広報誌に掲載していく予定でございます。

次に、アンケート調査についてでございますけども、市長と語る会のアンケートは、４会場で合計１８６人の出席者のうち、１５９人の皆様から提出いただき、回収率約８５％でございました。アンケートの分析から分かることは、６０歳以上の参加者が１２４人で約７９％、女性の参加が３７人で約２３％、若い世代と女性の参加が少ないことがわかります。

そのほかにも、今回のテーマ設定の有無やテーマの分かりやすさ、参加人数、時間などについて集計しておりますが、すべての項目において、今回実施した内容で「よかった」と答えられた方が一番多い状況でございました。

そのほか、自由意見としましては、開催方法で「校区単位で開催してほしい」とか「今後も続けてほしい」など。討論については、「質問者の話が長く、自分が質問したくてもできなかった」「ネガティブな意見が多く、もっとポジティブな意見交換会をしたい」など。そのほかにも多くのご意見が出されておりましたが、その多くは今回の「市長と語る会」の開催について好意的なものでございました。

今後、アンケートの結果を参考に、今後の「市長と語る会」の開催方法を検討してまいりたいと思います。

また、さまざまなご意見につきましても、職員全員で施政運営に反映するよう努めてまいります。

次に、西郷地区における周辺整備の５つの区の区長様からの要望書についてでございますけども、ご質問がありました要望書は、議員が先ほど述べられましたように、平成２２年１２月１６日に西郷地区に隣接する砂田地区の５つの区の区長から提出されております。

市としましては、要望の内容を踏まえ、平成２３年度から平成２４年度にかけて七城地区の社会資本総合整備計画策定事業の中で、西郷地区における公園整備として、広場やトイレ、駐車場やモニュメント等について検討してまいりました。検討にあたりましては、七城地区全体の計画であることからほかの事業を含め、七城地区区長会や地域審議会に説明や意見聴取を行ってまいりましたが、社会資本総合整備計画に位置付ける事業全体の精査が必要となり、今のところ事業の申請までには至っておりません。

今後も引き続き、全体事業の精査を実施する中で、関係区及び地域審議会の意見を踏まえながら、社会資本総合整備計画事業を含め、西郷地区における公園等の周辺整備についても検討してまいりたいと考えております。

次に、高齢者の交通手段についてでございます。

本市においては、路線バス、あいのりタクシー、べんりカーによる交通体系を構築しております。

このような中、七城地域においては、現在、路線バスでの交通体系が主となっておりまして、３路線の熊本電鉄バス、１路線の産交バスが運行を行っているところでございます。熊本電鉄バスの内訳は、１つ目の路線としまして、交通センターから田島・七城を経由し菊池プラザまでの平日５便、土日・祝日３便がございます。２つ目に、高江から七城南地区を経由して山鹿バスセンターまで運行しております

のが、平日で２便ございます。３つ目に、御代志から七城を経由して菊池温泉・市民広場まで運行しておりますのが、平日２便となっております。

産交バスでは、肥後大津駅から七城北地区を経由して山鹿バスセンターまで平日が１１便、土曜が１０便、日・祝日が８便でございます。

一方、本市においての公共交通空白地域への対応でございますが、平成１８年１０月の「水源地域線」「龍門地域線」に始まり、平成２０年４月に「泗水西部地域線」、平成２１年１０月に「泗水東部地域線」、平成２３年４月に「旭志東部地域線」にあいのりタクシーを導入するなど、順次、市民の皆様のお声をお聞きして、ニーズにお応えしているところでございます。

このようなことから、バス路線により、七城地域においての日常生活に必要な生活交通を確保しておりますが、「バス停まで遠い」という声もございますので、利用状況、費用面、既存路線との調整などを行い、今後交通体系を検討してまいりたいと思います。

それとスーパー公務員とはどのような公務員かというようなお尋ねでございますが、スーパー公務員は２００５年に開設した「スーパー公務員育成塾」で、「自ら考え、リスクも取りながら政策を立案する。調整型から立案型への転換が２１世紀に求められる公務員像ではないか」という論理の中で、２１世紀型の理想的な公務員像として言われるようになったと聞いております。

確かに、今後地方自治体が自ら方向性を示し、住民のニーズに応えていくためには、理想となる公務員像であると認識しています。

その代表的な方が、先ほど議員のほうからもご紹介がございましたけども、石川県羽咋市の職員で、高野誠鮮氏や北海道小樽市職員の木村俊昭氏であると思っております。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　水道局長長、原和徳君。

［登壇］

○水道局長（原　和徳君）　皆さんこんにちは。隈部議員のご質問にお答えさせていただきます。

水道法の第１条に、水道事業は清浄にして豊富な低廉な水の供給を図り、もって公衆衛生の向上と生活環境の改善に寄与することを目的としています。

本市の水道普及率は平成２３年度末現在８０．４％となっております。これは全国平均９７．６％、熊本県平均８６．３％と比べて低くなっているところでございますが、主な要因としましては、七城地区に市営水道が普及していないことにあります。

議員ご質問の旧七城町での浄水器に対する補助制度につきましては、現在も引き続き補助制度を実施しているところでございます。この補助制度の内容は、水道事業認可区域外で、飲料水に含まれるフッ素及び硝酸態窒素の濃度が水質基準値の８割を超える数値を示した飲用水について「菊池市フッ素及び硝酸態窒素除去器設置補助金交付要綱」に基づき、除去器設置費用の３分の１以内で１０万円を限度として補助金の交付をしているところでございます。この補助金の交付実績は、合併の平成１７年度から現在まで１０件、９６万9,８５０円を交付しているところでございます。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　経済部長、平野國臣君。

［登壇］

○経済部長（平野國臣君）　隈部議員の畜産農家と周辺住民の共存共栄のための質問についてお答えします。

本市における定住化の促進と安定的な畜産振興を図る上では、周辺住民の皆様と畜産農家の方との共存共栄が望まれるところであります。しかし、今日のように畜産経営の大規模化が進み、居住地区と畜産経営が混在化してまいりますと、畜産経営に起因する悪臭等に対しての苦情が寄せられている状況でございます。

このような中、共存共栄のためには、お互いが理解し尊重し合うことが必要であると考えております。

まず、畜産農家におかれましては、周辺環境に対する強い意識付けや配慮、また万一環境問題が発生した場合については、早急な改善策を講じる真摯な姿勢と対応力が求められているものと考えております。

一方で、周辺住民の皆様におかれましても、畜産農家が担う役割への理解と認識を深めていただくことが大事であると考えております。

市としましても、苦情等に対する迅速な対応はもとより、今後も農畜産物の消費拡大とあわせながら、市民の皆様にご理解いただけるような取り組みを進めてまいりたいと考えております。

また、先進事例ということでありますが、現在のところ把握をいたしておりません。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　それでは私に対する質問の中で、スーパー公務員を見ての感想ということで申し述べたいと思います。

この高野誠鮮さん、それから木村俊昭さんのお名前をお挙げになりましたが、お二人共ですね、ビデオのほうは見させていただいております。

高野誠鮮さんにつきましては、実は私のこの政策の基礎となったまちおこしのプランを練るときの参考にしたお一人でございまして、神子原米等を中心に小さな山村を盛り上げたと、盛り立てたということで非常に有名になった方というふうに承知しております。

改めてビデオのほうを見させてもらいましたらば、大変柔軟な発想力をお持ちだということと、たくさんのアイディアをお持ちなんですけども、すべて基本理念とかですね、哲学というものに裏打ちされたものであるなということを改めて感じました。

それからやはり特に販売戦略のところについては、人間の心理というものをよくお考えになっているなと。それからまずやってみるという実践力が豊かな方であるということで、大変学ぶべきところが大であるというふうに考えたわけでございます。

一言で言えば、大変すばらしいプロデューサー機能をお持ちだなというふうに感じたところです。幾つか紹介されたアイディア、実例の中にもですね、私どもが既に考えている事柄に大変相通ずるものがあって自信を深めたという部分もございますし、これから改めて応用ができそうだなということでも大変勉強になったところでございます。

それから、木村俊昭さん、これはビデオのほうの木村さんでございますけども、大変この方もすばらしい経歴をお持ちでございまして、今でこそ小樽の街というのが、夜の赤レンガを街灯で灯してということで綺麗な姿になっておりますけども、あれを仕掛けた方というふうに理解しておりましてですね、やはり大変なアイディアマンでいらっしゃると。加えまして大変論理的な進め方をなさっているということで、中央官庁にも採用されたりですね、その後に大学の講師等も務められたということで、アイディアとそれを裏打ちするこの論理性といいましょうかね、これが大変バランスのいい方だなという印象を受けました。

この木村俊昭さんにつきましては、実はこの間もなく、１０月１日であったと記憶しておるんですが、こちらの団体の招きで菊池で講演をなさることになっておりまして、その折に私と後援会長とですね、討論会をやらせていただく手はずにもなっておりますので、大変楽しみにしておるところでございますので、直接生の声でいろいろとアイディアをお聞かせいただきたいというふうに思っておるところでございます。

以上でございます。ありがとうございました。

○議長（山瀬義也君）　隈部忠宗君。

［登壇］

○１７番（隈部忠宗君）　一番目のどのような「市長と語る会」に意見が出されたかということにつきましては、それぞれの４会場で出た主な意見についてお聞きをしました。この中で、まず特に弱者と呼ばれる方々の声がですね、どの程度届いたのかですね、高齢者の方が多いと聞きましたけれども、お尋ねをしたいと思います。

また、全体的に市長と語る会での市長のですね、感想、考え方をお伺いをしたいと思います。

それからアンケート調査につきましては、特に６０歳以上は７９％ということでございました。女性と若い人の参加が少なかったということでございますけれども、この結果を受けて今後どのように対応するか、取り組まれるかお聞きをしたいと思います。

３つ目の菊池源吾、すなわち西郷地区の周辺整備でございますけれども、ぜひ今後の審議会等で検討していただいてですね、採択をしてほしいと思っております。特に菊池源吾につきましては、龍郷町と昨年友好都市を結びましたし、子どもさんの名前も菊次郎、菊草（菊子）ですね、であったというところから非常に西郷地区にまちおこしの拠点になるのではないかと思っております。

特に資料館につきましてはですね、資料館が必要だろうかと前市長はおっしゃいましたけれども、龍郷町に遷居した３年余りの菊池源吾という名前で出された手紙が４通ほどあるそうでございますけれども、そういうものとか、それとか鹿児島の西郷南州記念館からもレプリカではございますけれども提供したいというようなことでございますし、また西郷南州の遺訓集というのがありますけれども、これは戊辰戦争により寛大な措置を受けた庄内藩の武士の方々が、西郷南州のいろんな教えを集大成したものでありますけれども、これなんかものすごく教育関係にも役立つものと思います。ぜひ、資料館も検討していただきたいと思います。

それから銅像についてはですね、銅像ができれば、菊池源吾の銅像ができれば一番いいのでありますけれども、私は最初は石像でもいいと思います。温泉ドームにですね、二宮金次郎の石像があります。これはまきを背負って読書する二宮尊徳の石像ですけれども、私は必ず一礼をして帰るわけでございますけれども、自分の生涯を自分のためではなくて、農村のために捧げたという功徳の教えですね、これを小さい頃教わったことがありますので、一礼をして帰るわけでございますけれども、そういった目に見える形でですね、表していただければ教育の振興にも役立つのではないかと思います。ぜひ、ご検討をお願いいたします。

それから、４番目のですね、七城地域における高齢者の交通手段ですけれども、

部長おっしゃいましたように中央を公共交通が通っております。しかし、七城の地形は周辺に集落が集まっておりまして、その公共交通の停留所まで行くのにですね、５００ｍから１ｋｍ、遠いところは２ｋｍぐらいあるわけでありまして、何とか地域福祉の観点からですね、交通手段をですね、ぜひ考えてほしいと思っております。

それから５番目の水質と畜産関係でございますけれども、水質についてはですね、合併してすぐ上水道の整備に関するアンケート調査というのがあっておりますけれども、この結果につきましてお尋ねを申し上げたいと思います。

もし、上水道をですね、整備するとすれば概算どのくらいかかるかもお示しいただければ幸いと存じます。

それから畜産関係でございますけれども、先進事例についてはなかなか紹介する先進的な事例がないということでございますけれども、畜産地帯であります愛知県知多半島の例とか、都市近郊の畜産地帯の例とかをぜひ調査していただきたいと思います。また、消臭剤ですね、消臭剤なんかも開発が進んでいるんではないかと思いますけれども、もしあればですね、ぜひお聞かせ願いたいと思います。

それから畜産農家と地域住民との交流と相互理解も今後必要であると思いますけれども、畜産地帯であります菊池、それから定住人口を増やさなければならない菊池としては大きな問題であると思いますけれども、市長の見解をお聞きしたいと思います。

それからスーパー公務員につきましては、市長は大変お勉強されて詳しく説明がありましてありがとうございました。ぜひ、羽咋市ですね、羽咋市のほうにも職員の方を派遣していただきましてですね、いろいろ調査をされて能登半島の石川県のほうにもぜひ、現地を視察にやっていただきたいと思います。

それから、高野誠鮮氏の自然農法に関するですね、やり方には非常に私も感銘をいたしました。これから菊池の安全・安心の農畜産物を生産する上では、この自然農法の考え方というのは取り入れていいんじゃないかと思います。この人の持論ですけれども、日本の国の歳入は４８兆円であるそうですけれども、２８兆円もの医療費を使っている、というのは、良くないものを食べる。結局は、食べ物が悪いからこういう病気になるんだという考えで、農薬、化学肥料、除草剤、これを一切使わない農業というものを推進しておられます。皆様もご承知のように、青森県弘前市に「奇跡のリンゴ」というのを作っておられます木村秋則さんという方がおられますけれども、この方を講師にして何回も勉強会を開いて、自然農法の研究をされております。自然農法で作った野菜・果物はですね、枯れるそうです。腐るということは悪い食べ物というような考えでありますので、腐る食べ物を食べたら病気に

なる、腐らない枯れる食べ物を作らないかんというのが、この持論でありまして、菊池市もぜひ取り入れたい自然農法ではないかと思いますので、この辺の市長の考えもお聞きしたいと思います。

よろしくお願いします。

○議長（山瀬義也君）　総務企画部長、野口祐成君。

［登壇］

○総務企画部長（野口祐成君）　それでは、たくさんご質問がございましたけども、私のほうから３点だけお答えさせていただきたいと思います。

まずは、「市長と語る会」についての弱者の声というようなお話でございましたけども、今回「市長と語る会」を開催して、先ほどもちょっと申し上げましたけども、アンケートの結果あたりを見ると、この開催がされたことにつきまして皆さん参加をいただき、内容については好意的なものでございました。その中で前向きなご意見が大変多かったと思います。それと弱者というのが捉え方にもよりますけども、トータルの中では先ほど議員この中でご質問されてますけども、交通体系のそういう部分が強く印象に残っているところでございます。それにつきましては、今回も昨日、坂本議員のご質問等にもお答えしましたけども、企画サイドでも現在において徐々に進めているところでございますけども、全体を見渡したときのそういう部分で予算も伴いますけども、そういうことも含めながら可能な限りいい方法がないかということでいろんな形で検討を行っておりますので、そういう形で職員全員で反映できるような形に進めていきたいと思います。また、それ以外のご意見の中でもそういう意識を持って進めていきたいと考えております。

それとアンケートの結果を受けてどのように対応するのかというようなございましたけども、同じような回答になるかもしれませんけども、「市長と語る会」の市長からも発言がございましたけども、全職員共通の認識のもとに精査し、施策や事業に反映できるように体制を構築していきたいと思います。また、これも重複しますけども、ホームページや広報きくち等により市民の皆様へ公開して、また次に挑みたいと考えております。

それと西郷地区における周辺整備の部分でございますけども、周辺の環境整備をお願いするというようなご質問だったかと思いますけども、幕末から明治にかけての政治家で、明治維新、西南の役等で名を馳せた西郷隆盛公の祖先発祥の地が西郷地区でございますので、ご要望等も上がっておりますけども、西郷地区公民館前には徳富蘇峰の筆による西郷南州祖先発祥の地という記念碑が建てられており、南北朝時代に全国に名を馳せた菊池一族の流れであるということは、歴史的にも貴重であると思っております。生涯のうち約３年間を菊池源吾と名前を変えて、友好都市

である奄美大島の龍郷町に居住し、その住まいやさまざまな資料が残されているところでもございます。地元からの要望があっております駐車場、資料館、銅像、先ほど議員のほうから石像というようなお話もございましたけども、つきましては、資料館にこうした資料等がレプリカを含め、展示品として収集が可能かどうか、また管理運営について、コスト面からも問題がないかなどのその実現性、必要性について駐車場、銅像も含めて、さらに検討を行う必要があると思っております。今後、地元及び関係団体と協議をしながら、先ほど申し上げましたとおり、社会資本総合整備計画事業を含め、引き続き検討を行ってまいりたいと思います。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　水道局長、原和徳君。

［登壇］

○水道局長（原　和徳君）　隈部議員のアンケートに関する部分のほうを水道局のほうで回答させていただきます。

七城地区の水道整備の方向性を検討するため、平成２０年１１月に七城地区全世帯を対象に上水道整備等に関するアンケート調査を実施いたしました。アンケートは1,０７１世帯から回答をいただき回収率６９．１％でございました。主な内容につきまして申し上げますと、「飲料水への不安はありますか」の質問に対して、「非常に不安」、「やや不安」と回答されたのが３２５世帯、３０．３％、「公営水道事業は必要だと思いますか」について、「必要」と回答されたのが２４７世帯、２３．１％、「水道が整備されたら加入を希望しますか」について、「加入する」と回答されたのが１６９世帯、１５．８％という結果でございました。

また、七城地区に上水道を整備する場合の概算事業費につきましては、２４億円程度を見込んでいるところでございます。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　それでは私のほうから何点かの答弁をさせていただきます。

まず、「市長と語る会」についての私の感想をということでございますが、市民の方々の貴重な生の声を聞ける機会でもございまして、私としては大変意義のある会だったと考えておりますので、またできればこれを続けていきたいというふうに考えております。今のところはアンケート内容から見ますとですね、時間・人数・テーマ等については、今のやり方を基本にしながらということではございますけども、また世代別のような工夫も少し検討してみたいというふうに考えているところでございます。

その中で出ました意見の施策への反映でございますけども、市民の皆様からいただいた貴重なご意見でございますので、まずは全職員のもとでですね、問題点を共通認識するということはまずスタートでございます。その上で、それぞれの持ち場で事案を整理しましてですね、その中で施策に反映すべきもの、そうでないものということを整理しまして、この施策や体制等に極力反映できるように検討してまいりたいというふうに考えております。

それから、特にご指摘のございました高齢者の交通問題も、当然この中に含めて検討を進めていきたいというふうに考えているところでございます。

それから、畜産の影響、いわゆる水の部分それからにおいの部分でございますけども、これも畜産農家とのですね、住民との相互交流というところについては、私どもも引き続き円滑にこれが進むように、行政の側からも働きかけていきたいと思います。

この問題に対する私どもの基本的なスタンスというのは、やはり何回も繰り返しになりますけども、今、行っています政策というのは、菊池の自然力を活用していこうという政策でございますので、水のダメージというのはもう都市にとって計り知れないということでございますので、一番力を入れてやっていく部分というふうには考えております。まずは、その現状の本質を知ることが一番というふうに思っておりますので、県とも協働しましてですね、連携をとりまして、県のやっております定期的な調査結果等も注視しながら、自体をきっちりと見極めていきたいというふうに考えております。

それから、スーパー公務員の件に関して、羽咋への派遣をしたらどうかというご提案につきましては、羽咋を含めてですね、羽咋も候補の一つとしていろいろな職員の外を見る体験ということで、研修の機会をこれからつくっていきたいというふうに考えているところです。

それから最後に、自然農法に関するご質問でございますが、これは大変恐縮ですが、ご通告をいただいている内容に該当しませんので、割愛させていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

以上です。

○議長（山瀬義也君）　隈部忠宗君。

［登壇］

○１７番（隈部忠宗君）　はい、ありがとうございました。

水関係につきましてはですね、引き続き飲料水の調査をですね、七城地区については続けていっていただきたいと思います。その後、折を見てですね、アンケート調査等もしていただきたいと思います。

次に、２番目の新市建設計画について質問をしたいと思います。

時間も過ぎてまいりましたし、三本の矢ということで、最後の矢がちょっと弱いかもしれませんけれども、新市計画、当初はですね、４３０億円というのが１９年の２月に見直しが行われました。６月の議会では、平成２２年までの執行率が示されまして、七城は４６．６％ということで低いということで、ぜひほかの地域に合わせてお願いしたいと思いますけれども、先日の報告の中で、平成２４年度の執行率、それから今年度予算の配分がありましたけれども、それについても七城の執行率は４５．９％ということで、他地域から見れば低いわけでありまして、今後、地域審議会とか、それからそれぞれ市道改良及び橋りょう架け替え要望書等が６つの集落から出ておりますけれども、そういうのを勘案してぜひ、配慮して欲しいと思いますけれども、七城地域におきましては、社会資本整備事業、平成２３年１１月の採択が行われなかったということで執行率が低いと思いますけれども、今後どのように対応していくか、お聞かせを願いたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　新市建設計画についての七城地域の事業に関するご質問でございます。これまでの答弁の繰り返しになるのはどうぞお許しください。

旧４市町村から出されました新市建設計画の普通建設事業につきましては、旧市町村間において進捗状況に確かにばらつきが生じておるわけでございます。繰り返し申し上げておりますとおり、これにつきましては各事業の緊急性それから必要性、並びに旧市町村間の均衡に考慮いたしまして、これまで計画されていた事業に加えまして、新たに必要な事業がもし発生すればそれも含めてですね、全市的に事業の見通しをもう一回検証して、見直しする必要があるというふうに考えております。

また一方で、将来の財政見通しを考慮しまして、市の負担を極力軽減できますように、一つには国や県の補助金あるいは有利な地方債等を活用しながら事業を選択し、見直しを図る必要があるというふうに考えております。

現在、庁内で調整会議を開催しまして、新市建設計画の検討見直しを行っているところでありますので、今後は市議会等のご意見も伺いながら、検討を進めてまいりたいというふうに考えております。

どうぞご理解をいただきますようお願いいたします。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　ここで１０分間、暫時休憩いたします。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

休憩　午後１時５６分

開議　午後２時０６分

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

○議長（山瀬義也君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、東英俊君。

［登壇］

○８番（東　英俊君）　無所属の東英俊でございます。大変長かった一般質問も私が最後となりました。どうぞ最後までお付き合いをよろしくお願い申し上げたいと思います。

今回は、本当に久々の健康福祉部宮本部長への一般質問だというところでありまして、今回、以前提言をいたしました子宮頸がんワクチンの拙速な摂取をやめるべき以来の健康福祉部宮本部長への一般質問であります。その頃から宮本部長とは、政策、施策とか考え方が私と同じだなと思っております。今回もしっかり何を質問するのか、何を聞きたいのかを打ち合わせを行ってからの一般質問でもありますし、何もお手元の答弁書どおりに答えられなくても結構ですから、ということをお願いいたしまして、通告に従いまして一般質問に入りたいと思います。

今回は、高齢者福祉の観点からであります。このことに関しましては、今定例会、一般質問の初日に私が尊敬してやまない母なる存在の怒留湯健蓉議員もされておられます。それも踏まえまして、一般質問を行いたいと思います。

私もこの数年間、本市をさまざまな角度から見て、そして一般質問で提言をし、議会の常任委員会のほうも建設委員会、福祉厚生常任委員会、それと現在、総務文教常任委員会とやってきております。

本市において高齢者対策、少子化対策に重点を置いた社会保障政策が待ったなしの現状だというふうに感じますし、この点をクリアしない限りは、安全・安心の本市の将来はないものと実感をしております。高齢者福祉対策は、少子高齢化により、日々時代の大きな潮流となってきております。本市だけに限らず他の自治体、とりわけ大都市圏においても大変頭を抱える重要な大きな問題となってきておるようでございます。国の動向を踏まえまして、さらなる将来を見据えた事前の福祉施策を今のうちから想定をいたしまして、立てておくことが重要であることを申し述べておきます。

１９９７年、平成９年１２月に介護保険法が成立をし、２年間の準備をした上で２０００年の平成１２年４月から施行されて、今年で１３年目になります。その頃からすると介護保険制度も地域福祉のあり方も、かなり大きな変化が生まれてきております。

まず、２００６年の４月から介護予防を重視してから、要介護の認定基準に要支援の２段階を付け加え、介護保険の中に介護予防サービスができました。また、同時期にグループホームなどの地域密着型の在宅介護施策が取り入れられ、また、介護予防を主眼に地域包括支援センターが設けられ、保健師、社会福祉士、主任ケアマネージャーを必ず置くこととしており、またこれらとは別に２００２年には社会福祉事業法改正で、地域福祉計画の策定が市区町村の努力義務とされているところであります。

そうした中、今年８月に政府の社会保障制度改革国民会議は、消費増税に合わせて実施する社会保障改革案の報告書を安倍首相に提出をいたしました。その報告書では、これまで高齢世代の中心だった給付を子育て世代などにシフトをし、高齢者でも所得のある人には応分の負担を求めるという方針を打ち出しており、内容的には、これまでに効率化、充実策の具体策が確定していなかった医療介護、特に医療改革が中心となっております。要するに政府の社会保障制度改革国民会議の社会保障改革案の報告書の中で、介護保険分野において、要支援者への予防給付を自治体事業である地域支援事業に移行させるとのことであります。全国的に見れば、要支援者の数は介護が必要と認定された人の全体の２６％に当たる約３３万人いるとされております。

そこでまず、４点お聞きをいたします。

市長が掲げられている「癒しの里構想」のコンセプトは何であるか。

２点目に、本市における介護認定者総数、要支援者数及び介護サービス利用者数は何人か。

３点目に、社会保障制度改革国民会議の安倍首相への報告を受けて、要支援者への予防給付が自治体事業と移行となった場合、本市として考えられるサービス提供のあり方は。

４点目に、現在、社会福祉協議会が受託をしている介護予防利用者、いわゆるボーダー層と呼ばれている方々に行われている生活援助サービスの価値や効果をどのように当局は理解をされているのか。

以上、１回目の質問といたします。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　それでは東英俊議員さんの質問の中から、私のほうから「癒しの里構想」のコンセプトについてご回答申し上げたいと思います。

私の考えます癒しの里というのは、この中に大きく言うと二つの側面がございます。まず一つはですね、菊池の経済を活性化していく上において、私はそのキーワ

ードを「自然力」ということに求めております。この菊池の自然力を今の時代をよく考慮してですね、時代の潮流を反映して、この観光業と農業というものを活性化していこうというふうに考えているわけですが、とりわけこの経済活性化をする際には追い求める共通のイメージをですね、みんなで共有していかなきゃいかんと。そのときの一つのイメージ像としてつくったものがまず一つの側面でございまして、これから自然を使って、この永続的な発展をしていくためにですね、今、物の時代が終わって、心の時代がきておると言われておりますが、人々が求めているのは、実は物ではなくて心であると。そのための対価を惜しまない時代になっております。それをこの菊池市で追い求めていこうと。

ですから、特に交流人口をこれから増やしていくということが観光業の一つの鍵になってきます。それから、なるべく滞在型につなげていこうということが重要になってまいります。そのために菊池市が魅力のあるまちにならなければいけませので、それをひとつ体現したものとして「癒しの里」という目標像を打ち立てたのが一つでございます。このことは、農業に対してもですね、清らかな自然のイメージということで、必ずや相乗効果をもたらすものというふうに思っております。

第２点目は、観光客だけではなくてですね、菊池市民自身が、このまちに生まれてよかったと言えるような本当の意味での癒しの空間を作りだすと、これが２つ目の大きな目的でございます。いわば住民自身の求める価値を体現した言葉というのがこの「癒しの里」というものでございます。別の言葉で言えば、これから必ずしも物ではない、心の充足ということが非常に大事になってきますので、菊池市民の生活の質を上げていくということを込めた言葉であります。

ですから、経済面それから福祉面、いろんな施策をこれから行っていくわけでございますけども、農業を進めるにおいても、観光を進めるにおいても、福祉政策を進めるにおいても、必ず我々が戻るべき根っこの部分、これが「癒しの里」ということで体現しているというふうにご理解いただければというふうに思います。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　健康福祉部長、宮本誠一君。

［登壇］

○健康福祉部長（宮本誠一君）　東議員さんの質問にお答えいたします。

「安心・安全の癒しの里」を実現するためには、予防医療の充実などにより、誰もが健康に暮らし、安心して子育てのできる環境づくりを行い、障がいのある方や高齢者を「ともに支え合う社会」にすることが必要であると思っております。

それでは、まず最初に本市の介護認定者総数についてお答えします。

平成２５年３月末現在の介護認定者総数は２，９７９人であり、うち要支援認定

者数は、「要支援１」３１３人、「要支援２」３６９人で、合わせて６８２人となっております。その中で介護サービス利用者数は、「要支援１」１８０人、「要支援２」２７５人で、合わせますと４５５人で利用率６９．５％となっております。

続きまして、社会保障制度改革国民会議の報告を受けて、介護保険制度では要支援者への予防給付が自治体事業に移行された場合、考えられるサービス提供は、支援や介護を必要とする高齢者が住みなれた地域で、尊厳ある生活を可能な限り継続できる体制の整備を図る、地域包括ケアシステムの構築こそが最大の課題であると言われています。

その地域包括ケアシステムの構築に向けての具体策の一つとして、要支援者に対する介護予防給付については、市町村が地域の実情に応じて住民主体の取り組みなどを積極的に活用しながら柔軟かつ効率的にサービスを提供できるよう、受け皿を確保しながら、報告書に示されております仮称ですが、「地域包括推進事業」に段階的に移行されていく方向です。

本市では、平成２６年度に第６期介護保険計画策定を予定しており、策定に伴い、本年度市民を対象に、日常生活圏域ニーズ調査を計画しております。この調査により、地域の実態やニーズを把握するとともに、地域包括支援センターで実施する地域ケア会議により課題を導き出し、問題解決のための手法などを構築してまいります。

また、今後、高齢者の皆様ができる限り自立した生活を送れるように支援できる体制をつくっていくために、予防給付移行後、現在「地域支援事業」で実施しております要支援や要介護になる可能性の高い虚弱な高齢者を対象とする通所や訪問による介護予防事業とあわせて「地域包括推進事業」の中で、どのように取り組んでいくか、第６期介護保険計画策定とあわせて検討していきたいと考えております。

本市における生活支援サービスは、家に閉じこもりがちな高齢者を対象としたデイサービスや地域で行うミニデイサービスなどの「ふれあい通所事業」、ひとり暮らしや高齢者世帯を対象としたヘルパー派遣事業や配食サービス、緊急通報装置などを行っております。

これらの事業により、要支援・要介護状態になる恐れのある高齢者の方々と人との交流の機会も増え、自立した生活を送ることができるとともに、社会的孤立感の解消や生きがいづくりにもなり、さらには家族の負担軽減にもつながっており、介護予防事業としての効果は大きいものと思っております。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　東英俊君。

［登壇］

○８番（東　英俊君）　まず、市長にですね、お聞きをした「癒しの里構想」なんですけども、この文言に対して非常に市民の方々、特に高齢者の方々、それと社会福祉事業に携わっておられる方々が、「癒しの里」というところに大きな期待をされていたというところで、コンセプトをお聞きしたわけでございます。

２つの側面「自然力」と「市民が本当にこの菊池市に住んでよかった」というところで、いわゆるこの高齢者の方々や社会福祉事業者が望んでおられたコンセプトとは若干かけ離れているというところが実情かというふうに指摘だけはさせていただきたいというふうに思っております。

また、部長の答弁を整理いたしまして、菊池市において介護認定総数が２，９７９人と要支援１、２合わせて６８２人で、サービスを受けている方々が４５５人ということであったかと思います。

菊池市の社協のほうで、ちょっと調べた場合に介護保険サービス利用者総数が、社協だけの場合で今３０３人、訪問介護とデイサービスの８月末現在でありますけども、約３６．９％の１１２人が要支援者だというふうな報告は、社協のほうから私は受けております。

要支援１、２の区分というものは、介護保険認定者の中でも最も介護の必要度が低い方々でありまして、在宅生活において日常生活の基本動作はある程度自立できても、食事づくり、買い物、掃除、外出、見守りと一部に支援を必要とされる人たちであるのは、認識をされておるところだというふうに思っております。

サービスがこれまでどおりに受けられないとなると、在宅生活に支障を来して、悪化を促進させる事態も考えられますし、また要支援者へのサービスそのものが地域支援事業に移行されると考えると、現在、その人の予防措置である介護予防事業の「生活管理指導者派遣事業」の利用者というものは完全にこの国民会議の報告からすると、サービスから外されるのではないかという、そういう懸念も今、されておるところであります。

しかし、この方々は介護認定を受けられると要支援にほとんど該当しないと見られる、当然、ボーダー層といわれる方々でありまして、この「生活管理指導者派遣事業」の実態を菊池社協の場合でちょっと紹介をいたしますと、ヘルパーサービス登録者数が８月末現在で５６名ほどいらっしゃると。それと「ふれあいサロン」利用者が２５６名、合計の３１２名が要支援の予備軍ということの報告は受けております。

なお、この段階でのヘルパー事業を受託している事業所は、社協以外にはないと。ただ、介護予防サロンというものは、七城の清泉が受託をして、現在、登録者数が３月末現在で６名いたということであります。

このようなことから考えてみますと、現在の介護予防の利用者、それと要支援１と２の方々を今後すべて介護予防者と捉えると、サービスの準備も予算も当然膨らむことになりますし、再度、ここで選別となったときに、軽度のサービスなんですけども必要なサービスを受けておられるような方々に対して、どのような対処をしていくかが大きな課題となってくるものと思われます。

例えば、ひとり暮らしの老人の方で、親戚等も近隣にいない方、また週に１回ヘルパーの買い物と掃除の支援を受けておられるような方は、そうなった場合に誰に頼まれるのか。また、週に１度「ふれあいサロン」を楽しみにしておられる、若干引きこもりがちな方を今後どうするのかというものも考えられます。

政府は、インフォーマルなサービスとして地域のボランティア等の利用も視野に入れるように考えているようでありますけども、現在、菊池市において本当にこの在宅ボランティアの実態はどうなのかと。当てにできる在宅ボランティアサービスはあるのかというところでちょっと調べましたけども、地域サロン等も全地区には、全地区を網羅している状態ではない状態だと。現在、５０％程度の地域在宅ボランティアがあるんだけども、新しくできるところもあれば、支えるボランティアが逆に高齢化をしていって消えていくサロンも出てきておると。

このようなサロンの９割が月に１回程度の動きの状態であるというのが、現在の在宅ボランティアの実態だと聞いております。

今後作るにしても、本当にあてにできるサービスというものは、有償サービスでないとシステムとして確立しないと考えると、さらに、介護やデイサービス等で行うリハビリ的なことは、当然、ボランティアには望めない状態であるかと思われます。

そこで再質問といたしまして、３点お聞きしますが、本市で地域支援事業の中で、どこまでの範囲でこの方々に対処をして見ていくサービスを用意していくおつもりなのか。

２点目に、このような状況になってくると、当然、ますます地域自らの福祉活動にも期待が高まってきますし、期待をするところでもあるかと思われます。地域自らが持つ「地域力」を発揮してもらうためには、現在、菊池市の「地域福祉計画」の策定中だというふうに聞いております。この「地域福祉計画」については、従来どおりの計画書ではなくて、冒頭もご案内をしてきたように政府の動向も踏まえ、福祉課が中心となったものを健康福祉部内の各課の横の連携をもって、地域とともに総合的な将来の実態にマッチした計画づくりを進めていく必要があると考えますが、見解をお聞きしたいと思います。

３点目に、議会報告会を８月の２８日、菊池の会場で行いました。そのときに、

質問をお受けしたときにですね、福祉関連の事業経営者の方が、要するに「福祉関連の従事者として、なり手がいなくて困っている」と、「介護砂漠」というような表現をされた元菊池市長の牧俊郎氏がおられました。今朝も牧氏とはちょっとお電話で話して「こういった形でやらせていただきます」という了解もいただいておりますけども、介護従事者やヘルパーさんたちの処遇改善のために、本市はどのような施策をお考えになっているのか。

以上３点をお聞きしたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　健康福祉部長、宮本誠一君。

［登壇］

○健康福祉部長（宮本誠一君）　お答えいたします。

高齢者それぞれのニーズに合った住まいの中で、生活支援サービスを利用しながら個人の尊厳が確保された生活を送ることが、地域包括ケアシステムを構築していく上での基盤であると考えます。

先ほども申し上げましたが、今後、高齢者の皆様ができる限り自立した生活を送れるように支援できる体制をつくっていくために、予防給付移行以降後、現在「地域支援事業」で実施しております要支援や要介護になる可能性の高い虚弱な高齢者を対象とする通所や訪問による介護予防事業とあわせて「地域包括支援事業」の中で、どのように取り組んでいくか、第６期介護保険計画策定とあわせて検討していきたいと考えております。

また現在、福祉課では地域福祉計画第２期ですけども、の策定に向け、策定委員会をはじめ、庁内プロジェクトなどでその内容を審議しているところですが、老人保健福祉計画及び介護保険事業計画、障がい者計画など、関係各課とも整合性を図り、総合的な計画となるよう今後とも取り組んでまいりたいと考えております。

また、介護事業所での従事者確保が困難といった問題ですが、国の推計では、現在１４９万人の介護職員は、団塊の世代が７５歳以上になる２０２５年度には２３７万人から２４９万人必要になると見込まれることから、さらに１００万人近い人材を確保しないと、将来の介護需要に対応できないとの数字が出ております。

ところが、介護業界は慢性的な人手不足に悩んでおり、介護労働安定センターの調査では、介護事業所の５３％が従業員の不足感を訴えているとのことです。

人材が集まりにくい理由としては、介護の仕事は「低賃金で重労働」とのイメージが強いことが一因と考えられ、国も介護報酬改定等を通じて賃金改善策を講じてきましたが、その結果が出ていないのが現状です。

本市としましても、介護従事者の人員確保は喫緊の課題であると認識しており、国・県とも連携し、事業者による介護人材確保に向けた取り組みを支援してまいり

たいと考えております。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　東英俊君。

［登壇］

○８番（東　英俊君）　地域福祉計画、あと処遇改善のための従業員の確保というところでの部長の答弁、期待をしております。どうぞよろしくお願いします。

再々質問に移りたいと思います。

私が高齢支援課からいただいた資料の中で、ちょっと皆さん方にぜひ紹介したいデータがありますので、ちょっと読み上げたいと思います。

今年４月１日現在の人口集計表からでありますけども、世帯数が１万８，４６３世帯、６５歳以上の方々でまず男性の数が５，９６７人、２４．２４％、女性が８，４６８名、パーセンテージになおしますと３１．８９％だと。

それとひとり暮らしの高齢者の人口が、男性で７３１、女性が１，９４３、合計の２，６７４、これはひとり暮らしの高齢者世帯が２，６７４世帯というふうに見ていいと思います。

それと高齢者夫婦のみの世帯数が１，７８５世帯。それと高齢者がいる世帯が９，９９４世帯と。この一連の数字から推測いたしまして、まず、全世帯１万８，４６３世帯のうち、もうひとり暮らしの世帯というのが２，６７４世帯あって、１４．４％がもうひとり暮らしだということですよね。それと高齢者夫婦のみの世帯が１，７８５世帯ですから、この２，６７４世帯と高齢者夫婦のみの世帯１，７８５世帯を合わせますと４，４５９世帯となります。約２４％の世帯が、恐らく高齢者夫婦ということは、ややもすれば片方の方が亡くなる可能性もありますし、本当にひとり暮らしとなる予備軍の世帯というふうなところで捉えれば、そんな形になるかと思われます。

それから引き算をいたしますと、約４，０００世帯が若夫婦の家族だというところになります。この数字から考えられることを挙げますと、先ほど申し上げましたけども、本市と地域が当然、見守っていかなければならない世帯というものが２，６７４世帯、それと高齢者夫婦のみの世帯が１，７８５世帯で、今後ひとり暮らしとなる予備軍世帯と見受け、これらを含めて将来を見据えて、やはり本市と地域が見守っていかなければならない世帯が、もう約２４％もあるというところであります。

これらを踏まえた上で、今後の社会保障を考えていく上で、先ほど部長も答弁の中でいわれましたけども、２０２５年問題がよく取り沙汰されております。これは数年前から始まった団塊の世代の退職を受けて、これから１０年後の将来を危惧さ

れる要因、福祉政策、財政問題などすべてを勘案した社会保障制度確立のことであるかというふうに思われます。これらを踏まえた上で、４点お聞きをしたいと思います。

今後、本来あるべき地域包括支援センターの姿として、地域の人材や組織機関を結ぶ本当のセンターに鍛えあげていくことが大切だと私は感じております。それを高齢者向けに限定せず、障がい者、ひとり親、子ども・子育ての領域を広くカバーするようなコミュニティーソーシャルワーカーの機能を併せ持つような、自助、自分で助ける、自分で自立する自助、お互いを助ける互助、それとともに助け合う共助、それと公の助けを受ける公助、この４つの自助・互助・共助・公助を組み合わせた、地域のケア体制の整備と確立が、今後将来に向けて早急に求められているのではないかなというふうに思っております。まず、この１点目、見解をお聞きしたいと思います。

それと２点目、本市には、介護保険法の第１１５条の４０号の規定に基づいて設置した「菊池市地域包括支援センター」の適性かつ円滑な運営を図るために、菊池市地域包括支援センター運営協議会が設置をされております。これも条例化をされております。ただ、その協議会の構成員に地域の代表であり、地域の一番理解をされてわかっておられる行政区の区長さんが、今現在のところ入っておりません。これらのことを踏まえれば、協議会組織に区長会も当然入れて、ともに考えともに歩んでいくことが必要だと私は考えますが、部長見解をお聞きします。

３点目に、また今の時点で、福祉に対する認識、理解度において地域や行政区ごとに格差があるようにどうも思われてなりません。その原因は、本当の意味において、地域や福祉これらに精通している区長さんたちであるのか、また民生委員さんたちであるのか、これが恐らく各地域間の格差につながっているのではないかなというふうに感じております。

地域の実情ごとの違いは当然あるものと思われますが、区長さんたちの選出の仕方が、私の住んでおる行政区でもそうなんですけども、やはり年上順という形で区長さんをされておられます。そういった選出の仕方が、これから本市が目指さなければならないようなスタイルであったり、システムに本当にあっているのかと。輪番で役を受けたりしている状況の中で、これから来るこの２０２５年問題であったり、報告書が提示しているような内容を本当にクリアできていけるのか。この区長さんたちであったり、民生委員さんたちであったり、これらの方々に対して地域リーダー研修をきちんと受講させるべきではないのかと私はそのように考えております。そこの見解を、部長お聞きしたいと思います。

４点目に、一般質問の初日に怒留湯議員が提言されました介護ボランティア制度

なんですけど、これも私も聞こうと思ってましたので、４点目にあえて入れさせていただきます。

中のシステムは先日議員が申されたとおりであり、再度、この制度を検証して本市にも当てはめていきながら、より充実した福祉政策をとることが必要だろうというふうに私は考えますが、部長見解をお聞きします。

○議長（山瀬義也君）　健康福祉部長、宮本誠一君。

［登壇］

○健康福祉部長（宮本誠一君）　お答えします。

社会保障制度改革国民会議の報告によりますと、社会保障制度改革推進法の基本的な考え方として、日本の社会保障制度は、自助・共助・公助の最適な組み合わせに留意して形成すべきとされており、これは、国民の生活は自らが働いて自らの生活を支え、自らの健康は自ら維持するという「自助」を基本としながら、高齢や疾病・介護をはじめとする生活上のリスクに対しては、社会連帯の精神に基づき、共同してリスクに備える仕組みである「共助」が自助を支え、自助や共助では対応できない困窮などの状況については需給要件を定めた上で必要な生活保障を行う公的扶助や社会福祉などの「公助」が補完する仕組みとするとされております。

本市でも、地域の実態やニーズを把握することにより、課題を導き出し、保健、福祉、医療の連携はもちろん、ボランティアを含めた地域のさまざまな資源とのネットワーク化により、「地域包括ケアシステム」における自助・互助・共助・公助の最適な組み合わせを確立することで、継続的かつ包括的な支援「地域包括ケア」体制を強化することが可能であると考えます。

また、障がい者の方やひとり親、子ども等の領域を地域包括支援センターでカバーできないかにつきましては、今後、国等の動向も踏まえ、関係各課とも協議してまいりたいと考えます。

次に、地域包括支援センター運営協議会は、地域包括ケアを支える中核機関である、地域包括支援センターの適性かつ円滑な運営を図るため、年に２回開催しており、運営等についてご審議いただいております。地域包括支援センター運営協議会委員は、現在、条例の規定に基づき、医療・福祉関係者・介護サービス等に関する事業者、介護保険の被保険者・介護保険の利用者、介護保険以外の地域資源や地域における権利擁護・相談事業等を担う関係者、その他市長が必要と認めたものとしており、１２人の委員さんに委嘱をしております。

なお、区長会からの選任による委嘱については現在行っておりませんが、区長さんは地域づくりの中心的役割を担う方であり、今後、地域包括ケアシステムを構築していく上でも、公助や共助とともに、住民組織やボランティアによる互助や自助

を進めていくためには、区長さんの参加協力も必要と考えますので、検討してまいりたいと考えます。

区長さん、民生児童委員の選任についてですけども、選任の方法の一つとして、地域の実情に詳しい方にお願いしているところです。

介護支援ボランティア制度の導入はとのご質問ですが、初日、怒留湯議員にも答弁いたしましたが、住みよい地域をつくるための制度として、将来の高齢者福祉の一翼を担うものではないかと考えます。高齢者の方が、ボランティア活動を行うことそのものが介護予防となり、社会参加の生きがいづくりにつながるという点で、大変有用な制度だと認識しております。

今後、地域の実態やニーズについて、第６期介護保険事業計画策定に伴い、本年度行います日常生活圏域調査により、ニーズを把握するとともに先進事例における実態や課題等も調査し、国等の動向も見極めながら導入も含めて検討していきたいと考えております。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　東英俊君。

［登壇］

○８番（東　英俊君）　最後に部長、質問いたします。よく聞いておいてください。

区長さんたちもこの地域包括支援センターの運営協議会に入れるように検討していくというところでありました。

今、福祉の現場では、区長さんたちもぜひとも地域リーダー研修を受けていただきたいというような要望が多数あります。今この菊池市ですね、旧菊池が１０２区あります、行政区が。民生委員さんが５０人います。旧七城町が３８区の行政区がありまして、民生委員さんが１１人です。旭志地区が２４区の行政区で、１３人の民生委員さん、それと泗水が４７区あって、２３人の民生委員さんであります。こう見てみますと七城町がですね、どこもほぼこの区の半分ほど民生委員さんがいらっしゃいます。七城が３８区に対して１１人の民生委員さんの数であります。本来ならば１６名ぐらいあってもいいんじゃないかなというようなところも、まずどのようにお考えかをひとつ、１点目お聞きをしたいと思います。

それと各行政区には、なぜそのリーダー研修を受けさせてくれという福祉現場があるかといえば、区長さんもいらっしゃいますけども区長代理もいらっしゃると。要するに各行政区には２名ほどこの市とのパイプ役がいらっしゃると。また情報の伝達役がいらっしゃるというようなお気持ちでほとんど思っておられますし、地域ごとの福祉の格差が、やはりそういったリーダーであられる方々の思いや動きによって生じてきているというふうに聞いております。それからいたしましても、この

行政区、４地区合わせまして２１１区、それと民生委員さん、区長さん、区長代理さん、合わせて本当の意味で将来の福祉施策というものを考えていくことも大事じゃないかなというふうに私は考えますけども、部長の答弁を最後お願いいたします。

○議長（山瀬義也君）　健康福祉部長、宮本誠一君。

［登壇］

○健康福祉部長（宮本誠一君）　お答えします。

民生委員さんの数等の問題につきましては、先日の中山議員さんの質問にもお答えいたしております。地区によりましては、幅広く担当しておいでになりまして、大変苦労されているというようなことを聞いておりますので、今回の改選には間に合いませんけども、次回の改選には十分その辺のところ、事情等も検討しながら変更に向けて検討してまいりたいというふうに考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　以上で、一般質問を終わります。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

日程第２　議案第１１８号　財産の取得について

○議長（山瀬義也君）　次に、日程第２、議案第１１８号を議題とします。

提出者の提案理由の説明を求めます。

市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　それではただいま上程されました議案第１１８号についてご説明を申し上げます。追加議案書の１ページをお開きください。

議案第１１８号、財産の取得についてでございます。菊池地区学校給食共同調理場の厨房機器一式について、株式会社マルゼン熊本営業所と物品購入契約を締結し、備品の購入をいたしたく、議会の議決を求めるものでございます。

内容の詳細につきましては、総務企画部長より説明をいたしますので、慎重審議の上ご承認いただきますようお願い申し上げ、提案理由の説明といたします。

○議長（山瀬義也君）　総務企画部長、野口祐成君。

［登壇］

○総務企画部長（野口祐成君）　それでは、議案書の１ページをお願いいたします。

議案第１１８号、財産の取得についてでございます。

菊池地区学校給食共同調理場厨房機器一式につきましては、菊池市議会の議決に付すべき契約及び財産の取得または処分に関する条例第３条の議会の議決に付さなければならない財産の取得または処分として、予定価格２，０００万円以上の不動

産もしくは動産の買い入れもしくは売り払いまたは不動産の信託の受益権買い入れもしくは売り払いとするとの規定に基づき、議会の議決をお願いするものでございます。

この財産の取得につきましては、４業者により８月３０日に入札を行い、その後の事務処理を経て９月１０日に仮契約を行ったところでございます。

取得する財産、菊池地区学校給食共同調理場、厨房機器一式。契約の方法、条件付一般競争入札。取得金額、２億４７５万円。契約の相手側、熊本市南区平田２の５の３０　株式会社マルゼン熊本営業所所長、谷川稔。

以上、議案第１１８号の説明とさせていただきます。

○議長（山瀬義也君）　以上で、議案の説明を終わります。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

怒留湯健蓉さん。

［登壇］

○１５番（怒留湯健蓉さん）　付託される委員会に所属していると思いますが、その前に２、３点の確認をいたします。

取得する財産としての厨房機器一式とは、安心・安全を担保するドライ方式の機器一式のことでしょうか。そのドライ方式であれば、どういったものの内容がございますか、まずお聞きします。

○議長（山瀬義也君）　総務企画部長、野口祐成君。

［登壇］

○総務企画部長（野口祐成君）　怒留湯議員の質疑にお答えいたします。

ドライ方式のものでございます。内容につきましては、加熱調理機器、炊飯機器、冷却機器、洗浄機及び消毒保管機器。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　怒留湯健蓉さん。

［登壇］

○１５番（怒留湯健蓉さん）　機器わかりました。

じゃあこれが一式の機器の中には、児童・生徒の中にはさまざまなタイプのアレルギーの子どもたちがいますが、その子たちのための除去食ですね、それとは別に、例えば刻み食であったり、流動食が必要になる子もいると思いますが、それらに対応にも適用する機器が含まれているというふうに理解していいですか。

○議長（山瀬義也君）　総務企画部長、野口祐成君。

［登壇］

○総務企画部長（野口祐成君）　契約案件について上程してお願いしておりますので、

そこの中身についてはちょっと私のほうではわかりません。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　怒留湯健蓉さん。

［登壇］

○１５番（怒留湯健蓉さん）　はい、それでは結構です。

委員会の中で詳しく聞いてまいります。

○議長（山瀬義也君）　ほかにありませんか。

樋口正博君。

［登壇］

○１３番（樋口正博君）　議案第１１８号、財産取得について、２点ほど質疑をしたいと思います。

１点目は、今の怒留湯議員と一緒なんですが、厨房機器一式ですので、付託された委員会もしくは議員全員に、その内容がわかる機械と幾らかというものを資料をご提示するお考えがあるかということですね。

もう１点は、契約の方法、条件付一般競争入札となっておりますが、この条件とは何であるか、お聞きしたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　総務企画部長、野口祐成君。

［登壇］

○総務企画部長（野口祐成君）　先ほど怒留湯議員のほうにもお答えいたしましたけども、入札案件の上程で行っておりますので、資料の配布につきましては、私のほうからちょっとお答えできませんので、そちらまた担当部署のほうからでもお答えしたいと思います。一応、今回につきましては、その契約案件の内容でございますので、資料関係の分はその部署でまたお答えしたいと思います。

それと、条件付きということで条件としましては、まず１点目が熊本県内に本店または支店、営業所等を有すること。それと２点目が、平成１５年度以降に官公庁等の発注した学校給食施設、１日当たりの調理能力が２，０００食以上のドライシステムに限るでございますけれども、加熱調理機器、炊飯機器、冷却機器、洗浄機器及び消毒保管機器等のすべてを一括して、元請として納入した実績を有するものであること等を付し、条件付一般競争入札参加資格確認申請書等の関係書類を事前に提出いただいております。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　樋口正博君。

［登壇］

○１３番（樋口正博君）　契約案件の議案だからということなんですが、今回、委員会

付託しますからまだいいですけどね。その一式でただ認めるという方向という自体はちょっと僕は答弁としておかしいと思うんですが、どうせ委員会付託になりますので委員会の中で、それは再度、ゆっくりお話しをされてください。

終わります。

○議長（山瀬義也君）　ほかにありませんか。

中原繁君

［登壇］

○１２番（中原　繁君）　厨房機器が２億円もすっどかて、私はちょっとわかりませんが、委員会付託となりますのでですね、その中で審議したいと思います。

先ほど総務部長の答弁で、説明でですね、契約の方法について参加業者は４社だったと。その４社名とですね、その４社がそれぞれ入札した金額、これについてよかならここで発表できるなら発表してください。

それからひとつですたい、現在使っている機器、厨房機器あるはずですよね。これは使われんのでしょうか。その点についてお尋ねいたします。

○議長（山瀬義也君）　総務企画部長、野口祐成君。

［登壇］

○総務企画部長（野口祐成君）　中原議員の質疑にお答えいたします。

まず、４社の業者名及び税込みの入札額を、税込みでお答えいたします。

まず、１社目が、株式会社マルゼン熊本営業所、金額が税込みの２億４７５万円でございます。２社目が、タニコー株式会社熊本営業所、金額が２億１，２９４万円でございます。３社目が、株式会社中西製作所熊本営業所、金額が２億１，２０７万９，０００円でございます。４社目が、日本調理機株式会社熊本営業所、金額が２億２，０５０万円でございます。

それと、現在使っているものを使えないかというような質疑でございましたけども、そちらのほうにつきましては、担当部署のほうからお答えいたしたいと思います。

申し訳ありません。

○議長（山瀬義也君）　教育部長、中村鉄男君。

［登壇］

○教育部長（中村鉄男君）　中原議員の質疑にお答えをしたいと思いますけども、その点につきましては、はっきり私のほうもまだ把握をいたしておりませんので、はっきりしたことは申し上げられませんが、比較的新しくて使えそうなものにつきましては、できる限り有効活用をしていきたいというふうに思っております。

ただ、今回、ドライ方式等にシステムあたりが変わりますので、そのことによっ

て使えないような食器類あたりも結構出てくる、厨房機器類あたりも結構出てくるんじゃなかろうかと思いますけども、その使い道につきましては、今後、有効活用できますように検討してまいりたいと思います。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　中原　繁君。

［登壇］

○１２番（中原　繁君）　有効利用するということで少しは安心しましたがですね、菊池にはですね、宝来館はじめたくさんの旅館があるんです。だからですね、そういったものをこの次は、市民の皆さんに向けてこっちから入札をかけるということはありませんか。

○議長（山瀬義也君）　教育部長、中村鉄男君。

［登壇］

○教育部長（中村鉄男君）　はい、ただいまご提案いただきました事項も含めて、今後検討したいと思います。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　ほかに質疑はありませんか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○議長（山瀬義也君）　これで質疑を終わります。

次に、委員会付託を行います。

議案第１１８号は、総務文教常任委員会に付託します。

平成２５年　第３回菊池市議会定例会追加議案付託表

付託委員会	議 案 番 号	件　　名
総 務 文 教 常任委員会	議案第１１８号	財産の取得について （菊池地区学校給食共同調理場の厨房機器一式）

○議長（山瀬義也君）　以上で、本日の議事日程は全部終了しました。

次の会議は、９月１９日の午前１０時から開き、議案等の採決を行います。

本日はこれにて散会します。

全員起立をお願いします。

（全員起立）

お疲れさまでした。

――――――――――――――――○――――――――――――――――

散会　午後３時０４分

第　６　号

９ 月 １９ 日

平成２５年第３回菊池市議会定例会

議事日程　第６号

平成２５年９月１９日（木曜日）午前１０時開議

第１　各常任委員長報告・質疑・討論・採決
第２　議員の派遣について
第３　委員会の閉会中の継続審査並びに調査について

―――――――――――――――○―――――――――――――――

追加議事日程（第６号の追加１）

第１　議員提出議案第３号　菊池市議会議員定数条例の一部を改正する条例の制定について
　上程・説明・質疑・討論・採決
第２　意見書案第３号　ホテル・旅館等建築物の耐震化の促進に関する意見書
　上程・説明・質疑・討論・採決
第３　意見書案第４号　地方税財源の充実確保を求める意見書
　上程・説明・質疑・討論・採決
第４　意見書案第５号　自衛隊の定員確保を求める意見書
　上程・説明・質疑・討論・採決
第５　意見書案第６号　森林吸収源対策及び地球温暖化対策に関する地方の財源確保のための意見書
　上程・説明・質疑・討論・採決
第６　決議案第１号　プロ野球福岡ソフトバンクホークスファーム本拠地の誘致を求める決議
　上程・説明・質疑・討論・採決
第７　議案第１１９号　平成２５年度菊池市一般会計補正予算（第３号）
　上程・説明・質疑・討論・採決

―――――――――――――――○―――――――――――――――

本日の会議に付した事件

日程第　１　各常任委員長報告・質疑・討論・採決
日程第　２　議員の派遣について
日程第　３　委員会の閉会中の継続審査並びに調査について
日程第　４　議員提出議案第３号 菊池市議会議員定数条例の一部を改正する条例の制

定について

上程・説明・質疑・討論・採決

日程第　５　意見書案第３号　ホテル・旅館等建築物の耐震化の促進に関する意見書

上程・説明・質疑・討論・採決

日程第　６　意見書案第４号　地方税財源の充実確保を求める意見書

上程・説明・質疑・討論・採決

日程第　７　意見書案第５号　自衛隊の定員確保を求める意見書

上程・説明・質疑・討論・採決

日程第　８　意見書案第６号　森林吸収源対策及び地球温暖化対策に関する地方の財源確保のための意見書

上程・説明・質疑・討論・採決

日程第　９　決議案第１号　プロ野球福岡ソフトバンクホークスファーム本拠地の誘致を求める決議

上程・説明・質疑・討論・採決

日程第１０　議案第１１９号　平成２５年度菊池市一般会計補正予算（第３号）

上程・説明・質疑・討論・採決

―――――――――――――――○―――――――――――――――

出席議員（２３名）

１番	荒　木　崇　之　君
２番	柁　原　賢　一　君
３番	工　藤　圭一郎　君
４番	城　　典　臣　君
５番	大　賀　慶　一　君
６番	岡　﨑　俊　裕　君
７番	水　上　彰　澄　君
８番	東　　英　俊　君
９番	東　　裕　人　君
１０番	泉　田　栄一朗　君
１１番	森　　清　孝　君
１２番	中　原　　繁　君
１３番	樋　口　正　博　君
１４番	中　山　繁　雄　君
１５番	怒留湯　健　蓉　さん
１６番	坂　本　昭　信　君

１７番	隈　部　忠　宗　君
１８番	葛　原　勇次郎　君
１９番	木　下　雄　二　君
２０番	坂　井　正　次　君
２１番	森　　隆　博　君
２２番	山　瀬　義　也　君
２３番	境　　和　則　君

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

欠席議員（なし）

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

説明のため出席した者

市長	江　頭　　実　君
副市長	木　村　利　昭　君
総務企画部長	野　口　祐　成　君
市民環境部長	下　田　俊　一　君
健康福祉部長	宮　本　誠　一　君
経済部長	平　野　國　臣　君
建設部長	松　野　浩　一　君
総務企画部統括審議員	西　浦　一　義　君
七城総合支所長	岩　下　利　昭　君
旭志総合支所長	水　上　菊　也　君
泗水総合支所長	松　岡　千　利　君
財政課長	小　川　秀　臣　君
総務課長兼選挙管理委員会事務局長	伊　藤　道　俊　君
市長公室長	倉　原　良　則　君
教育長	倉　原　久　義　君
教育部長	中　村　鉄　男　君
農業委員会事務局長	松　永　隆　則　君
水道局長	原　　和　徳　君
監査事務局長	宮　村　公　男　君

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

事務局職員出席者

議事課長	宮　川　啓　子　さん
総務審議員	徳　永　裕　治　君

○議長（山瀬義也君）　全員、起立をお願いします。

（全員起立）

おはようございます。

着席をお願いします。

――――――――――――――――○――――――――――――――――

午前１０時００分　開議

○議長（山瀬義也君）　ただいまより本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。

――――――――――――――――○――――――――――――――――

日程第１　各常任委員長報告・質疑・討論・採決

○議長（山瀬義也君）　それでは日程に従いまして、日程第１、去る９月６日及び９月１１日の会議において、各常任委員会に審査を付託しました議案第９０号から議案第９８号まで、及び議案第１１０号から議案第１１３号、議案第１１８号並びに請願第３号、請願第４号の１６案件について、各常任委員長から審査結果の報告があっておりますので、これを一括して議題とします。

ただいまから各常任委員会における審査の経過及び結果について、各常任委員長の報告を求めます。

まず、総務文教常任委員長、東英俊君。

［登壇］

○総務文教常任委員長（東　英俊君）　おはようございます。総務文教常任委員長の報告をいたします。

総務文教常任委員会に付託されました案件は、補正予算案件１件、議決案件２件、請願書案件１件の計４案件でございます。現地調査を踏まえまして、慎重に審議を行いましたので、その審査の経過並びに結果についてご報告いたします。

まず、議案第９２号、平成２５年度菊池市一般会計補正予算（第２号）中、付託分について申し上げます。歳入の主なもので、地方交付税の６億３，８０８万５，０００円の増額につきましては、今年度の普通交付税額の決定による当初予算との差額分でありまして、今年度の普通交付税の総額は８１億３，８０８万５，０００円となり、昨年と比較して７，３６５万３，０００円の増額となっております。主な要因といたしましては、新しく創設された地域の元気づくり推進費の創設及び高齢者保険費の介護給付の負担金及び後期高齢者医療の負担金の増を見込んだところの交付税の増額となっております。また、国庫支出金、総務国庫補助金の地域元気臨時交付金の５億８，３３７万３，０００円の増額は、平成２４年度の経済対策で追加された事業に対し、事業の迅速かつ円滑な実施を図るための財源措置として創設された

もので、平成２５年度の地方の単独事業に充当できることになっているので、防災行政無線デジタル整備事業に充当をし、防災減災事業債の発行を抑えた形にしたとの説明を受けました。

次に、歳出におきまして、財産管理費の使用料及び賃借料６０万円については、菊池ショッピングシティ協同組合からの駐車場用地を不動産鑑定をもとに買収する方向で動いておりましたが、相手方と金額において相当な乖離があったため、当面賃借料で対応して継続するための賃借料であるとの説明を受け、質疑を行いました。委員より、買収できなかった原因はとの質疑に対して執行部より、相手方より不動産鑑定を行った結果の約３倍の提示額であったため、折り合わず当面賃借料で対応することにしたとの答弁でありました。

次に、地域振興費の委託料３４８万３,０００円のうち、域学連携モデル委託料３００万円につきましては、総務省の「域学連携」地域活力創出モデル実証事業の申請採択を見込んだもので、内容的には、「つどう・つなげる・つづける　菊池ラボ事業」という事業名で、大学が地域で活動するための拠点となる地域ラボの整備を行い、地元まちづくり団体が管理運営する体制づくりを行うもので、６つの大学、８つの市民団体、そして高校と地域づくりの拠点をつくるということで、その拠点を「松倉邸」で行うとの説明を受け、質疑を行いました。委員より、総務省への申請中であり、採択されてもないのに予算化することに問題はないのか、３００万円の予算の使途はとの質疑に対し、執行部より、採択になれば１０月より行動しなければならないという条件付きで、想定できる金額として上げさせていただいており、もし採択されなかったら、補正を組むことになる。３００万円の予算は、大学の先生方の人件費、旅費が主であるとの答弁がありました。

次に、学校給食費の２３５万円の増額補正は、泗水給食センターの厨房機器の冷凍庫の冷却ユニット交換と、旭志地域の給食施設拠点校として、旭志小の配送室の増設に伴う実施設計委託料であるとの説明を受け、質疑を行いました。委員より、厨房機器、冷凍庫の冷却ユニット修繕料の中身と、新しいものに変えた場合はいくらになるのかとの質疑に対し、執行部より、学校給食衛生管理基準を満たす必要があるための修繕料であり、新品のものだとそれだけでも４００万円かかるとの答弁でありました。採決の結果、全員異議なく、原案のとおり可決すべきものと決定をいたしました。

次に、議案第１１０号、辺地総合整備計画の変更につきましては、龍門辺地の龍門簡易水道整備事業は、山腹からの伏流水を水源地としているため、取水量が不安定であり、老朽化から漏水事故が多発している。水量調査、水道管敷設替えを行うこと、また原本村辺地、菊池ふるさと水源交流館、体育館耐震補強工事は、災害時

の避難場所として指定されているため、耐震強化を行うことの説明を受けました。採決の結果、全員異議なく、原案のとおり可決すべきものと決定をいたしました。

次に、議案第１１８号、財産の取得について申し上げます。本案は、菊池地区の学校給食共同調理場の建設に伴い、厨房機器（下処理・調理室・アレルギー対応室・洗浄室等１２部屋）１６５種類、３４２の厨房備品を公募型のプロポーザルで入札を実施したとの説明を受け、委員より、この議案を審議するのに、予定価格、落札率の説明はなぜできないのかとの質疑に対して、執行部より、今回は物品であり、建設工事等に係る予定価格の公表に関する要綱を定めており、建設工事及び委託料については公表をしているが、物品については非公表としているとの答弁がありました。また委員より、物品であってもある程度の金額を超えれば、公表して審議すべきではないのかとの質疑に対して、執行部より、県内１４市のうち８市が非公表、６市が公表という形をしており、本市も公表に向けて前向きには検討をしていきたいと。そこで委員会を委員の同意を得て、秘密会にして慎重に審査を行いました。反対討論として、以前から共同調理場の大型化には反対をしており、安心・安全の確保はされているようであるが、教育の中の食育においての確保は、一義的な要件にすぎず、食文化を育てるという意味においてクリアされていないという反対討論があり、採決の結果、賛成多数により原案のとおり可決すべきものと決定をいたしました。

次に、請願第３号、国に対し「消費税増税中止を求める意見書」の提出を求める請願書について申し上げます。執行部からも聞き取りをしながらの審議を行い、委員からは増税の方向で動いているようだが、現実的には市民はかなりの不安を抱えていることを伝えなければならないとの賛成討論がありました。採決の結果、賛成少数により原案は不採択すべきものと決定をいたしました。

以上、本委員会に付託されました案件の審査の経過及び結果の報告といたします。議員各位におかれましては、速やかにご賛同を賜りますようお願いを申し上げまして、総務文教常任委員長の報告といたします。

○議長（山瀬義也君）　次に、福祉厚生常任委員長、葛原勇次郎君。

［登壇］

○福祉厚生常任委員長（葛原勇次郎君）　おはようございます。

福祉厚生常任委員会委員長報告を行います。本定例会において、福祉厚生常任委員会に付託されました議案は、条例２件、予算案３件、請願１件であります。現地調査も踏まえ、２日間慎重審議を行いましたので、その経過と結果について報告いたします。

まず、議案第９０号、菊池市税条例の一部を改正する条例の制定について申し上

げます。本案は、地方税法施行令の一部を改正する政令及び地方税法施行規則の一部を改正する省令の施行に伴い、本条例の一部を改正するとの説明がありました。主な改正内容は個人住民税関係で、一つ目が公的年金からの特別徴収における徴収額の算定方法の見直しであります。二つ目が金融所得課税の一本化を進める観点から、公社債等の利子・譲渡損益に対する課税方式を変更するとともに、公社債等の利子・譲渡損益並びに上場株式に係る所得等の損益通算範囲の拡大等を行うものと説明を受け、質疑を行いました。

委員より「今回の一部改正で、年金から天引きされる部分については、金融所得のある人は、減税があるという条例改正なのか」との質疑に、執行部より「狙いは課税の一本化で、結果として国債等の譲渡益が、非課税であった分が課税になる部分があるので、課税になるか減税なるかはわからないところである」との説明がありました。

委員より「法の定めにより条例改正をするということであるが、税収にどれだけ影響があるのか」との質疑に、執行部より「試算していない」との答弁がありました。

次に、議案第９１号、菊池市国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定については、金融所得課税の一体化により、改正するとの説明があり、質疑を行いました。委員より「この条例改正で、国保の対象世帯に影響があるか」との質疑に、執行部より「まだ、影響については出していない、今後調査したい」との説明がありました。

次に、議案第９２号、平成２５年度菊池市一般会計補正予算（第２号）中、付託分について申し上げます。その主なものは、款３民生費、項２高齢福祉費に県介護基盤緊急整備特別対策事業補助金８，０００万円は、旭志のあさひが丘の施設整備に係る補助金であります。同じく、項３児童福祉費に保育士等処遇改善臨時特例事業補助金５６２万７，０００円、同じく、項４生活保護費に生活困窮者自立促進支援モデル事業委託料１，６７５万５，０００円、款８消防費、項１消防費に全国女性消防操法大会出場補助金３００万円を補正するものとの説明を受け、質疑を行いました。

委員より「あさひが丘荘に対する県介護基盤緊急整備特別対策事業補助金は、本年度の単発の補助金か」との質疑に、執行部より「この事業は平成２６年度までの事業である」との答弁がありました。

次に委員より「保育士等処遇改善臨時特例事業補助金は、非正規職員にも対応するのか」との質疑に、「給与か一時金として支払われるものであるが、常勤とか非常勤とか詳しい規定はない、各園の判断でされる」との答弁がありました。また、

「この補助金が保育士に渡されたかチェックするのか」との質疑に、「実績報告書を出していただくようにしている」との答弁がありました。委員より「子どもの施策は他市より手厚いが、そんなに子どもは増えていない、事業の見直しが必要ではないか」との意見がありました。

委員より「生活困窮者自立促進支援モデル事業委託料に係ることで、生活保護の水際作戦が問題となった、生活保護の申請に行ったら稼働年齢とか、就労支援があるといって、保護申請の意思があるのに申請できないこともあった。そういう事態もあると考える」との質疑に、執行部より「生活保護の相談に来られた方については、保護の申請はしていただく、モデル事業の対象となった場合は同時に行う、水際作戦で生活保護の申請を止めることはない」との答弁がありました。

委員より「このモデル事業で職員の事務量も増大されると予想される、また、時間外手当が計上されている、慢性的に人員不足が生じているのではないか、バックアップ体制を行ってほしい」との質疑に、執行部より「福祉課が大変な状況と認識している、現況を調査して対応したい」との答弁がありました。

次に委員より「消防操法大会出場補助金３００万円について、熊本県代表として出場されるが、県からの補助は出ないのか」との質疑に、執行部から「熊本県消防協会から女性消防隊に１００万円支払われる」との答弁がありました。委員より「せっかくの全国大会であるので、菊池市をＰＲしてほしい、また、優勝を目指して頑張ってほしい」との意見がありました。

次に、議案第９３号、平成２５年度菊池市介護保険事業特別会計補正予算（第２号）について申し上げます。今回の補正は、平成２４年度分の介護保険事業の介護給付事業の決算見込みによる社会保険診療報酬支払基金への償還に係る費用が主なものと説明がありました。質疑はありませんでした。

次に、議案第９８号、平成２５年度菊池市特別養護老人ホーム特別会計補正予算（第２号）について申し上げます。今回の補正は、つまごめ荘の２階に設置してあります冷暖房用のチラーユニットが老朽化による不具合を生じることから、空調機器修繕を行うものとの説明がありました。委員より「現在２機あるが、１機でまかなえるのか」との質疑に、執行部より「１機でまかなえる、全部取り替えも考えたが、新年度で計上を検討する」との答弁がありました。委員より「修繕の見積もりは２社以上取るべきではないか、取らなかった理由は何か」との質疑に、執行部より「緊急を要した、保守点検を依頼しているので、中身について精通しているので見積もりをお願いした、今後は２社以上から見積もりを取りたい」との答弁がありました。

次に、請願第４号、「年金２．５％削減法」を廃止する意見書採択に関する請願書

について申し上げます。紹介議員より「これから３年間をかけて、年金２．５％削減されることが国会で決まった。、また、消費税増税が予定されている、もらう年金は減る、老後安心して暮らせるはずであったが、保障されなくなった。高齢者が多い菊池市から声を挙げるべき」との説明がありました。委員より「年金をもらっている方、全員が一律に減額されるのか、所得の低い方も減額されるのか、この請願書ではわからない」、また「年金問題は身近な問題である。年金から介護保険料、国民健康保険料、税金も差し引かれる。委員会でもう少し年金の勉強をするため、継続審査にしたらどうか」との意見がありました。

次に、討論がありました議案について申し上げます。議案第９２号、平成２５年度菊池市一般会計補正予算（第２号）について、款３民生費、項４生活保護費の委託料、生活困窮者自立促進支援モデル事業について、「この事業は就労支援の形で、生活保護からの追い出し、あるいは水際作戦の道具になるおそれがある」との批判が全国で起きている。本市では「水際作戦はない」と答弁されたが、現実に保護申請に対する苦情は多い。最後の命綱さえあきらめる人もいる。担当者が扱う案件の量も質もますます過重になり、広がる貧困に対応できなくなる事態も起こりかねない。それが就労支援事業として民間に委託されれば、ますますの萎縮的効果が及んでしまうおそれがある。これでは、いつまでたっても貧困問題は解決しない。生活保護法改悪法案そのものに対する反対の立場から、その先取り事業の予算化は認められない」との反対討論がありました。次に、賛成討論があり「この事業は全国的に横並びでの事業を行っている中に、菊池市が他に先駆けて行う事業である。他の模範となる事業と考える」との賛成討論がありました。

採決の結果、賛成多数で原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

請願第４号、「年金２．５％削減法」を廃止する意見書採択に関する請願書については、委員より「もう少し請願内容について委員会で勉強してはどうか、今後の消費税導入の動向も考えてはどうか」という継続審査の動議が提出され、採択の結果、全会一致で継続審査とすることに決定しました。

その他の議案については、討論もなく、全員異議なく、原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

ここで、来月開催される全国女性消防操法大会に熊本県代表として出場される、菊池市女性消防隊の健闘を、所管委員会である福祉厚生常任委員会から贈ります。優勝を目指し頑張ってください。

以上、本委員会に付託された案件の審議の経過と結果について、ご報告いたします。議員各位におかれましては、速やかにご賛同賜りますようお願い申し上げ、委員長の報告といたします。ありがとうございました。

○議長（山瀬義也君）　次に、経済建設常任委員長、泉田栄一朗君。

［登壇］

○経済建設常任委員長（泉田栄一朗君）　改めまして、おはようございます。経済建設常任委員会委員長の報告をさせていただきます。

経済建設常任委員会に付託されました案件は、予算案５件、議決案件３件でございます。現地調査も踏まえ慎重に審議いたしましたので、委員会における審査の経過及び結果についてご報告申し上げます。

まず、議案第９２号、平成２５年度菊池市一般会計補正予算（第２号）中付託分について、その主なものを申し上げます。農業振興費の負担金補助及び交付金において、地域特産物産地づくり支援対策事業補助金３２０万３，０００円は、県の地域特産物のブランド化を図るため、生産から販売に至るまでの推進事業であり、一事業主体に対し、生産体制強化のためのコンバイン購入に係る補助であるとの説明があり、特に質疑はありませんでしたが、委員より国・県等の補助事業では、今までの一部の組織に機械等の購入を補助してきているが、今後はどうしても機械購入時の補助だけでなく、その後の機械の管理等、団体組織や共同で取り組まないといけない時期にきている。組織づくりや連携等を考えて補助金の対応をお願いしたいとの要望がありました。ブランド推進費において、県の地域づくり、夢チャレンジ推進補助金の内示があり、一般財源から財源の組み換えを行うもので、対象事業は、豊かな水資源を生かした菊池ブランドづくり事業及びインターネットショップ構築事業であるとの説明を受け、特に質疑はありませんでした。

地籍調査費において、委員より、地籍調査は市全体のどれくらい進んでいるのか、との質疑に対し、執行部より平成２４年度末で約５９％となっている、平成３５年度完了を目標に取り組んでいるとの答弁がありました。

商工業振興費において、空き店舗対策モデル事業補助金１５２万５，０００円は、空き店舗の有効な活用を図り、新規出店者を支援し、商業地の活性化、商業の振興を図るため事業を実施する商工会に対し、その経費の一部を補助するもので、今回は２店舗の実施要望があったものとの説明があり、質疑を行いました。委員より、空き店舗対策事業で、旧菊池市の中心市街地以外の七城、旭志、泗水でも事業実施が可能かとの質疑に対し、執行部より、現在のところ菊池市中心市街地活性化基本計画区域内で認定して補助事業を進めているが、七城、旭志、泗水の各商店街において、商店街の振興計画等を商工会内部で検討されており、その計画が実施される際には、対象になると考えているとの答弁がありました。

観光費において、樹木剪定委託料７７万５，０００円は、花房坂の桜並木の老木化が激しく、病気等も入っている状況で倒木の可能性があるため、来年全国桜シン

ポジウムもあり、樹木の維持と景観の保全のため剪定するものとの説明を受け、質疑を行いました。委員より、老木のため切ってしまって植えなおしたほうがいいのではないかとの質疑に対し、執行部より、今回は事業等を考慮し、腐食木を剪定するが将来的には間隔を空けて伐採し、新しい木を植えて年々と若木によみがえらせていくことで進めたいとの答弁がありました。さらに委員より、以前から商工観光課の管轄で行っているのか、また今後も管理していくのかとの質疑に対し、執行部より、国道の法面の草刈りについては、地権者から借用して年２回の作業を行っている。桜については、これまで特に伐採等は行っていなかったが、国道内の障害木は県の土木事務所で処置されている。将来的には補助事業等も模索しながら、景観の維持・保全に努めていきたいとの答弁がありました。

道路橋りょう新設改良費において、工事請負費４，４００万円のうち、１，８００万円と公有財産購入費４５０万円は、泗水の地域交流センターの進入路分であるとの説明を受け質疑を行いました。委員より、国道からの進入について、警察との協議はどうなっているのか、また４ｍに拡幅した場合、直角に曲がる部分は隅切りしないと曲がれないと思うが、それは予算に含まれているのかとの質疑に対し、執行部より、交差点の形状は変えずにそのまま使うので、警察との協議は行っていない、また車道幅員が５ｍ確保できる拡幅を考えており、直角に曲がる部分の隅切りについては、車両等がスムーズに曲がれるような設計で進めたいとの答弁がありました。また委員より、利用するのは高齢者等が多いことも考えられるので、安心・安全な道路をお願いしたいとの意見がありました。

歳入の土木費、県補助金において、都市計画費補助金９０万６，０００円は、空き家調査事業が県補助の地域づくり夢チャレンジ推進補助金を受けることになったため、３分の２の補助を計上するものとの説明を受け、質疑を行いました。委員より、この調査は市街地ばかりでなく、全域を行うのかとの質疑に対し、執行部より、空き家調査は昨年度からの事業で山間部を中心に移住希望が多い田舎暮らしを進めるためのものであり、昨年度は水源・河原地区、今年度は泗水・七城地区の４０地域を対象としているとの答弁がありました。

次に、議案第９４号、平成２５年度菊池市簡易水道事業等特別会計補正予算（第２号）ですが、事業費において、修繕料２６６万円は旭志簡易水道の施設の経年劣化により、機械等の故障が頻発しているため、水中ポンプの入れ替えや給水施設の修繕である。また、地方債補正においては、辺地対策事業債の借入限度額は起債対象額の２分の１であるため、辺地対策事業債８７０万円を簡易水道事業債へ組み替えるものとの説明を受け、特に質疑はありませんでした。

次に、議案第９５号、平成２５年度菊池市公共下水道事業特別会計補正予算（第

２号）において、事業費の工事請負費４４０万円は、公共ます設置の要望が多く、２０基分の追加による増であるとの説明を受け、特に質疑はありませんでした。

議案第９６号、平成２５年度菊池市地域生活排水処理事業特別会計補正予算（第２号）の主なものは、雑入において４０万９，０００円は、消費税の還付金であるであるとの説明を受け、特に質疑はありませんでした。

議案第９７号、平成２５年度菊池市農業集落排水事業特別会計補正予算（第２号）の主なものについて、事業費の公課費１３９万１，０００円は、消費税確定によるものとの説明を受け、特に質疑はありませんでした。

次に、議案第１１１号、字の区域の変更については、菊池東部２期地区中山間地域総合整備事業の陣床地区の圃場整備の完了に伴い、字界の変更をするものとの説明を受け、特に質疑はありませんでした。

次に、議案第１１２号、市道路線の廃止については、菊池テクノパーク線において、県営菊池テクノパーク整備により、従来の路線を延長し、終点を変更するために一度廃止するもの、また中央自転車道線については、ふれあい橋の撤去に伴い起点を変更するため、一旦廃止するものであり、続いて議案第１１３号、市道路線の認定については、その２路線の起終点を変更し、認定するもの及び花房台の道路整備により、花房台１号線として花房排水場までの道路を認定するものとの説明を受け、質疑を行いました。委員より、泗水の中央自転車道については一般的な道路とは異なるが、市道認定の理由は何かとの質疑に対し、執行部より、元々は熊本電鉄の電車敷地であり、有効活用するため市道認定の上、自転車専用道として整備された経緯があり、改修に当たっては市道で購入すると、それで租税特別措置法の措置があっことも考えられるとの答弁がありました。

以上、現地調査も踏まえ、慎重審議しました結果、当委員会に付託されました議案第９２号、議案第９４号から議案第９７号及び議案第１１１号から議案第１１３号については、別段討論もなく、採決の結果、全員異議なく原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。議員各位におかれましては、本委員会の決定のとおり、ご賛同いただけますようお願いを申し上げまして、経済建設常任委員長の報告を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（山瀬義也君）　以上で、委員長報告を終わります。

ただいまの各常任委員長の報告に対して、質疑を行います。質疑はありませんか。

中原繁君。

［登壇］

○１２番（中原　繁君）　泉田委員長にお伺いをいたします。三点ほど、伺いたいと思います。

それは、議案第５２号、菊池市公共下水道事業特別会計、歳出、項１の事業費、目１事業費、目２維持管理費。まず先ほど、委員長がちょっと説明ありました、事業費の４４０万円、公共ますの設置と言われましたが、これは具体的に公共ますとは、これはどんなものか、それがまたどんな役割を果たすのか。

次に維持管理費の２１２万３，０００円について、お示し願いたいというふうに思います。更に、公共下水道という事業は、これは委員長もご承知かと思いますが、受益者負担の原則であります。しかしながら、現在に至っても、一般会計から繰り出し運営されています。そこで、この公共下水道事業は、いつになったら、自立独立するのか、できるのか、お示しをいただきたいというふうに思います。

次に三点目、浄水センター委託業者、その選定に当たってでございます。このことは、私が知る範囲内では、未だかつてできた時からずっと同一業者に委託をされているようでございます。そのことがひいては、結局、委託料の年々増加をいたしておりますが、その点について、今後の委託業者選定についての議論、検討をなされたのか。

以上、お尋ねをいたします。

すみません、ちょっと訂正ばよかですか。

○議長（山瀬義也君）　はい、中原議員。

○１２番（中原　繁君）　今、私は議案５２号と言ったそうですが、議案９５号、訂正いたします。すみません、委員長。

○議長（山瀬義也君）　経済建設常任委員長、泉田栄一朗君。

［登壇］

○経済建設常任委員長（泉田栄一朗君）　中原議員にお答えします。

議案第９５号の平成２５年度菊池市公共下水道事業特別会計補正予算、事業費の工事請負費４４０万円、その公共ますがどんなものかというようなご質問だったと思いますけれども、そしてどういうやり方で施行されているのかというようなことでございましたけれども、これについては、質疑がございませんでしたので、お答えができません。

それと２番目、３番目の。すみません、２番目のところが、ちょっとわかりにくかったので、もう一度お願いしてよございますでしょうか。

すみません。３番目のほうを先にお答えさせていただきます。この同じ同事業者が入札をされているということで、これについても、委員のほうからは質疑がございませんでした。それで、それについても、申し訳ありませんけれども、お答えができません。すみません、ご迷惑かけます。

○議長（山瀬義也君）　中原繁君。

［登壇］

○１２番（中原　繁君）　まず一点目ですけれどもね、公共下水道、公共ます２０基を設置すると、それをどうやってするのかじゃなくて、その公共ますというものは、どんな役割を持っているのか、果たすのかということでございます。

それに、目の２番の維持管理費の中の報償費２０万円、それと修繕料１９２万３，０００円、これはどういうものか、よかですかね、お示しください。

それと、２番目にですね、公共下水道事業特別会計というものは、委員長ご承知のとおり、受益者負担の原則になっております。しかしながら、ずっと一般会計から毎年毎年、繰り出しています。何億か、今ちょっと何億かわからないけれども。それがですね、受益者負担の原則にのっとっておるならば、いつになったら、自立独立していくのかということでございます。それはどのような委員会では議論をされたんでしょうか。

それともう一点、最後の三点目。業者選定ですよ。これはですね、浄水センターが完成した時からずっと今まで、同じ業者がやっているんですよ。だからもうちょっと選定の方法を考えたらどうかな、そうすることによって、やっぱり委託料というのは、必ずや私は軽減されるものと確信するからであります。これは大変な重要な問題だと思いますが、その点についてですね、おたくの委員会としては、どのような議論をされたのか、今後の業者選定に当たって執行部とどのような議論をされたのか、お伺いをいたします。

○議長（山瀬義也君）　経済建設常任委員長、泉田栄一朗君。

［登壇］

○経済建設常任委員長（泉田栄一朗君）　中原議員にお答えします。

この２０基の公共ますの役割ということで、受益者負担の原理で、いつ独立的にできるのかというようなお話があったかと思いますが、委員会のほうでは、それについては質疑はありませんでした。それと３番目のセンターの同じ業者がずっと入っているということもございましたけれども、これについても審議がありませんでした。

今、三点の内容を言われまして、非常に重要な内容だと、私も感じております。今後は、中原議員が言われたことをしっかりと、委員会としても受けて審議をしていきたいと考えております。今回は、この質疑がございませんでしたので、お答えはこれでよろしくお願いします。

○議長（山瀬義也君）　中原繁君。

［登壇］

○１２番（中原　繁君）　ありがとうございました。

○議長（山瀬義也君）　ほかにありませんか。

荒木崇之君。

［登壇］

○１番（荒木崇之君）　度々で申し訳ございません。

経済建設常任委員長にお尋ねいたします。

議案第９２号、菊池市一般会計補正予算中、款６項１目４観光費ですね、それの節１３委託料ですが、７７万５，０００円の委託料ですが、これ国道３８７号、いわゆる花房の坂といわれるところの反対側の桜の木の樹木の剪定委託料かと思います。こちら国道であることから、県の管理ではないかと思いますが、そういった議論があったのか。もう一つは、これは単年度、今年だけ計上されておられるのか、この二点をお聞きいたします。

よろしくお願いします。

○議長（山瀬義也君）　経済建設常任委員長、泉田栄一朗君。

［登壇］

○経済建設常任委員長（泉田栄一朗君）　荒木議員にお答えします。

議案第９２号の内容でございますが、樹木の剪定委託料７７万５，０００円について、議論があったのかということでございます。これは、委員会で議論がありまして、特にこの桜並木については非常に景観が悪いということで、いろんな議論がございました。先ほど委員長報告で、伐採をしたらどうかというくらいまで極端なところが出ました。ただ荒木議員が言われますように、あそこは県道でございます、普段は、すみません、国道でございます。それで県の土木事務所が管理をしているわけでございますけれども、今回はさくらシンポジウムという来年に向けて、特別に市がその景観を維持していくために、剪定するものということでございます。その中で、法面については、地権者から市がお借りしているということで、年に２回は除草をするということでございますが、桜の並木だけについては、普段は県が管理をしている、ただ今回だけは特別に市がやるということで、今年度限りということで承っております。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　荒木崇之君。

［登壇］

○１番（荒木崇之君）　樹木剪定委託料というのは、本来であればよく建設費あたりで、計上されるかと思いますが、今回のはさくらシンポジウムにあわせて、斜面を含めた灯篭とか桜とかを一体的に、樹木剪定費とはしてありますけれども、一体的に清掃といいますか、そういったのをするということで理解してよろしかったでし

ょうか。

すみません、再質問になります。

○議長（山瀬義也君）　経済建設常任委員長、泉田栄一朗君。

［登壇］

○経済建設常任委員長（泉田栄一朗君）　荒木議員の２回目の質問にお答えします。

今回の７７万5，０００円というのは桜の伐採、または朽ちているところ、そういうところ中心に今回はやると、その周辺ももちろんそのような形でやるという予定でございます。

○議長（山瀬義也君）　ほかにありませんか。

東裕人君。

［登壇］

○９番（東　裕人君）　議案第１１８号、財産の取得について、これについて総務文教常任委員長にお尋ねをします。

先ほど、報告も聞いて少しわからなかった部分ではありますので、確認含めてお尋ねしますが、今回の契約では予定価格は公表されていません。これを委員会で公表されたのかどうか、お尋ねをします。また、落札後契約、そして議決の段階になってなおこれが非公開とされていますが、その理由は何か、まず最初にお尋ねをします。

○議長（山瀬義也君）　総務文教常任委員長、東英俊君。

［登壇］

○総務文教常任委員長（東　英俊君）　東裕人議員の委員長質疑にお答えをしたいと思います。

委員会の中では、その予定価格の公表はありませんでした。非公開の理由はというところで、その要綱がこの本市にはないということでございます。

○議長（山瀬義也君）　東裕人君。

［登壇］

○９番（東　裕人君）　委員会では、公表されていないということでしたが、それでお尋ねをしますけれども、委員会の中で、この議案について審議の際に、一部秘密会にされて、その中で予定価格が報告されたという話も聞きますが、まずなぜ秘密会としたのかということと、秘密会の中で予定価格が報告されたのかどうか、お尋ねをします。

○議長（山瀬義也君）　総務文教常任委員長、東英俊君。

［登壇］

○総務文教常任委員長（東　英俊君）　再質問にお答えをします。

先ほど委員長報告でも申し上げましたように、秘密会として、審議をいたしました。その秘密会の中で、予定価格も公表されております。その秘密会の理由といたしましては、本年の３月定例会におきまして、学校給食センターのこの議案というものは、総事業費が７億９，７３５万円、本体工事が５億６，７５８万１，０００円。今回の備品購入費、厨房機器ですが、２億２，１６３万４，０００円。それと設計管理業務委託料、手数料８１３万５，０００円という形で、３月定例会で追加議案で可決をしております。そういった形での中で、金額がどうしても知りたいというところで、今回要綱はない、非公表としなければいけないんだけれども、そういった要望がある。それも私は委員長として、そういう判断をし、委員の同意を得て、秘密会をしたというところでございます。

以上です。

○議長（山瀬義也君）　東裕人君。

［登壇］

○９番（東　裕人君）　どういう理由にせよ、総務文教常任委員会の委員だけが、秘密会の中で予定価格が報告されたとありましたが、一つの案件について総務文教常任委員会の委員だけが予定価格を知って、ほかの議員は未だに知らない、こういうまま今回、今日採決をすることになりました。こういう状況で、我々は、これ契約ですから、この契約が適正価格であるかどうか、何をもって判断すればいいと考えるのか、総務文教常任委員長にお尋ねをしたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　総務文教常任委員長、東英俊君。

［登壇］

○総務文教常任委員長（東　英俊君）　再々質問にお答えをします。

何をもって私たちは判断したらしたらいいのかというところで、今回の委員長報告でこの議案第１１８号、財産取得について、秘密会を行って審議をしたと。その中身についてはここで申し上げることはできませんが、賛成多数で委員の同意を得たということころの部分を判断材料としていただきたいというふうに私は思っております。

以上です。

○議長（山瀬義也君）　ほかにありませんか。

森隆博君。

［登壇］

○２１番（森　隆博君）　おはようございます。

福祉厚生常任委員長にお尋ねをしたいと思いますが、議案の９８号です。菊池市特別養護老人ホーム特別会計補正予算の中の空調取替えというようなことで、説明

だったと思いますが、ちょっと委員長報告の中で、どの場所かというか、どの建物で２階だけはちょっと聞き取りをしましたが、どの部分かだけ、よかったら教えていただきたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　福祉厚生常任委員長、葛原勇次郎君。

［登壇］

○福祉厚生常任委員長（葛原勇次郎君）　森議員にお答えいたします。

通称東館の２階ということですので、場所的には今村側のほうになるかと思います。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　ほかにありませんか。

樋口正博君。

○１３番（樋口正博君）　議長、暫時休憩を。３分で結構です。お願いします。

○議長（山瀬義也君）　では、３分間暫時休憩します。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

休憩　午前１０時５９分

開議　午前１１時０２分

―――――――――――――――○―――――――――――――――

○議長（山瀬義也君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

樋口正博君。

○１３番（樋口正博君）　議長の許可を得ましたので、ひと言。先ほど、中原議員の質問の中で、委員会として協議していないという委員長のお話があったんですが、今委員会においてはそうなんですが、今までの中で一業者だけに頼り過ぎではないかということは、再三委員の中から質問が出て、それに対して執行部からは今後広くそういう先をちゃんと求めていくというお答えはいただいております。

さらに、いつになったら、単独会計でいけるかという話なんですが、一概には言えませんが、公共下水道における起債事業の交付税措置は一般会計に繰り入れられます。じゃあ赤字イコールかと言えば、そうではないんですが、環境衛生を守る部分もありますし、全てそれで賄うかといえば別なんですが、一般会計に入ったものを交付税措置されたものをまたその中から繰り入れるという措置ですから、丸々赤字ではないというふうに委員会では、そのような話もして捉えております。

なお、公共ますについては、公共ますを設置することによって、下水道の対象地区、対象件数が増えるわけですから、推進事業として行っているということをお答えさせていただきたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　ほかにありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○議長（山瀬義也君）　これで質疑を終わります。

ただ今の委員長報告で、請願第４号は継続審査です。

これから、委員長報告に不採択であります請願第３号、国に対して消費税増税中止を求める意見書の提出を求める請願を除き、討論を行います。

議案第９０号から議案第９８号まで、及び議案第１１０号から議案１１３号まで、及び議案第１１８号、以上１４件について討論はありませんか。

まず、原案に反対者の発言を許します。

東裕人君。

［登壇］

○９番（東　裕人君）　議案第９２号、それと議案第１１８号について、反対討論を行います。

まず、議案第９２号、平成２５年度菊池市一般会計補正予算（第２号）についてです。今回は、生活困窮者自立促進支援事業の問題をいくつか挙げて、討論を行います。８月からセーフティネット、最後の命綱である生活保護の補助基準が引き下げられ、秋には違法は水際作戦を合法化する生活保護法改悪案が提出されようとしています。その流れの中で、セットで打ち出される生活困窮者自立促進支援をこれをモデル事業として、先取り的に進める事業の予算が今回計上されています。この事業は生活保護からの追い出し、あるいは水際作戦の道具になるおそれがあるという批判が全国で起こっています。委員会審議の中で、本市では水際作戦はないと答弁されていましたが、現実に保護申請に対する苦情は多くあります。最後の命綱さえ申請をためらう人もいます。この問題で、５月には国連の社会権規約委員会が日本の生活保護について、恥の烙印を解消するよう勧告を行っていますが、それが申請時に就労支援として、民間事業者が委託という形で介在すれば、ますます萎縮、ためらい効果が及んでしまうおそれがあります。また、担当者が扱う案件の量も質もますます過重になり、広がる貧困に対応できなくなる事態も起こりかねません。これでは、いつまでたっても貧困問題は解決しません。よって、生活保護法改悪法案そのものに反対の立場から、その先取り事業の予算化を認められず、反対をします。

次に、議案第１１８号、財産の取得についてです。先ほど、質疑で予定価格の問題についてお聞きしました。予定価格は入札時には、秘密性、競争性の保持が問われますが、落札後契約に当たっては、契約執行手続きの公平性、公正性、透明性の確保が重視されると考えます。そして、採決では中身そのものを含めて、適正かどうかの判断が必要となります。それを秘密会であるにせよ、一つの委員会の委員に

は予定価格を公表して、それをほかは知らないまま、これで採決となると、我々の判断の基準がなかなか難しくなってきます。先ほど、何をもって判断すればよいのかという質問に対して、委員会の採決状況をもって判断してくださいとの委員長の答弁もありましたが、我々は審議は委員会に付託しましたが、議員としての表決権までは付託したわけではありません。判断の基準を秘密とすることまで、私は付託してないわけで、これでは今回の契約、この価格が適正価格であるかどうかは判断できないので、反対をしたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　ただ今、議案第９２号に対する反対討論がありましたので、まず議案第９２号に対する討論を行います。９２号に対する賛成者の発言を許します。

荒木崇之君。

［登壇］

○１番（荒木崇之君）　ただ今、反対討論がありました議案第９２号、菊池市一般会計補正予算中、款３民生費、項４生活保護費、目１生活保護総務費の委託料１，６７５万円。生活困窮者自立支援モデル事業委託料についてでありますが、全国的に福祉事業というのは、独創的にやっている自治体が少ないといわれる中で、この事業は県も注目しておりますモデル事業であります。この事業費は全て補助金で賄われておりまして、そして平成２６年国会中において、この法律が可決されますと、この自立困窮者支援促進モデル事業は、義務化されるということであります。また、これは２市２町、合志、大津、菊陽の窓口を菊池市で行う事業ということでありますので、本議会で否決された時には、その三つの議会に迷惑をかけることになるのではないかと思いますので、以上のことから、私はこの事業に対しまして賛成の立場として討論いたします。

よろしくお願いします。

○議長（山瀬義也君）　ほかに、議案第９２号に対する討論はありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○議長（山瀬義也君）　これで、議案第９２号に対する討論を終わります。

ほかに、討論はありませんか。

怒留湯健蓉さん。

［登壇］

○１５番（怒留湯健蓉さん）　私は、追加議案の第１１８号、財産の取得について、反対の意見を表明いたします。

契約については、先にお触れになりましたので、別の角度から討論したいと思います。教育委員会においては、例えば特別支援教育等における市費雇用の増員及び

本議会での外国にルーツを持つ児童生徒のための日本語教育の予算化等、先駆的なご配慮をいただいていること、これらについては率直な敬意を申し上げます。しかし、こと学校給食においては、もろもろの懸案事項を積み残したまま見切り発車され、そのことに対して私はあらゆる機会を通して、その問題点を指摘してきました。既に目の前に大きな建物が立ち上がろうとしている局面ではありますが、これらの問題が解決されたということではなく、それらは残されたままです。学校給食が担う教育の一環としての食育、体と心を育て、人格形成にかかわるその食育の狙い、そして食を文化として見た時、センター化によって損なわれるものは大きいと見なければならず、それは残念ながら、コスト論では見えないでしょう。今般の財産取得の内容は、安全・安心を担保するドライ方式の調理機材一式だといいますけれども、言ってみれば、学校給食における安全・安心の保障は、これは第一義的な要件であって、これまで私が主張してきた地元の業者に代わる市外の大手食品産業の参入や、手作りが減って既製品、半調理品が増えること、また学童保育に対する立地の問題等々、これらについては、この課題があるとして当局も否定されていません。また搬送の問題等も、これも他の議員からも言われていましたし、ある自治体では学校を緊急の避難場所として指定していることから、非常時には学校で炊き出しができるように、自校方式の全廃を思いとどまったという話も聞きました。

私は事態はここまで進んでいますが、未解決の課題を座視してはならないと考え、またこれまでの主張との整合を図るにおいても、反対の意見をここでも表明するものでございます。

○議長（山瀬義也君）　次に、議案第１１８号について、反対討論がありましたので、議案第１１８号に対する討論を行います。議案第１１８号に対する賛成者の発言を許します。

議案第１１８号について、ほかに討論はありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○議長（山瀬義也君）　これで、議案第１１８号に対する討論を終わります。

ほかに討論はありませんか。

森隆博君。

［登壇］

○２１番（森　隆博君）　議案第９８号、菊池市特別養護老人ホーム特別会計補正予算の第２号の中におきまして、介護サービス事業費の中の修繕費、クーラーの取り替えという予算額でありますが、金額にしまして１９４万２，０００円の金額であります。先ほど、委員長に確認しました。東館の２階部分というようなことであります。東館といいますのは、旧の建物でありまして、つまごめ荘が新たに新築をされ

まして、クーラーの保守点検ということで年間３００万円、年に２回、そして人員は２名で２回というようなことでありましたので、新築時点からの保守点検はおかしくはないかということで再度私も述べた中で、入居者の方の快適なサービスを行うためということでありましたので、そういうことであれば、やはり機械はどうしても耐用年数があるというようなことで、そういった年数にそって、ぴしっとした点検、計画を立てていただきたいということで、やっていくという条件を聞きながら、今もその業者を認めてきておるわけであります。そういった中におきまして、今回委員長報告にありましたように、業者関係なし、その保守点検を受けておる業者、１社だけが見積もりでこの工事を請け負ったということに対しましては、これはどうしても疑いたくなるような事業であります。やはりこういったものは、以前から指摘されておったわけでありますから、やはり他の業者も入れて、ぴしっとした入札を行うものであると思いますので、この執行予算に対しましては、反対のほうで討論をさせていただきます。

○議長（山瀬義也君）　次に、議案第９８号について、反対討論がありましたので、議案第９８号に対する討論を行います。議案第９８号に対する賛成者の発言を許します。

議案第９８号について、ほかに討論はありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○議長（山瀬義也君）　これで、議案第９８号に対する討論を終わります。

ほかに討論はありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○議長（山瀬義也君）　これで、討論を終わります。

これより、議案第９０号から議案第９７号まで、及び議案第１１０号から議案第１１３号まで、並びに議案第１１８号について採決します。

ただ今、討論がありました議案第９２号、議案第１１８号、議案第９８号を除き、一括採決します。

お諮りします。議案第９０号から議案第９１号まで、及び議案第９３号から議案第９７号まで、議案第１１０号から議案第１１３号まで、１１案件については、各常任委員長の報告は原案のとおり、可決であります。各常任委員長の報告のとおり、決定することにご異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（山瀬義也君）　異議なしと認めます。よって以上１１案件については、各常任委員長の報告のとおり、可決することに決定しました。

次に、討論がありました議案第９２号、議案第１１８号、議案第９８号につい

て、起立により採決します。

お諮りします。議案第９２号について、原案のとおり可決することに賛成の方は起立願います。

（賛成者起立）

○議長（山瀬義也君）　起立多数です。よって、議案第９２号は、原案のとおり可決することに決定しました。

次に、お諮りします。議案第１１８号について原案のとおり可決することに賛成の方は起立願います。

（賛成者起立）

○議長（山瀬義也君）　起立多数です。よって、議案第１１８号は、原案のとおり可決することに決定しました。

次に、お諮りします。議案第９８号について原案のとおり可決することに賛成の方は起立願います。

（賛成者起立）

○議長（山瀬義也君）　起立多数です。よって、議案第９８号は、原案のとおり可決することに決定しました。

次に、総務文教常任委員長報告が不採択の請願第３号、国に対し消費税増税中止を求める意見書の提出を求める請願書について、討論を行います。討論はありませんか。

東裕人君。

［登壇］

○９番（東　裕人君）　請願第３号、国に対し消費税増税中止を求める意見書の提出を求める請願書に、賛成の立場で討論を行います。

二十数年前、福祉のため、社会保障の財源のためと言って導入された消費税、３％から５％に上がる時も、福祉のため、社会保障の財源のためと言われ続けてきました。では、この二十数年間、福祉はよくなったでしょうか。ちっともよくならないどころか、削られる一方です。もらう年金は減る、負担は増える、こういう状況でこの二十数年きました。消費税増税が福祉のためではないことを私たちは、この二十数年体験しています。導入以来、国民から広くかき集めた消費税は累計で２６４兆円。一方で法人税減税が２４６兆円。これでは福祉に回るお金がないのは当然です。そして今、国民の所得が減り、経済がデフレ不況から抜け出していない中で、大増税を強行すれば、暮らしにも経済にも致命的な打撃を与えるのは明白です。増税すればどうなるか、これも９７年に私たちは経験済みであります。財政対策上からも、同じ轍を踏んではなりません。税率８％で約８兆円、１０％で約１３．５

兆円の大増税は中止すべきであります。

参議院選挙後の各紙世論調査でも、増税中止・先送りが７割から８割に上るなど、増税中止を求める国民多数の声が示されています。こういう状況において、地方から増税中止の声を挙げるのは当然であり、その立場で請願に賛成をします。

○議長（山瀬義也君）　次に、反対者の発言を許します。

ほかに討論はありませんか。

怒留湯健蓉さん。

［登壇］

○１５番（怒留湯健蓉さん）　私は、請願３号、国に対し消費税増税中止を求める意見書の提出を求める請願書について、採択すべき者として、賛成の意見を述べます。

この請願の書面を見ればわかるように、消費税増税に対する一般庶民、給与生活者、中小の自営業者、年金生活者等含みますが、その一般庶民の不安が、いろんな角度から分析されて言い当てられています。この文面を誰も否定することはできないでしょう。時事通信が、これは７月でしたけれども、７月の上旬に行った世論調査では、消費税率が５％から８％に引き上げられることについて、反対と答えた人は、この時点で６３．１％でした。理由は家計の負担増と答えた人が最も多くて、賃上げの動きが広がらず、家計に恩恵が行きわたらない段階での消費税増税に対して、半数を優に超える６３．１％の国民が不安感を募らせているのは、当然といえます。

消費税は言うまでもなく、所得の高さにかかわらず、全ての人に課税するものであるために、家計に占める生活必需品などの割合が高い、食品にかかる係数が高い、低額所得者層ほど影響が大きくなるという、その逆進性そのものが問題ですね。

先進国の大半では、私ちょっと大急ぎで調べてみたんですが、消費税率をひとくくりにしないで、食料品などの生活必需品と、そうではない商品では、税率を分けて設定しているところが多いようです。イギリスやアイルランド、メキシコ、オーストラリア等の国々を調べてみましたが、食料品及び医薬品等の消費税はゼロと、無税に設定しているところがございます。ぜいたく品と生活必需品の税率をきっちり分けている国のほうが世界的には多いということでもありました。また、今回も消費増税の目的を社会福祉の充実のためにと言いますが、私、一般質問でも触れましたように、８月６日の社会保障制度改革国民会議の最終報告等によれば、医療制度、介護保険、年金等々、負担増と給付削減の方向が明確です。

そんな状況下に９月の１０日頃からでしたか、立て続けに全国紙、地方紙はともに、安倍首相が１０月頭には税率アップの方針を固めたと報じました。しかし、増

税については首相の側近でさえ、異議や異論があることも伝えています。テレビは首相の増税方針が新聞報道されるその前段で、アベノミクスの効果として、景気が回復しつつある場面を度々報じましたが、その実感はどの階層にあるのでしょうか。

またオリンピックの招致の成功は、オリンピック特需を見込めるとして、増税の判断に使われたようですが、これもまた業種的にも時間的にも限定的なものであろうと思われます。この期に及んで、意見書はもう間に合わないという論も聞かれましたが、たとえそうであっても、私たちは菊池市民の代弁者ならば、市民の側に軸足をきちっと置いて、課題を置き去りにしたままの消費税増税が、どんなに市民の暮らしを脅かすことになるかという、とりわけ乏しい年金生活者の爪に火を灯すがごとき、生活や厳しい雇用条件にあえぐ若者たちを念頭に置いて、その生活実態の過酷さを国に伝えるべきだと考えます。

以上、論の一端を述べて、私は賛成の理由といたします。

○議長（山瀬義也君）　ほかに討論はありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○議長（山瀬義也君）　これで、討論を終わります。

これより、請願第３号について採決します。

討論がありましたので、採決は起立により行います。

本案件に対する委員長の報告は、不採択であります。よって、可を諮る原則により、原案に対して採決します。

請願第３号について、採択することに賛成の方は起立願います。

（賛成者起立）

○議長（山瀬義也君）　起立少数です。よって、請願第３号は不採択することに決定しました。

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

日程第２　議員の派遣について

○議長（山瀬義也君）　次に、日程第２、議員の派遣についてを議題とします。議員の派遣については、会議規則第１６０条の規定により、お手元に配付しているとおりでございます。

番号	派遣目的	派遣場所	期　日	派遣議員
1	第２２回全国市町村交流レガッタ阿賀大会	新潟県阿賀町	平成２５年９月２７日～２９日	大賀　慶一 岡﨑　俊裕 東　　英俊 泉田栄一朗 樋口　正博 中山　繁雄

議員派遣については、原案のとおり派遣することにご異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（山瀬義也君）　異議なしと認めます。従って、議員派遣については、原案のとおり派遣することに決定しました。

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

日程第３　委員会の閉会中の継続審査並びに調査について

○議長（山瀬義也君）　次に、日程第３、委員会の閉会中の継続審査並びに調査についてを議題とします。

総務文教常任委員会

１　一般行財政、企画開発、地域振興、情報処理、教育等に関する諸問題の調査について

福祉厚生常任委員会

１　国保税、福祉、環境、健康管理等に関する諸問題の調査について

２　「年金２．５％削減法」を廃止する意見書採択に関する請願書

経済建設常任委員会

１　農政、林業、商工振興、観光開発、土木、都市計画、公共下水道、水道等に関する諸問題の調査について

議会運営委員会

１　議会運営等に関する諸問題の調査について

議会広報特別委員会

１　議会広報に関すること

企業誘致促進特別委員会

１　企業誘致に関すること

決算特別委員会

１　平成２４年度決算認定に関すること

議会改革検討特別委員会

１　議会改革に関すること

議会運営委員長及び各常任委員長並びに特別委員長から所管事務調査事項について、議席に配付の閉会中の継続審査並びに調査申し出一覧表のとおり申し出があっております。

お諮りします。議会運営委員長及び各常任委員長並びに特別委員長からの申し出のとおり、閉会中の継続審査並びに調査とすることにご異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（山瀬義也君）　異議なしと認めます。したがって、議会運営委員長及び各常任委員長並びに特別委員長からの申し出のとおり、閉会中の継続審査並びに調査とすることに決定しました。

ここで暫時休憩します。

議員の皆さんは大会議室にお集まりください。追加議案書を持っていってください。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

休憩　午前１１時３４分

開議　午後　零時００分

―――――――――――――――○―――――――――――――――

○議長（山瀬義也君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

追加日程第１　議員提出議案第３号　菊池市議会議員定数条例の一部を改正する条例の制定

○議長（山瀬義也君）　次に、追加日程第１、議員提出議案第３号を議題とします。

提出者の提案理由の説明を求めます。

坂本昭信君。

［登壇］

○１６番（坂本昭信君）　それでは、提案理由を説明します。

菊池市議会議員定数条例の一部を改正する条例の制定についてでございます。今日の社会情勢に対応するため、また市民が一丸となって財政の健全化に取り組んでいる中にあって、議員自ら定数削減を行い、市政運営に邁進するため制定するものであります。

以上です。

○議長（山瀬義也君）　これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○議長（山瀬義也君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

議員提出議案第３号については、会議規則第３７条第３項の規定によって、委員会付託を省略したいと思います。ご異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（山瀬義也君）　異議なしと認めます。よって、委員会の付託を省略することに決定しました。

委員会の付託を省略し、引き続き審議します。

これから討論を行います。討論はありませんか。

東裕人君。

［登壇］

○９番（東　裕人君）　議員提出議案第３号、菊池市議会議員定数条例の一部を改正する条例の制定について、反対討論を行います。

議員を減らすことが、果たして議会改革なのかどうか、これは議会改革特別委員会の中でも議論をしてきたことであります。住民の量に対する批判は、これまでの議員活動に対する批判であります。この批判に削減という量で応えていったら、際限がなくなるわけです。定数問題は、住民の多様な意見や要求が議会に正しく反映されるには、どれくらいの規模が必要かという物指しで判断すべきであり、そういう点で住民レベルでの議論はこれからです。今、定数３削減という結論を出すべきではありません。

また定数削減で、市民の多様な意見や要望、市政への声が届かない議会になってしまうおそれがあります。昨年、我々が体験した独立運動の中で、合併して定数が減り住民の声が届かなくなった、こういう声が起こりました。これは正しい声であります。この声にどう応えるのか、その課題が残ったままであります。合併時５９人の議員が菊池、泗水、旭志、七城、それぞれの地域で奮闘してこられました。それが２８になり２３。これ以上、声が届かなくなったら、議会として求められる役割が果たせるのか、疑問であります。これ以上、住民とのパイプを細めるべきではありません。

今求められているのは、議会に住民の声が届き、多様な意見を反映して活発に議論がされ、市政をチェックし問題点を明らかにし、住民のために働く議会へその改革であります。そういう質の改革そこが、急務であり、私は定数については、現行のままとすべきであると考えますので、今回の条例改正については反対をいたします。

○議長（山瀬義也君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。

ほかに討論はありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○議長（山瀬義也君）　これで討論を終わります。

議員提出議案第３号は、討論がありましたので、起立により採決します。

お諮りします。

議員提出議案第３号については、原案のとおり可決することに賛成の方は起立をお願いします。

（賛成者起立）

○議長（山瀬義也君）　起立多数です。よって、議員提出議案第３号は、原案のとおり可決することに決定しました。

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

追加日程第２　意見書案第３号　ホテル・旅館等建築物の耐震化の促進に関する意見書

○議長（山瀬義也君）　次に、追加日程第２、意見書案第３号を議題とします。

提出者の提案理由の説明を求めます。

泉田栄一朗君。

［登壇］

○１０番（泉田栄一朗君）　それでは、意見書案第３号、ホテル・旅館等建築物の耐震化の促進に関する意見書の提出について、申し述べます。

上記の意見書案を別紙のとおり、菊池市議会会議規則第１４条第２項の規定によって、経済建設常任委員会より提出いたします。

提案理由としましては、菊池市は温泉観光地であり、建築物の耐震・改修の促進に関する法律の一部を改正する法律の早急な施行は、地域経済に大きなダメージを与える。よって国は、温泉所在都市に対するホテル・旅館等の建築物の耐震化を迅速かつ円滑に推進するため、必要な財政支援措置の充実を図るとともに、当該法の施行に当たっては、地方公共団体や当該建築物の所有者の実情等を十分踏まえ、必要な財政支援措置が確立されるまでは、施行期限を延長すること、及び耐震診断結果を猶予することなど、特段の配慮がなされるよう要望するものであります。

提出先及び意見書につきましては、お手元の資料に記載のとおりであります。議員各位におかれましては、意見書の趣旨にご賛同いただきますよう、お願い申し上げ提案理由といたします。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○議長（山瀬義也君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

意見書案第３号については、会議規則第３７条第２項の規定によって、委員会の

付託を省略し引き続き審議します。

これから、討論を行います。討論はありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○議長（山瀬義也君）　討論なしと認めます。これで、討論を終わります。

これより採決します。お諮りします。意見書案第３号については、原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（山瀬義也君）　異議なしと認めます。

よって、意見書案第３号は、原案のとおり可決することに決定しました。

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

追加日程第３　意見書案第４号　地方税財源の充実確保を求める意見書

○議長（山瀬義也君）　次に追加日程第３、意見書案第４号を議題とします。

提出者の提案理由の説明を求めます。

東英俊君。

［登壇］

○８番（東　英俊君）　意見書案第４号、地方税財源の充実確保を求める意見書。上記の意見書案を別紙のとおり、菊池市議会会議規則第１４条の第２項の規定により、総務文教常任委員会より提出をいたします。

提案理由といたしまして、地方交付税は地方の固有の財源であり、地方行政の計画的な運営、地方団体の独立性の強化に資するものでなければならない。そのため、地方財政計画、地方交付税については、国の政策方針のもと、一方的に決するべきではなく、国と地方との協議が必要である。さらに、社会保障関係費の財政需要の増加や、地方税収の低迷等で厳しい状況にあるため、住民サービスやまちづくりを安定的に行うために、地方税財源の充実確保が必要であるという、そういう提案理由でございます。

意見書の内容は別紙のとおりでございます。

○議長（山瀬義也君）　これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○議長（山瀬義也君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

意見書案第４号については、会議規則第３７条第２項の規定によって、委員会の付託を省略し引き続き審議します。

これから、討論を行います。討論はありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○議長（山瀬義也君）　討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これより採決します。お諮りします。意見書案第４号については、原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（山瀬義也君）　異議なしと認めます。

よって、意見書案第４号は、原案のとおり可決することに決定しました。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

追加日程第４　意見書案第５号　自衛隊の定員確保を求める意見書

○議長（山瀬義也君）　次に追加日程第４、意見書案第５号を議題とします。

提出者の提案理由の説明を求めます。

大賀慶一君。

［登壇］

○５番（大賀慶一君）　それでは、意見書案第５号について、自衛隊の定員確保を求める意見書について、提案をいたします。

菊池市議会規則第１４条第１項の規定によりまして、提出をいたします。

提案理由の説明をいたします。国の国防、大規模特殊災害対策及び国際連合平和維持活動など、多様化する任務を確実に遂行することができるよう自衛隊の定員確保を希望いたします。

菊池市におきましても、昨年７月１２日の大雨による大規模災害や、宮崎県における口蹄疫の防疫対策や家畜処理など、畜産農家を多く抱える自治体として、自衛隊の能力を最大限に発揮できる体制の整備を行うことを強く求めるものでございます。

意見書案の内容につきましては、お手元に配付のとおりでございます。

議員各位におかれましては、速やかにご賛同いただきますよう、お願いを申し上げます。

○議長（山瀬義也君）　これから質疑を行います。質疑はありませんか。

東裕人君。

［登壇］

○９番（東　裕人君）　意見書案第５号について、提出者にお尋ねをします。

この意見書の文面で、安全保障環境の変化とあるように、今回の意見書案は、７月に公表された防衛計画大綱の中間報告を踏まえたものであると、私は受け止めていますが、それでいいのかどうか、お尋ねをします。

○議長（山瀬義也君）　大賀慶一君。

［登壇］

○５番（大賀慶一君）　東裕人議員の質疑に対して、お答えいたします。

国が発表しました防衛大綱に沿ったものでいいのかということでございますが、そのように思っております。

○議長（山瀬義也君）　ほかにありませんか。

これで質疑を終わります。

意見書案第５号については、会議規則第３７条第３項の規定によって、委員会の付託を省略したいと思います。ご異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（山瀬義也君）　異議なしと認めます。

よって、委員会の付託を省略することに決定しました。委員会の付託を省略し、引き続き審議します。

これから、討論を行います。討論はありませんか。

東裕人君。

［登壇］

○９番（東　裕人君）　意見書案第５号、自衛隊の定員確保を求める意見書に反対討論を行います。

大規模災害や、急迫不正の事態における自衛隊の活動について、私は何ら否定するものではありません。問題は国防・安全保障にかかわる問題であります。この意見書案は、先ほど提出者の答弁でもありましたように、防衛省が安倍政権発足後の７月に公表した防衛計画大綱中間報告に基づくものであります。この中間報告は、敵基地攻撃能力や、離島防衛に名を借りた海兵隊機能の強化、他国の軍隊を監視する無人機の導入、さらには武器輸出三原則の事実上の撤廃など、いわゆる軍拡プログラムが多数盛り込まれております。これを踏まえた定員確保の意見書であるということは、中間報告が強調する安全保障環境の変化に対応する軍拡、そのための人的保障これを求めることを趣旨とするものであると私は考えます。

日米軍事同盟強化、日米安保条約下での自衛隊のこうした増強計画は、日本はアメリカと一緒に海外で戦争できる国づくりを進める動きと一体のものであり、私は認められません。よって反対をします。

○議長（山瀬義也君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。

樋口正博君。

［登壇］

○１３番（樋口正博君）　賛成討論をさせていただきます。今、東裕人議員からいろいろお話がありましたが、私はこの意見書自体は、防衛大綱そのものだけではなく、おっしゃったとおり、大規模特殊災害において、例えば東日本大震災と口蹄疫が同時に発生していたならば、今の充足率では自衛隊の対応は効かない。また、国連の

維持活動については、国連に行かれた方はわかるかと思いますが、国連の玄関にあるオブジェは、ピストルを結んだオブジェが飾ってあります。もとより、世界平和を願うものであり、ただし、防衛についてはいろいろ主観の違いがあると思うんですが、主権国家たる日本が成り立ってこそ、様々なことができるということであり、自国の防衛は国民に対する最大の義務であると考える観点から、賛成討論とさせていただきます。

○議長（山瀬義也君）　ほかに討論はありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○議長（山瀬義也君）　これで討論を終わります。

意見書案第５号は、討論がありましたので、起立により採決します。

お諮りします。意見書案第５号については、原案のとおり可決することに賛成の方は起立願います。

（賛成者起立）

○議長（山瀬義也君）　起立多数です。よって、意見書案第５号は、原案のとおり可決することに決定しました。

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

追加日程第５　意見書案第６号　森林吸収源対策及び地球温暖化対策に関する地方の財源確保のための意見書

○議長（山瀬義也君）　次に追加日程第５、意見書案第６号を議題とします。

提出者の提案理由の説明を求めます。

葛原勇次郎君。

［登壇］

○１８番（葛原勇次郎君）　意見書案第６号、森林吸収源対策及び地球温暖化対策に関する地方の財源確保のための意見書であります。

上記の意見書は別紙のとおり、菊池市議会規則第１４条第１項の規定により、提出をいたします。

提案の理由を申し上げます。自然災害などの脅威から国民の生命・財産を守るため、森林・林業・山林対策の抜本的な強化を図ることに加え、二酸化炭素吸収源として最も重要な機能を有する森林の整備、保全等を推進するとともに、林業後継者育成のため、石油石炭税の税率の特例による税の一定の割合を森林面積に応じて譲与する仕組みの構築を強く求めるものであります。

菊池市においても、昨年７月１２日大雨により、山林地斜面崩落による災害や流木による河川氾濫災害等は記憶に新しく、これからの災害を再度繰り返すことがないよう、早急に対応を行うため、財源確保を強く求めるものであります。

提案先は、別紙のとおりでございます。よろしくお願いいたします。

○議長（山瀬義也君）　これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○議長（山瀬義也君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

意見書案第６号については、会議規則第３７条第３項の規定によって、委員会の付託を省略したいと思います。ご異議ありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○議長（山瀬義也君）　異議なしと認めます。

よって、委員会の付託を省略することに決定しました。委員会の付託を省略し、引き続き審議します。

これより、討論を行います。討論はありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○議長（山瀬義也君）　討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これより採決します。お諮りします。意見書案第６号については、原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（山瀬義也君）　異議なしと認めます。

よって、意見書案第６号は、原案のとおり可決することに決定しました。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

追加日程第６　決議案第１号　プロ野球福岡ソフトバンクホークスファーム本拠地の誘致を求める決議

○議長（山瀬義也君）　次に追加日程第６、決議案第１号を議題とします。

提出者の提案理由の説明を求めます。

城典臣君。

［登壇］

○４番（城　典臣君）　それでは、決議案第１号、プロ野球福岡ソフトバンクホークスファーム本拠地の誘致を求める決議を提出いたします。

提案理由といたしまして、プロ野球福岡ソフトバンクホークスファーム本拠地の菊池市への誘致は、経済効果や地域の活性化により、賑わいを失った菊池市の地域浮揚へ千載一遇のチャンスと捉え、市民の悲願である誘致を後押しするために決議を求めるものでございます。

決議案の内容は、お手元に配付のとおりでございます。議員各位におかれましては、速やかに賛同賜りますようよろしくお願い申し上げます。

○議長（山瀬義也君）　これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○議長（山瀬義也君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

決議案第１号については、会議規則第３７条第３項の規定によって、委員会の付託を省略したいと思います。ご異議ありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○議長（山瀬義也君）　異議なしと認めます。

よって、委員会の付託を省略することに決定しました。委員会の付託を省略し、引き続き審議します。

これから、討論を行います。討論はありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○議長（山瀬義也君）　討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これより採決します。お諮りします。決議案第１号については、原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○議長（山瀬義也君）　異議なしと認めます。

よって、決議案第１号は、原案のとおり可決することに決定しました。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

追加日程第７　議案第１１９号　平成２５年度菊池市一般会計補正予算（第３号）

○議長（山瀬義也君）　次に追加日程第７、議案第１１９号を議題とします。

提出者の提案理由の説明を求めます。

市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　それでは、ただ今上程されました議案第１１９号について、ご説明申し上げます。

追加議案書その２の１ページからになります。議案第１１９号、平成２５年度菊池市一般会計補正予算（第３号）でございます。

ＲＤＦ施設周辺及び菊池環境保全組合の新環境工場周辺の環境対策に係る委託料について、補正をお願いするものでございます。内容の詳細につきましては、総務企画部長より説明をいたしますので、慎重ご審議の上、ご賛同賜りますようお願い申し上げ、提案理由の説明といたします。

○議長（山瀬義也君）　総務企画部長、野口祐成君。

［登壇］

○総務企画部長（野口祐成君）　それでは、議案第１１９号、平成２５年度菊池市一般会計補正予算（第３号）について、ご説明申し上げます。追加議案書の２ページを

お願いいたします。

今回の補正は、予算の総額に５００万円を追加し、予算の総額を歳入歳出それぞれ２４８億3,８８１万4,０００円とするものでございます。

８ページをお願いいたします。歳入についてご説明いたします。款の１８繰入金、項の３基金繰入金、目の１財政調整基金繰入金５００万円は、今回の補正予算における財源調整のために繰り入れるものでございます。

次に、歳出についてご説明申し上げます。款の４衛生費、項の１保健衛生費、目の５環境対策費５００万円は環境対策推進事業委託料でございます。旭志地域にあります「エコビレッジ旭」については、周辺地域との協定で平成３０年度で施設を閉鎖する計画となっております。本市全域加入を希望しています菊池環境保全組合では、新環境工場の稼働予定年度が平成３３年度となっているため、最低でも２年間の稼働期間延長を周辺地域にお願いする必要がございます。そのため、「エコビレッジ旭」の周辺地域及び菊池環境保全組合の新環境工場建設予定地周辺地域の環境対策のため、補正予算をお願いするものでございます。

以上、議案第１１９号の説明とさせていただきます。

○議長（山瀬義也君）　以上で議案の説明を終わります。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○議長（山瀬義也君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

議案第１１９号については、会議規則第３７条第３項の規定によって、委員会の付託を省略したいと思います。ご異議ありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○議長（山瀬義也君）　異議なしと認めます。

よって、委員会の付託を省略することに決定しました。委員会の付託を省略し、引き続き審議します。

これから、討論を行います。討論はありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○議長（山瀬義也君）　討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これより採決します。お諮りします。議案第１１９号については、原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（山瀬義也君）　異議なしと認めます。

よって、議案第１１９号は、原案のとおり可決することに決定しました。

以上をもって本日の議事日程は全部終了し、今定例会に付議されました事件は全

て議了しました。

これをもちまして、平成２５年第３回菊池市議会定例会を閉会します。

全員起立をお願いします。

（全員起立）

お疲れさまでした。

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

閉会　午後零時３１分

地方自治法第１２３条第２項の規定によりここに署名する。

菊池市議会議長　山　瀬　義　也

菊池市議会議員　森　　清　孝

菊池市議会議員　中　原　　繁

付　　録

平成２５年第３回定例会付議事件一覧及び審議結果表

（８月３０日・９月１９日議決）

議案番号	件名	審議結果
議案第　９０号	菊池市税条例の一部を改正する条例の制定について	原案可決
議案第　９１号	菊池市国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について	原案可決
議案第　９２号	平成２５年度菊池市一般会計補正予算（第２号）	原案可決
議案第　９３号	平成２５年度菊池市介護保険事業特別会計補正予算（第２号）	原案可決
議案第　９４号	平成２５年度菊池市簡易水道事業等特別会計補正予算（第２号）	原案可決
議案第　９５号	平成２５年度菊池市公共下水道事業特別会計補正予算（第２号）	原案可決
議案第　９６号	平成２５年度菊池市地域生活排水処理事業特別会計補正予算（第２号）	原案可決
議案第　９７号	平成２５年度菊池市農業集落排水事業特別会計補正予算（第２号）	原案可決
議案第　９８号	平成２５年度菊池市特別養護老人ホーム特別会計補正予算（第２号）	原案可決
議案第　９９号	平成２４年度菊池市一般会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
議案第１００号	平成２４年度菊池市国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
議案第１０１号	平成２４年度菊池市後期高齢者医療事業特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
議案第１０２号	平成２４年度菊池市介護保険事業特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
議案第１０３号	平成２４年度菊池市簡易水道事業等特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
議案第１０４号	平成２４年度菊池市公共下水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
議案第１０５号	平成２４年度菊池市特定環境保全公共下水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
議案第１０６号	平成２４年度菊池市地域生活排水処理事業特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査

議案番号	件　　名	審議結果
議案第１０７号	平成２４年度菊池市農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
議案第１０８号	平成２４年度菊池市特別養護老人ホーム特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
議案第１０９号	平成２４年度菊池市水道事業会計利益の処分及び決算の認定について	継続審査
議案第１１０号	辺地総合整備計画の変更について	原案可決
議案第１１１号	字の区域の変更について	原案可決
議案第１１２号	市道路線の廃止について	原案可決
議案第１１３号	市道路線の認定について	原案可決
議案第１１４号	人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて	原案同意
議案第１１５号	人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて	原案同意
議案第１１６号	人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて	原案同意
議案第１１７号	人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて	原案同意
議案第１１８号	財産の取得について	原案可決
議案第１１９号	平成２５年度菊池市一般会計補正予算（第３号）	原案可決
議員提出議案		
議員提出議案 第３号	菊池市議会議員定数条例の一部を改正する条例の制定について	原案可決
議　　事		
議事第６号	決算特別委員会の設置について	原案可決

議案番号	件名	審議結果
意見書案		
意見書案第３号	ホテル・旅館等建築物の耐震化の促進に関する意見書	原案可決
意見書案第４号	地方税財源の充実確保を求める意見書	原案可決
意見書案第５号	自衛隊の定員確保を求める意見書	原案可決
意見書案第６号	森林吸収源対策及び地球温暖化対策に関する地方の財源確保のための意見書	原案可決
決議案		
決議案第１号	プロ野球福岡ソフトバンクホークスファーム本拠地の誘致を求める決議	原案可決
請願		
請願第３号	国に対し「消費税増税中止を求める意見書」の提出を求める請願書	不採択
請願第４号	「年金２．５％削減法」を廃止する意見書採択に関する請願書	継続審査
報告		
報告第２０号	健全化判断比率及び資金不足比率の報告について	原案報告

菊 池 市 議 会 会 議 録
平成２５年第２回８月臨時会
平成２５年第３回９月定例会

平成２５年１１月発行

発行人　菊池市議会議長　山　瀬　義　也
編集人　菊池市議会事務局長　城　　主　一
作　成　株式会社アクセス
電　話 (096) 372-1010

菊 池 市 議 会 事 務 局

〒861-1392　菊池市隈府888
電　話　(0968) 25-2325